

Oracle® Project Financial Planning

User's Guide

リリース 11.1.2.3

Project Financial Planning User's Guide, 11.1.2.3

Copyright © 2012, 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて	13
第 I 部 Project Financial Planning の導入	15
第 1 章 Project Financial Planning について	17
Project Financial Planning の概要	17
価値提案	17
Project Financial Planning の主要な機能	18
プロジェクト分類	19
間接	19
資本	19
契約	19
用意されている次元	20
勘定科目	20
プロジェクト	21
プロジェクト要素	21
ジョブ	22
従業員	22
資産クラス	22
資産詳細	23
事前定義済の要素	23
フォーム	24
ビジネス・ルール	24
タスク・リスト	25
メニュー	25
スマート・リスト	26
レポート	26
Project Financial Planning の役割	27
サンプル・アプリケーション	28
仮定	29
アクセシビリティ	29

第2章 はじめに	31
製品の最初の実装タスク	31
アプリケーション・メンテナンス・タスク	34
メタデータとデータのロード	34
サンプル・テンプレート・ファイル	35
リレーショナル・テーブルのインポート	35
アプリケーションの保護	35
Project Financial Planning アプリケーションの作成および初期化	37
アプリケーションの作成について	37
クラシック Planning アプリケーションの作成	38
Performance Management Architect アプリケーションの作成	38
Project Financial Planning へのログオンおよびアクセス	39
第II部 プロジェクトの管理および提案	41
第3章 プロジェクトの管理	43
情報	43
プロセス	44
「プロジェクト管理」タスク・リストのタスク	44
「プロジェクト管理」タスク・リストの表示	45
割引率および税率の設定	45
投資条件の設定	46
オンザフライでの名前付きメンバーの追加に対するプロジェクト次元の有効化	46
オンザフライでの名前付きメンバーの追加に対するバージョン次元の有効化	47
諸経費仮定の入力	48
間接費の計算	50
一般および管理費用の計算	50
承認ステータスの設定	50
プロジェクトのインポート	51
インポートしたプロジェクトの計算	51
プロジェクトの KPI の設定	52
正味現在価値(NPV)	52
内部取引	54
会社間パートナーシップについて	54
会社間プロジェクトを管理するためのプロセス	54
会社間パートナーの関係の確立	55
会社間調整の確認	56
内部取引の制限	56
ベース予測データの準備	57

前提条件	57
割当て詳細付きで予測データを準備	58
割当て詳細なしで予測データを準備	58
予測データの消去	59
第4章 既存のプロジェクトの管理	61
プロジェクトの管理について	61
既存のプロジェクトを管理するためのプロセス	61
「既存のプロジェクトの管理」タスク・リストのタスク	62
「既存のプロジェクトの管理」タスク・リストの表示	62
プロジェクトのパフォーマンスの確認	62
既存のプロジェクトの確認	63
プロジェクト終了日の変更	64
プロジェクト・ステータスの変更	65
プロジェクトの移動	65
「プロセスの更新」タスクの実行	66
プロジェクト支出の確認	66
プロジェクト収益の確認(契約プロジェクトのみ)	85
プロジェクトの確認	97
財務諸表の計算	97
プロジェクトのパフォーマンスの確認	98
プロジェクトのパフォーマンス要約の表示	98
プロジェクトのパフォーマンス詳細の表示	99
プロジェクト資金調達の確認	101
プロジェクト資金調達について	101
プロジェクトの資金調達プロセス	101
資金調達要求の変更	101
承認のためのプランの送信	104
第5章 新規プロジェクトの提案	105
情報	105
資本プロジェクトについて	105
契約プロジェクトについて	105
間接プロジェクトについて	106
プロセス	106
新規資本プロジェクトを提案するプロセス	106
新規契約プロジェクトを提案するためのプロセス	107
新規間接プロジェクトを提案するプロセス	107
新規プロジェクトのタスク・リストの提案のタスク	107
「新規プロジェクトの提案」タスク・リストの表示	108

新規プロジェクトの詳細の入力	108
プロジェクトの追加	109
プロジェクトの削除	111
プロジェクトの調整	112
プロジェクト日付の変更	112
プロジェクト・ステータスの変更	113
プロジェクトの移動	114
支出プランニングの実行	115
収益プランニングの実行(契約プロジェクトのみ)	115
資本プロジェクトの収益促進要因の実行	116
プロジェクト収益の計算	117
プロジェクト財務の確認	118
プロジェクトの理由詳細の確認	119
プロジェクト資金調達の確認	119
承認のためのプランの送信	120
第 III 部 要員リソースのプロジェクトへの割当て	121
第 6 章 要員の管理	123
情報	123
要員仮定	124
従業員次元	124
ジョブ次元	124
プロセス	125
「要員管理」タスク・リストのタスク	125
「要員管理」タスク・リストの表示	125
従業員のグローバル・レートの設定	125
等級レベルの追加	127
従業員のインポート	127
従業員報酬の計算	127
第 7 章 要員のプランニング	129
情報	129
プロセス	130
要員プランニング・タスク・リストのタスク	130
要員プランニング・タスク・リストの表示	130
既存の従業員の更新	131
既存の従業員の確認	131
新規採用の追加	135
採用予定(TBH)要請の追加	135

採用予定(TBH)要請の削除	136
採用要請ステータスの変更	136
報酬の計算	137
従業員報酬合計の確認	137
未来年の報酬の計算	138
承認のためのプランの送信	138
第 8 章 要員分析の実行	139
情報	139
プロセス	139
要員分析タスク・リストのタスク	140
要員分析タスク・リストの表示	140
データのロール・アップ	141
リソース・マネージャ・ダッシュボードの表示	141
稼働率の確認	141
プロジェクト全体における労務要求の確認	142
プロジェクトへのスタッフ配属	142
要請ステータスの変更	143
既存従業員の割当て	143
新規採用の要求	144
採用予定(TBH)要請の追加	144
報酬の計算	145
報酬の再計算	145
合計報酬の確認	146
従業員の人数および工数の確認	146
第 IV 部 資本資産のプロジェクトへの割当て	147
第 9 章 資本資産の管理	149
情報	149
プロセス	149
「資本管理」タスク・リストのタスク	150
「資本管理」タスク・リストの表示	150
資産クラスおよび資産詳細の設定について	151
資産クラスへの標準装置の追加について	151
資産詳細次元の設定について	151
資本に関する仮定の設定	151
既存資産のインポート	152
資本資産支出のロールアップ	153
既存資産に関するロード済減価償却および償却の確認	153

資産関連支出の計算	154
第 10 章 資本のプランニング	155
情報	155
プロセス	155
「資本プランニング」タスク・リストのタスク	156
「資本プランニング」タスク・リストの表示	156
資本プランニングを操作する際の考慮事項	156
既存資産の確認	157
既存の主要資産の管理	157
既存の副資産の管理	163
新規資産の追加	164
新規資産の追加および調整	164
新規リース資産の追加および調整	168
工事中資産の確認および調整	171
資産関連支出の計算	173
ユニット当たり資産の費用詳細の確認	173
承認のためのプランの送信	173
第 11 章 資本資産分析の実行	175
情報	175
プロセス	175
「資本分析」タスク・リストのタスク	176
「資本分析」タスク・リストの表示	176
装置支出の計算	177
装置の概要の表示	177
装置の稼働率の確認	178
プロジェクト全体の装置要求の確認	179
装置のプロジェクトへの割当て	179
要請ステータスの変更	179
既存の装置のプロジェクトへの割当て	180
新規装置要求の提起	181
新規資産の追加	181
資産の計算	183
計算済の詳細の確認	183
財務諸表への装置要求の影響の表示	183
装置費用の再計算	185
財務諸表での影響の確認	185
資産の詳細の表示	186

第 V 部 財務分析の実行	187
第 12 章 財務分析の実行	189
情報	189
プロセス	189
「財務分析」タスク・リストのタスク	189
「財務分析」タスク・リストの表示	190
ロールアップの実行	190
財務概要の表示	190
資金の配賦	191
資金調達ステータスの変更	192
プロジェクト財務諸表の確認	192
プロジェクト KPI の確認	193
詳細分析の実行	193
損益計算書への影響の分析	194
キャッシュ・フローへの影響の分析	194
プロジェクト資金調達の確認	195
資金の割当て解除	195
ターゲット・エンティティの設定	195
ターゲット・エンティティの許容差の値の設定	197
承認のためのプランの送信	197
第 13 章 プロジェクトの確認	199
プロジェクトの確認について	199
プロジェクトの確認のプロセス	199
「プロジェクトの確認」タスク・リストのタスク	200
「プロジェクトの確認」タスク・リストの表示	200
部署レベル財務諸表の計算	200
実績の確認	201
部署別財務実績の確認	201
財務諸表への影響の確認	201
既存のプロジェクトの確認	202
既存のプロジェクト詳細の確認	202
EVM メジャーの比較	202
EVM 分析例	204
EVM メジャーの計算	205
新規プロジェクトの確認	206
新規プロジェクト詳細の確認	206
プロジェクト・スコアの比較	206
仮定分析の実行	207

「既存のプロジェクトを含める/除外する」の表示	208
「新規プロジェクトを含める/除外する」の表示	208
「含める/除外する場合の基準」の実行	209
プロジェクト詳細の取得	209
プロジェクト終了日の変更	210
仮定バージョンのコピー	210
仮定バージョンの確認	211
データ検証メッセージの確認	212
仮定バージョンの承認	212
仮定バージョンの削除	213
仮定バージョンからのプロジェクトの削除	213
プロジェクト日付の調整	213
プロジェクトの承認	214
付録 A. テンプレート	217
テンプレートについて	217
サンプル・テンプレート・ファイルの抽出	217
テンプレート・ファイルのフォーマット	218
前提条件と推奨事項	219
データ・ロードの設定	219
データ・ロード・ファイルの順序	220
CSV データ・ロード・ファイルのインポート	221
テンプレート・ファイルの説明	223
スマート・リストとスマート・リスト値テンプレートの説明	223
メタデータ・テンプレートの説明	224
データ・テンプレートの説明	227
プロジェクト完了テンプレートの説明	248
付録 B. サンプル・プロジェクト: 情報技術	249
IT 業界固有の Project Financial Planning サンプル・アプリケーションの作成	249
セキュリティのロード	250
サンプル・アプリケーション・セキュリティのロード	253
サンプル・アプリケーション・データのロード	255
付録 C. データおよびメタデータのインポート	257
データおよびメタデータのインポートについて	257
はじめに	258
リレーショナル・テーブルの作成	258
ロード要件と推奨事項	258
データ・ロードの設定	259

メタデータとデータのロード	259
マッピング・プロパティ・ファイルの抽出	260
表の説明	261
スマート・リストとスマート・リスト値テーブルの説明	261
メタデータ・テーブルの説明	262
仮定テーブルの説明	264
資産減価償却および償却テーブル	269
プロジェクト詳細テーブル	270
プロジェクト直接費テーブル	271
既存の従業員データ・テーブル	271
既存の主要資産データ・テーブル	272
既存のリース資産データ・テーブル	272
従業員プロジェクト割当てテーブルの説明	273
資産プロジェクト割当てテーブルの説明	274
プロジェクト材料要件テーブルの説明	275
エンティティ・レベルの実績のインポート・テーブルの説明	277
プロジェクト完了テーブルの説明	277
用語集	279
索引	285

ドキュメントのアクセシビリティについて

Oracle のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

Access to Oracle Support

Oracle サポート・サービスでは、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

第 I 部

Project Financial Planningの導入

Project Financial Planning の導入の内容 :

- [Project Financial Planning について](#)
- [はじめに](#)

1

Project Financial Planningについて

この章の内容

Project Financial Planning の概要	17
プロジェクト分類	19
用意されている次元	20
事前定義済の要素	23
Project Financial Planning の役割	27
サンプル・アプリケーション	28
仮定	29
アクセシビリティ	29

Project Financial Planning の概要

サブトピック

- [価値提案](#)
- [Project Financial Planning の主要な機能](#)

Oracle Project Financial Planning は、組織が取り組む詳細なプロジェクトと企業リソースへの全体的な影響との間のギャップを埋めます。これは、資産およびリソースの割当て方法の高レベルのスナップショットを組織に提供し、その後、パフォーマンスを監視し、投資に対する利益に関する情報を提供します。

Project Financial Planning は、基礎となる多次元データベースを使用して、プロジェクトのイニシアチブに対する様々なタスクおよびリソースのプランニングに対処します。Project Financial Planning で通常使用される、シナリオおよび計算を処理するための機能が構築されました。

価値提案

Project Financial Planning アプリケーションは、企業の財務計画とプロジェクトの財務計画プロセス間の意思決定プロセスを単一のアプリケーション内に統一します。

企業において、プロジェクトに関する意思決定と年次財務計画サイクルに関する意思決定は、同じプロセスの一部である必要があります。ただし、1つのプロジェクトのみで、または年次財務計画のみでそのような意思決定が行われることも少なくありません。プロジェクトのスポンサおよび出資者の目的は、ボトムアップ

型の年間計画や予測を導き出すため企業の財務目標および長期計画とは異なる場合があります。

Project Financial Planning アプリケーション内のアプリケーション構成要素および機能を使用すると、What-if 影響分析、およびプロジェクトの財務面の考慮事項からのフィードバック・ループを簡単に行えます。プロジェクトの承認プロセスは財務計画および予測の承認と緊密に関係しているため、アプリケーションのプロセス・コントロールでは、プロジェクトのスポンサ、主要な出資者および財務の意思決定者間での同意が暗黙的に取られます。このプロセスにより、プロジェクト計画および財務計画が、財務目標および企業の長期財務計画と一致するように調整されます。

Project Financial Planning の主要な機能

Project Financial Planning では、次のタスクを実行できます:

- 間接プロジェクト、資本プロジェクトおよび契約プロジェクトのプランニングの実行
- 付属のテンプレート・ファイルを使用した、メタデータおよびデータのインポート
- 詳細レベルまたは勘定科目レベル(労務、材料、装置)での支出プランニングの実行
- 要員リソースおよび資本資産のプロジェクトへの割当て
- プロジェクトの促進要因ベースの諸経費の計算
- 契約プロジェクトのタイプ(実費清算、固定価格または原価加算)に基づく、様々なタイプの収益計画/収益認識の実行
- プロジェクト・レベルまたはエンティティ・レベルでの影響(損益、キャッシュ・フロー、キー・パフォーマンス・インディケータ[KPI])の財務諸表への表示
- 財務メジャーおよび主観的メジャー(正味現在価値[NPV]、投資利益率[ROI]、回収、生涯投資、リスク評価、戦略評価、ビジネス評価、組織目標)を使用したプロジェクト・スコアに基づくプロジェクトのランク付けおよび承認
- 会社間プロジェクトの計画および調整の実行
- 資金調達の要求
- プロジェクト承認フローのトラッキング
- 事前定義済レポートの使用
- 情報技術関連のサンプル・プロジェクトの提供
- EVM 分析
- 仮定バージョン

プロジェクト分類

サブトピック

- 間接
- 資本
- 契約

Project Financial Planning では、間接、資本、および契約の 3 つのタイプのプロジェクトをサポートしています。

間接

管理プロジェクトとも呼ばれるように、間接プロジェクトには費用影響がありますが、収益は発生しません。たとえば、人事チーム向けの、従業員の個人情報を追跡するためのソリューション/ポータルを作成する IT プロジェクトは、間接プロジェクトです。プロジェクトが間接として分類される場合、プロジェクトの支出予算策定のみを行うことができます。間接プロジェクトの収益予算策定を行うことはできません。

資本

資本プロジェクトは、長期間の投資プロジェクトで、資本資産の工事(建物、堤防、道路など)のために請け負われます。プロジェクトに資本の分類がある場合、プロジェクトの支出予算策定のみを行うことができます。資本プロジェクトの支出は、資産の開発中に貸借対照表で工事中(CIP)として追跡されます。資本プロジェクトが開始され、資産の準備が整ったら、CIP 資産を既存の資産と調整する必要があります。

契約

サブトピック

- 実費清算
- 固定価格
- 原価加算
- その他

契約プロジェクトは顧客に対して実行される作業で、顧客は企業に払戻しを行います。契約プロジェクトでは、基礎となる契約に基づいて、支出と収益が発生します。契約プロジェクトの支出、収益および請求を、クライアントが実行および払戻しを行うサービス用にすることができます。

Project Financial Planning では、次のタイプの契約プロジェクトをサポートします: 実費清算、固定価格、原価加算およびその他。

実費清算

実費清算は、実行されたすべての労働時間、資産支出、発生した直接費、およびプロジェクト実行中に購入された材料に対して顧客が請求される、プロジェクト請求タイプです。実費清算の配置例は、通常、建設業界、請負業者、コンサルティング会社などに見られます。

会社間パートナーシップの場合、所有エンティティはサービス・プロバイダ・エンティティに発生したリソース支出すべてを請求できます。

固定価格

固定価格は、顧客が契約で実行された作業に対してセット交渉価格を請求される、プロジェクト請求タイプです。この契約タイプは、すべての費用と結果として生じる利益や損失に対して、請負業者が最大のリスクと完全な責任を負って配置されます。

原価加算

原価加算は、追加金額(マージンとも呼ばれる)など、請求が原価加算に基づいているプロジェクト請求タイプです。

その他

このタイプのプロジェクト請求タイプは、複雑な契約条件に使用できます。たとえば、実費清算または原価加算でも請求される、プロジェクトの一部として提供されるサービスについて、顧客が固定価格を請求されることがあります。

用意されている次元

サブトピック

- 勘定科目
- プロジェクト
- プロジェクト要素
- ジョブ
- 従業員
- 資産クラス
- 資産詳細

Oracle Hyperion Planning で用意されている次元(複数通貨のアプリケーションのエンティティ、シナリオ、バージョン、期間、年および通貨)に加えて、Project Financial Planning では、次の次元(勘定科目、プロジェクト、プロジェクト要素、ジョブ、従業員、資産クラスおよび資産詳細)が提供されます。

勘定科目

Project Financial Planning の勘定科目次元は、次の3つの主なグループに分けられます:

- 要員リソースのプランニングをサポートする勘定科目
- 資本資産のプランニングをサポートする勘定科目
- プロジェクトのプランニングをサポートする勘定科目

Planning では複数のプラン・タイプを使用するため、勘定科目は、それが属するプラン・タイプに分けられます。勘定科目は、計算の促進要因、計算の結果、または情報を持ち組織的であるメンバーを含み、プランニング・プロセスの一部として収集する必要がある関連データを提供します。勘定科目には、スマート・リスト、テキスト勘定科目、日付勘定科目、財務勘定科目など、すべてのタイプのものがあります。勘定科目次元は、プラン、予測、または実績と比較するために使用できる顧客の勘定科目に移入することもできます。Project Financial Planning には、財務諸表を作成するための事前移入された勘定科目があります。Project Financial Planning には、要員リソース、資本資産リソース、およびプロジェクトのプランニングの際の標準的な勘定科目も含まれています。

顧客のニーズを満たすように、勘定科目をカスタマイズできます。ただし、Project Financial Planning で提供される勘定科目が変更された場合、対応するビジネス・ルール、メンバー式およびフォームは、アプリケーションが期待どおりに動作するように変更する必要があります。また、勘定科目およびルールをカスタマイズした場合、Project Financial Planning をアップグレードする際には、すべての変更をやりなおす必要があります。

プロジェクト

プロジェクト次元には、企業がプランおよび予測しようとする既存と新規のプロジェクトが含まれます。プロジェクト次元は、契約、資本、および間接のプロジェクトのタイプに分類されます。各タイプの詳細は、[19 ページの「プロジェクト分類」](#)で説明しています。

開始点として、Project Financial Planning では、新規プロジェクトのための次のライン・アイテムが提供されます:

- 契約および間接プロジェクトのための 100 ライン・アイテム
- 資本プロジェクトのための 50 ライン・アイテム

管理者は、実装要件に基づいてライン・アイテムを追加できます。

プロジェクト要素

プロジェクト要素次元によって、収益、費用、またはその他の仮定をライン・アイテム・レベルで構築できます。これにより、様々な収益、支出、またはその他の仮定を説明できます。

開始点として、Project Financial Planning では、仮定を入力するための次のライン・アイテムが提供されます:

- 収益および費用の仮定を取得するための 20 ライン・アイテム
- 諸経費仮定を取得するための 10 ライン・アイテム
- 一般および管理の仮定を取得するための 5 ライン・アイテム

- プロジェクトの内部取引のための 20 ライン・アイテム
- プロジェクトの資金調達要求のための 20 ライン・アイテム

管理者は、実装要件に基づいてライン・アイテムを追加できます。

ジョブ

ジョブ次元には、具体的にプロジェクト割当てで使用される組織内の役割のリストが含まれています。ジョブの例として、エンジニア、ソフトウェア開発者、整備士などがあります。プロジェクトに関連のないジョブは含まれません。プロジェクト労務はジョブ・レベルで要求され、要求は、プロジェクトに必要なリソースの役割など、ジョブのタイプに対するものです。ジョブ次元は、従業員次元とともに使用して、プロジェクト要請の構築や役割別の従業員の特定を行います。詳細な従業員レベルでプランする必要はありません。組織がプロジェクトと関連して詳細な従業員プランニングを実行しない場合、従業員次元内に含まれる要請とともにジョブ次元を使用できます。

従業員

従業員次元には、組織の従業員が含まれます。計算(給与およびその他の報酬など)は、個別の従業員に対して実行できます。また、従業員次元を使用して、組織への新規採用をプランまたは予測できます。プロジェクト・マネージャがプロジェクトの労務リソースを要求すると、ジョブを要求することができ、ジョブ別の要求数は、従業員次元からの労務要請メンバーによってサポートされます。組織が Project Financial Planning で従業員レベルの労務割当てを行う場合、リソース・マネージャは、既存の従業員への労務要請を調整できます。組織では、別のツールを使用して労務割当てを実行してから、Project Financial Planning に割当てをインポートする場合があります。既存の従業員は、PeopleSoft などの人事システムからインポートされていると予想されます。

新規従業員または労務要請のプランニングをプロジェクト・レベルでサポートするために、開始点として、Project Financial Planning では、要請を入力するための次のライン・アイテムが提供されます:

- 採用要請のための 100 ライン・アイテム
- 労務要請のための 50 ライン・アイテム

管理者は、実装要件に基づいてライン・アイテムを追加できます。

資産クラス

資産クラス次元は、企業が所有する資産の異なるカテゴリを詳述します。資産クラスは、有形資産(備品および設備、機械および装置、コンピュータなど)および無形資産(リース資産改善費、ソフトウェア権利、営業権など)に分けられます。これらのクラスは、通常、財務諸表に含める上位レベルの明細で、資産レベルにドリル・ダウンしません。資産クラス次元には、プロジェクトで使用するためにプロジェクト・マネージャが要求する標準装置のリストも含まれます。要求時には、プロジェクト・マネージャは、プロジェクトで使用するために必要な装置のタ

イプは認識していますが、既存資産と新規資産のどちらが要件を満たすかは認識していません。そのため、プロジェクト・マネージャは、装置タイプのみを要求します。標準装置では、プロジェクトで使用するために要求される材料資産の簡潔なリストが提供されます。その他の資産タイプは含まれません。

資産詳細

資産詳細次元は、新規資産購入(新規リースまたは新規所有)の要求をサポートするために使用されます。資産詳細は、各新規要求を個別に詳述します。プロジェクト・マネージャが標準装置(資産クラス次元に含まれる)の使用を要求すると、要求は、資産詳細次元内の資産要請(Equip Rec 1、2、3 など)をサポートします。プロジェクト・マネージャは、既存資産には対応可能な能力があるか、またはプロジェクトをサポートするために新規資産を購入する必要があるかを認識していないため、資産マネージャが、要求を満たす方法を決定します。資産詳細次元には、可能な場合、個別の資産または資産のグループとして詳述される既存の主要な装置も含まれます。

新規装置または資産のプランニングをサポートするために、開始点として、Project Financial Planning では、要請を入力するための次のライン・アイテムが提供されます:

- プロジェクト・レベルで標準装置の使用を要求するために使用できる 50 装置要請
- 新規リース資産のプランニングのための 30 ライン・アイテム
- 新規所有資産のプランニングのための 200 ライン・アイテム

管理者は、実装要件に基づいてライン・アイテムを追加できます。

事前定義済の要素

サブトピック

- [フォーム](#)
- [ビジネス・ルール](#)
- [タスク・リスト](#)
- [メニュー](#)
- [スマート・リスト](#)
- [レポート](#)

Project Financial Planning では、次元メンバー、フォーム、関連メニュー、タスク・リストとタスク、ビジネス・ルール、スマート・リスト、検証ルール、代替変数、ユーザー変数、およびレポートが提供され、それにより、実装の作業量を大幅に減らすことができます。以降の項では、事前定義済の要素について詳細に説明します。

フォーム

Project Financial Planning では、ニーズを満たすための事前定義済のフォームが提供されます。タスク・リストのタスクの実行時にフォームを開くことも、「フォーム・フォルダ」の下フォームを選択して開くこともできます。

多くの Project Financial Planning タスクで、マスター詳細フォームが採用されています。マスター詳細フォームは、上部のフォームに詳細な情報、下部のフォームにサマリー情報をそれぞれ表示する複合フォームです。

Project Financial Planning のフォームは、次のようにグループ化されます：

- 「アプリケーションの管理」 - グローバル仮定と促進要因を入力します。このフォームは、さらに、「プロジェクト管理」、「要員管理」、および「資本管理」にグループ化されます。
- 「プロジェクト」 - 詳細なプロジェクト予算と予測を作成します。このフォームはさらに、「プロジェクト・プランニング」、「プロジェクト融資」、「プロジェクト財務諸表」および「プロジェクト・サポート・フォーム」にグループ化されます。
- 「要員」 - 詳細な要員計画を作成します。メイン・フォームは「要員」フォルダの直下で使用できますが、サポート・フォームは、「要員サポート・フォーム」の下サブフォルダ(「要員の設定およびメンテナンス」および「要員プロジェクトの使用状況および分析」)にあります。
- 「資本」 - 詳細な資本資産計画を作成します。メイン・フォームは「資本」フォルダの直下で使用できますが、サポート・フォームは、「資本サポート・フォーム」の下サブフォルダ(「資産の設定、メンテナンスおよび分析」および「資産プロジェクトの用途」)にあります。

モデルでフォームを変更するときは、ビジネス・ルール、メンバー式およびアウトライン構造などのビジネス・ロジックと変更を同期します。ビジネス・ロジックを変更するときは、必ずフォームを確認してください。

ビジネス・ルール

Project Financial Planning のフォームでは、多くのショートカット・メニュー・オプションによってビジネス・ルールが起動され、それにより、データの選択、変更の適用、および支出の計算に使用する実行時プロンプト・ウィンドウが表示されます。Project Financial Planning を含む Planning アプリケーションは、ビジネス・ルールの設計および管理のために、Oracle Hyperion Calculation Manager を使用します。

事前定義済のビジネス・ルールを使用すると、次のタスクを実行できます：

- 支出の計算
- 収益の計算
- 財務諸表(利益と損失、キャッシュ・フロー、KPI)の計算
- プラン・タイプからプラン・タイプへの、シームレスなデータ移動の実行

タスク・リスト

Project Financial Planning には、確実に完全なデータ収集を行うためにユーザーがアプリケーション内を移動するのに役立つタスク・リストがあります。タスク・リストは、表 2 で定義されているユーザーおよび役割に合うように設計されています。Project Financial Planning のタスク・リストを変更して、指示の確認、フォームへのデータの入力、ビジネス・ルールの実行などの独自のタスクを追加できます。Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide の第 9 章のタスク・リストの管理に関する項を参照してください。

Project Financial Planning のタスク・リストを表示および変更できるユーザーを決定することもできます。

注： タスク・リストに割り当てられるということは、タスク・リスト内のタスクにアクセスして実行できることを意味します。他のユーザーにタスクを割り当てることはできません。

Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide の第 9 章のタスク・リストへのアクセス権の割当てに関する項を参照してください。

Project Financial Planning のタスク・リストは、次の主なカテゴリに分けられます：

- 管理 - 管理タスクを実行するために、「プロジェクト管理」、「要員管理」、および「資本管理」の 3 つのタスク・リストが提供されます。
- プロジェクト・プランニングと分析 - 新しいプロジェクトを提案し、既存のプロジェクトを管理するために、「新規プロジェクトの提案」と「既存のプロジェクトの管理」の 2 つのタスク・リストが提供されます。
- 要員プランニングおよび分析 - 要員プランニングおよび分析のために、「要員プランニング」および「要員分析」の 2 つのタスク・リストが提供されます。
- 資本プランニングおよび分析 - 資本プランニングおよび分析のために、「資本プランニング」および「資本分析」の 2 つのタスク・リストが提供されます。
- 財務分析 - プロジェクトを確認し、企業レベルで詳細な財務分析を実行するために、「プロジェクトの確認」と「財務分析」の 2 つのタスク・リストが提供されます

メニュー

Project Financial Planning には、フォームで計算を制御するショートカット・メニューがあります。ショートカット・メニューによって、別のフォームが表示されるか、またはルールが起動されて、プロジェクトの計算を実行します。表示されるショートカット・メニュー・アイテムは、フォーム設定およびフォーム内で右クリックする場所に応じて異なります。

ビジネス・ルールとフォームを追加または変更する場合は、既存のメニューを更新するか、新規メニューを作成して、変更をサポートします。たとえば、メニューで参照されているビジネス・ルールを削除する場合は、そのルールをメニューから削除します。計算に影響せずにショートカット・メニューを削除できます。

Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide の第 12 章のメニューの操作に関する項を参照してください。

スマート・リスト

スマート・リストは、プロジェクト、ジョブ、従業員の管理、およびフォームを使用した報酬予算の構築に使用される次元メンバーにリンクされています。たとえば、Employee_Type スマート・リストには、臨時、正社員、契約社員という値が含まれています。スマート・リストは、計算を実行するビジネス・ルールにも使用されます。Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide または Oracle Hyperion Planning User's Guide を参照してください。

レポート

次の表は、Project Financial Planning で提供されるレポートを示しています。

表 1 Project Financial Planning のレポート

レポート名	説明
資金調達要約	資金調達要求の要約を提供し、エンティティ内のすべてのプロジェクトの配賦済資金の金額を表示します。ここでは、昨年、今年、翌年の 3 年間のデータを表示します。 このレポートによって、財務マネージャおよび事業部門長は、エンティティの合計資金調達要件を確認できます。プロジェクトごとの資金調達要件は、リンクされた「プロジェクトの資金調達要約」レポートを使用して分析できます。
プロジェクトの資金調達要約	特定のプロジェクトの資金調達要求の詳細および配賦済資金の金額を提供します。ここでは、昨年、今年、翌年の 3 年間のデータを表示します。
財務諸表への影響	特定のプロジェクトの損益計算書およびキャッシュ・フローへの影響を要約します。これは、プロジェクトの一部のキー・メトリックも表示します。
プロジェクトの詳細	開始から現在までの実績の費用および収益が存在するプロジェクトのリストを提供します。プロジェクト・マネージャおよび事業部門長は、処理中のプロジェクトの財務実績を追跡できます。
プロジェクト費用の詳細	昨年、今年、翌年の 3 年間のプロジェクト費用を要約します。プロジェクト費用は、リンクされた「プロジェクト労務支出」、プロジェクト装置支出、およびプロジェクト材料支出レポートにドリル・インすることによって、さらに分析できます。
プロジェクト労務支出	特定のプロジェクトの労務支出の要約、および昨年、今年、翌年の 3 年間のエンティティを表示します。
プロジェクト装置支出	特定のプロジェクトの装置支出の要約、および昨年、今年、翌年の 3 年間のエンティティを表示します。
プロジェクト材料支出	特定のプロジェクトの材料支出の要約、および昨年、今年、翌年の 3 年間のエンティティを表示します。
プロジェクト収益の詳細	プロジェクトの収益の詳細を表示します。
今年のプロジェクト財務実績の概要	今年のプロジェクトの費用、収益、マージン、マージン%などの財務パラメータ(YTD パフォーマンス)を表示します。

レポート名	説明
耐用期間に関するプロジェクト財務実績の概要	昨年、今年、翌年の3年間の特定のプロジェクトの費用、収益、マージン、マージン%などの財務パラメータを表示します。

Project Financial Planning の役割

次の表は、Project Financial Planning のライフサイクルでの標準的な参加者を説明しています。これは、企業の業界によって異なることがあります。

表 2 Project Financial Planning の役割

プロジェクトの役割	説明
事業部門所有者	プロジェクトが開発する製品やサービスに必要なものを特定した事業部門。所有者は、組織のすべてのレベルで指定できます。
エグゼクティブ・スポンサ	エグゼクティブ・スポンサは、プロジェクトの権限およびリソースの使用を保証することにおいて最終的に責任を負う、プロジェクトの結果に明白に関与するマネージャです。エグゼクティブ・スポンサは、プロジェクトのサイズおよびスコープに比例して、想定される最高ランクのマネージャです。エグゼクティブ・スポンサは、積極的で明白な支援者としての役割を果たし、プロジェクトの目的および目標を正当化し、主要なプロジェクト・アクティビティに遅れをとらず、プロジェクトの最終的な意思決定者となります。エグゼクティブ・スポンサは、プロジェクト・スポンサおよび/またはプロジェクト・ディレクタとプロジェクト・マネージャをサポートし、すべてのスコープ変更の最終承認を得て、承認に署名して後続の各プロジェクト・フェーズに進みます。エグゼクティブ・スポンサは、上述の職責の一部をプロジェクト・スポンサまたはプロジェクト・ディレクタ、あるいはその両方に委任するよう選択する場合があります。
内部意思決定者	使用するか影響を受ける主要な事業部門、またはプロジェクトが提供する製品やサービスのかわりにプロジェクトの決定を行うよう指定されている、プロジェクト・コミュニティのメンバー。これらの意思決定者は、プロジェクトの問題や結果に関する事業部門の意見の一致を得て、それをプロジェクト・マネージャに伝達します。プロジェクト・マネージャの要求に従ってプロジェクト会議に参加し、プロセスの成果物を確認および承認し、主題の専門知識をプロジェクト・チームに提供します。プロジェクトによっては、担当者や運営委員会の一部としての役割を果たす場合もあります。
内部担当者	特定され、プロジェクトに対して主題の専門知識を使用できるようになっている内部コミュニティのメンバー。その職責は、事業部門のニーズをプロジェクト・チームに正確に表し、プロジェクトが生成する製品やサービスを説明する成果物を検証することです。担当者は、プロジェクトに関する情報をプロジェクト・コミュニティに戻すことも求められています。プロジェクトの終了に向かって、内部担当者は、プロジェクトが開発、使用および評価している製品やサービスをテストする一方で、プロジェクト・チームにフィードバックを提供します。
主要出資者	この出資者のサポートが取り消された場合、プロジェクトの失敗の原因となる、出資者のサブセット。
プロジェクト経理担当者	プロジェクト経理担当者は、プロジェクトの会計の側面を管理し、プロジェクトの財務上の進捗を追跡するよう明確に設計された財務レポートを作成し、これをプロジェクト・マネージャが使用して、プロジェクト管理に役立てることができます。
プロジェクト・マネージャ	プロジェクト・チームがプロジェクトを完了することを確認する責務がある担当者。プロジェクト・マネージャは、チームとともにプロジェクト・プランを開発し、チームのプロジェクト・タスクのパフォーマンスを管理します。プロジェクト・マネージャの職責には、プロジェクト・スポンサおよび出資者から成果物の受入れおよび承認を保証することもあります。プロジェクト・マネージャには、ステータス・レポート、リスク管理、チームで解決できない問題のエスカレーション、および、一般にプロジェクトが予算内で、予定どおりに、スコープ内で実行されていることの確認など、伝達の職責があります。

プロジェクトの役割	説明
プロジェクト・スポンサ/ プロジェクト・ディレクタ	プロジェクト・スポンサは、プロジェクトの結果に明白に関与するマネージャで、プロジェクトの権限およびリソースの使用を保証する職責があります。プロジェクト・スポンサは、プロジェクト・ディレクタとも呼ばれ、積極的に明白な支援者としての役割を果たし、プロジェクトの目的および目標を正当化し、主要なプロジェクト・アクティビティに遅れをとらず、プロジェクトの意思決定者となります。プロジェクト・スポンサは、プロジェクトの開始、つまりプロジェクト・チャータの作成に関与し、それをリードします。プロジェクト・スポンサは、プロジェクト・プランニング(上位レベル)およびプロジェクト開始プランの開発に関与します。プロジェクト・スポンサは、プロジェクト・マネージャをサポートし、主要な問題およびポリシー競合の解決を支援し、障害を取り除き、スコープのプランニングにおいてアクティブであり、スコープ変更を承認し、主要な成果物に署名し、承認に署名して後続の各プロジェクト・フェーズに進みます。プロジェクト・スポンサは、大きいプロジェクトでは、通常、運営委員会の委員長を務めます。プロジェクト・スポンサは、プロジェクト・チームの内外のその他の人材に、前述の職責の一部を委任するよう選択する場合があります。
プロジェクト・チーム・メンバー	プロジェクト・チームのメンバーとして特定されているすべてのメンバーのグループ。
出資者	プロジェクトの結果に影響を受けるか影響を与える、組織の内外のグループ、ユニット、個人または組織。これには、プロジェクト・チーム、スポンサ、運営委員会、およびプロジェクトの変更によって影響を受ける同僚が含まれます。
運営委員会	通常、プロジェクトの監視および制御に関係する主要な組織からの管理担当者、および、プロジェクトの結果に特別に関与するその他の主要出資者グループが含まれます。運営委員会は、担当者の組織全体で、個別におよびまとめて、積極的に明白なプロジェクト支援者としての役割を果たし、通常、プロジェクトの成果物を承認し、問題およびポリシー決定の解決を支援し、スコープ変更を承認し、プロジェクトに指示および指導を行います。プロジェクトの編成方法に応じて、運営委員会は、リソースの提供への関与、確実な資金調達への支援、エグゼクティブ・グループおよびスポンサへの連絡係としての役割の実行、および、プロジェクトによって定義されたその他の役割の補充が可能になります。
ベンダー	プロジェクトが必要とする追加の製品やサービスを提供するよう契約されているため、ベンダーは、プロジェクト・チームの別のメンバーです。

サンプル・アプリケーション

このリリースの Project Financial Planning では、情報技術(IT)の業界固有のサンプル・アプリケーションを提供しています。目的は、Project Financial Planning を様々な業界に使用する方法を示すことです。サンプル IT アプリケーションは、これを IT コンサルティングに使用する方法を示します。アプリケーションは、支出予算と収益予算、即時利用可能な承認、セキュリティ設定、および、資産、従業員、ジョブのメンバーなど、事前に入力されたデータを備えています。

注： 提供されるデータはサンプル・データのみで、実績データに関連していません。

IT 業界固有の Project Financial Planning サンプル・アプリケーションの作成、セキュリティおよびデータのロードの詳細は、[付録 B 「サンプル・プロジェクト: 情報技術」](#) を参照してください。

仮定

Project Financial Planning アプリケーションを管理する管理者は、用意されているコンテンツ、Planning および Oracle Hyperion Calculation Manager についてよく理解しているものとします。

アクセシビリティ

キーボードを代替手段とするメニューおよびナビゲーションについては、Oracle Technology Network (OTN) (<http://www.oracle.com/technetwork>)から入手できる Oracle Hyperion Planning アクセシビリティ・ガイドを参照してください。

この章の内容

製品の最初の実装タスク	31
アプリケーション・メンテナンス・タスク	34
メタデータとデータのロード	34
アプリケーションの保護	35
Project Financial Planning アプリケーションの作成および初期化	37
Project Financial Planning へのログオンおよびアクセス	39

製品の最初の実装タスク

組織の Project Financial Planning の設定と初期化を担当するユーザーは、次のタスクを実行してアプリケーションの定義および準備を行います:

1. Project Financial Planning をインストールし、構成します。Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide を参照してください。
2. Project Financial Planning アプリケーションを作成し、初期化します。37 ページの「Project Financial Planning アプリケーションの作成および初期化」を参照してください。
3. 組織のエンティティに対応するメンバーを含むエンティティ次元をロードします。付録 C「データおよびメタデータのインポート」を参照してください。
4. 組織の既存の職階をジョブ次元のメンバーとしてロードします(Project Financial Planning で提供されるサンプル IT プロジェクトを参照してください)。

注： IT 業界固有の Project Financial Planning サンプル・アプリケーションの作成、セキュリティおよびデータのロードの詳細は、付録 B「サンプル・プロジェクト: 情報技術」を参照してください。データおよびメタデータのロードの詳細は、付録 C「データおよびメタデータのインポート」を参照してください。

5. 従業員次元のメンバーとして、会社の HRMS から既存の従業員をロードします。付録 C「データおよびメタデータのインポート」を参照してください。
6. 組織で扱われる資産クラスとともに資産クラス次元をロードします。

注： 資産クラス次元に一部の事前定義済のメンバーが含まれています。

7. 資産詳細次元を主要な既存資産とともに組織にロードします。付録 C「データおよびメタデータのインポート」を参照してください。

注： すべての資産がアプリケーションに必要なわけではありません。Project Financial Planning では、同様な資産をまとめることができます。たとえば、組織が 1,000 台のラップトップを使用している場合、資産詳細次元に 1,000 のメンバーを追加する必要はありません。ラップトップ・メンバーを資産詳細次元に 1 つのみ追加します。この資産に対応するデータをロード中に、資産単位を 1,000 として指定します。これにより、すべての計算は正しく処理され、アプリケーションを拡張しやすくなります。

8. 既存のプロジェクトを、プロジェクト次元のメンバーとして組織にロードします。適切なプロジェクト分類階層でプロジェクトをロードしていることを確認します。たとえば、プロジェクトを契約プロジェクトにする場合、Project Financial Planning にプロジェクトをロードする前に、これを既存の契約プロジェクト階層の下に追加する必要があります。これに失敗すると、プロジェクトに関連する機能を使用できなくなる場合があります。付録 C「データおよびメタデータのインポート」を参照してください。
9. アプリケーションをリフレッシュして、Oracle Essbase と同期します。
10. 他のアプリケーションから Project Financial Planning にデータをロードします。Project Financial Planning にデータをロードするための OutlineLoad ユーティリティの使用の詳細は、第 3 章「プロジェクトの管理」、第 6 章「要員の管理」および第 9 章「資本資産の管理」に関する章を参照してください。OutlineLoad ユーティリティを使用している場合、Project Financial Planning に付属のテンプレートで指定されているように、使用しているデータをモデルにします。付録 A「テンプレート」を参照してください。Project Financial Planning では、データおよびメタデータをアプリケーションに直接ロードできるリレーショナル・テーブルも提供されます。付録 C「データおよびメタデータのインポート」を参照してください。
11. ロードされたデータを確認します。
12. 代替変数に適切な値を設定します。これらは、Project Financial Planning のフォームおよび Project Financial Planning に付属の事前定義済みのレポートで使用されます。

代替変数の値:

- CurYr - 現在の年に設定します。たとえば、現在の年が 2012 年の場合、FY12 に設定します。
- LastYr - 前年(FY11 など)に設定します。前年が年次元に存在することを確認してください。
- NextYear - 次の年(FY13 など)に設定します。
- Yr3 - NextYear の次の年(FY14 など)に設定します。
- Yr4 - Yr3 の次の年(FY15 など)に設定します。
- ThisMonth - 現在の月に設定します。
- CurScenario - 現在のシナリオに設定します。

- CurVersion - 「作業中」に設定します。
- ActVersion - 「最終」に設定します。
- ForVersion - 「作業中」に設定します。
- PlanVersion - 「最終」に設定します。
- Thisyear - 現在の年に設定します。
- SourceScenarioNewProjects - 「プラン」に設定するか、適切な値に設定します。

注： すべての新しいプロジェクトは、そのシナリオで使用可能であることを確認してください。

- SourceVersionNewProjects - 「作業中」に設定するか、適切な値に設定します。

注： すべての新しいプロジェクトは、そのバージョンで使用可能であることを確認してください。

13. 業務のニーズに必要な値がスマート・リストに入力されていることを確認します。次のスマート・リストは、必要な値で更新する必要があります：

- AssignmentLocation
- Customer
- FundingSource
- PhysicalLocation
- ProjectCostLevel
- ProjectManager
- SkillSet
- Grade
- Project Billing Level

14. グローバル仮定のデフォルト値を指定します。第3章「プロジェクトの管理」、第6章「要員の管理」および第9章「資本資産の管理」を参照してください。

15. 各ユーザーの値は、次のように設定します：

- エンティティ・ビュー - ユーザーがアクセスできるエンティティに設定します
- シナリオ・ビュー - ユーザーがアクセスできるシナリオに設定します
- バージョン・ビュー - ユーザーがアクセスできるバージョンに設定します
- レポートの通貨 - 複数通貨アプリケーションの場合のみ設定します

注： Project Financial Planning のフォームでは、操作しやすくするために、ユーザー変数が使用されます。これらのユーザー変数を正しく設定しないと、フォームを開くことができません。

注： 手順 5、7、8 および 10 はオプションです。Project Financial Planning では、新規プロジェクトを作成し、要請を使用してプロジェクトの労務と装置の支出を実行し、承認を得るためにプランを送信する機能が提供されます。

アプリケーション・メンテナンス・タスク

アプリケーションのメンテナンスの責任を負う管理者は、次のタスクを定期的に行う必要があります：

- プロジェクト、従業員、資産詳細およびプロジェクト要素次元では、新規プロジェクト、要求または仮定を作成するためのライン・アイテムが提供されます。ライン・アイテムの詳細は、[20 ページの「用意されている次元」](#)を参照してください。

ルールを使用して新規プロジェクト、要求または仮定を追加している場合、使用可能な空のライン・アイテムがなければ、ルールではエラー・メッセージが表示されます。これが発生した場合、必要に応じて、さらにライン・アイテムをロードする必要があります。メタデータのロードの詳細は、[Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide](#) を参照してください。ライン・アイテムの追加後に、キューブのリフレッシュを実行します。

- Project Financial Planning では、代替変数(LastYr、CurYr、NextYear、Yr3 および Yr4)により、フォーム内の数年間のみが定義されます。フォームにさらに年を追加する必要がある場合、アプリケーションに追加の代替変数を定義して、フォームに年を追加できます。年月が経過すると、代替変数の値は更新する必要があります。
- Project Financial Planning をアップグレードすると、ルールで実行されたカスタマイズや他のアーティファクトを再実行する必要があります。

メタデータとデータのロード

サブトピック

- [サンプル・テンプレート・ファイル](#)
- [リレーショナル・テーブルのインポート](#)

Project Financial Planning では、データおよびメタデータをアプリケーションにインポートするために使用できるインポート・ユーティリティが提供されます。

インポートには 2 つの方法があります：

- サンプル・テンプレート・ファイルの使用
- リレーショナル・テーブルの使用

サンプル・テンプレート・ファイル

ExportPFPTemplates ユーティリティは、サンプル・テンプレート・ファイルをユーザー定義のルート・フォルダに抽出します。PFPIImportUtility は、データおよびメタデータを Project Financial Planning アプリケーションにインポートします。

サンプル・テンプレート・ファイルでは、Project Financial Planning アプリケーションにデータをロードするために、CSV ファイルでのデータのフォーマット方法が示されます。テンプレート・フォーマットの詳細は、[付録 A 「テンプレート」](#)を参照してください。

リレーショナル・テーブルのインポート

リレーショナル・テーブルは、アプリケーションの作成時に作成されます。これらのテーブルは、アプリケーション・データベースで Planning テーブルとともに作成されます。PFPIImportUtility は、ユーザーによってテーブルに追加されたデータおよびメタデータを Project Financial Planning アプリケーションにインポートします。

テーブルの詳細およびインポート・ユーティリティの使用方法は、[付録 C 「データおよびメタデータのインポート」](#)を参照してください。

アプリケーションの保護

セキュリティは、ユーザーおよびグループに割り当てられたユーザーの権限、システム役割およびアクセス権に基づきます。グループは同様のアクセス権を持つユーザーのセットです。ユーザーに役割を割り当ててタスク・セキュリティを割り当てます。各役割には、タスクのセットが関連付けられています。Oracle

Enterprise Performance Management System User Security Administration Guide を参照してください。デフォルトでは、ユーザーは、アクセス権を持つアーティファクト(フォーム、タスク・リストなど)のみを開くことができます。次のガイドラインを使用し、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide のアクセス権の設定に関する項およびメンバーへのアクセス権の割当てに関する項の手順に従ってアクセス権を割り当てます。

- 次元とメンバー - プランナが自身のエンティティとプロジェクトに関する情報のみを表示したり、変更できるようアクセス権を付与します。これは、エンティティ次元と要素メンバーにアクセス権を指定することで行います。
- フォーム - ユーザーとの関連性に基づいて、フォームへの適切なアクセス権を割り当てます。たとえば、プロジェクト・マネージャのアクセス権をプロジェクト・プランニング・フォーム・フォルダのすべてのフォームに割り当てます。「要員」フォルダへのアクセス権を付与された場合、プランナは子フォルダとその中のフォームすべてを表示できるようになります。Project Financial Planning フォームは、セキュリティを(フォルダレベルで)簡単に割り当てられるように、分離されます。
- タスク・リスト - ユーザーとの関連性に基づいて、タスク・リストへのアクセス権を割り当てます。たとえば、プランナに「予算策定」タスク・リストへ

のアクセスを許可しますが、「プロジェクト管理」タスク・リストへのアクセスを許可しません。

- 《ビジネス・ルール | Business Rules | Planning - ビジネス・ルールにアクセス権を割り当て、ユーザーが自分の役割に関連するルールにアクセスできるようにします。
- プランニング・ユニット階層 - 費用センター所有者または確認者にのみアクセス権を付与します。
- レポート - ワークスペースで作成されたレポートにアクセス権を割り当てます。
- プランニング・サイクルで、ユーザーがシナリオとバージョンのデータの組合せを変更できないように、ユーザー・セットをロックします。
- 通常、ユーザーに、エンティティ内の従業員とジョブへのアクセス権のみを付与します。たとえば、セキュリティをエンティティ・レベルで設定することによって、プランナが、プランナの部署または費用センターのみ、従業員情報と職階情報の表示および変更を行えることを指定します。従業員レベルのデータは書込みアクセス権に設定する必要があります。
- 部署のエンティティへのアクセス権のみをユーザーに付与します。これによって、ユーザーは、自分の部署または費用センターに固有の報酬、従業員、プロジェクトを表示および変更できることが保証されます。同様に、費用センターまたは部署のマネージャおよびプランナのみ、費用センターまたは部署の一般会計エンティティへのアクセス権を付与します。
- 勘定科目次元:
 - プロジェクト、要員および資本資産勘定科目など、プラン・タイプ別に事前定義済の勘定科目へのアクセス権をユーザーに付与します。

注： 等級勘定科目のメンバーを保護できますが、等級値はスマート・リストでグローバルに表示されます。ただし、スマート・リストには給与情報は含まれていません。
 - プランニング・アクセスに合わせて一般会計の勘定科目を保護します。
 - 必要に応じて、財務諸表の子孫へのアクセス権をユーザーに付与します。たとえば、プロジェクト・スコアなどです。
 - エンティティ以外のレベルで設定されたグローバル仮定の表示アクセス権を設定します。
 - 追加所得および事業主負担税をデフォルト設定します。
- プロジェクト要素次元:
 - プロジェクト要素メンバーへの適切なアクセス権をユーザーに付与します。
 - 収益、費用および資金調達要素への書込みアクセス権をユーザーに付与しますが、表示アクセス権のみを付与することによって、ほとんどのユーザーの諸経費要素へのアクセスを制限します。
- 従業員次元:
 - プランナへの関連性に基づいて、HR からロードされた従業員情報および給与情報を保護します。

- ユーザーに、すべての新規従業員および要請へのアクセス権を付与します。これによって、プランナは、各部署に労務要請を作成したり、従業員を追加できます。
- すべてのユーザーにジョブ・レベルの標準レートへの表示アクセス権を付与します。
- ジョブ・コードを保護する必要はありません。
- シナリオ次元およびバージョン次元:
 - ユーザーに、シナリオへのアクセス権を付与します。たとえば、プランおよび予測データへの表示アクセス権を付与し、実績データへのアクセスを制限します。
 - ユーザーにバージョンへのアクセス権を付与します。たとえば、最終バージョンへの表示アクセス権を割り当て、作業バージョン、仮定バージョンへの書き込みアクセス権を設定します。
 - バージョンに対する権限はシナリオに依存しないため、最終バージョンの表示アクセス権によって、すべてのシナリオの最終バージョン・データへの書き込みアクセスを防ぎます。

Project Financial Planning アプリケーションの作成および初期化

サブトピック

- [アプリケーションの作成について](#)
- [クラシック Planning アプリケーションの作成](#)
- [Performance Management Architect アプリケーションの作成](#)

アプリケーションの作成について

Project Financial Planning アプリケーションを作成および初期化すると、事前定義された次元、メンバー、フォーム、スマート・リスト、メンバー式、ビジネス・ルール、メニューおよびレポートがロードされ、他の Planning テーブルとともに、メタデータおよびデータを Planning アプリケーションにインポートするためのデフォルトのリレーショナル・テーブルも作成されます。詳細は、[付録 C「データおよびメタデータのインポート」](#)を参照してください。

Project Financial Planning アプリケーションは、次のように作成できます:

- クラシック・アプリケーション・ウィザードを使用します。[38 ページの「クラシック Planning アプリケーションの作成」](#)に関する項を参照してください。
- Oracle Hyperion EPM Architect アプリケーション・ウィザードを使用します。[38 ページの「Performance Management Architect アプリケーションの作成」](#)に関する項を参照してください。

クラシック Planning アプリケーションの作成

Planning アプリケーション管理を使用して、新しい Project Financial Planning アプリケーションを作成するには、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。Planning アプリケーション・ウィザードを使用して、Project Financial Planning アプリケーションを作成する場合、「Oracle Project Financial Planning」アプリケーション・タイプを選択します。次に、「業種サンプル」のオプションを選択します:

- 基本的な Project Financial Planning アプリケーションを作成する場合、「なし」を選択します。必要に応じて、アプリケーション・カレンダーを定義し、通貨オプションを設定し、カスタマイズ可能なプラン・タイプを設定するようにメッセージが表示されます。
- 情報技術(IT)業界固有の Project Financial Planning アプリケーションを作成する場合、「情報技術」を選択します。アプリケーション・カレンダー、通貨およびプラン・タイプを定義するように求めるメッセージは表示されません。事前定義済の設定が自動的に行われます。

IT 業界固有の Project Financial Planning サンプル・アプリケーションのセキュリティの作成とロード、およびデータのロードの詳細は、[付録 B 「サンプル・プロジェクト: 情報技術」](#) を参照してください。

新しく作成される Project Financial Planning アプリケーションは、作成時に自動的に初期化されます。追加の初期化手順は必要ありません。

英語以外の言語の Project Financial Planning アプリケーションを作成する際の考慮事項は、次のとおりです:

- データ・ソースを Unicode モードに設定する必要があります。
- Planning 表示オプションの日付フォーマットのリセットが必要になる場合があります。Oracle Hyperion Planning User's Guide の日付フォーマットの設定に関する項を参照してください。

Performance Management Architect アプリケーションの作成

Performance Management Architect を使用して、Project Financial Planning アプリケーションを作成および操作できます。

注: Performance Management Architect の Project Financial Planning アプリケーションは、リリース 11.1.2.2.300 で提供される機能のみを使用します。Performance Management Architect を介して Project Financial Planning アプリケーションを作成するユーザーは、リリース 11.1.2.3 で導入された新機能を使用できません。

Performance Management Architect の Project Financial Planning アプリケーションを作成するには、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect

Administrator's Guide の手順に従ってください。ただし、次の設定を使用してください:

- 「アプリケーション情報タイプ」で、「Planning」を選択します。
- 「アプリケーション・タイプ」で、「Project Financial Planning」を選択します。

「業種サンプル」で、次のいずれかを選択します:

- 基本的なアプリケーションを作成する場合、「なし」を選択します。必要に応じて、アプリケーション・カレンダーを定義し、通貨オプションを設定し、カスタマイズ可能なプラン・タイプを設定するようにメッセージが表示されます。Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide のカレンダーの設定に関する項を参照してください。
- 情報技術(IT)業界固有のアプリケーションを作成する場合、「情報技術」を選択します。アプリケーション・カレンダー、通貨およびプラン・タイプを定義するように求めるメッセージは表示されません。事前定義済の設定が自動的に行われます。

次元を選択する場合は、次のことに注意してください。

- シナリオ、年および期間次元はローカルである必要があります。これらは共有できません。
- 残りの次元が共有される場合は、UDA、通貨および別名次元も共有されます。

次に注意してください:

- Performance Management Architect は、カレンダーおよび会計期間定義のみをサポートします。
- Performance Management Architect アプリケーションの作成時、必須次元以外に新しい Project Financial Planning の次元を作成できます。ただし、Project Financial Planning のフォームやルールなどが機能するには、これらを変更する必要があります。
- アプリケーションの作成時に次元の名前を変更しないでください(たとえば、ジョブまたは従業員)。次元の名前を変更する場合は、影響を受けるルール、フォームおよびレポートも更新するようにしてください。これは、Planning アプリケーションを作成する場合も同様です。

Project Financial Planning へのログオンおよびアクセス

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace 環境で Project Financial Planning を設定します。デフォルトの EPM Workspace URL は、`http://web server:port/workspace/`で、ここにおいて web server は Web サーバー・コンピュータ・ホスト名であり、port は Web サーバー・リスニング・ポートです。EPM Workspace のインストールおよび構成の詳細は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide および Oracle

Hyperion Enterprise Performance Management Workspace Administrator's Guide を参照してください。

- ▶ EPM Workspace にログオンし、Planning および Project Financial Planning にアクセスするには:
 - 1 Web サーバーが開始され、Web アプリケーション・サーバーがサービス・パネルで実行中であることを確認します。
 - 2 Web ブラウザで、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace の「ログオン」・ページの URL を入力します。
 - 3 システム・ユーザー名を入力します。
 - 4 システム・パスワードを入力します。
 - 5 「ログオン」をクリックします。
 - 6 「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Planning」の順に選択し、アプリケーションを選択します。

第 II 部

プロジェクトの管理および提案

プロジェクトの管理および提案の内容：

- プロジェクトの管理
- 既存のプロジェクトの管理
- 新規プロジェクトの提案

3

プロジェクトの管理

この章の内容

情報	43
プロセス	44
「プロジェクト管理」タスク・リストのタスク	44
「プロジェクト管理」タスク・リストの表示	45
割引率および税率の設定	45
投資条件の設定	46
オンザフライでの名前付きメンバーの追加に対するプロジェクト次元の有効化	46
オンザフライでの名前付きメンバーの追加に対するバージョン次元の有効化	47
諸経費仮定の入力	48
承認ステータスの設定	50
プロジェクトのインポート	51
インポートしたプロジェクトの計算	51
プロジェクトの KPI の設定	52
内部取引	54
ベース予測データの準備	57

情報

プロジェクト管理では、プロジェクト管理者のデフォルトとプランニング前の設定が指定されます。管理者は、トランザクション・システムからのメタデータとデータのロード、ロードの確認、および計算を行って、プランナと確認者がプランニング・アクティビティの実行時に使用できるようデータを準備する必要があります。

プロジェクト管理タスク・リストは、すべての関連データが収集および計算されていることを確認するためのタスクおよび手順を一覧表示することにより、プロジェクト管理プロセスを通して管理者をガイドします。

注： ベスト・プラクティスとして、管理者、エンティティ所有者、および財務部門長がプロジェクト管理タスク・リストへのアクセス権があることを確認します。

プロセス

プロジェクト管理プロセスによって、管理者は、プロジェクトのプランニングおよび予測に使用する、必須の仮定および情報を設定できます。管理者は、トランザクション・システムから設定情報をインポートすることも、設定情報を手動で追加することもできます。設定情報は、新しく作成されたプロジェクトのプランニングや、既存のプロジェクトの予測の際に、デフォルトとして使用されます。ここで指定される仮定はエンティティ・レベルで入力され、エンティティにプロジェクトが作成されると、プランニングの開始時に開始点として、これらの仮定が使用されます。

仮定:

- 割引プロセス
- 割引係数
- プロジェクト・レベルの事前定義済の負債上限
- 平均借入費用
- エンティティに適用可能な税金
- エンティティの間接、一般および管理支出をプロジェクトに配分するための事前定義済のルール
- すべての会社間プロジェクトおよびエンティティの設定要件
- プロジェクト周辺の KPI に定義される限度
- 予測、間接支出、およびプロジェクト・キューブのロールアップのための、一括レベルでのデータ処理のルール

「プロジェクト管理」タスク・リストのタスク

1. 割引率および税率の仮定の値を入力します。
45 ページの「割引率および税率の設定」を参照してください。
2. 加重の定義および条件の確認など、投資条件を設定します。
46 ページの「投資条件の設定」を参照してください。
3. 間接費と一般および管理費用の仮定など、諸経費仮定を入力します。
48 ページの「諸経費仮定の入力」を参照してください。
4. 労務、資産および資金調達の実要求の承認ステータスを設定します。
50 ページの「承認ステータスの設定」を参照してください。
5. プロジェクトをインポートし、アプリケーションをリフレッシュします。
51 ページの「プロジェクトのインポート」を参照してください。
6. インポートされたプロジェクトを計算します。
51 ページの「インポートしたプロジェクトの計算」を参照してください。
7. プロジェクトの KPI を設定します。


- 52 ページの「プロジェクトの KPI の設定」を参照してください。
- プロジェクトの会社間パートナを追加し、会社間調整を確認します。
54 ページの「内部取引」を参照してください。
 - ベース予測データを準備します。
57 ページの「ベース予測データの準備」を参照してください。

「プロジェクト管理」タスク・リストの表示

▶ 「プロジェクト管理」タスク・リストを表示するには:

- 1 **Project Financial Planning** を起動します。

39 ページの「Project Financial Planning へのログオンおよびアクセス」を参照してください。

- 2 「表示」、「タスク・リスト」、「タスク・リスト」の順に選択します。
- 3 「プロジェクト管理」を展開します。
- 4 タスク・リストからタスクを起動するには、タスクの右側にある「タスク・リスト・ウィザードの起動」をクリックします。

割引率および税率の設定

割引率方式が定義され、方式に基づいて効果的な割引率を決定するために必要な情報が示されます。また、エンティティの税率の詳細、および、エンティティ・レベルの負債比率や借入費用などのその他の重要な係数も示されます。負債比率を入力すると、プロジェクトで許可される負債の限度を定義するのに使用でき、借入費用は、平均負債コストを示す際に役立ちます。これらの制限によって、ユーザーが、提案されたプロジェクトを計画できます。これらの比率は、プロジェクト・レベルで定義されない場合、Project Financial Planning で作成されたすべての新規プロジェクトのデフォルトになります。入力した詳細は、プロジェクトに対して後で上書きできます。

有効な割引率は、次の勘定科目に影響します:

- 割引係数
- キャッシュ・フローの現在価値(PV)
- 正味現在価値(NPV)

有効な割引率の計算方法の詳細は、52 ページの「正味現在価値(NPV)」の NPV についての説明を参照してください。

▶ エンティティの割引率および税率の詳細を入力するには:

- 1 「プロジェクト管理」タスク・リストの下で、「割引率および税率の設定」を起動します。

45 ページの「プロジェクト管理」タスク・リストの表示」を参照してください。

2 「9.0 グローバル割引率および税率の仮定」フォームに入力します。

フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

投資条件の設定

管理者は、与えている加重によってプロジェクトをスコアリングするために、詳細な財務係数と戦略係数について投資条件を定義します。

企業の戦略計画および目的を考慮して、プロジェクトをスコアリングするためのこれらの加重は、組織レベルで定義されます。これは、企業レベルで定義されたパラメータに基づいて、プロジェクトのパフォーマンスに影響を与える係数を決定するのに役立ちます。

プロジェクトのスコアリングの詳細は、206 ページの「プロジェクト・スコアの比較」を参照してください。

▶ 投資条件を設定するには:

1 「プロジェクト管理」タスク・リストの下で、「投資条件の設定」を起動します。

45 ページの「プロジェクト管理」タスク・リストの表示」を参照してください。

2 「投資条件の設定」複合フォームに入力します。

フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

オンザフライでの名前付きメンバーの追加に対するプロジェクト次元の有効化

このタスクを実行すると、アプリケーション内で意味のあるメンバー名を指定できます。名前付きのメンバーをオンザフライで追加すると、キューブのリフレッシュを実行せずにいくつでもメンバーを追加できます。これは、オンザフライで新しく追加されたメンバーのセキュリティの設定にも役立ちます。メンバーが追加したユーザーのみが、メンバーに対するフル・アクセス権を付与され、他のユーザーは明示的に割り当てられないかぎり、アクセス権は付与されません。

▶ プロジェクト次元のメンバーをオンザフライで設定するには:

1 「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Planning」の順に選択し、アプリケーションを選択します。


2 左側のペインで、「次元」リストを展開します。

3 「次元」タブで、次元ドロップダウンに移動し、「プロジェクト」を選択します。

4 リストを展開して「プロジェクト合計」>「すべてのプロジェクト」>「新規プロジェクト」に移動し、次のいずれかを選択します:

- 新規契約プロジェクト

- 新規資本プロジェクト
- 新規間接プロジェクト

5 ツール・リストから  をクリックします。

- 「動的な子に対して使用可能」は、デフォルトで有効です。

注： Project Financial Planning 機能を有効にするには、この設定を変更しないでください。

- 「動的な子の数」では、デフォルトの値は 100 です。これは、100 個の新しいプロジェクトを追加できることを示します。

注： 正しい前提条件の詳細を指定していることを確認してください。必要に応じて、「保存」をクリックする前に設定を変更できます。

- 「メンバー作成者にアクセス権が付与されました」では、デフォルトで「書込み」が選択されます。


注： Project Financial Planning 機能を有効にするには、この設定を変更しないでください。

6 「保存」をクリックします。

オンザフライでの名前付きメンバーの追加に対するバージョン次元の有効化

このタスクを実行すると、アプリケーション内で意味のあるメンバー名を指定できます。名前付きのメンバーをオンザフライで追加すると、キューブのリフレッシュを実行せずにいくつでもメンバーを追加できます。これは、オンザフライで新しく追加されたメンバーのセキュリティの設定にも役立ちます。メンバーが追加したユーザーのみが、メンバーに対するフル・アクセス権を付与され、他のユーザーは明示的に割り当てられないかぎり、アクセス権は付与されません。

▶ バージョン次元のメンバーをオンザフライで設定するには:

- 1 「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Planning」の順に選択し、アプリケーションを選択します。
- 2 左側のペインで、「次元」リストを展開します
- 3 「次元」タブで次元ドロップダウンに移動し、「バージョン」を選択します。
- 4 リストを展開し、「バージョン」 > 「仮定(What-if)」に移動します。
- 5 ツール・リストから  をクリックします。
 - 「動的な子に対して使用可能」は、デフォルトで有効です。

注： Project Financial Planning 機能を有効にするには、この設定を変更しないでください。

- 「動的な子の数」では、デフォルトの値は100です。これは、100個の新しいプロジェクトを追加できることを示します。

注： 正しい前提条件の詳細を指定していることを確認してください。必要に応じて、「保存」をクリックする前に設定を変更できます。

- 「メンバー作成者にアクセス権が付与されました」では、デフォルトで「書込み」が選択されます。

注： Project Financial Planning 機能を有効にするには、この設定を変更しないでください。

6 「保存」をクリックします。

諸経費仮定の入力

諸経費は、ジョブの実行や継続して事業が機能するために必要ですが、明確にプロジェクトによるものとするできない支出です。

諸経費は、次のカテゴリに分けられます：

- 間接費
- 一般および管理費用

間接費は、ジョブには必要ですが、契約に割り当てることは困難です。プロジェクトへの費用は、間接費率(ICR)に基づいて割り当てられ、ICRは、異なる費用のタイプに設定できます。プロジェクト管理者は、間接費プールと各諸経費ライン・アイテムの配賦基準を設定してから、ICRを指定します。

Project Financial Planning には、次の間接費プールのカテゴリがあります：

- 「労務諸経費」
- 「オンサイト労務諸経費」
- 「オフサイト労務諸経費」
- 「エンジニアリング諸経費」
- 「製造諸経費」
- 「材料諸経費」
- 「情報システム諸経費」
- 「トレーニング諸経費」
- 「付帯諸経費」
- 「共通諸経費プール」
- 「設備配賦」

Project Financial Planning には、間接費仮定と一般および管理費用仮定の、次の配賦基準オプションがあります：

- 「合計直接労務費」
- 「合計直接労務時間」

- 「合計直接材料費」
- 「合計工数」
- 「直接費合計」
- 「合計面積」
- 「合計機械時間」
- 「付加価値費用入力」
- 「合計オンサイト労務費」
- 「合計オフサイト労務費」
- 「合計オンサイト労務時間」
- 「合計オフサイト労務時間」

一般および管理費用は、企業全体に関連しています。これらのコストは事業の経営に必要ですが、広告、会費やサブスクリプション、企業の役員に対する労務、法的コストなど、特定のジョブやプロジェクトに割り当てられません。一般および管理費用は、一般および管理費用レート(GACR)および配賦基準に基づいてプロジェクトに割り当てられています。

Project Financial Planning では、1つのプロジェクトの一般および管理費用プールのカテゴリを提供します:「企業の一般および管理」

▶ エンティティの諸経費仮定を入力するには:

- 1 「プロジェクト管理」タスク・リストの下で、「諸経費仮定の入力」を起動します。

45 ページの「プロジェクト管理」タスク・リストの表示」を参照してください。

- 2 「諸経費仮定の入力」複合フォームを完了します。

フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

Project Financial Planning には、間接費と一般および管理の仮定を入力するための複数のライン・アイテムがありますが、該当しない場合は、それらのすべてを使用する必要はありません。必要に応じて、さらにライン・アイテムを追加できます。費用プールを追加するには、スマート・リストにプールを追加します。配賦基準を追加するには、スマート・リストを更新し、諸経費の計算に新規促進要因を組み込みます。

- 3 「間接費仮定の入力」フォームから、ショートカット・メニューを使用して、間接費を計算します。

50 ページの「間接費の計算」を参照してください。

- 4 「一般および管理費用仮定の入力」フォームから、ショートカット・メニューを使用して、すべてのプロジェクトの一般および管理費用を計算します。

50 ページの「一般および管理費用の計算」を参照してください。

注: 「諸経費の計算」ルールでは、すべての諸経費が計算されます。第4章「既存のプロジェクトの管理」の70ページの「諸経費の計算」を参照してください。

注： 仮定が変更された場合、またはデータがアプリケーションに入力またはロードされた後に、計算を実行する必要があります。

間接費の計算

このルールは、入力した事前定義済みのルールや仮定に基づいて、エンティティのすべてのプロジェクトの間接支出を計算します。計算はデータを含むプロジェクトにのみ影響します。プロジェクトのバッチ・ルールとして定期的にこのルールを実行するか、トランザクション・システムからプロジェクトに情報をロードした後でこのルールを実行します。

▶ 間接費を計算するには:

- 1 「諸経費仮定の入力」複合フォームを開きます。
48 ページの「諸経費仮定の入力」を参照してください。
- 2 「間接費仮定の入力」フォームに入力します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。
- 3 フォームを右クリックし、「間接費の計算」を選択します。

一般および管理費用の計算

このルールは、入力した事前定義済みのルールや仮定に基づいて、エンティティのすべてのプロジェクトの一般および管理支出を計算します。仮定レートが変更された場合、計算は、エンティティのすべてのプロジェクトに影響します。計算はデータを含むプロジェクトにのみ影響します。プロジェクトのバッチ・ルールとして定期的にこのルールを実行するか、トランザクション・システムからプロジェクトに情報をロードした後でこのルールを実行します。

▶ 一般および管理費用を計算するには:

- 1 「諸経費仮定の入力」複合フォームを開きます。
48 ページの「諸経費仮定の入力」を参照してください。
- 2 「一般および管理費用仮定の入力」フォームに入力します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。
- 3 フォームを右クリックし、「一般および管理の計算」を選択します。

承認ステータスの設定

このタスクでは、リソース、資産または財務マネージャの承認を最初に得ることなく、プロジェクトを直接承認できるかどうかを設定できます。自動承認が「はい」に設定されている場合、リソース、資産または財務マネージャの承認なしで、プロジェクトを承認できます。自動承認が「いいえ」に設定されている場合、プロジェクトを承認する前に、リソース、資産または資金調達承認が必要があります。

▶ 承認ステータスを設定するには:

1 「プロジェクト管理」タスク・リストの下で、「承認設定」を起動します。

45 ページの「[「プロジェクト管理」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

2 「承認設定」フォームで、次のライン・アイテムの承認設定を選択します:

- 「自動承認 - 労務要請」
- 「自動承認 - 資産要請」
- 「自動承認 - 資金要求」

プロジェクトのインポート

管理者は、トランザクション・システムからアプリケーションのメタデータおよびデータを定期的に更新できます。メタデータの更新後、データの更新前に、アプリケーションでデータベースのリフレッシュを実行する必要があります。Project Financial Planning では、データおよびメタデータをアプリケーションにインポートするために使用できる、インポート・ユーティリティおよびサンプル・テンプレート・ファイルが提供されます。提供されるインポート・ユーティリティおよびサンプル・テンプレート・ファイルの詳細は、34 ページの「[メタデータとデータのロード](#)」を参照してください。

インポートしたプロジェクトの計算

実績データのインポート後、このタスクを実行します。CalculateImportedProjects ビジネス・ルールでは、選択したプロジェクトについて、プロジェクトの支出、収益、メトリック、スコア、財務諸表、および EVM メジャーが計算されます。データは「プロジェクト合計」に集約されます。

▶ インポートされたプロジェクトを計算するには:

1 「プロジェクト管理」タスク・リストの下で、「インポートされたプロジェクトの計算」を起動します。

45 ページの「[「プロジェクト管理」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

2 CalculateImportedProjects ビジネス・ルールを「起動」します。

実行時プロンプト要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

3 「起動」をクリックします。

注: ランタイム・プロンプト値ファイルの作成に関する情報を使用できるように、CalcMgrCmdLineLauncher.cmd ユーティリティを使用して、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。

プロジェクトの KPI の設定

管理者はプロジェクトの KPI 上限と下限を定義します。Project Financial Planning では、財務および戦略の KPI のセットが提供されますが、要件に基づいて KPI を追加できます。KPI を追加した場合、対応する検証ルールが追加されていることを確認してください。

Project Financial Planning では、次のキー・パフォーマンス・インディケータを示します:

- 「NPV」
- 「ROI」
- 「回収期間(年)」
- 「福利厚生費用比率」
- 「生涯のための投資」

▶ プロジェクトの KPI を設定するには:

- 1 「プロジェクト管理」タスク・リストの下で、「プロジェクトの KPI の設定」を起動します。

45 ページの「[「プロジェクト管理」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

- 2 「1.0 KPI の設定」フォームに入力します。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

プロジェクト・キャッシュ・フロー、有効な割引率、および割引係数などの正味現在価値(NPV)の説明は、[52 ページの「正味現在価値\(NPV\)」](#)を参照してください。

正味現在価値(NPV)

正味現在価値(NPV)は、投資やプロジェクトがどの程度の値を組織に追加するかを示すインディケータです。これは、現在の値に割り引かれた、年間のすべての正味キャッシュ・フローの合計として計算されます。NPV は、インフレおよび利益を考慮して、現在のドルの価値と将来のその同じドルの価値を比較します。予想されるプロジェクトの NPV が正数の場合、プロジェクトは受け入れられます。ただし、NPV が負数の場合、キャッシュ・フローも負数になるため、プロジェクトは拒否される可能性があります。

各月のキャッシュ・インフロー/キャッシュ・アウトフローが割り引かれ、キャッシュ・フローの現在価値(PV)が計算されます。NPV はすべての月のキャッシュ・フローの PV 合計です:

$$\frac{R_t}{(1+i)^t}$$

t は、キャッシュ・フローの時間です。 i は、割引率(金融市場での投資によって得られる利益の比率で、同様にリスクも伴う)です。 R_t は、時間 t における正味キャッシュ・フロー(インフローからアウトフローを差し引いたキャッシュの合計)です。

Project Financial Planning のコンテキスト内では、次のようになります(斜体のメンバーは、実際の Project Financial Planning の勘定科目メンバーです):

$R_t = t$ で示される年間のプロジェクト・キャッシュ・フロー

I = 有効な割引率

$(1+i)^t$ = 割引係数

$R_t / (1+i)^t$ = キャッシュ・フローの PV (キャッシュ・フローの現在価値)

t = プロジェクト開始年から現在の年のオフセット

NPV の計算は、前述の勘定科目メンバーの変更の影響を受けます。これらのメンバーの変更が NPV にどのように影響を与えるかの詳細な説明は、次の各項に示しています。

プロジェクト・キャッシュ・フロー

プロジェクト・キャッシュ・フローは、その年のプロジェクトに関連付けられた正味キャッシュ・フローです。計算:

プロジェクト・キャッシュ・フロー = 現金のソース - 現金の流出

Project Financial Planning には、勘定科目またはプロジェクトのキャッシュ・フロー発生を示す方法があります。キャッシュ・フロー発生はキャッシュ・フローに影響を与えます。Project Financial Planning では、キャッシュ・フローに対する勘定科目の影響について、様々な選択肢がありますが、一部には、キャッシュ・フローについて一般的な営業経費を仮定する必要があります。たとえば、給与支出などは、給与が支払われる月のキャッシュ・アウトフローとして仮定します。

ただし、NPV の計算では、プロジェクト・キャッシュ・フローを割り引いて、キャッシュ・フローの現在価値を取得する必要があります。

注: プロジェクトの収益/支出またはプロジェクトの税率(あるいはその両方)の変更は、NPV の値に影響します。

有効な割引率

有効な割引率の計算方法:

- 直接 - 割引率が有効な割引率になります。割引率の値を指定します。
- CAPM - 有効な割引率は、次の式を使用して計算されます:
有効な割引率 = ((無リスクの収益 + (ベータ * 市場リスク割増額)) * (1 - 負債比率)) + (借入費用 * (1 - 税率) * 負債比率)

注: 有効な割引率の変更は、NPV の値に影響します。

割引係数

割引係数は、すべての将来のキャッシュ・フローの値を現在の値に割り引くのに使用されます。

内部取引

サブトピック

- 会社間パートナーシップについて
- 会社間プロジェクトを管理するためのプロセス
- 会社間パートナーの関係の確立
- 会社間調整の確認
- 内部取引の制限

会社間パートナーシップについて

会社間パートナーシップは、作業の範囲が、プロジェクトを完了するために、プロジェクトで動作するエンティティを複数必要とする場合に発生します。会社間パートナーシップは、プロジェクト作業を割り当て、プロジェクト全体の実行に責任を持つ所有エンティティ、および、所有エンティティが指定したタイムライン内でプロジェクト作業を完了するサービス・プロバイダ・エンティティで構成されます。サービス・プロバイダ・エンティティは、所有エンティティに、値上げがある場合もない場合もプロジェクトで発生した支出を請求します。これらの支出に対する払戻しは、サービス・プロバイダへの会社間収益とみなされ、所有エンティティの会社間支出となります。企業レベルでは、これらの会社間費用は消去されます。

「Project Financial Planning」では、契約プロジェクト、資本プロジェクト、および間接プロジェクトのすべてのタイプの会社間パートナーシップをサポートしています。

会社間プロジェクトを管理するためのプロセス

会社間パートナーの関係を設定できるのは管理者のみです。プロジェクト・マネージャは、管理者に、会社間パートナーをプロジェクトに追加すること、およびサービス・プロバイダであるエンティティを指定することを要求する必要があります。設定後に、サービス・プロバイダは、支出をプランしてから、所有エンティティからの払戻し条件を定義します。サービス・プロバイダが払戻し条件を定義すると、会社間収益を計算できます。プロジェクト所有者の会社間支出は自動的に計算され、会社合計レベルでは、会社間収益および経費が消去されます。アプリケーションで提供されるフォームを使用して、会社間消去を検証できます。

会社間パートナーの関係の確立

サブトピック

- [会社間パートナーの追加](#)
- [会社間パートナーの削除](#)

会社間パートナーの追加

管理者は、サービス・プロバイダとして、会社間パートナーをプロジェクトの所有エンティティに追加できます。会社間パートナーを追加する前に、プロジェクトのフォームに所有エンティティのプロジェクトを作成します。

▶ 会社間パートナーをプロジェクトに追加するには:

1 「プロジェクト管理」タスク・リストに移動します。

[45 ページの「プロジェクト管理」タスク・リストの表示](#)を参照してください。

2 「内部取引」を展開します。

3 「会社間パートナーの追加」を起動します。

4 「1.8 会社間管理」フォームを確認します。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

5 フォームを右クリックし、「会社間パートナーの追加」を選択します。

6 「会社間パートナーの追加」で、会社間パートナーとして追加するサービス・プロバイダ・エンティティを入力します。

注： パートナ・エンティティは、所有者エンティティと同じにすることも、所有者エンティティの子にすることもできません。

- 「説明」
- 「プロジェクト開始日」 / 「プロジェクト終了日」 - 管理者はパートナー・プロジェクトの開始日と終了日を変更できます。日付が指定されていない場合、パートナー・プロジェクトに所有プロジェクトの開始日と終了日が使用されます。
- 「会社間支出を資産計上しますか?」 - 会社間支出を所有エンティティに資産計上するかどうかを示します。「いいえ」(デフォルト)または「はい」を選択します。

7 「追加」をクリックします。

プロジェクト所有者が「プロジェクト・サービス・プロバイダ」に設定された「1.8 会社間管理」フォームに、パートナー・エンティティが追加されます。

会社間パートナーの削除

管理者は、会社間パートナーをプロジェクトから削除できます。パートナーを削除するために使用するルールでは、プロジェクトのパートナー・エンティティからすべてのデータを削除します。

▶ 会社間パートナーをプロジェクトから削除するには:

1 「プロジェクト管理」タスク・リストに移動します。

45 ページの「[「プロジェクト管理」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

2 「内部取引」を展開します。

3 「会社間パートナーの追加」を起動します。

4 「1.8 会社間管理」フォームを確認します。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

5 フォームを右クリックし、「会社間パートナーの削除」を選択します。

6 会社間パートナーとして削除するエンティティを入力します。

7 「削除」をクリックします。

「1.8 会社間管理」フォームからパートナー・エンティティが削除されます。

会社間調整の確認

管理者は、プロジェクトの所有エンティティとサービス・プロバイダ・エンティティとの間の年レベルの会社間調整を確認できます。

▶ 会社間調整を確認するには:

1 「プロジェクト管理」タスク・リストに移動します。

45 ページの「[「プロジェクト管理」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

2 「内部取引」を展開します。

3 「会社間調整の確認」を起動します。

4 「"1.8 会社間調整"」フォームを確認します。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

内部取引の制限

- 会社間パートナーは、所有エンティティの基本通貨でのみ予算が許可されます。パートナーのエンティティと所有エンティティ間の為替は、このリリースではサポートされません。
- 会社間のプロジェクトの場合、プロジェクト分類およびプロジェクト・タイプは(所有エンティティ・レベルの分類およびタイプに関係なく)常に、それぞれ「内部契約」および「原価加算」となります。

ベース予測データの準備

Project Financial Planning では、実績データおよびプラン・データを特定の予測バージョンにコピーすることにより、ベース予測データの準備を支援します。保留中の作業やリソース可用性など、その他の係数を考慮することにより、この自動処理で準備されるベース予測データを微調整できます。シナリオの開始期間と終了期間または開始年と終了年を設定することにより、実績データを読取り専用を設定できます。予測は、プロジェクトの上位レベルまたは詳細な割当てレベルで発生します。

前提条件

- 承認された既存のプロジェクトのプランは、予測/最終で使用可能である必要があります。予測/最終は、Project Financial Planning を使用して開始/承認されたプロジェクトの場合、自動的に移入されます。それ以外の場合は、承認されたプランを予測(シナリオ)/最終(バージョン)にインポートする必要があります。予測/最終プロパティのすべてのプロジェクトが使用可能である必要があります。ただし、リソース(労務、装置、材料)割当て詳細はオプションです。支出/収益プランを割当て詳細ではなく、勘定科目レベルでインポートできません。
- 既存のプロジェクトの実績を実績/最終にインポートする必要があります。実績には、次のプロジェクト・プロパティが含まれている必要があります。
 - プロジェクト開始日
 - プロジェクト分類
 - プロジェクト・ステータス
 - プロジェクト所有者
 - 収益認識
 - 収益キャッシュ・フロー発生
 - プロジェクト・マネージャ
 - プロジェクト顧客名
 - プロジェクト・タイプ
 - 収益(Y/N)

これらのプロパティの一部は予測/最終で使用可能ですが、実績シナリオの値と異なる場合があります。リソース(労務、装置、材料)割当て詳細/月間労務時間などはオプションです。リソース割当て詳細がインポートされている場合、割当て終了日はオプションです(リソースがプロジェクトの割当てを実際に完了するまで使用できません)。支出/収益実績を割当て詳細ではなく、勘定科目レベルでインポートできます。

- 各インポート後に集約を実行する必要があります。

割当て詳細付きで予測データを準備

このタスクでは、プロジェクトの支出と収益を詳細なリソース・レベルで予測するためのデータを準備するのに役立つ、PrepareDetailForecastBaseData ビジネス・ルールを起動します。

このビジネス・ルールを起動すると、次のアクションが実行されます:

- 「前の FCST」 予測バージョンにある既存のデータを削除します。
- 「最終」 予測バージョンからデータをコピーし、それを「前の FCST」 予測バージョンに移動します。
- 指定された期間について、詳細データ(従業員、資産および材料の割当てなど)を「最終」実績バージョンから FORECAST VERSION 予測バージョンにコピーします。
- 予算サイクルの残りについて、割当て詳細付きデータを「最終」プラン・バージョンから FORECAST VERSION 予測バージョンにコピーします実際にコピーされたデータは、影響は受けません。
- グローバル仮定を PLAN VERSION プラン・バージョンから FORECAST VERSION 予測バージョンにコピーします

▶ 割当て詳細付きでベース予測データを準備するには:

- 1 「プロジェクト管理」タスク・リストに移動します。
45 ページの「[「プロジェクト管理」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。
- 2 「ベース予測データの準備」を展開します。
- 3 「割当て詳細付きで予測データを準備」を起動します。
- 4 PrepareDetailForecastBaseData ビジネス・ルールを「起動」します。
- 5 「PrepareDetailForecastBaseData」では、すべての要素の値が選択されていることを確認します。
実行時プロンプト要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。
- 6 「起動」をクリックします。

割当て詳細なしで予測データを準備

このタスクでは、プロジェクトの支出と収益を上位レベルで予測するためのデータを準備するのに役立つ、PrepareHighLevelForecastBaseData ビジネス・ルールを起動します。割当て詳細はコピーされません。

このビジネス・ルールを起動すると、次のアクションが開始されます:

- 「前の FCST」 予測バージョンにあるデータを削除します
- 「最終」 予測バージョンからデータをコピーし、それを「前の FCST」 予測バージョンに移動します。
- 上位レベルのデータを「最終」実績バージョンから FORECAST VERSION 予測バージョンにコピーします

- 予算サイクルの残りについて、上位レベルのデータを「最終」プラン・バージョンから FORECAST VERSION 予測バージョンにコピーします実際にコピーされたデータは、影響は受けません。
- グローバル仮定を PLAN VERSION プラン・バージョンから FORECAST VERSION 予測バージョンにコピーします

▶ 割当て詳細なしでベース予測データを準備するには:

- 1 「プロジェクト管理」タスク・リストに移動します。

45 ページの「[プロジェクト管理](#)」タスク・リストの表示」を参照してください。

- 2 「ベース予測データの準備」を展開します。

- 3 「割当て詳細なしで予測データを準備」を起動します。

- 4 PrepareHighLevelForecastBaseData ビジネス・ルールを「起動」します。

- 5 「PrepareHighLevelForecastBaseData」では、すべての要素の値が選択されていることを確認します。

実行時プロンプト要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

- 6 「起動」をクリックします。

予測データの消去

このタスクでは、選択した「予測バージョン」からデータを削除する ClearForecastData ビジネス・ルールを起動します。

▶ 予測データを消去するには:

- 1 「プロジェクト管理」タスク・リストに移動します。

45 ページの「[プロジェクト管理](#)」タスク・リストの表示」を参照してください。

- 2 「ベース予測データの準備」を展開します。

- 3 「予測データの消去」を起動します。

- 4 ClearForecastData ビジネス・ルールを「起動」します。

- 5 「ClearForecastData」では、すべての要素の値が選択されていることを確認します。

実行時プロンプト要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

- 6 「起動」をクリックします。

4

既存のプロジェクトの管理

この章の内容

プロジェクトの管理について	61
既存のプロジェクトを管理するためのプロセス	61
「既存のプロジェクトの管理」タスク・リストのタスク	62
「既存のプロジェクトの管理」タスク・リストの表示	62
プロジェクトのパフォーマンスの確認	62
既存のプロジェクトの確認	63
「プロセスの更新」タスクの実行	66
プロジェクトの確認	97
プロジェクト資金調達の確認	101
承認のためのプランの送信	104

プロジェクトの管理について

Project Financial Planning では、支出、スケジュール、パフォーマンスの実績と予算が比較され、プロジェクトの遅延を予測するツールが提供されます。これにより、マネージャは労務、装置、材料および収益のベースになる仮定を変更し、プロジェクトの財務見通しを再計算できます。

既存のプロジェクトを管理するためのプロセス


プロジェクト管理アクティビティを実行する前に、プロジェクトと実績データを各種ソース・システムからモデルにロードする必要があります。プロジェクトをロードした後、プロジェクト・マネージャはプロジェクトのパフォーマンスの概要を使用して、主要なプロジェクト促進要因に関してプロジェクトのパフォーマンスを確認できます。概要には、財務的な観点からのプロジェクトのパフォーマンスのスナップショットが表示されます。また、プロジェクト・マネージャには、対処が必要なプロジェクトに関する問題のクイック・ビューも用意されています。これにより、プロジェクト・マネージャはリソースの再編成、装置の変更、支出の再予測、資金の要求など、プロジェクトの主要な要素の仮定を更新できます。

資本プロジェクト、契約プロジェクト、間接プロジェクトを管理するプロセスはほぼ同じです。重要な違いは、資本プロジェクトの資産価値が CIP (工事中)資産リストにリストされるという点です。このため、資産マネージャはこれらの資産の詳細を指定し、他のプロジェクトの標準資産として使用できます。

「既存のプロジェクトの管理」タスク・リストのタスク

1. プロジェクトのパフォーマンスを確認します。
62 ページの「プロジェクトのパフォーマンスの確認」を参照してください。
2. 既存のプロジェクトを確認します。
63 ページの「既存のプロジェクトの確認」を参照してください。
3. プロジェクト支出(および契約プロジェクトの場合はプロジェクト収益)など、プロセスを更新します。
66 ページの「プロセスの更新」タスクの実行」を参照してください。
4. プロジェクトの財務諸表および KPI など、プロジェクトを確認します。
97 ページの「プロジェクトの確認」を参照してください。
5. 資金調達要求の変更および配賦済資金の確認など、プロジェクトの資金調達を確認します。
101 ページの「プロジェクト資金調達の確認」を参照してください。
6. 承認のためにプランを送信します。
104 ページの「承認のためのプランの送信」を参照してください。

「既存のプロジェクトの管理」タスク・リストの表示

- ▶ プロジェクト管理タスク・リストを表示するには:
- 1 **Project Financial Planning** を起動します。
39 ページの「Project Financial Planning へのログオンおよびアクセス」を参照してください。
 - 2 「表示」、「タスク・リスト」、「タスク・リスト」の順に選択します。
 - 3 「既存のプロジェクトの管理」を展開します。
 - 4 タスク・リストからタスクを起動するには、タスクの右にある「タスク・リスト・ウィザードの起動」をクリックします。

プロジェクトのパフォーマンスの確認

プロジェクト概要では、キー・メジャーに応じてプロジェクトのパフォーマンスの高度なスナップショットが示されます。これらのメジャーには、プロジェクト差異分析、財務実績、EVM パフォーマンス・メジャーおよびパフォーマンス・トレンドが含まれます。この概要を利用して、プロジェクト・マネージャは、プロジェクトがうまくいっている箇所と遅れている箇所を把握できます。プロジェクト概要は対話形式のフォームであり、プロジェクト・マネージャは詳細を掘り下げて、注意が必要な領域や予測を更新すべき箇所を確認できます。

▶ プロジェクトのパフォーマンスを確認するには:

- 1 「既存のプロジェクトの管理」タスク・リストの下で、「プロジェクトのパフォーマンスの確認」を起動します。

62 ページの「[「既存のプロジェクトの管理」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

- 2 「プロジェクト概要」を確認します。

このフォームには、プロジェクトの主要なパフォーマンス領域の大きな概要が表示されます。フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

既存のプロジェクトの確認

このタスクでは、プロジェクトの財務および財務以外の詳細を確認できます。プロジェクト・マネージャは、勘定科目レベルでプロジェクトの差異を確認して、プロジェクトの財務見通しを確認できます。

▶ 既存のプロジェクトを確認するには:

- 1 「既存のプロジェクトの管理」タスク・リストの下で、「既存のプロジェクトの確認」を起動します。

62 ページの「[「既存のプロジェクトの管理」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

- 2 「既存のプロジェクトの確認」複合フォームを確認します。

フォームの上部を使用すると、既存のプロジェクト詳細を確認できます。フォームの下部には、次の財務上の影響情報が表示されます:

- 「プロジェクト差異の確認」
- 「EVM メジャーの確認」
- 「損益計算書への影響」
- 「キャッシュフローへの影響」
- 「存続期間 KPI」
- 「資金要求」
- 「追加の詳細」

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

- 3 フォームの上部から、ショートカット・メニューを使用して、プロジェクト・ステータスの変更、プロジェクトの移動、支出プランニングの実行、資金調達の実行、および承認のためのプランの送信を行います。

注： ショートカット・メニューを使用して別のフォームを表示するか、またはルールを起動してプロジェクトの計算を実行します。「支出プランニング」および「収益プランニング」セクションからはサポート・フォームに移動して、仮定を更新したり、ルールを実行してプロジェクトの収益や支出を再計算できます。

支出プランニングの詳細は、66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。収益プランニングの詳細は、85 ページの「プロジェクト収益の確認(契約プロジェクトのみ)」を参照してください。

- 64 ページの「プロジェクト終了日の変更」を参照してください
 - 65 ページの「プロジェクト・ステータスの変更」を参照してください。
 - 65 ページの「プロジェクトの移動」を参照してください。
- 4 フォームの下部からショートカット・メニューを使用して、次のタスクを実行します:
- 「EVM メジャーの確認」タブから、EVM メジャーを計算します。205 ページの「EVM メジャーの計算」を参照してください。
 - 「損益計算書への影響」および「キャッシュフローへの影響」タブから、プロジェクトを計算します。51 ページの「インポートしたプロジェクトの計算」を参照してください。
 - 「存続期間 KPI」タブから、企業目標を確認し、プロジェクト・メトリックを計算します。100 ページの「企業目標の確認」および100 ページの「プロジェクト・メトリックの計算」を参照してください。
 - 「資金要求」タブから、資金要求を追加するか取り消します。102 ページの「新規資金要求の追加」および103 ページの「資金要求の取消し」を参照してください。

プロジェクト終了日の変更

このオプションを使用すると、プロジェクト終了日を 1 か月または複数月ずつ前後にシフトできます。

▶ プロジェクト終了日を変更するには:

- 1 「既存のプロジェクトの確認」複合フォームを開きます。
63 ページの「既存のプロジェクトの確認」を参照してください。
- 2 フォーム上のプロジェクトを右クリックして、「プロジェクト終了日の変更」を選択します。
- 3 次の詳細を「実行時プロンプト」ダイアログ・ボックスに入力します: 「提案されたプロジェクトの終了日」で、カレンダー・アイコンを使用して日付を選択できます。
- 4 「OK」をクリックします。

プロジェクト・ステータスの変更

このタスクでは、選択したプロジェクトのステータスを「アクティブ」、「保留」または「閉じました」に変更できます。

注： このタスクを実行できるのは、プロジェクトを保留にできる権限または閉じる権限を持つユーザーのみです。

▶ プロジェクト・ステータスを変更するには:

1 「既存のプロジェクトの確認」複合フォームを開きます。

63 ページの「既存のプロジェクトの確認」を参照してください。

2 「.02 既存のプロジェクト詳細」フォームを右クリックして、「プロジェクト・ステータスの変更」を選択し、次のいずれかのサブメニュー・オプションを選択します:

- 「プロジェクトのアクティブ化」 - プロジェクトをアクティブにする場合
- 「プロジェクトの承認」 - 承認できるよう、プロジェクトのステータスを「未承認」から「アクティブ」に設定し、プロジェクト・データを現在のシナリオおよびバージョンから「予測」および「最終」にコピーする場合。
- 「プロジェクトを保留にする」 - プロジェクトが延期されている場合、または保留にする必要がある場合
- 「プロジェクトを閉じる」 - プロジェクトが完了した場合、またはプロジェクトを停止または取り消す場合

注： プロジェクトを保留にできる権限または閉じる権限を持つユーザーのみ、このタスクを実行できます。

3 **オプション:** ダイアログ・ボックスでプロジェクトを指定し、変更に関するコメントを入力します。

4 「OK」をクリックします。

プロジェクトの移動

このタスクでは、選択したプロジェクトをあるバージョンから他のバージョンに移すことができます(「作業中」から「最終」など)。選択したプロジェクトはソース・バージョンから削除されて、宛先バージョンに移されます。

たとえば、エンティティ・レベルの財務が「提案済」または「承認済」のプロジェクトのみを反映するように、ステータスが「保留」または「未承認」のプロジェクトを作業中バージョンから移動できます。

注： このタスクを実行できるのは、プロジェクトを移動する権限を持つユーザーのみです。

▶ プロジェクトを移動するには:

- 1 「既存のプロジェクトの確認」複合フォームを開きます。
63 ページの「既存のプロジェクトの確認」を参照してください。
- 2 「.02 既存のプロジェクト詳細」フォームを右クリックして、「プロジェクトの移動」を選択します。
- 3 「プロジェクトの移動」で、プロジェクトに適用可能な値を指定または選択します。
 - 「バージョンの入力」 - 移動元のバージョン。
 - 「プロジェクトの入力」 - プロジェクトを選択します。

注: 複数のプロジェクトを同時に移動できます。

- 「宛先バージョン」 - 移動先のバージョン。
- 4 「OK」をクリックします。

「プロセスの更新」タスクの実行

「プロセスの更新」タスク・リストを使用して、プロジェクト・マネージャはプロジェクトの支出および収益コンポーネントを管理できます。

66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。

85 ページの「プロジェクト収益の確認(契約プロジェクトのみ)」を参照してください。

プロジェクト支出の確認

サブトピック

- [プロジェクト支出仮定の確認](#)
- [プロジェクト支出の確認](#)

「プロジェクト支出」フォームを使用すると、プロジェクトの支出コンポーネントの詳細を確認できます。

▶ 既存のプロジェクトの支出を確認するには:

- 1 「既存のプロジェクトの管理」タスク・リストの下で、「プロセスの更新」を展開します。
62 ページの「「既存のプロジェクトの管理」タスク・リストの表示」を参照してください。
- 2 「プロジェクト支出」を起動します。
- 3 「プロジェクト支出」フォームから、プロジェクト支出仮定を管理し、プロジェクト支出を確認できます。
 - [67 ページの「プロジェクト支出仮定の確認」](#)を参照してください。

- 81 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。

プロジェクト支出仮定の確認

「プロジェクト支出」フォームの上部を使用して、プロジェクト支出の仮定を確認および更新できます。プロジェクト・マネージャは、労務要請、装置要請、材料およびその他要件の仮定を表示し、直接プロジェクト支出を入力できます。

- 67 ページの「労務要請の確認」を参照してください。
- 72 ページの「装置要請の確認」を参照してください。
- 76 ページの「材料およびその他要件の確認」を参照してください。
- 80 ページの「直接プロジェクト支出の入力」を参照してください。

労務要請の確認

「労務要請」タブから、プロジェクト・マネージャは労務割当てを調整できます。労務時間の増減、プロジェクトへのリソースの追加、割当て時間フレームの変更などを行うことができます。変更は、プロジェクトの改訂済労務支出合計に反映されます。

このタスクでは、ジョブとスキルセットに基づいて、プロジェクトの労務リソース要件を登録します。

▶ 既存のプロジェクトの労務要請を確認するには:

- 1 「プロセスの更新」タスク・リストの下で、「プロジェクト支出」を起動します。
66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。
- 2 「労務要請」タブを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。
- 3 「労務要請」タブから、ショートカット・メニューを使用して、労務割当ての追加および削除、プロジェクト労務の計算、諸経費とプロジェクト支出の計算、割当ての変更、および標準の1時間あたり費用の表示を行います。
 - 67 ページの「労務割当ての追加」を参照してください。
 - 70 ページの「労務割当ての削除」を参照してください。
 - 70 ページの「プロジェクト労務の計算」を参照してください。
 - 70 ページの「諸経費の計算」を参照してください。
 - 71 ページの「プロジェクト支出の計算」を参照してください。
 - 71 ページの「割当ての変更」を参照してください。
 - 72 ページの「標準の時間あたり費用の表示」を参照してください。

労務割当ての追加

このタスクでは、プロジェクトに労務割当てを追加します。

▶ 既存のプロジェクトに労務割当てを追加するには:

1 「プロジェクト支出」タスクを起動します。

66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。

2 「労務要請」フォームを右クリックし、「労務割当ての追加」を選択し、次のいずれかのオプションを選択します:

- 「宛先契約プロジェクト」
- 「宛先間接プロジェクト」
- 「宛先資本プロジェクト」

3 「労務割当ての追加」で、プロジェクトに適用可能な値を指定または選択します:

- 「ジョブの選択」 - プロジェクトに必要なジョブのタイプ。ジョブ次元はカスタマイズできます。22 ページの「ジョブ」を参照してください。
- 「人数の入力」 - 作業を完了するのに必要なリソースの数。1 を超える値を入力すると、時間が計算されます。(人数 x 労務時間)
- 「スキル・セットの入力」 - ジョブの実行に必要なスキル。このフィールドは参照専用で、労務計算には影響しません。スマート・リストにメンバーを追加して、このフィールドをカスタマイズできます。スマート・リストに値を追加しても、ビジネス・ルールには影響しません。
- 「プロジェクト期間の割当て(Y/N)」 - デフォルトは「はい」です。リソースをプロジェクト期間に割り当てる場合は、「はい」を選択します。「はい」を選択する場合、割当て開始日と終了日を入力する必要はありません。ルールにより、プロジェクト開始日と終了日が自動的に取り込まれます。リソースをプロジェクト期間に割り当てない場合は、「いいえ」を選択します。「いいえ」を選択する場合、リソースの割当て開始日と終了日を入力します。リソースを単発的に使用する場合、プロジェクトの最初の期間にリソース開始日と終了日を入力して、リソース・ライン・アイテムをフォームに追加します。次に、フォームの年を拡張して、リソースの期間別の時間数を追加します。
- 「割当て開始日」 / 「割当て終了日」 - リソースをプロジェクト期間に割り当てない場合は、開始日と終了日を入力します。開始日と終了日が入力されていない場合、ルールにより、リソースがプロジェクト期間に割り当てられているとみなされます。

注: 割当て開始日と終了日は、プロジェクト開始日と終了日の範囲に収まっている必要があります。プロジェクト開始日の前に割当てを開始したり、プロジェクト終了日の後に割当てを終了することはできません。

- 「配賦の割合」 - 資本および間接プロジェクトの場合のみ、労務リソースの時間割合がプロジェクトに配賦されます。配賦の割合により、プロジェクトに対するそのリソースの労務支出が決定されます。
- 「1人当たりの労務時間の入力」 - 資本および間接プロジェクトの場合のみ、2人以上の人数が必要な場合における計算用の1人当たりの時間数(人数 x 1人当たりの時間数 = 合計時間)。

注： 配賦の割合または1人当たりの労務時間のいずれかを入力します。配賦の割合を入力すると、要員のグローバル仮定に基づいて、1人当たりの労務時間が計算されます。同様に、1人当たりの労務時間を入力すると、配賦の割合が自動的に計算されます。

- 「オンサイト労務時間」 - 契約プロジェクトの場合、リソースがプロジェクト作業をオンサイトで実行する時間数を入力します。オンサイト労務時間は、契約収益計算で使用されます。
- 「オフサイト労務時間」 - 契約プロジェクトの場合、リソースが作業する時間数を入力します。オフサイト労務時間は、契約収益計算で使用されません。
- 「請求不可時間」 - 契約プロジェクトの場合、含める必要があるが顧客に請求できない労務時間数を入力します。請求不可時間は労務支出計算で使用されますが、契約収益計算からは排除されます。
- 「スプレッド・ロジック」 - グリッド内で値を配賦する方法を決定するロジックを選択します。
 - 「入力」 - 入力された値を、グリッド内のすべてのセルにコピーします。たとえば、プロジェクトに200時間の値が入力されると、プロジェクトの開始日と終了日の間の各月の値は200に設定されます。
 - 「均等分割 - 分散期間」 - 入力された値をすべてのグリッド・セル間で分割します。たとえば、プロジェクトに200時間の値が入力されている場合、200は、開始日と終了日の間の月数に分割されます。

注： 開始日と終了日が入力されない場合、スプレッド・ロジックは全プロジェクト期間を使用して、各月に適切に値を入力します。

- 「均等分割 - 年次(12分割)」 - 入力された値を12で分割(および最も近い整数に四捨五入)し、スプレッドの開始日と終了日の間のすべての月に入力します。
- 「プロジェクト請求レベル」 - 契約プロジェクトの場合、次のいずれかのオプションを選択します: 「Level1」、「Level2」、「Level3」、「請求不可」、「未指定」(デフォルト)、「デフォルト」。

注意:

- プロジェクト請求レベルはデフォルトでは「未指定」です。必要に応じて更新して、請求レベルを修正します。この数は収益の計算に使用されます。
- 「デフォルト」オプションが選択されている場合、グローバル・レベルで定義された請求レベルが収益フォームにコピーされます。「デフォルト」以外のオプションが選択されている場合、Project Financial Planningは、グローバル・レベルの情報を収益フォームに上書きしません。
- 請求レベルが「請求不可」に設定されている場合、Project Financial Planningは、ライン・アイテムを収益フォームにコピーしません。
- 「コメント」(オプション)

- 「資産計上可能」 - 資本プロジェクトの場合、労務支出が資産計上可能であるかどうかを指定します。資産計上可能支出は、作成される各資産の資産価値として追跡されます。

4 「OK」 をクリックします。

労務割当ての削除

このルールを使用して、不要になった労務リソースや、間違って追加された労務割当てを削除します。

▶ 労務割当てを削除するには:

1 「プロジェクト支出」タスクを起動します。

66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。

2 「労務要請」フォームから、労務割当てを右クリックして、「労務割当ての削除」を選択します。

プロジェクト労務の計算

「CalculateProjectLaborExpenses ルール」では、プロジェクトに割り当てられているリソースの労務支出を計算します。プロジェクト労務は、次のように計算されません:

月当たり時間数*標準労務時間給=プロジェクト労務

標準労務時間給は、エンティティ・レベルで仮定として入力され、プロジェクト・レベルでは上書きできません。

労務仮定が変更された場合、プロジェクト労務を再計算します。

▶ プロジェクト労務を計算するには:

1 「プロジェクト支出」タスクを起動します。

66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。

2 「労務要請」フォームを右クリックして、「プロジェクト労務の計算」を選択します。

諸経費の計算

CalculateOverheads ルールは、プロジェクトの諸経費を計算します。諸経費とは、ジョブの実行または業務の継続的な遂行に不可欠であるが、プロジェクトに帰することのできない支出です。このルールでは、プロジェクトの完全ロード済費用に達するまで、諸経費(間接支出、一般および管理支出)をプロジェクトに適用します。

▶ プロジェクトの諸経費を計算するには:

1 「プロジェクト支出」タスクを起動します。

66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。

2 フォームのタブ領域を右クリックして、「諸経費の計算」を選択します。

プロジェクト支出の計算

▶ プロジェクト支出を計算するには:

1 「プロジェクト支出」タスクを起動します。

66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。

2 フォームのタブ領域を右クリックして、「プロジェクト支出の計算」を選択します。

割当ての変更

このタスクでは、労務割当てを変更できます。労務割当てを増やしたり減らしたり、人数を変更したり、プロジェクトに割り当てられている時間数を変更できます。「スプレッド・ロジック」フィールドは、変更を適用する方法を示します。

▶ プロジェクトの労務割当てを変更するには:

1 「プロジェクト支出」タスクを起動します。

66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。

2 「労務要請」フォームを右クリックし、「割当ての変更」を選択し、次のいずれかのオプションを選択します:

- 「契約プロジェクトへの割当ての変更」
- 「間接プロジェクトへの割当ての変更」
- 「資本プロジェクトへの割当ての変更」

3 「割当ての変更」で、プロジェクトに適用可能な値を指定または選択します。

- 「ジョブの選択」 - 間接プロジェクトの場合、選択されたジョブが表示されます。
- 「労務要請の入力」 - 間接プロジェクトの場合、労務要請番号が表示されます。
- 「割当て変更開始日」 / 「割当て変更終了日」 - 割当ての開始日と終了日。
- 「人数の入力」 - 作業を完了するのに必要なリソースの数。1 を超える値を入力すると、時間が計算されます。(人数 x 労務時間)
- 「配賦の割合」 - 資本および間接プロジェクトの場合、労務リソースの時間割合がプロジェクトに配賦されます。配賦の割合により、プロジェクトに対するそのリソースの労務支出が決定されます。
- 「1 人当たりの労務時間の入力」 - 資本および間接プロジェクトの場合、2 人以上の人数が必要な場合における計算用の 1 人当たりの時間数(人数 x 1 人当たりの時間数=合計時間)。

注： 配賦の割合または 1 人当たりの労務時間のいずれかを入力します。配賦の割合を入力すると、要員のグローバル仮定に基づいて、1 人当たりの労務時間が計算されます。同様に、1 人当たりの労務時間を入力すると、配賦の割合が自動的に計算されます。

- 「オンサイト労務時間」 - 契約プロジェクトの場合、リソースがプロジェクト作業をオンサイトで実行する時間数を入力します。オンサイト労務時間は、契約収益計算で使用されます。
- 「オフサイト労務時間」 - 契約プロジェクトの場合、リソースが作業する時間数を入力します。オフサイト労務時間は、契約収益計算で使用されません。
- 「請求不可時間」 - 契約プロジェクトの場合、含める必要があるが顧客に請求できない労務時間数を入力します。請求不可時間は労務支出計算で使用されますが、契約収益計算からは排除されます。
- 「スプレッド・ロジック」 - 変更を適用する方法を指定します。
 - 「入力(既存の値の上書き)」 - 労務割当てに入力された時間数と時間フレームを完全に上書きします。
 - 「入力(既存の値の保持)」 - 入力された割当て時間をそのまま保持します。月に既存の値がある場合、その月のデータは保持されます。データがない月については、入力する値が検討されます。
 - 「均等分割(既存の値の上書き)」 - 割当て時間を労務割当て期間に均等に分割して、入力された値を上書きします。
 - 「理由」 - 割当てが変更された理由。

4 「OK」をクリックします。

標準の時間あたり費用の表示

このタスクでは、労務計算で使用される標準時間給を表示できます。標準は、管理者によって設定されます。

▶ 標準の時間あたり労務費を表示するには:

1 「プロジェクト支出」タスクを起動します。

66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。

2 「労務要請」フォームを右クリックして、「標準の時間あたり費用の表示」を選択します。

3 「9.13 標準の時間あたり労務レートの表示」フォームで、労務レートを確認します。

装置要請の確認

このタスクにより、プロジェクト・マネージャはプロジェクト要件に基づいて、プロジェクトでの装置の使用を要求できます。プロジェクト・マネージャは、関連するプロジェクト支出をプランニングし、装置に関する仮定を更新できます。たとえば、プロジェクト・マネージャは、装置時間を増やしたり、減らしたり、削除したりできます。プロジェクトの装置費用は、装置の標準レートに基づきます。

▶ 装置要請を確認するには:

1 「プロセスの更新」タスク・リストの下で、「プロジェクト支出」を起動します。

66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。

2 「装置要請」タブを確認します。

フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

3 「装置要請」タブから、ショートカット・メニューを使用して、装置要請の追加、削除および変更、装置支出の計算、諸経費とプロジェクト支出の計算、および標準装置レートの表示を行います。

- 73 ページの「装置要請の追加」を参照してください。
- 74 ページの「装置要請の削除」を参照してください。
- 75 ページの「装置要請の変更」を参照してください。
- 76 ページの「装置支出の計算」を参照してください。
- 70 ページの「諸経費の計算」を参照してください。
- 71 ページの「プロジェクト支出の計算」を参照してください。
- 76 ページの「標準の装置レートの表示」を参照してください。

装置要請の追加

このタスクでは、プロジェクトに装置要請を追加できます。

▶ 装置要請を追加するには:

1 「プロジェクト支出」タスクを起動します。

66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。

2 「装置要請」フォームを右クリックして、「装置要請の追加」を選択し、次のいずれかのオプションを選択します:

- 「宛先契約プロジェクト」
- 「宛先間接プロジェクト」
- 「宛先資本プロジェクト」

3 「装置要請の追加」で、プロジェクトの設定を指定または選択します:

- 「標準装置」 - プロジェクトに必要な装置を選択します。
- 「装置の説明」 (オプション)
- 「装置単位」 - プロジェクトに必要な装置単位の数。たとえば、2 台のクレーンを月当たり 200 時間必要とする場合は、このフィールドに 2 を入力し、「装置の使用状況/ユニット」フィールドに 200 を入力します。
- 「装置の使用状況/ユニット」 (オプション) - 計算用の装置単位当たりの時間数。プロジェクトに必要な場合にのみ単位当たりの使用状況を入力します。たとえば、月当たり 3 台のラップトップが必要な場合、「装置単位」に 3 を入力して、「装置の使用状況/ユニット」フィールドは空白のままにします。
- 「プロジェクト期間の割当て(Y/N)」 - デフォルトは「はい」です。装置をプロジェクト期間に割り当てる場合は、「はい」を選択します。「はい」を選択する場合、割当て開始日と終了日を入力する必要はありません。ルールにより、プロジェクト開始日と終了日が自動的に使用されます。装置を

プロジェクト期間に割り当てない場合は、「いいえ」を選択します。「いいえ」を選択する場合、装置の割当て開始日と終了日を入力します。装置を単発的に使用する場合、プロジェクトの最初の期間に装置開始日と終了日を入力して、リソース・ライン・アイテムをフォームに追加します。次に、フォームの年を拡張して、装置の期間別の時間数を追加します。

- 「割当て開始日」 / 「割当て終了日」 - 装置をプロジェクト期間に割り当てない場合は、開始日と終了日を入力します。開始日と終了日が入力されていない場合、ルールにより、装置がプロジェクト期間に割り当てられるとみなされます。

注： 割当て開始日と終了日は、プロジェクト開始日と終了日の範囲に収まっている必要があります。プロジェクト開始日の前に割当てを開始したり、プロジェクト終了日の後に割当てを終了することはできません。

- 「スプレッド・ロジック」 - グリッド内で値を配賦する方法を決定するロジックを選択します。
 - 「入力」 - 入力された値を、グリッド内のすべてのセルにコピーします。たとえば、プロジェクトに 200 時間の値が入力されている場合、プロジェクトの開始日と終了日の間の各月の値は、200 に設定されません。
 - 「均等分割 - 分散期間」 - 入力された値をすべてのグリッド・セル間で分割します。たとえば、プロジェクトに 200 時間の値が入力されている場合、200 は、開始日と終了日の間の月数に分割されます。

注： 開始日と終了日が入力されない場合、スプレッド・ロジックは全プロジェクト期間を使用して、各月に値を入力します。

- 「均等分割 - 年次(12 分割)」 - 入力された値を 12 で分割(および最も近い整数に四捨五入)し、スプレッドの開始日と終了日の間のすべての月に入力します。
- 「請求可能」 - 契約プロジェクトの場合、契約の条件下において装置が請求可能かどうかを指定します。追加されたすべての装置のデフォルト値は「はい」です(収益計算に含まれます)。装置が請求可能でない場合は、各ライン・アイテムの「請求可能」を「いいえ」に変更します。
- 「理由」 - 装置が必要な理由。

4 「OK」をクリックします。

装置要請の削除

このルールを使用して、不要になった装置要請や、間違って追加された装置要請を削除します。

▶ 装置要請を削除するには:

1 「プロジェクト支出」タスクを起動します。

66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。

- 2 「装置要請」フォームから、労務割当てを右クリックして、「装置要請の削除」を選択します。

装置要請の変更

このタスクでは、装置割当てを変更できます。割当てを拡張または短縮したり、プロジェクトに割り当てられている装置単位を変更できます。

▶ 装置要請を変更するには:

- 1 「プロジェクト支出」タスクを起動します。

66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。

- 2 「装置要請」フォームを右クリックして、「装置要請の変更」を選択します。

- 3 「装置要請の変更」で、プロジェクトの値を指定または選択します:

- 「標準装置」 - 選択した装置。
- 「装置要請」 - 装置要請番号。
- 「割当て変更開始日」 / 「割当て変更終了日」 - 装置要請の新しい割当て開始日と割当て終了日。

注: 割当て開始日と終了日は、プロジェクト開始日と終了日の範囲に収まっている必要があります。プロジェクト開始日の前に割当てを開始したり、プロジェクト終了日の後に割当てを終了することはできません。

- 「装置単位」 - プロジェクトに必要な装置単位の数。たとえば、2 台のクレーンを月当たり 200 時間必要とする場合は、このフィールドに 2 を入力し、「装置の使用状況/ユニット」フィールドに 200 を入力します。
 - 「装置の使用状況/ユニット」(オプション) - 計算用の装置単位当たりの時間数。プロジェクトに必要な場合にのみ単位当たりの使用状況を入力します。たとえば、月当たり 3 台のラップトップが必要な場合、「装置単位」に 3 を入力して、このフィールドは空白のままにします。
 - 「スプレッド・ロジック」 - グリッド内で値を配賦する方法を決定するロジックを選択します。
 - 「入力(既存の値の上書き)」 - 装置割当てに入力された時間数と時間フレームを完全に上書きします。
 - 「入力(既存の値の保持)」 - 入力された割当て時間をそのまま保持します。いずれかの月に値がある場合、その月のデータは保持されます。データがない月については、入力する値が検討されます。
 - 「均等分割(既存の値の上書き)」 - 割当て時間を装置割当て期間に均等に分割して、前に入力された値を上書きします。
 - 「理由」 - 装置の変更の理由。
- 4 「OK」をクリックします。

装置支出の計算

装置要請を入力または変更後、計算によって、装置単位および標準装置レートに基づいて、装置の使用状況に対するプロジェクト支出が導出されます。計算が実行されると、プロジェクト期間にプロジェクトに割り当てられているすべての装置の費用が算出されます。装置支出は次のように計算されます:

装置の使用状況*装置の標準レート=装置支出

装置の使用状況がない場合は、かわりに装置単位が使用されて、次のように装置支出が計算されます:

装置単位*装置の標準レート=装置支出

▶ プロジェクト装置支出を計算するには:

1 「プロジェクト支出」タスクを起動します。

66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。

2 「装置要請」フォームを右クリックして、「装置支出の計算」を選択します。

標準の装置レートの表示

このタスクでは、装置計算で使用される標準の装置レートを表示できます。標準は、エンティティ管理者によって設定されます。

▶ 装置の標準レートを表示するには:

1 「プロジェクト支出」タスクを起動します。

66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。

2 「装置要請」フォームを右クリックして、「標準の装置レートの表示」を選択します。

3 「9.05 装置の標準レートの表示」フォームで、装置レートを確認します。

材料およびその他要件の確認

このタスクは支出要求の材料、下請業者およびその他要件をプロジェクトに関連付けて、関連するプロジェクト支出をプランニングできるようにします。

▶ 材料およびその他要件を確認および更新するには:

1 「プロセスの更新」タスク・リストの下で、「プロジェクト支出」を起動します。

66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。

2 「材料およびその他要件」タブを確認します。

フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

3 「材料およびその他要件」タブから、ショートカット・メニューを使用して、材料およびその他要件の追加、削除および変更、材料およびその他要件の計算、諸経費およびプロジェクト支出の計算を行います。

● 77 ページの「材料およびその他要件の追加」を参照してください。

● 79 ページの「材料およびその他要件の削除」を参照してください。

- 79 ページの「材料およびその他要件の変更」を参照してください。
- 80 ページの「材料およびその他支出の計算」を参照してください。
- 70 ページの「諸経費の計算」を参照してください。
- 71 ページの「プロジェクト支出の計算」を参照してください。

材料およびその他要件の追加

このタスクでは、追加する支出タイプを選択できます。選択したメンバーにより、支出を記録する勘定科目が決定されます。Project Financial Planning には、次の事前定義リソース・クラスがあります。

- 「材料」
- 「下請業者」
- 「その他」

必要に応じてその他の支出タイプを追加できます。ただし、支出タイプを追加するには、ルールとスマート・リストのメンバーを更新して、新規支出タイプを含める必要があります。また、支出タイプを支出勘定科目にリンクする必要があります。

▶ 材料およびその他要件を追加するには:

1 「プロジェクト支出」タスクを起動します。

66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。

2 「材料およびその他要件」フォームを右クリックし、「材料およびその他要件の追加」を選択し、次のいずれかのオプションを選択します:

- 「宛先契約プロジェクト」
- 「宛先間接プロジェクト」
- 「宛先資本プロジェクト」

3 「材料およびその他要件の追加」で、プロジェクトに適用可能な値を指定または選択します。

- 「リソース名の入力」 - 追加する材料またはその他要件の名前。
- 「リソースの説明」 (オプション)
- 「リソース・クラス」 - 「材料」、「下請業者」または「その他」。
- 「プロジェクト期間の割当て(Y/N)」 - デフォルトは「はい」です。リソースをプロジェクト期間に割り当てる場合は、「はい」を選択します。「はい」を選択する場合、要件開始日と終了日を入力する必要はありません。ルールにより、プロジェクト開始日と終了日が自動的に取り込まれます。リソースをプロジェクト期間に割り当てない場合は、「いいえ」を選択します。「いいえ」を選択する場合、リソースの要件開始日と終了日を入力します。リソースを単発的に使用する場合、プロジェクトの最初の期間に要件開始日と終了日を入力して、リソース・ライン・アイテムをフォームに追加します。次に、フォームの年を拡張して、リソースの期間別の単位数を追加します。

- 「要件開始日」 / 「要件終了日」 - 要件をプロジェクト期間に割り当てない場合は、開始日と終了日を入力します。開始日と終了日が入力されていない場合、ルールにより、要件がプロジェクト期間に割り当てられているとみなされます。

注： 要件開始日と終了日は、プロジェクト開始日と終了日の範囲に収まっている必要があります。プロジェクト開始日の前に割当てを開始したり、プロジェクト終了日の後に割当てを終了することはできません。

- 「スプレッド・ロジック」 - グリッド内で値を配賦する方法を決定するロジックを選択します。
 - 「入力」 - 入力された値を、グリッド内のすべてのセルにコピーします。たとえば、プロジェクトに 200 時間の値が入力されている場合、プロジェクトの開始日と終了日の間の各月の値は、200 に設定されます。
 - 「均等分割 - 分散期間」 - 入力された値をすべてのグリッド・セル間で分割します。たとえば、プロジェクトに 200 時間の値が入力されている場合、200 は、開始日と終了日の間の月数に分割されます。
 - 「均等分割 - 年次(12 分割)」 - 入力された値を 12 で分割(および最も近い整数に四捨五入)し、スプレッドの開始日と終了日の間のすべての月に入力します。
- 「必要ユニット数」 - 材料またはその他支出に必要なユニット数。
- 「費用単位」 - 費用の単位。
- 「費用/ユニット」 - 材料およびその他支出のユニット当たりの費用。材料およびその他支出は、必要ユニット数 x 費用/ユニットに基づいて計算されます。
- 「請求可能」 - 契約プロジェクトの場合、契約の条件下で材料およびその他要件が請求可能であるかどうかを指定します。追加されたすべての材料のデフォルト値は「はい」です(収益計算に含められます)。材料が請求可能でない場合は、各ライン・アイテムの「請求可能」を「いいえ」に変更します。
- 「資産計上可能」 - 資本プロジェクトの場合、材料およびその他支出が資産計上可能であるかどうかを指定します。資産計上可能支出は、作成される各資産の資産価値として追跡されます。
- 「支出キャッシュ・フロー発生」 - 支出に対する支払方法を示します(事前支払、同月、翌月など)。選択肢は「2 か月前」、「1 か月前」、「同月」、「翌月」、「2 か月後」、「3 か月後」または「4 か月後」です。ここでの選択内容は、キャッシュ・フロー計算書に直接影響を及ぼします。「同月」を選択した場合、キャッシュ・フロー計算書には、同月のキャッシュ・アウトフローが支出月として示されます。「翌月」を選択した場合、キャッシュ・フロー計算書には、支出月を基準として 1 か月遅れのキャッシュ・アウトフローが示されます。

4 「OK」をクリックします。

材料およびその他要件の削除

このルールを使用して、不要になった要件や、間違って追加された要件を削除します。

▶ 材料およびその他要件を削除するには:

1 「プロジェクト支出」タスクを起動します。

66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。

2 「材料およびその他要件」タブから、要件を右クリックし、「材料およびその他要件の削除」を選択します。

材料およびその他要件の変更

このタスクでは、材料およびその他要件を変更できます。割当てを拡張または短縮したり、プロジェクトに割り当てられている要件を変更できます。

▶ 材料およびその他要件を変更するには:

1 「プロジェクト支出」タスクを起動します。

66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。

2 「材料およびその他要件」フォームを右クリックし、「材料およびその他要件の変更」を選択します。

3 「材料およびその他要件の変更」で、プロジェクトの値を指定または選択します:

- 「材料の変更」 - 選択した要件。
- 「割当て変更開始日」 / 「割当て変更終了日」 - 装置要請の新しい割当て開始日と割当て終了日。

注: 割当て開始日と終了日は、プロジェクト開始日と終了日の範囲に収まっている必要があります。プロジェクト開始日の前に割当てを開始したり、プロジェクト終了日の後に割当てを終了することはできません。

- 「スプレッド・ロジック」 - グリッド内で値を配賦する方法を決定するロジックを選択します。
 - 「入力」 - 入力された値を、グリッド内のすべてのセルにコピーします。たとえば、プロジェクトに 200 時間の値が入力されている場合、プロジェクトの開始日と終了日の間の各月の値は、200 に設定されません。
 - 「均等分割 - 分散期間」 - 入力された値をすべてのグリッド・セル間で分割します。たとえば、プロジェクトに 200 時間の値が入力されている場合、200 は、開始日と終了日の間の月数に分割されます。
 - 「均等分割 - 年次(12 分割)」 - 入力された値を 12 で分割(および最も近い整数に四捨五入)し、スプレッドの開始日と終了日の間のすべての月に入力します。
- 「必要ユニット数」 - 材料またはその他支出に必要なユニット数。

- 「費用/ユニット」 - 材料およびその他支出のユニット当たりの費用。材料およびその他支出は、必要ユニット数 x 費用/ユニットに基づいて計算されます。

4 「OK」 をクリックします。

材料およびその他支出の計算

このタスクでは、材料の支出およびその他の支出を計算します。この計算では、プロジェクト期間中、月単位で、入力されたユニット数とユニット当たり費用が乗算されます。

▶ 材料およびその他リソースを計算するには:

1 「プロジェクト支出」タスクを起動します。

66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。

2 「材料およびその他要件」フォームを右クリックし、「材料およびその他要件の計算」を選択します。

直接プロジェクト支出の入力

このタスクでは、値を算定するロジックが定義されていない支出の一括払いの金額を入力できます。Project Financial Planning では、2つの方法でプロジェクト・データをアプリケーションに取り込むことができます。1つめの方法では、ルールを使用する詳細プランニングを実行してデータを追加できます。もう1つの方法では、ソース・システムからデータをインポートしてから、Project Financial Planning を使用してプロジェクトを連結できます。

▶ 直接費を確認および更新するには:

1 「プロセスの更新」タスク・リストの下で、「プロジェクト支出」を起動します。

66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。

2 「直接プロジェクト支出の入力」を選択し、直接プロジェクト支出仮定を確認および更新します。入力方法を選択し、作業列に値を入力します。次の入力方法から選択します:

- 「均等分散」 - 入力された値をプロジェクトの期間に均等に分割します。たとえば、3年間のプロジェクトに対して直接費入力値として 1,000,000 を入力するとします。1年目の値は 333,333.33、2年目の値は 333,333.33、3年目の値は 333,333.33 になります。
- 「入力」 - 入力された値をプロジェクト年ごとにコピーします。たとえば、期間が2年のプロジェクトに対して直接費入力値として 1,000,000 を入力するとします。1年目の値は 1,000,000、2年目の値は 1,000,000 になります。この値は各月に均等に分割されます。1年目の値の 1,000,000 は 12 で分割され、各月に入力されます。
- 「比例」 - 直接費入力(たとえば、1,000,000)を入力し、プロジェクト年全体にわたって比例値または比率(1:2:2 など)を入力します。Project Financial Planning では、プロジェクト年ごとに比例値が割り当てられ、値は各年内の各月に均等に分散されます。

- 「入力」 -1年目、2年目などに対して年レベルで値を直接入力します。各プロジェクト年の値は、その年内の各月に対して均等に分散または分割されます。たとえば、1年目には40,000、2年目には50,000、3年目には60,000を入力します。40,000は1年目の各月に対して均等に分割されます。50,000は2年目の各月に対して均等に分割されます。また、60,000は3年目の各月に対して均等に分割されます。
- 3 「直接プロジェクト支出の入力」タブから、ショートカット・メニューを使用して、直接プロジェクト支出の計算、諸経費およびプロジェクト支出の計算を行います。
- 81ページの「直接プロジェクト支出の計算」を参照してください。
 - 70ページの「諸経費の計算」を参照してください。
 - 71ページの「プロジェクト支出の計算」を参照してください。

直接プロジェクト支出の計算

このタスクでは、直接プロジェクト支出を計算します。仮定は上部のフォームに入力し、計算された値は下部のフォームに表示されます。

▶ 直接プロジェクト支出を計算するには:

- 1 「プロジェクト支出」タスクを起動します。
66ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。
- 2 「直接プロジェクト支出の入力」フォームを右クリックして、「直接プロジェクト支出の計算」を選択します。

プロジェクト支出の確認

支出をプランニングして関連する諸経費を適用した後、このフォームを使用してプロジェクトの支出を確認します。

- 81ページの「プロジェクト支出合計の確認」を参照してください。
- 82ページの「労務支出の確認」を参照してください。
- 83ページの「装置支出の確認」を参照してください。
- 83ページの「材料およびその他支出の確認」を参照してください。
- 83ページの「直接プロジェクト支出の確認」を参照してください。
- 83ページの「割り当てられた従業員の確認」を参照してください。
- 84ページの「割り当てられた装置の確認」を参照してください。

プロジェクト支出合計の確認

「プロジェクト支出合計の確認」タブから、プロジェクト・マネージャは、プロジェクトに対して計画されたすべての支出の要約を確認できます。

▶ 既存のプロジェクトの支出合計を確認するには:

- 1 「プロセスの更新」タスク・リストの下で、「プロジェクト支出」を起動します。

66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。

2 「プロジェクト支出合計の確認」タブを確認します。

フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

3 「プロジェクト支出合計の確認」タブから、ショートカットメニューを使用して、プロジェクト支出および諸経費の計算、間接、一般および管理支出の確認を行います。

- 71 ページの「プロジェクト支出の計算」を参照してください。
- 70 ページの「諸経費の計算」を参照してください。
- 82 ページの「間接、一般および管理の配賦済支出の確認」を参照してください。

間接、一般および管理の配賦済支出の確認

このタスクでは、プロジェクトに適用される諸経費ライン・アイテムごとの、促進要因および関連費用を確認できます。

▶ 間接、一般および管理支出の配賦を確認するには:

1 「プロジェクト支出」タスクを起動します。

66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。

2 「プロジェクト支出合計の確認」フォームを右クリックし、「間接、一般および管理配賦済支出の確認」を選択します。

3 「間接、一般および管理配賦済支出の確認」フォームで、プロジェクトの間接費仮定、一般および管理費仮定、配賦済諸経費、および配賦基準値を確認できます。

間接、一般および管理費用仮定の詳細は、48 ページの「諸経費仮定の入力」を参照してください。

4 フォームの下部から、ショートカット・メニューを使用して諸経費を計算します。

70 ページの「諸経費の計算」を参照してください。

労務支出の確認

プロジェクトに割り当てられている労務の労務支出を確認します。調整を加えるには、「労務要請」タブに戻り、割当てを変更してから再計算します。67 ページの「労務要請の確認」を参照してください。

このタスクのフォームでは、すべての労務リソース要求とプロジェクトへの財務上の影響が要約されます。

▶ 労務支出を確認するには:

1 「プロセスの更新」タスク・リストの下で、「プロジェクト支出」を起動します。

66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。

2 「労務支出の確認」タブを確認します。

フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

装置支出の確認

プロジェクトに割り当てられている装置の装置支出を確認します。調整を加えるには、「装置要請」タブに戻り、割当てを変更してから再計算します。72 ページの「装置要請の確認」を参照してください。

▶ 装置支出を確認するには:

- 1 「プロセスの更新」タスク・リストの下で、「プロジェクト支出」を起動します。
66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。
- 2 「装置支出の確認」タブを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

材料およびその他支出の確認

このタスクのフォームには、プロジェクトに関連付けられている材料およびその他支出の合計が要約されるため、財務上の影響を明らかにすることができます。調整を行うには、「材料およびその他要件」タブに戻り、要件を変更し、再計算します。76 ページの「材料およびその他要件の確認」を参照してください。

▶ 材料およびその他支出を確認するには:

- 1 「プロセスの更新」タスク・リストの下で、「プロジェクト支出」を起動します。
66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。
- 2 「材料およびその他支出の確認」タブを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

直接プロジェクト支出の確認

このタスクのフォームには、プロジェクトに関連付けられている直接プロジェクト支出の合計が要約されるため、財務上の影響を明らかにすることができます。調整を行うには、「直接プロジェクト支出の入力」]タブに戻り、更新を行い、再計算します。80 ページの「直接プロジェクト支出の入力」を参照してください。

▶ 材料およびその他支出を確認するには:

- 1 「プロセスの更新」タスク・リストの下で、「プロジェクト支出」を起動します。
66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。
- 2 「直接プロジェクト支出の確認」タブを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

割り当てられた従業員の確認

「割り当てられた従業員の確認」を使用すると、プロジェクトに割り当てられた従業員のリストを確認し、従業員割当てを削除できます。

▶ 割り当てられた従業員を確認するには:

- 1 「プロセスの更新」タスク・リストの下で、「プロジェクト支出」を起動します。
66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。
- 2 「割り当てられた従業員の確認」タブを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。
- 3 「割り当てられた従業員の確認」タブから、ショートカットメニューを使用して、プロジェクト労務の計算、従業員割当ての削除、標準の時間当たり費用の表示を行います。
 - 70 ページの「プロジェクト労務の計算」を参照してください。
 - 84 ページの「従業員割当ての削除」を参照してください。
 - 72 ページの「標準の時間当たり費用の表示」を参照してください。

従業員割当ての削除

このルールを使用して、従業員割当てを削除します。

▶ 従業員割当てを削除するには:

- 1 「割り当てられた従業員の確認」タブを選択します。
83 ページの「割り当てられた従業員の確認」を参照してください。
- 2 「割り当てられた従業員の確認」タブから、従業員割当てを右クリックして、「従業員割当ての削除」を選択します。

割り当てられた装置の確認

「割り当てられた装置の確認」を使用すると、プロジェクトに割り当てられた装置のリストを確認し、装置割当てを削除できます。

▶ 割り当てられた装置を確認するには:

- 1 「プロセスの更新」タスク・リストの下で、「プロジェクト支出」を起動します。
66 ページの「プロジェクト支出の確認」を参照してください。
- 2 「割り当てられた装置の確認」タブを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。
- 3 「割り当てられた装置の確認」タブからショートカットメニューを使用して、装置支出の計算、装置割当ての削除、装置の標準レートの表示を行います。
 - 76 ページの「装置支出の計算」を参照してください。
 - 84 ページの「装置割当ての削除」を参照してください。
 - 76 ページの「標準の装置レートの表示」を参照してください。

装置割当ての削除

このルールを使用して、不要になった装置割当てや、間違っって追加された装置割当てを削除します。

▶ 装置割当てを削除するには:

1 「割り当てられた装置の確認」タブを選択します。

84 ページの「割り当てられた装置の確認」を参照してください。

2 「割り当てられた装置の確認」タブから、装置割当てを右クリックして、「装置割当ての削除」を選択します。

プロジェクト収益の確認(契約プロジェクトのみ)

このタスク・リストでは、プロジェクトで様々なソースから生成された収益を確認できます。

- 原価加算
- 実費清算
- 固定価格
- 直接収益(アプリケーションに直接入力される収益)

注: 収益プランニングは、契約プロジェクトとして分類されるプロジェクトに適用されます。Project Financial Planning では、間接プロジェクトまたは資本プロジェクトの収益は計算されません。

「プラン・プロジェクト収益」フォームを使用すると、契約プロジェクトの収益コンポーネントに関する詳細を確認できます。

▶ 既存のプロジェクトの収益を確認するには:

1 「既存のプロジェクトの管理」タスク・リストの下で、「プロセスの更新」を展開します。

62 ページの「「既存のプロジェクトの管理」タスク・リストの表示」を参照してください。

2 「プロジェクト収益」を起動します。

3 「プラン・プロジェクト収益」フォームから、プロジェクト収益仮定を管理し、収益合計を確認できます。

● 85 ページの「収益仮定の確認」を参照してください。

● 96 ページの「収益合計の確認」を参照してください。

収益仮定の確認

「プラン・プロジェクト収益」フォームの上部を使用して、プロジェクト収益仮定を確認および更新できます。

● 86 ページの「実費清算契約の収益仮定の確認」を参照してください。

● 90 ページの「単価収益の確認」を参照してください。

● 92 ページの「原価加算収益の確認」を参照してください。

● 94 ページの「直接収益の確認」を参照してください。

- 95 ページの「[収益認識マイルストーンの確認](#)」を参照してください。

実費清算契約の収益仮定の確認

実費清算(T&M)契約の場合、実費清算フォームには、プロジェクトの契約上の取決めが表示されます。Project Financial Planning では、労務、装置および材料の収益仮定を作成できます。請求レートは、プロジェクト・レベルで入力することも、会社仮定から導出することもできます。請求レートは、リソース・レベル(従業員または装置レベル)で定義できます。労務収益は、従業員の請求レベルに基づいています。各労務収益には請求レベルが関連付けられており、必要に応じて割り当てられている請求レベルを月単位で上書きできます。プロジェクトの請求レートは、プロジェクト期間に対して月/年単位で定義されます。

- 86 ページの「[実費精算労務請求の確認](#)」を参照してください。
- 88 ページの「[実費精算労務請求レートの確認](#)」を参照してください。
- 89 ページの「[実費精算装置請求の確認](#)」を参照してください。
- 89 ページの「[実費清算材料およびその他請求の確認](#)」を参照してください。

実費精算労務請求の確認

▶ 実費清算労務請求を確認するには:

- 1 「プロセスの更新」タスク・リストの下で、「プロジェクト収益」を起動します。
[85 ページの「プロジェクト収益の確認\(契約プロジェクトのみ\)」](#)を参照してください。
- 2 「実費清算労務請求」タブを確認します。
フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。
- 3 「実費清算労務請求」タブから、ショートカット・メニューを使用して、標準の時間あたり労務レートの表示、請求レベルの変更、労務収益の計算、およびプロジェクト収益の計算を行います。

注： 表示されるショートカット・メニュー・アイテムは、フォーム設定およびフォーム内で右クリックする場所に応じて異なります。

- [86 ページの「標準の時間あたり労務レートの表示」](#)を参照してください。
- [87 ページの「請求レベルの変更」](#)を参照してください。
- [87 ページの「労務収益の計算」](#)を参照してください。
- [88 ページの「プロジェクト収益の計算」](#)を参照してください。

標準の時間あたり労務レートの表示

「9.13 標準の時間あたり労務レートの表示」フォームでは、管理者が設定した標準の時間あたり労務レートを確認できます。このフォームには、労務計算で使用されたジョブ・レベル別の費用が表示されます。これは情報提供タスクであり、こ

のフォームに表示されている労務レートを上書きまたは変更することはできません。

▶ 装置割当てを削除するには:

1 「実費清算労務請求」タブを選択します。

86 ページの「実費精算労務請求の確認」を参照してください。

2 「実費清算労務請求」フォームを右クリックして、「標準の時間当たり労務レートの表示」を選択します。

3 「9.13 標準の時間当たり労務レートの表示」フォームを確認します。

請求レベルの変更

このタスクを使用すると、実費清算労務要請の請求レベルを変更できます。分散開始日および終了日を変更することもできます。

注： 日付が入力されていない場合、変更された請求レベルが割当て期間に設定されます。

▶ 請求レベルを変更するには:

1 「実費清算労務請求」タブを選択します。

86 ページの「実費精算労務請求の確認」を参照してください。

2 「実費清算労務請求」フォームを右クリックして、「請求レベルの変更」を選択します。

3 「請求レベルの変更」で、プロジェクトに対する要求値を指定または選択します。「プロジェクト請求レベル」の場合、次のいずれかのオプションを選択します: 「デフォルト」、「Level1」、「Level2」、「Level3」、「請求不可」、「未指定」(デフォルト)

注意:

- プロジェクト請求レベルはデフォルトでは「未指定」です。必要に応じて更新して、請求レベルを修正します。この数は収益の計算に使用されません。
- 「デフォルト」オプションが選択されている場合、グローバル・レベルで定義された請求レベルが収益フォームにコピーされます。「デフォルト」以外のオプションが選択されている場合、Project Financial Planning は、グローバル・レベルの情報を収益フォームに上書きしません。
- 請求レベルが「請求不可」に設定されている場合、Project Financial Planning は、ライン・アイテムを収益フォームにコピーしません。

4 「OK」をクリックします。

労務収益の計算

このタスクでは、労務収益を計算します。労務収益は、月当たりのリソースごとの労務時間と月当たりの請求レートを乗算して計算されます(労務時間 x 請求レート)。

オンサイトとオフサイトの労務時間には、異なるプロジェクト請求レートが用意されています。

▶ 労務収益を計算するには:

- 1 「実費清算労務請求」タブまたは「実費清算労務請求レート」タブを選択します。
- 2 フォームを右クリックして、「労務収益の計算」を選択します。
- 3 「OK」をクリックします。

プロジェクト収益の計算

このタスクでは、ソース(労務、材料、装置)の収益を計算します。各収益タイプを個別に計算することも、すべてのソースを同時に計算することもできます。

▶ プロジェクト収益合計を計算するには:

- 1 「プラン・プロジェクト収益」フォームの上部を右クリックして、「プロジェクト収益の計算」を選択します。
- 2 「OK」をクリックします。

実費精算労務請求レートの確認

労働請求レートは、実行した作業(オンサイトおよびオフサイト)について顧客が請求される契約プロジェクトの時間給です。

▶ 実費清算労務請求レートを確認するには:

- 1 「プロセスの更新」タスク・リストの下で、「プロジェクト収益」を起動します。
85 ページの「プロジェクト収益の確認(契約プロジェクトのみ)」を参照してください。
- 2 「実費清算労務請求レート」タブを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。
- 3 「実費清算労務請求レート」タブから、ショートカット・メニューを使用して、ベース請求レートのコピー、労務収益の計算、およびプロジェクト収益の計算を行います。
 - 88 ページの「ベース請求レートのコピー」を参照してください。
 - 87 ページの「労務収益の計算」を参照してください。
 - 88 ページの「プロジェクト収益の計算」を参照してください。

ベース請求レートのコピー

労務収益計算でデフォルト・レートを使用するには、グローバル・レートをプロジェクトにコピーする必要があります。あるいは、プロジェクトの請求レートを設定することもできます。

標準請求レートは、「要員管理」の下の「ベース請求レートの設定」フォームのエンティティによって設定されます(125 ページの「従業員のグローバル・レートの設定」を参照)。「労務割当ての追加」フォームで指定される「請求レベル」により、請求レートのコピー方法が決まります。「デフォルト」が指定されている場

合、収益フォームに請求レベルが定義されていないことを前提として、従業員のグローバル・レートで設定された標準の請求レートがコピーされます。

▶ ベース請求レートにコピーするには:

1 「実費清算労務請求」タブを選択します。

86 ページの「実費精算労務請求の確認」を参照してください。

2 「実費清算労務請求」フォームを右クリックして、「ベース請求レートのコピー」を選択します。

3 「OK」をクリックします。

実費精算装置請求の確認

「実費清算装置請求」を使用すると、請求可能装置リソースを確認し、請求レートを調整できます。

▶ 実費清算装置請求を確認するには:

1 「プロセスの更新」タスク・リストの下で、「プロジェクト収益」を起動します。

85 ページの「プロジェクト収益の確認(契約プロジェクトのみ)」を参照してください。

2 「実費清算装置請求」タブを選択します。

フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

3 「実費清算装置請求」タブから、ショートカット・メニューを使用して、装置収益の計算、およびプロジェクト収益の計算を行います。

- 89 ページの「装置収益の計算」を参照してください。

- 88 ページの「プロジェクト収益の計算」を参照してください。

装置収益の計算

このタスクでは、装置収益を計算します。装置収益は、装置の使用状況(装置の使用状況の値が使用されない場合は、装置単位)を乗算して計算されます(装置の使用状況 x 装置請求レート)。

▶ 装置収益を計算するには:

1 「実費清算装置請求」タブを選択します。

2 フォームを右クリックして、「装置収益の計算」を選択します。

3 「OK」をクリックします。

実費清算材料およびその他請求の確認

「実費清算材料およびその他請求」を使用すると、請求可能装置リソースを確認し、請求レートを調整できます。

▶ 実費清算材料およびその他請求を確認するには:

1 「プロセスの更新」タスク・リストの下で、「プロジェクト収益」を起動します。

85 ページの「プロジェクト収益の確認(契約プロジェクトのみ)」を参照してください。

2 「実費清算材料およびその他請求」タブを確認します。

フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

3 「実費清算材料およびその他請求」タブから、ショートカット・メニューを使用して、要件詳細の表示、材料収益の計算、およびプロジェクト収益の計算を行います。

- 90 ページの「要件詳細の表示」を参照してください。
- 90 ページの「材料収益の計算」を参照してください。
- 88 ページの「プロジェクト収益の計算」を参照してください。

要件詳細の表示

このタスクを使用してプロジェクトの材料要件を確認できます。

▶ 要件詳細を表示するには:

1 「プロセスの更新」タスク・リストの下で、「プロジェクト収益」を起動します。

85 ページの「プロジェクト収益の確認(契約プロジェクトのみ)」を参照してください。

2 「実費清算材料およびその他請求」タブを選択します。

3 フォームを右クリックして、「要件詳細の表示」を選択します。

4 「材料およびその他要件の詳細」フォームに要件が表示されます。

材料収益の計算

このタスクでは、材料収益を計算します。材料収益は、材料単位 x 材料当たりの請求レートで計算されます。

▶ 材料収益を計算するには:

1 「プロセスの更新」タスク・リストの下で、「プロジェクト収益」を起動します。

85 ページの「プロジェクト収益の確認(契約プロジェクトのみ)」を参照してください。

2 「実費清算材料およびその他請求」タブを選択します。

3 「請求 - 材料およびその他リソース」フォームを右クリックして、「材料収益の計算」を選択します。

4 「OK」をクリックします。

単価収益の確認

単価契約の場合、「単価収益」フォームで、販売ユニット数とユニット当たりの販売価格に基づいて収益を得るプロジェクトの収益仮定を定義できます。プロジェクト・マネージャは、収益仮定を確認、更新および追加できます。

▶ 単価収益仮定を確認するには:

- 1 「プロセスの更新」タスク・リストの下で、「プロジェクト収益」を起動します。
85 ページの「プロジェクト収益の確認(契約プロジェクトのみ)」を参照してください。
- 2 「単価収益」タブを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。
- 3 「単価収益」タブから、ショートカット・メニューを使用して、収益仮定の追加および削除、単価収益の計算、プロジェクト収益の計算を行います。
 - 91 ページの「収益仮定の追加」を参照してください。
 - 92 ページの「収益仮定の削除」を参照してください。
 - 92 ページの「単価収益の計算」を参照してください。
 - 88 ページの「プロジェクト収益の計算」を参照してください。

収益仮定の追加

このルールでは、契約で得る収益仮定を定義できます。単価メソッドの場合は、販売ユニットおよびユニット当たりの販売価格を定義する必要があります。契約の収益はユニット数 x 価格で計算されます。

▶ 収益仮定を追加するには:

- 1 「単価収益」フォームを開きます。
90 ページの「単価収益の確認」を参照してください。
- 2 フォームを右クリックして、「収益仮定の追加 - 単価」を選択します。
- 3 「収益仮定の追加」で、プロジェクトに適用可能な値を指定または選択します。
 - 「収益ソース・タイプ」 - 「メンテナンス」、「その他収益」または「売上収益」のいずれかのオプションから選択します。
 - 「収益ソース名」
 - 「収益単位」 - 収益要素の単位。
 - 「単価」 - 収益要素の単価。単価収益は、販売ユニット数 x 単価に基づいて計算されます。
 - 「販売ユニット数」 - 顧客に販売されたユニット数。収益は、販売ユニット数 x 単価に基づいて計算されます。
 - 「分散開始日」 / 「分散終了日」 (オプション) - スプレッド・ロジックの開始日および終了日。分散開始日と終了日が入力されない場合、かわりにプロジェクト開始日と終了日が使用されます。
 - 「スプレッド・ロジック」 - グリッド内で値を配賦する方法を決定するロジック:
 - 「入力」 - 入力された値を、グリッド内のすべてのセルにコピーします。たとえば、プロジェクトに 200 時間の値が入力されている場合、プロジェクトの開始日と終了日の間の各月の値は、200 に設定されます。

- 「均等分割 - 分散期間」 - 入力された値をすべてのグリッド・セル間で分割します。たとえば、プロジェクトに 200 時間の値が入力されている場合、200 は、開始日と終了日の間の月数に分割されます。
- 「均等分割 - 年次(12 分割)」 - 入力された値を 12 で分割(および最も近い整数に四捨五入)し、スプレッドの開始日と終了日の間のすべての月に入力します。

4 「OK」をクリックします。

収益仮定の削除

このルールを使用して、不要になった収益仮定や、間違っって追加された収益仮定を削除します。

▶ 収益仮定を削除するには:

1 「単価収益」フォームを開きます。

90 ページの「[単価収益の確認](#)」を参照してください。

2 収益仮定を右クリックして、「収益仮定の除去 - 単価」を選択します。

単価収益の計算

このタスクでは、定義済みのすべての仮定に基づいて、プロジェクトの収益を計算します。収益は、販売ユニット数 x ユニット当たりの価格で計算されます。収益は、契約条件で定義された収益認識に従って認識されます。

▶ 単価収益を計算するには:

1 「単価収益」フォームを開きます。

90 ページの「[単価収益の確認](#)」を参照してください。

2 フォームを右クリックして、「単価収益の計算」を選択します。

3 「OK」をクリックします。

原価加算収益の確認

原価加算契約の場合、「原価加算収益」フォームにプロジェクトの契約上の取決めが表示されます。原価加算マージン%は、詳細レベル(労務、装置および材料)で、または支出合計に対して定義できます。収益定義が支出合計に基づいている場合、Project Financial Planning では詳細レベルで仮定を作成できません。マージンは、必要に応じて月単位で定義できます。列を拡張して、期間のマージン%を上書きします。

原価加算仮定は、プロジェクト期間に対して定義されます。複合フォームの下部で、生成された収益を確認できます。

▶ 原価加算収益を確認するには:

1 「プロセスの更新」タスク・リストの下で、「プロジェクト収益」を起動します。

85 ページの「[プロジェクト収益の確認\(契約プロジェクトのみ\)](#)」を参照してください。

2 「原価加算収益」タブを確認します。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

3 「原価加算収益」タブから、ショートカット・メニューを使用して、収益仮定の追加および削除、原価加算収益の計算、会社間収益の計算、プロジェクト収益の計算を行います。

- [93 ページの「収益仮定の追加」](#)を参照してください。
- [93 ページの「収益仮定の削除」](#)を参照してください。
- [94 ページの「原価加算収益の計算」](#)を参照してください。
- [94 ページの「原価加算会社間収益の計算」](#)を参照してください。
- [88 ページの「プロジェクト収益の計算」](#)を参照してください。

収益仮定の追加

このタスクでは、原価加算収益仮定を追加できます。

注： 原価加算収益が支出合計に設定されている場合、Project Financial Planning では詳細レベル(労務、装置、材料)で仮定を作成できません。収益を得る方法を変更するには、促進要因を支出合計から詳細ライン・アイテムに変更し、詳細ライン・アイテムを追加します。

▶ 収益仮定を追加するには:

1 「原価加算収益」フォームを開きます。

[92 ページの「原価加算収益の確認」](#)を参照してください。

2 フォームを右クリックして、「収益仮定の追加 - 原価加算」を選択します。

3 「収益仮定の追加」で、プロジェクトに適用可能な値を指定または選択します。

- 「原価加算促進要因」 - マージンを適用する支出ベース。マージンは「労務支出」、「材料支出」、「装置支出」、「下請支出」に設定するか、「支出合計」の合計に適用できます。
- 「収益ソースの説明」(オプション)
- 「原価加算マージン%」 - 支出に適用するマージン%またはマークアップ。

4 「OK」をクリックします。

収益仮定の削除

このルールを使用して、不要になった収益仮定や、間違っって追加された仮定を削除します。

▶ 収益仮定を削除するには:

1 「原価加算収益」フォームを開きます。

[92 ページの「原価加算収益の確認」](#)を参照してください。

2 収益仮定を右クリックして、「収益仮定の削除」を選択します。

原価加算収益の計算

このタスクでは、指定された仮定に基づいてプロジェクト収益を計算します。収益は、詳細(労務、装置、材料)またはプロジェクト期間の支出合計から計算されます。勘定科目は、次のとおりです:

- 請求可能労務支出
- 請求不可労務支出
- 請求可能装置支出
- 請求不可装置支出
- 請求可能材料支出
- 請求不可材料支出

原価加算収益を計算する場合、この計算には、請求可能費用のみが含まれます。請求不可支出は計算から除外されます。

たとえば、請求可能労務支出 x (1+マージン%) または 支出合計 x (1+マージン%) (プロジェクト期間の) のように計算されます。

支出に収益仮定が指定されていない場合は、費用(マージンが 0%) に指定されているものとして処理されます。

▶ 原価加算収益を計算するには:

- 1 「原価加算収益」フォームを開きます。
92 ページの「[原価加算収益の確認](#)」を参照してください。
- 2 フォームを右クリックして、「原価加算収益の計算」を選択します。
- 3 「OK」をクリックします。

原価加算会社間収益の計算

このタスクでは、組織がサービス・プロバイダとなっているプロジェクトの会社間収益を計算します。原価加算マージンに基づいて、サービス・プロバイダの収益を記録します。原価加算マージン率を 94 ページの「[原価加算収益の計算](#)」に説明されているとおりに入力します。ただし、収益を導出するには、この計算を実行する必要があります。

▶ 原価加算会社間収益を計算するには:

- 1 「原価加算収益」フォームを開きます。
92 ページの「[原価加算収益の確認](#)」を参照してください。
- 2 フォームを右クリックして、「会社間収益の計算」を選択します。
- 3 「OK」をクリックします。

直接収益の確認

「直接収益」フォームを使用して、プロジェクトで生成される予定だが、他の方法ではカバーされないその他のすべての収益を入力します。

また、Project Financial Planning では、2つの方法でプロジェクト・データをアプリケーションに取り込むことができます。1つめの方法では、ルールを使用する詳細プランニングを実行してデータを追加できます。もう1つの方法では、ソース・システムからデータをインポートしてから、Project Financial Planning を使用してプロジェクトを連結できます。インポート方法を使用する場合、プロジェクト収益はこのフォームに表示されます。

▶ 直接収益を確認するには:

- 1 「プロセスの更新」タスク・リストの下で、「プロジェクト収益」を起動します。
85 ページの「プロジェクト収益の確認(契約プロジェクトのみ)」を参照してください。
- 2 「直接収益」タブを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。
- 3 「直接収益」タブから、ショートカット・メニューを使用して、直接収益の計算およびプロジェクト収益の計算を行います。
 - 94 ページの「原価加算収益の計算」を参照してください。
 - 88 ページの「プロジェクト収益の計算」を参照してください。

直接収益の計算

「直接収益」フォームに収益仮定を入力した後、収益を計算し、計算した値を「直接収益の確認」フォームで確認できます。

▶ 直接収益を計算するには:

- 1 「直接収益」フォームを開きます。
94 ページの「直接収益の確認」を参照してください。
- 2 フォームを右クリックして、「直接収益の計算」を選択します。
- 3 「OK」をクリックします。
- 4 計算した値を「直接収益の確認」フォームで確認します。
96 ページの「直接収益の確認」を参照してください。

収益認識マイルストーンの確認

契約プロジェクトの場合、完了比率に基づいて収益認識を指定できます。これを実行するために、Project Financial Planning には、2つの収益認識タイプが用意されています:

- %期間
- %計画済支出

「収益認識マイルストーン」フォームでは、収益認識マイルストーンを定義します。収益は、各マイルストーンに達した際に認識されます。たとえば、24か月のプロジェクトの収益認識が「%期間」として定義されており、マイルストーンが「マイルストーン1 - 20%」、「マイルストーン2 - 50%」などのように定義されてい

る場合、収益は、各マイルストーン(5番目の月、12番目の月など)に達した際に認識されます。同様に、計画済支出合計が\$1,000,000のプロジェクトの収益認識が「%計画済支出」として定義されており、マイルストーンが「マイルストーン1-20%」、「マイルストーン2-50%」などのように定義されている場合、収益は、各マイルストーン(プロジェクト支出が\$200,000、\$500,000などである月)に達した際に認識されます。

「収益合計の確認」フォームの「収益認識インジケータ」には、収益がいつ認識されるかが表示されます。

▶ 収益認識マイルストーンを確認するには:

- 1 「プロセスの更新」タスク・リストの下で、「プロジェクト収益」を起動します。
85 ページの「プロジェクト収益の確認(契約プロジェクトのみ)」を参照してください。
- 2 「収益認識マイルストーン」タブを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。
- 3 「収益認識マイルストーン」タブから、ショートカット・メニューを使用して、プロジェクト収益を計算します。
88 ページの「プロジェクト収益の計算」を参照してください。

収益合計の確認

収益仮定を入力した後、このフォームを使用して、プロジェクトの収益を確認します。

- 96 ページの「収益合計の確認」を参照してください。
- 96 ページの「直接収益の確認」を参照してください。

収益合計の確認

「収益合計の確認」タブから、プロジェクト・マネージャは、プロジェクト収益の要約を確認できます。

▶ 既存のプロジェクトの収益合計を確認するには:

- 1 「プロセスの更新」タスク・リストの下で、「プロジェクト収益」を起動します。
85 ページの「プロジェクト収益の確認(契約プロジェクトのみ)」を参照してください。
- 2 「プラン・プロジェクト収益」フォームの下部で「収益合計の確認」タブを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

直接収益の確認

「収益合計の確認」タブから、プロジェクト・マネージャは、「直接収益」フォームで定義した仮定に基づいて計算した収益を確認できます。

▶ 既存のプロジェクトの直接収益を確認するには:

- 1 「プロセスの更新」タスク・リストの下で、「プロジェクト収益」を起動します。
85 ページの「プロジェクト収益の確認(契約プロジェクトのみ)」を参照してください。
- 2 「プラン・プロジェクト収益」フォームの下部で「直接収益の確認」タブを確認します。

フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

プロジェクトの確認

すべての収益と支出を入力して計算した後、プロジェクトの財務諸表を表示できます。この手順は、承認を得るためにプロジェクトを送信する前に行う必要があります。プロジェクトの確認は、財務諸表を計算することから始まります。財務諸表を計算した後、キャッシュ・フローおよび損益計算書へのプロジェクトの影響を確認できます。次に、資金調達の要求を行うことができます。

- 97 ページの「財務諸表の計算」を参照してください。
- 98 ページの「プロジェクトのパフォーマンスの確認」を参照してください。

財務諸表の計算

このステップでは、プロジェクトの財務諸表を計算します。プロジェクトのキャッシュ・フロー、税金および KPI を計算します。財務諸表に完全かつ正確なデータを表示するには、この計算を実行する必要があります。

▶ 財務諸表を計算するには:

- 1 「既存のプロジェクトの管理」タスク・リストの下で、「プロジェクトの確認」を展開します。
62 ページの「「既存のプロジェクトの管理」タスク・リストの表示」を参照してください。
- 2 「財務諸表の計算」を起動します。
- 3 CalculateFinancialStatements ビジネス・ルールを「起動」します。
- 4 「CalculateFinancialStatements」で、プロジェクトに適用可能な値を指定または選択します。

実行時プロンプト要素の定義は、用語集を参照してください。

注： ランタイム・プロンプト値ファイルの作成に関する情報を使用できるように、CalcMgrCmdLineLauncher.cmd ユーティリティを使用して、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。

- 5 「起動」をクリックします。

注： このタスクは、プロジェクトごとに個別に実行する必要があります。プロジェクト次元の親レベル・メンバーに対して、財務諸表を計算することはできません。

プロジェクトのパフォーマンスの確認

「プロジェクトのパフォーマンスの確認」複合フォームを使用すると、プロジェクトのパフォーマンス要約および詳細情報を表示できます。

▶ プロジェクトのパフォーマンスを確認するには:

- 1 「既存のプロジェクトの管理」タスク・リストの下で、「プロジェクトの確認」を展開します。

62 ページの「[既存のプロジェクトの管理](#)」タスク・リストの表示」を参照してください。

- 2 「プロジェクトのパフォーマンスの確認」を起動します。

98 ページの「[プロジェクトのパフォーマンス要約の表示](#)」を参照してください。

99 ページの「[プロジェクトのパフォーマンス詳細の表示](#)」を参照してください。

プロジェクトのパフォーマンス要約の表示

「プロジェクトのパフォーマンスの確認」フォームの上部を使用して、プロジェクトのパフォーマンス、プロジェクトのグローバル割引率および税率を表示できます。

- 98 ページの「[プロジェクトのパフォーマンスの表示](#)」を参照してください。
- 99 ページの「[グローバル割引率および税率の表示](#)」を参照してください。

プロジェクトのパフォーマンスの表示

このタスクでは、プロジェクト KPI およびキャッシュ・フロー/損益計算書の影響を確認できます。

▶ プロジェクトのパフォーマンスを確認するには:

- 1 「プロジェクトのパフォーマンスの確認」を起動します。

98 ページの「[プロジェクトのパフォーマンスの確認](#)」を参照してください。

- 2 「プロジェクトのパフォーマンスの確認」複合フォームで、「プロジェクトのパフォーマンス」タブを選択します。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

- 3 「プロジェクトのパフォーマンス」タブから、ショートカット・メニューを使用して、プロジェクトを計算します。

グローバル割引率および税率の表示

このタスクを使用すると、割引率および税率仮定を確認し、必要に応じて、プロジェクト・メトリックを計算する前にこれらを変更できます。

▶ グローバル割引率および税率を表示するには:

1 「プロジェクトのパフォーマンスの確認」を起動します。

98 ページの「プロジェクトのパフォーマンスの確認」を参照してください。

2 「プロジェクトのパフォーマンスの確認」複合フォームで、「グローバル割引率および税率」タブを選択します。

フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

3 「グローバル割引率および税率」タブから、ショートカット・メニューを使用して、プロジェクトを計算します。

プロジェクトのパフォーマンス詳細の表示

「プロジェクトのパフォーマンスの確認」複合フォームの下部を使用して、存続期間 KPI を確認し、キャッシュ・フローおよび損益計算書へのプロジェクトの影響を確認できます。

- 99 ページの「存続期間 KPI の確認」を参照してください。
- 100 ページの「キャッシュ・フローへのプロジェクトの影響の確認」を参照してください。
- 100 ページの「損益計算書へのプロジェクトの影響の確認」を参照してください。

存続期間 KPI の確認

プロジェクトのキー・パフォーマンス・インディケータ(KPI)を確認できます。KPI には、年単位ものや、プロジェクトの最初から最後までをベースにしたものがあります。エンティティで定義された割引率および税率のプロジェクト・レベルのデフォルト値を確認し、必要な変更を加えます。

▶ プロジェクト KPI を確認するには:

1 「プロジェクトのパフォーマンスの確認」を起動します。

98 ページの「プロジェクトのパフォーマンスの確認」を参照してください。

2 「プロジェクトのパフォーマンスの確認」複合フォームで、「存続期間 KPI の確認」タブを選択します。

フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

3 「存続期間 KPI の確認」タブから、ショートカット・メニューを使用して、企業目標の確認およびプロジェクト・メトリックの計算を行います。

- 100 ページの「企業目標の確認」を参照してください。
- 100 ページの「プロジェクト・メトリックの計算」を参照してください。

企業目標の確認

このタスクでは、プロジェクトの KPI を企業目標と比較できるため、プロジェクトが経営陣の期待を満たしているかどうかを判別できます。

▶ 企業目標を確認するには:

- 1 「存続期間 KPI の確認」複合フォームを起動します。
99 ページの「存続期間 KPI の確認」を参照してください。
- 2 フォームを右クリックして、「企業目標の確認」を選択します。
- 3 「KPI 限度の確認」フォームを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

プロジェクト・メトリックの計算

このルールでは、プロジェクトのすべての KPI および年次パフォーマンス・インジケータを計算します。

▶ プロジェクト・メトリックを計算するには:

- 1 「存続期間 KPI の確認」複合フォームを起動します。
99 ページの「存続期間 KPI の確認」を参照してください。
- 2 フォームを右クリックして、「プロジェクト・メトリックの計算」を選択します。
- 3 「OK」をクリックします。

キャッシュ・フローへのプロジェクトの影響の確認

このフォームは、支出と収益を使用するプロジェクトのキャッシュ・フローへの影響の確認に役立ちます。

▶ キャッシュ・フローへのプロジェクトの影響を確認するには:

- 1 「プロジェクトのパフォーマンスの確認」を起動します。
98 ページの「プロジェクトのパフォーマンスの確認」を参照してください。
- 2 「プロジェクトのパフォーマンスの確認」複合フォームで、「影響の確認 - キャッシュ・フロー」タブを選択します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。
- 3 「影響の確認 - キャッシュ・フロー」タブから、ショートカット・メニューを使用して、プロジェクトを計算します。

損益計算書へのプロジェクトの影響の確認

この手順は、支出と収益を使用するプロジェクトの損益計算書への影響の確認に役立ちます。

▶ プロジェクトの財務諸表への影響を確認するには:

1 「プロジェクトのパフォーマンスの確認」を起動します。

98 ページの「プロジェクトのパフォーマンスの確認」を参照してください。

2 「プロジェクトのパフォーマンスの確認」複合フォームで、「影響の確認 - 損益計算書」タブを選択します。

フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

3 「影響の確認 - 損益計算書」タブから、ショートカット・メニューを使用して、プロジェクトを計算します。

プロジェクト資金調達の確認

サブトピック

- [プロジェクト資金調達について](#)
- [プロジェクトの資金調達プロセス](#)
- [資金調達要求の変更](#)

プロジェクト資金調達について

プロジェクトにかかった支出を相殺するには、資金調達が必要です。一般に、収益の源泉はプロジェクト・サイクルの後期に来るため、プロジェクトの開始時により多くの資金調達が必要になります。一部の支出の資金調達はプロジェクト収益から行われますが、残りの支出は他のソースから資金調達する必要があります。プロジェクト・マネージャは財務部門に資金調達を要求する必要があり、財務マネージャによって資金調達要求が承認されたら、資金配賦の詳細を確認できます。

プロジェクトの資金調達プロセス

プロジェクトの支出をプランニング後、プロジェクト・マネージャは資金調達を要求できます。プロジェクト・マネージャはプロジェクトに必要な資金調達を決定して、資金調達要求を作成します。Project Financial Planning に用意されている資金調達要求フォームおよび事前定義のビジネス・ルールを使用して、プロジェクト・マネージャは資金調達要求を作成できます。要求が作成されたら、承認を得るために財務マネージャに送信されます。資金調達要求が承認されたら、プロジェクトに資金のソース、資本コスト詳細、資金調達タイムラインを割り当てることができます。これは、プロジェクトに配賦する資本コスト(支払利息)の計算に役立ちます。

資金調達要求の変更

理由を使用して、必要に応じてプロジェクトのライフサイクルを通してプロジェクトの資金調達を要求できます。

▶ 資金調達要求を変更するには:

- 1 「既存のプロジェクトの管理」タスク・リストの下で、「プロジェクト資金調達」を起動します。
62 ページの「[既存のプロジェクトの管理](#)」タスク・リストの表示」を参照してください。
- 2 「プロジェクト資金調達の確認」マスター詳細フォームを確認します。
フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。
- 3 フォーム上部の「資金要求」領域から、ショートカット・メニューを使用して、資金要求の追加および取消しを行います。
 - 102 ページの「[新規資金要求の追加](#)」を参照してください。
 - 103 ページの「[資金要求の取消し](#)」を参照してください。
- 4 フォーム下部の「資金配賦の確認」領域から、配賦済資金と支払利息の確認、およびキャッシュ・フローへの影響の確認を行うことができます。
 - 103 ページの「[配賦済資金の確認](#)」を参照してください。
 - 103 ページの「[支払利息の確認](#)」を参照してください。
 - 104 ページの「[キャッシュ・フローへの影響の確認](#)」を参照してください。

新規資金要求の追加

このタスクでは、プロジェクトの資金を要求できます。プロジェクトのすべての金融債務を決済するために追加資金が必要な期間に対して、資金調達要求額を入力します。

▶ 資金を要求するには:

- 1 「プロジェクト資金調達の確認」複合フォームを開きます。
101 ページの「[資金調達要求の変更](#)」を参照してください。
- 2 上部の「資金要求」フォームを右クリックして、「新規資金要求の追加」を選択します。
- 3 「新規資金要求の追加」で、プロジェクトに適用可能な値を指定または選択します:
 - 「月」/「年」 - 一括払い要求の場合、要求の月と年を指定します。資金調達が定期的に必要な場合、単一の月と年を入力した後、必要に応じて追加の月を入力します。
 - 「資金調達要求タイプ」 - タイプを選択します:
 - 「初期要求」 - 初期資金調達要求かどうかを選択します
 - 「変更の要求」 - 資金調達の既存の要求を変更するかどうかを選択します
 - 「規格外」 - 資金調達が、提供される製品またはサービスに不足があるためであるかどうかを選択します
 - 「資金調達コメント」(オプション)

- 「要求額」 - 要求している資金額。

4 「OK」をクリックします。

資金要求の取消し

このタスクを使用して、資金調達要求を取り消します。

▶ 資金要求を取り消すには:

- 1 「プロジェクト資金調達の確認」複合フォームを開きます。
101 ページの「資金調達要求の変更」を参照してください。
- 2 上部の「資金要求」フォームで、要求を右クリックします。
- 3 「資金要求の取消し」を選択します。

配賦済資金の確認

プロジェクトについて、要求された資金調達の全額を承認することも、一部のみを資金調達することもできます。さらに、会社がプロジェクト用に外部融資を獲得する場合は、これらの資金を各プロジェクトに配賦する方法も確認できます。「資金配賦の確認」フォームでは、プロジェクトの配賦済資金および資金のソース、資金タイムライン、資金コスト、および返済頻度を確認できます。財務ラウンドごとに条件(利率など)が異なるため、プロジェクトに与える影響は資金調達ラウンドごとに異なります。

▶ 配賦済資金を確認するには:

- 1 「プロジェクト資金調達の確認」複合フォームを開きます。
101 ページの「資金調達要求の変更」を参照してください。
- 2 フォームのタブ領域から、「資金配賦の確認」タブを選択します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

支払利息の確認

「支払利息」フォームを使用すると、プロジェクトに割り当てられた資金調達および支払利息の影響を確認できます。

▶ 支払利息を確認するには:

- 1 「プロジェクト資金調達の確認」複合フォームを開きます。
101 ページの「資金調達要求の変更」を参照してください。
- 2 フォームのタブ領域から、「支払利息」タブを選択します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

キャッシュ・フローへの影響の確認

財務部門のマネージャは、プロジェクトのキャッシュ・フロー計算書を確認することによってプロジェクトの資金調達に関する決定を下すことができます。

▶ キャッシュ・フローへの影響を確認するには:

- 1 「プロジェクト資金調達の確認」複合フォームを開きます。
101 ページの「資金調達要求の変更」を参照してください。
- 2 フォームのタブ領域から、「キャッシュ・フローへの影響の確認」タブを選択します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。
- 3 ショートカットメニューを使用してプロジェクトを計算します。

承認のためのプランの送信

プロジェクトのタスクを完了し、財務諸表と要求された資金調達を確認した後、承認のためにプランを他のユーザーに移動できます。「承認のためにプランを送信」ページに移動し、プランニング・ユニットを開始または上位へ移動します。プランニング・ユニットを上位へ移動した後、その新しい所有者は書き込めませんが(所有者に書込みアクセス権があると仮定した場合)、プランニング・ユニットに書込みできなくなります。プランニング・ユニットの上位への移動の詳細は、Oracle Hyperion Planning User's Guide のプランニング・ユニットの管理に関する章を参照してください。

5

新規プロジェクトの提案

この章の内容

情報	105
プロセス	106
新規プロジェクトのタスク・リストの提案のタスク	107
「新規プロジェクトの提案」タスク・リストの表示	108
新規プロジェクトの詳細の入力	108
支出プランニングの実行	115
収益プランニングの実行(契約プロジェクトのみ)	115
資本プロジェクトの収益促進要因の実行	116
プロジェクト収益の計算	117
プロジェクト財務の確認	118
プロジェクト資金調達の確認	119
承認のためのプランの送信	120

情報

サブトピック

- [資本プロジェクトについて](#)
- [契約プロジェクトについて](#)
- [間接プロジェクトについて](#)

資本プロジェクトについて

資本プロジェクトは、新しい会社資産が作成される、資本集約型の長期のプロジェクトです。典型的な資本プロジェクトの例として、製造設備、新しい装置、石油掘削施設の建設などがあげられます。Project Financial Planning では、資産の構築のためにエンティティで発生した支出を追跡し、発生した支出を資産計上可能と識別することで支出を資産計上し、資産価値を検証できるようにします。この機能により、ユーザーはモジュールで資本プロジェクトを作成し、作成している資産の資金調達要件とともに支出をプランニングできます。

契約プロジェクトについて

契約プロジェクトは顧客に対して実行される作業で、顧客は企業に払戻しを行います。契約プロジェクトでは、基礎となる契約に基づいて、支出と収益が発生し

ます。契約プロジェクトの支出、収益および請求を、クライアントが実行および払戻しを行うサービス用にすることができます。Project Financial Planning では、次のタイプの契約プロジェクトをサポートしています。

- 実費清算 - 実行されたすべての作業時間、資産支出、発生したすべての直接支出、およびプロジェクトの提供中に購入された材料が、顧客に請求されるプロジェクト請求タイプです。実費清算の配置例は、通常、建設業界、請負業者、コンサルティング会社などに見られます。
- 原価加算 - ジョブの完了に必要な支出(材料や労務など)プラス付加的な支払(マージン)に基づいて、ジョブに対する支払を会社に行う契約です。異なる支出に異なる原価加算のマージンを設定できます(たとえば、労務、材料および装置に異なるマージンを設定します)。
- 固定価格 - 契約上実行された作業について、一連のネゴシエートされた価格が顧客に請求されるプロジェクト請求タイプです。この契約タイプは、すべての費用と結果として生じる利益や損失に対して、請負業者が最大のリスクと完全な責任を負って配置されます。
- その他 - 複雑な契約条件の場合に使用できるプロジェクト請求タイプです。たとえば、実費清算または原価加算でも請求される、プロジェクトの一部として提供されるサービスについて、顧客が固定価格を請求されることがあります。

間接プロジェクトについて

間接プロジェクトは、管理プロジェクトとも呼ばれます。コスト・インパクトはありますが、収益は発生しません。たとえば、人事チーム向けの、従業員の個人情報を追跡するためのソリューション/ポータルを作成する IT プロジェクトは、間接プロジェクトです。プロジェクトが間接として分類される場合、プロジェクトの支出予算策定のみを行うことができます。間接プロジェクトの収益予算策定を行うことはできません。

プロセス

サブトピック

- [新規資本プロジェクトを提案するプロセス](#)
- [新規契約プロジェクトを提案するためのプロセス](#)
- [新規間接プロジェクトを提案するプロセス](#)

新規プロジェクトを提案するプロセスは、次のセクションで説明するいくつかの違いを除いて、どのプロジェクト・タイプでも同じです。

新規資本プロジェクトを提案するプロセス

プロジェクトの追加後、労務、資産、材料およびその他支出をプランニングできます。各支出ライン・アイテムは、資産計上可能または資産計上不可とタグ付けできます。資産計上可能支出はすべて、作成される各資産の資産価値として追跡されます。

資本プロジェクトを追加する際、このルールによって CIP 資産も作成され、すべての資産詳細がライン・アイテムに移入されます。資産レートには、資本プロジェクトの最後に全体的な資産価値が含まれます。資本プロジェクト内の費用エスカレーションまたは遅延は、すべて資産レート内に自動的に反映されます。減価償却または償却の詳細、および固定資産関連の支出詳細は、収益のソースの下に割り当てられます。

新規契約プロジェクトを提案するためのプロセス

新規契約プロジェクトを作成する際、プロジェクト・マネージャはまずプランニングする契約のタイプ(実費清算、原価加算または単価)を選択する必要があります。プロジェクト・マネージャはプロジェクト提案を作成して、プロジェクト・タイプ、プロジェクト開始日および終了日、プロジェクトの場所、プロジェクト・マネージャなどの基本的なプロジェクト情報を指定します。プロジェクトが作成されたら、プロジェクト・マネージャは財務プランの作成を開始できます。まず、労務リソースの割当ておよび労務支出のプランニングから開始します。労務が完了したら、プロジェクトの実行に必要な装置を定義して、支出に関する作業を続けることができます。その後、材料、下請業者など、その他のタイプの支出をプランニングできます。契約プロジェクトの場合、労務、装置および材料の請求レートを定義する必要があります。収益と支出をプランニングしたら、プロジェクトの財務諸表を確認して、プロジェクトのサポートに必要な資金調達を要求できます。プロジェクトのプランに問題がない場合、プロジェクト・マネージャは承認を得るためにプロジェクトを移行できます。

新規間接プロジェクトを提案するプロセス

新規間接プロジェクトを作成する際、プロジェクト・マネージャは新規プロジェクト提案を作成して、プロジェクト・タイプ、プロジェクト開始日および終了日、プロジェクトの場所、プロジェクト・マネージャなどの基本的なプロジェクト情報を指定します。プロジェクトが作成されたら、プロジェクト・マネージャは財務プランの作成を開始できます。まず、労務リソースの割当ておよび労務支出のプランニングから開始します。労務が完了したら、プロジェクトの実行に必要な装置を定義して、支出に関する作業を続けることができます。その後、材料、下請業者など、その他のタイプの支出をプランニングできます。支出をプランニングしたら、プロジェクトの財務諸表を確認して、プロジェクトのサポートに必要な資金調達を要求できます。プロジェクトのプランに問題がない場合、プロジェクト・マネージャは承認を得るためにプロジェクトを移行できます。

新規プロジェクトのタスク・リストの提案のタスク

1. プロジェクトを作成して、新規プロジェクト仮定や補足情報などの、新規プロジェクトの詳細を入力します。

108 ページの「[新規プロジェクトの詳細の入力](#)」を参照してください。

2. 支出プランニングを実行します。労務リソース、プロジェクト装置、材料およびその他要件の追加、直接プロジェクト支出の入力、プロジェクトへの諸

経費の適用、間接、一般および管理配賦済支出の確認、支出合計の確認などを行います。

115 ページの「支出プランニングの実行」を参照してください。

3. 契約プロジェクトの場合のみ、収益プランニングを実行します。収益促進要因の入力、直接プロジェクト収益の入力などを行います。

115 ページの「収益プランニングの実行(契約プロジェクトのみ)」を参照してください。

4. プロジェクトの財務を確認します。財務諸表の計算、プロジェクトの財務諸表への影響の確認、プロジェクト KPI の確認、プロジェクトの理由詳細の提供、プロジェクト・スコアの確認などを行います。

118 ページの「プロジェクト財務の確認」を参照してください。

5. プロジェクトの資金調達を要求して、配賦済資金を確認します。

119 ページの「プロジェクト資金調達の確認」を参照してください。

6. 承認のためにプランを送信します。

120 ページの「承認のためのプランの送信」を参照してください。

「新規プロジェクトの提案」タスク・リストの表示

Project Financial Planning には、新規プロジェクトを提案するために1つのタスク・リストが用意されています。


▶ プロジェクト提案タスク・リストを表示するには:

- 1 Project Financial Planning を起動します。

39 ページの「Project Financial Planning へのログオンおよびアクセス」を参照してください。

- 2 「表示」、「タスク・リスト」、「タスク・リスト」の順に選択します。

- 3 「新規プロジェクトの提案」を展開します。

- 4 タスク・リストからタスクを起動するには、タスクの右にある「タスク・リスト・ウィザードの起動」をクリックします。

新規プロジェクトの詳細の入力

プロジェクト・マネージャはプロジェクト提案タスク・リストの「新規プロジェクトの詳細の入力」タスクを起動して、プロジェクトを提案できます。次に、収益、支出および資金調達要求などの提案済プロジェクト予算を策定できます。「新規プロジェクトの提案」フォームでは、プロジェクト・タイプ、プロジェクト開始日および終了日、プロジェクトの場所、プロジェクト・マネージャなどの基本的なプロジェクト情報を収集します。必要に応じて、アプリケーションにプロパティを追加できます。

「新規プロジェクトの提案」複合フォームでは、新規プロジェクト仮定や補足情報など新規プロジェクトの詳細を確認できます。このフォームでは、システムへのプロジェクトの追加、プロジェクトの削除、および既存のプロジェクトにあわせた新規プロジェクトの調整を行うこともできます。

注： 新規プロジェクトの詳細は、「新規プロジェクトの提案」には直接入力しません。詳細は、プロジェクト追加機能を使用して新規プロジェクトを作成する際、またはソース・システムからプロジェクト・プロパティをインポートする際に追加します。

プロジェクトを作成したら、収益、支出、資本などをプランニングできます。

▶ プロジェクトを作成するには:

1 「新規プロジェクトの提案」タスク・リストの下で、「新規プロジェクトの詳細の入力」を起動します。

108 ページの「[「新規プロジェクトの提案」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

2 「新規プロジェクトの提案」フォームを確認します。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

3 フォームの「新規プロジェクト要約」領域から、ショートカット・メニューを使用して、プロジェクトの追加および削除、プロジェクトの調整、プロジェクト・ステータスの変更、プロジェクトの移動、支出および収益プランニングの実行、プロジェクト財務の確認、プロジェクト資金調達の確認、承認のためのプランの送信を行います。

- 109 ページの「[プロジェクトの追加](#)」を参照してください。
- 111 ページの「[プロジェクトの削除](#)」を参照してください。
- 112 ページの「[プロジェクトの調整](#)」を参照してください。
- 112 ページの「[プロジェクト日付の変更](#)」を参照してください。
- 113 ページの「[プロジェクト・ステータスの変更](#)」を参照してください。
- 114 ページの「[プロジェクトの移動](#)」を参照してください。
- 115 ページの「[支出プランニングの実行](#)」を参照してください。
- 115 ページの「[収益プランニングの実行\(契約プロジェクトのみ\)](#)」を参照してください。
- 118 ページの「[プロジェクト財務の確認](#)」を参照してください。
- 119 ページの「[プロジェクト資金調達の確認](#)」を参照してください。
- 120 ページの「[承認のためのプランの送信](#)」を参照してください。

プロジェクトの追加

プロジェクトの追加では、エンティティ全体における最初の空のライン・アイテムにプロジェクトを追加します。

▶ プロジェクトを追加するには:

1 「新規プロジェクトの提案」フォームを起動します。

108 ページの「新規プロジェクトの詳細の入力」を参照してください。

2 フォームの「新規プロジェクト要約」領域を右クリックし、「新規プロジェクトの追加」を選択し、オプションを選択します:

- 「新規資本プロジェクトの追加」
- 「新規契約プロジェクトの追加」
- 「新規間接プロジェクトの追加」

3 「プロジェクトの追加」で、次の設定を指定または選択します:

注: 表示されるオプションはプロジェクト・タイプによって異なります。

- 「プロジェクト名」 - 新規プロジェクトがプロジェクト次元に追加され、フォームに名前が表示されます。「プロジェクト名」がすでに存在する場合は、別の「プロジェクト名」を入力するよう求めるプロンプトが表示されます。
- 「説明」(オプション)
- 「プロジェクト・カテゴリ」 - 間接プロジェクトの場合、プロジェクトを年1回終了、正当化または承認する必要がある場合は「会計年度別年次」、プロジェクトを毎年継続できる場合は「複数年」を選択します。
- 「プロジェクト開始日」 / 「プロジェクト終了日」 - プロジェクトの開始日と終了日
- 「プロジェクト・マネージャ」 - マネージャの事前定義リストから選択します。
- 「プロジェクトの場所」 - 場所の事前定義リストから選択します。
- 「プロジェクト優先度」(オプション) - 「高」、「中」または「低」を選択します
- 「収益(Y/N)」 - 「はい」または「いいえ」を選択します。資本プロジェクトにのみ適用できます。
- 「使用開始日」 - 資本プロジェクトの場合、資産が**使用される**日付を入力します。この日付は、プロジェクトの終了日より後の日付にする必要があります(少なくとも次のカレンダー月以降)。
- 「資産名」 - 資本プロジェクトの資産名を入力します。
- 「資産クラス」 - 資産が属する資産クラスを選択します(例: 有形資産または無形資産)。
- 「プロジェクト・タイプ」 - 契約プロジェクトの場合、「実費清算」、「原価加算」、「固定価格」または「その他」を選択します。
説明については、19 ページの「契約」を参照してください。
- 「収益キャッシュ・フロー発生」 - 契約プロジェクトの場合、収益から現金を回収する方法を示します(顧客は前払いするのか、同月に払うのか、翌

月に払うのかなど)。選択肢は「2 か月前」、「1 か月前」、「同月」、「翌月」、「2 か月後」、「3 か月後」または「4 か月後」です。ここでの選択内容は、キャッシュ・フロー計算書に直接影響を及ぼします。同月を選択した場合、キャッシュ・フロー計算書には、同じ期間の契約収益の金額に、顧客からのキャッシュ・インフローが表示されます。翌月を選択した場合、キャッシュ・フロー計算書には、1 か月遅れで、顧客からのキャッシュ・インフローが表示されます。同様に、2 か月後を選択すると、2 か月遅れになります。

- 「収益認識」 - 契約プロジェクトの場合、収益がいつ認識されるかを示します。選択肢は「月次」(デフォルト)、「四半期ごと」、「半年ごと」、「完了後」、「請求時」、「%期間」または「%計画済支出」です。デフォルトは月次で、この場合、作業が実行された月に収益が認識されます。「四半期ごと」を選択した場合、収益は各契約四半期の最終月に認識されます。「半年ごと」を選択した場合、収益は契約の6 か月目と12 か月目に認識されます。「完了後」を選択した場合、収益は契約の最終月の後に認識されます。マイルストーンに到達したときのみ収益を認識できる場合、または事前定義済のタイム・フレームがない場合は、「請求時」を選択します。

完了率に基づく収益認識の詳細は、[95 ページの「収益認識マイルストーンの確認」](#)を参照してください。

- 「残存価額」 - 除・売却時の資産の価値。

4 「追加」をクリックします。

注： プロジェクトの追加ルールの実行後、新規プロジェクトがプロジェクト次元に追加され、フォームにプロジェクト名が表示されます。

プロジェクトの削除

このルールを使用して、不要になったプロジェクトや、間違っって追加されたプロジェクトを削除します。

▶ プロジェクトを削除するには:

1 「新規プロジェクトの提案」フォームを起動します。

[108 ページの「新規プロジェクトの詳細の入力」](#)を参照してください。

2 フォーム上のプロジェクトを右クリックし、「プロジェクトの削除」を選択し、オプションを選択します:

- 「資本プロジェクトの削除」
- 「契約プロジェクトの削除」
- 「間接プロジェクトの削除」

3 「OK」をクリックします。

注： プロジェクトの削除ルールの実行後、プロジェクト次元から名前付きプロジェクトが削除されます。

プロジェクトの調整

プロジェクトの調整では、新規プロジェクトを既存のプロジェクトに移動します。ソース・プロジェクトのデータは同じエンティティの既存のプロジェクトに移動され、その後、ソース・プロジェクトはアプリケーションから削除されます。プロジェクトに正しいプロジェクト番号が割り当てられると、プロジェクト・データは契約プロジェクト1などの一時プロジェクトから既存のプロジェクト番号に移動されます。

▶ プロジェクトを調整するには:

- 1 「新規プロジェクトの提案」フォームを起動します。
108 ページの「新規プロジェクトの詳細の入力」を参照してください。
- 2 フォームを右クリックし、「プロジェクトの調整」を選択し、オプションを選択します:
 - 「契約プロジェクトの調整」
 - 「資本プロジェクトの調整」
 - 「間接プロジェクトの調整」
- 3 「プロジェクトの調整」で、プロジェクトに適用可能な設定を指定または選択します:
 - 「ソース新規プロジェクト」 - 新規プロジェクト。
 - 「宛先の既存プロジェクト」 - 既存プロジェクト。
- 4 「調整」をクリックします。

注: プロジェクトの調整ルールの実行後、プロジェクト次元から新規プロジェクトが削除されます。

プロジェクト日付の変更

このタスク・リストを使用すると、プロジェクトの開始日を1月以上ずつ前後に移動できます。Project Financial Planning では、新規プロジェクトと既存のプロジェクトの両方の終了日を変更できます。たとえば、Project Financial Planning で EVM 分析を実行した際にプロジェクトが遅延していることを示す情報が表示された後、プロジェクトの終了日を変更できます。

▶ プロジェクト日付を変更するには:

- 1 「新規プロジェクトの提案」タスク・リストの下で、「新規プロジェクトの詳細の入力」を起動します。
108 ページの「新規プロジェクトの詳細の入力」を参照してください。
- 2 フォーム上のプロジェクトを右クリックし、「プロジェクト日付の変更」を選択し、オプションを選択します:
 - プロジェクト開始日のシフト
 - 前の開始日に戻る

- プロジェクト終了日の変更

3 「プロジェクト開始日のシフト」を選択する場合、「実行時プロンプト」ダイアログ・ボックスに次の詳細を入力します:

1. 「プロジェクトの選択」で、メンバー・セレクタ・アイコンを使用してプロジェクトを選択します。
2. 「プロジェクト開始日のシフト」で、「戻る」または「先」を選択します。
3. 「月数」で、プロジェクトの開始日をシフトする月数を入力します。

注: 一度にシフトできるのは1つのプロジェクトのみです。複数のプロジェクトのシフトは許可されていません。

注: プロジェクトをシフトしても、プロジェクトの期間は変更されません。シフトする前にプロジェクトが2年間にわたる場合、プロジェクトをシフトした後もプロジェクトは2年間にわたります。プロジェクトに対するリソースの割当てはすべて同じ期間によってシフトされます。ただし、プロジェクトの支出をシフトした後、収益は、シフト後にプロジェクトが収まる会計年度に定義された仮定を使用して再計算されるため、変更される可能性があります。

4 「前の開始日に戻る」を選択する場合、「実行時プロンプト」ダイアログ・ボックスに次の詳細を入力します: 「プロジェクトの選択」で、メンバー・セレクタ・アイコンを選択してプロジェクトを選択します。

注: 最近シフトしたプロジェクトの場合のみ、このオプションを使用できません。

注: プロジェクト終了日を変更すると、「前の日付に戻る」ルールを使用して前の開始日に戻ることはできません。「前の日付に戻る」が機能するのは、「プロジェクト開始日のシフト」を使用してシフトしたプロジェクトに対してのみです。

注: 「プロジェクト開始日のシフト」および「前の日付に戻る」ルールは両方とも、一度に1つのプロジェクトに対してのみ実行できます。

5 「プロジェクト終了日の変更」を選択する場合、「実行時プロンプト」ダイアログ・ボックスに次の詳細を入力します: 「提案されたプロジェクトの終了日」で、アイコンを選択して「日付」を選択できます。

6 「OK」をクリックします。

プロジェクト・ステータスの変更

このタスクでは、選択したプロジェクトのステータスを承認済、未承認または保留に変更できます。プロジェクト・ステータスの変更は、プロジェクトを承認プロセスに移行する前に承認権限によって行われる必要があります。

注： このタスクを実行できるのは、プロジェクトを保留にできる権限または閉じる権限を持つユーザーのみです。

▶ プロジェクト・ステータスを変更するには:

1 「新規プロジェクトの提案」フォームを起動します。

108 ページの「新規プロジェクトの詳細の入力」を参照してください。

2 フォームを右クリックして「プロジェクト・ステータスの変更」を選択し、サブメニュー・オプションを選択します:

- 「プロジェクトの承認」 - プロジェクトを進めることが承認されました

承認されたプロジェクトは現行シナリオ「最終」および「最終予測」交差にコピーされます。承認されたプロジェクトは編集のためにロックされ、プロジェクトに変更を加えることはできません。

- 「プロジェクトを承認しない」 - プロジェクトは却下されるか、承認されません。

- 「プロジェクトを保留にする」 - プロジェクトは延期されるか、保留にする必要があります

プロジェクトを保留にすると、基礎となる要請(資産、労務、資金調達)のステータスが「保留」になります。

3 ダイアログ・ボックスでプロジェクトを指定し、オプションで変更に関するコメントを入力します。

4 「OK」をクリックします。

プロジェクトの移動

このタスクでは、選択したプロジェクトをあるバージョンから他のバージョンに移すことができます。たとえば、作業中から最終です。選択したプロジェクト(複数可)はソース・バージョンから削除されて、宛先バージョンに移されます。

たとえば、エンティティ・レベルの財務が提案済または承認済のプロジェクトのみを反映するように、ステータスが保留または未承認のプロジェクトを作業中バージョンから移動できます。

注： このタスクを実行できるのは、プロジェクトを移動する権限を持つユーザーのみです。

▶ プロジェクトを移動するには:

1 「新規プロジェクトの提案」フォームを起動します。

108 ページの「新規プロジェクトの詳細の入力」を参照してください。

2 フォームを右クリックして、「プロジェクトの移動」を選択します。

3 「プロジェクトの移動」で、プロジェクトに適用可能な値を指定または選択します。

- 「バージョンの入力」 - ソース・バージョン(移動元のバージョン)。

- 「プロジェクトの入力」 - 移動するプロジェクト。

注： 複数のプロジェクトを同時に移動できます。

- 「宛先バージョン」 - 宛先バージョン(移動先のバージョン)。

4 「OK」をクリックします。

支出プランニングの実行

この「支出プランニング」タスクでは、「プロジェクト支出」フォームを起動します。これにより、指示に従ってプロジェクトの支出コンポーネントに関する詳細を入力できます。プロジェクト支出には、労務リソース、装置、材料、その他の諸経費が含まれます。

▶ プロジェクトの支出を確認するには:

- 1 「新規プロジェクトの提案」タスク・リストの下で、「支出プランニング」を起動します。

108 ページの「[「新規プロジェクトの提案」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

- 2 「プロジェクト支出」フォームを確認します。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

- 3 「プロジェクト支出」フォームから、プロジェクト支出仮定を管理し、プロジェクト支出を確認できます。

「プロジェクト支出」は、既存のプロジェクトの支出を確認および更新する際に使用するものと同じフォームです。「プロジェクト支出」フォームの確認およびプロジェクト支出タスクの実行に関する手順の詳細は、66 ページの「[プロジェクト支出の確認](#)」を参照してください。

収益プランニングの実行(契約プロジェクトのみ)

このタスクでは、プロジェクトで様々なソースから生成された収益を確認できます:

- 原価加算
- 実費清算
- 固定価格
- 直接収益(アプリケーションに直接入力される収益)

注： 収益プランニングは、契約プロジェクトとして分類されるプロジェクトに適用されます。Project Financial Planning では、間接プロジェクトまたは資本プロジェクトの収益は計算されません。これらのプロジェクトで収益を発生させる必要がある場合は、プロジェクトを再分類する必要があります。

▶ 契約プロジェクトの収益を確認するには:

- 1 「新規プロジェクトの提案」タスク・リストの下で、「収益プランニング」を起動します。

108 ページの「[「新規プロジェクトの提案」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

- 2 「プラン・プロジェクト収益」フォームを確認します。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

- 3 「プラン・プロジェクト収益」フォームから、プロジェクト収益仮定を管理し、収益合計を確認できます。

「プラン・プロジェクト収益」は、既存の契約プロジェクトの収益を確認および更新する際に使用するものと同じフォームです。「プラン・プロジェクト収益」フォームの確認およびプロジェクト収益タスクの実行手順の詳細は、[85 ページの「プロジェクト収益の確認\(契約プロジェクトのみ\)」](#)を参照してください。


資本プロジェクトの収益促進要因の実行

資本プロジェクトを使用すると、準備が整って使用が開始された後に収益を上げる可能性がある資産を構築できます。これには、新しい車種の車用の製造プラントなどがあります。1.50 プラン・プロジェクト収益フォームには、収益仮定詳細を直接入力できます。「COS レート(%販売)」、間接費レートおよび G&A 費用レートへの値の入力後、収益ソースの営業経費を表示できます。

▶ 資本プロジェクトの収益促進要因を確認するには:

- 1 「新規プロジェクトの提案」タスク・リストの下で、「収益プランニング」を起動します。

108 ページの「[「新規プロジェクトの提案」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

- 2 ドロップダウン・オプションから「ページ次元」を選択し、をクリックします。

- 3 ページの右下にある「>>」アイコンを選択します。

資本プロジェクトの収益促進要因情報が表示されます。

- 4 次の収益仮定情報をセル・テキストに直接入力します:

- 「収益ソース名」で、収益ソースを入力します。
- 「収益ソース・タイプ」で、ドロップダウンから必要な収益ソース・タイプを選択します。
- 「収益キャッシュ・フロー」で、ドロップダウンから必要な収益キャッシュ・フローを選択します。
- 「COS レート(%販売)」で、売上原価をパーセンテージで入力します。資本支出コストとは別に、収益ソースに関連する売上原価が存在する場合があります。
- 「間接費レート」で、間接費レートをパーセント値として入力します。

- 「一般および管理費用レート」で、一般および管理費用レートをパーセント値として入力します。
- 「収益単位」で、ドロップダウンから必要なエントリを選択します。

5 「基準年」情報をセル・テキストに直接入力します:

1. 「販売ユニット数」で、基準(初)年に販売されたユニット数を入力します。
2. 「単価」で、基準年の単価を入力します。

6 後続の年情報については、次のようにセル・テキストに直接入力します:

1. 「単位(YOY %増加)」で、前年比(YOY)増加のパーセンテージ値を入力します。前年比パーセンテージ値の増加が必要ない場合は、ゼロを入力します。
2. 「単価(YOY %増加)」で、前年比(YOY)増加のパーセンテージ値を入力します。前年比パーセンテージ値の増加が必要ない場合は、ゼロを入力します。

7 「保存」をクリックします。

「データが保存されました。」という情報ダイアログが表示されたら、「OK」をクリックします。

▶ 収益促進要因 - 資本プロジェクトに年を追加するには:

1 収益促進要因 - 資本プロジェクト・フォームを右クリックし、「年の追加」を選択します。

2 「実行時プロンプト」ダイアログ・ボックスで、次の詳細を入力します:

- 「追加する年数」で、値を入力します。
- 「単位(毎年%増加)」で、前年比(YOY)増加のパーセンテージ値を入力します。
- 「単価(毎年%増加)」で、前年比(YOY)増加のパーセンテージ値を入力します。

3 「OK」をクリックします。

情報ダイアログ・ボックスに「収益年は正常に追加されました」と表示されたら、「OK」をクリックします。

プロジェクト収益の計算


このタスクでは、指定した仮定に基づいて収益を計算できます。基準年の収益の計算方法は、販売ユニット数*単価です。ただし、後続の年の場合、収益の計算時に**単位**および**単価**で前年比の増加%が考慮されます。計算された収益は、フォームで選択した「収益ソース・タイプ」に応じて「売上収益」、「メンテナンス収益」または「その他収益」確認できます。収益の計算以外に、ルールにより、収益フォームで指定した営業経費の仮定に基づいて売上原価および諸経費も計算されます。

営業経費は、売上収益の割合に基づいて計算されます。基準年の仮定は、使用開始日から始まる期間または年にマップされます。プロジェクト収益の計算後、損

益計算書およびキャッシュ・フロー計算書で収益および営業経費の影響を確認できます。

注： 間接費および一般管理費は、諸経費に合計されます。

▶ プロジェクト収益を計算するには:

- 1 「新規プロジェクトの提案」タスク・リストの下で、「収益プランニング」を起動します。
108 ページの「[「新規プロジェクトの提案」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。
- 2 ドロップダウン・リストから「ページ次元」を選択し、 をクリックします。
- 3 ページの右隅で「>>」を選択し、資本プロジェクトの収益促進要因情報を表示します。
- 4 「収益促進要因 - 資本プロジェクト」・フォームを右クリックし、「プロジェクト収益の計算」を選択します。
- 5 「資本収益の計算に成功しました」が表示されます。「OK」をクリックします。

プロジェクト財務の確認

すべての収益と支出を入力して計算した後、プロジェクトの財務諸表を表示できます。この手順は、承認を得るためにプロジェクトを送信する前に行う必要があります。プロジェクトの確認は、財務諸表を計算することから始まります。財務諸表を計算した後、キャッシュ・フローおよび損益計算書へのプロジェクトの影響を確認できます。その後、プロジェクト KPI の確認、プロジェクトの理由詳細の提供、プロジェクト・スコアの確認を行って、プロジェクト全体の財務見通しの分析および資金調達の要求を開始できます。

▶ 新規プロジェクトのプロジェクト財務を確認するには:

- 1 「新規プロジェクトの提案」タスク・リストの下で、「プロジェクト財務の確認」を展開します。
108 ページの「[「新規プロジェクトの提案」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。
- 2 次のいずれかのタスクを起動します:
 - 「プロジェクトの理由詳細」
119 ページの「[プロジェクトの理由詳細の確認](#)」を参照してください。
 - 「財務諸表の計算」
97 ページの「[財務諸表の計算](#)」を参照してください。
 - 「プロジェクトのパフォーマンスの確認」
98 ページの「[プロジェクトのパフォーマンスの確認](#)」を参照してください。

プロジェクトの理由詳細の確認

プロジェクト・マネージャは、事前定義された質問のリストに回答することで、プロジェクトの理由を示すことができます。これにより、事業部門長はプロジェクトに主観的スコアを割り当てることができます。その後、主観的スコアはプロジェクトのランク付けに使用されます。アプリケーションに質問を追加できます。「理由の確認およびプロジェクトの評価」複合フォームを使用すると、プロジェクトに主観的スコアを付けることができます。

▶ プロジェクトの理由詳細を確認するには:

- 1 「新規プロジェクトの提案」タスク・リストの下で、「プロジェクト財務の確認」を展開します。

108 ページの「[「新規プロジェクトの提案」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

- 2 「プロジェクトの理由詳細」を起動します。

- 3 「理由の確認およびプロジェクトの評価」複合フォームを確認します。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

プロジェクト資金調達の確認

プロジェクトにかかった支出を相殺するには、資金調達が必要です。一般に、収益の源泉はプロジェクト・サイクルの後期に来るため、プロジェクトの開始時により多くの資金調達が必要になります。一部の支出の資金調達はプロジェクト収益から行われますが、残りの支出は他のソースから資金調達する必要があります。プロジェクト・マネージャは、財務部門から資金を要求する必要があります。資金調達の要求が財務マネージャによって承認された後、資金配賦の詳細を確認できます。

プロジェクトの支出をプランニング後、プロジェクト・マネージャは資金調達を要求できます。プロジェクト・マネージャはプロジェクトに必要な資金調達を決定して、資金調達要求を作成します。Project Financial Planning に用意されている資金調達要求フォームおよび事前定義のビジネス・ルールを使用して、プロジェクト・マネージャは資金調達要求を作成できます。要求が作成されたら、承認を得るために財務マネージャに送信されます。資金調達要求が承認されたら、プロジェクトに資金のソース、資本コスト詳細、資金調達タイムラインを割り当てることができます。この情報は、プロジェクトに配賦される資本コスト(支払利息)の計算の役立ちます。

▶ プロジェクト資金調達を確認するには:

- 1 「新規プロジェクトの提案」タスク・リストを展開します。

108 ページの「[「新規プロジェクトの提案」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

- 2 「プロジェクト資金調達の確認」を起動します。

このタスクは、既存のプロジェクトのプロジェクト資金調達を確認する際に実行するタスクと同じです。プロジェクト資金調達の確認および資金調達タスクの実

手順の詳細は、101 ページの「プロジェクト資金調達の確認」を参照してください。

承認のためのプランの送信

プロジェクト・タスクの完了、財務諸表の確認、および資金調達の要求後、承認を得るためにプランを他のユーザーに移動できます。「承認のためにプランを送信」ページに移動し、プランニング・ユニットを開始または上位へ移動します。プランニング・ユニットを上位へ移動した後、その新しい所有者は書き込めますが(所有者に書き込みアクセス権があると仮定した場合)、プランニング・ユニットに書き込みできなくなります。プランニング・ユニットの上位への移動の詳細は、Oracle Hyperion Planning User's Guide のプランニング・ユニットの管理に関する章を参照してください。

第 III 部

要員リソースのプロジェクトへの割当て

要員リソースのプロジェクトへの割当ての内容：

- 要員の管理
- 要員のプランニング
- 要員分析の実行

6

要員の管理

この章の内容

情報	123
プロセス	125
「要員管理」タスク・リストのタスク	125
「要員管理」タスク・リストの表示	125
従業員のグローバル・レートの設定	125
従業員のインポート	127
従業員報酬の計算	127

情報

サブトピック

- 要員仮定
- 従業員次元
- ジョブ次元

すべての企業が将来のためのプランを策定し、競争市場における優位性を獲得するための戦略に対応させて人員や資金などの限られた企業リソースを有効活用しています。各部署は、共同プランニングを通じて企業の限られたリソースの調整および配置を行います。そして、市場のビジネス機会をより多く察知し、迅速にリソースの再配置を行うことができる企業が、優位性を獲得することができます。従業員の報酬は、企業の最も大きな支出の1つに相当し、企業の最も重要なリソースとなります。

要員プランニングでは、プロジェクト全体のリソースの包括的なビューを示し、効率的な割当てと採用決定を容易にすることにより、これらのリソースの管理、優先付け、およびプランが可能になります。要員支出の管理には、次に示す従業員の報酬支出のプランニングまたは予測が含まれます:

- ジョブ次元のロード。この次元は、組織内のすべての職階を取得するために使用できます。
- 企業の HRMS からの従業員次元のロード
- アプリケーションを Essbase と同期するための、変更後のアプリケーションのリフレッシュ
- 企業の HRMS からの従業員データのロード
- 様々な支出計算を制御し、給与、医療支出、報奨の増額、税金、デフォルトの労働日数と時間数、標準時間給(ジョブに基づく)などの要素が含まれる、要

員報酬仮定(グローバル・レートとも呼ばれる)の設定および更新([124 ページ](#)の「[要員仮定](#)」および[125 ページ](#)の「[従業員のグローバル・レートの設定](#)」を参照)。

- 支出合計を集約するための、エンティティ、シナリオ、バージョン、および年ごとの報酬の計算およびロールアップ

様々な Project Financial Planning ユーザーの役割および職責の詳細は、[27 ページ](#)の「[Project Financial Planning の役割](#)」を参照してください。

要員仮定

要員仮定は、報酬関連の支出を算出する計算で使用されます。エンティティ別に、または「エンティティなし」レベル(デフォルト仮定の場合)で、要員仮定を設定できます。仮定がエンティティに対して設定されている場合、それが計算に使用されます。設定されていない場合、組織に設定されている仮定が使用されます。

要員リソース仮定には次のものがあります:

- 新規採用の給与計算に使用される、等級別の中間給与
- 医療費、報奨の増額、および税金などの計算を制御する、従業員の福利厚生仮定
- 従業員の1時間あたり費用および労務時間の計算を制御する、労働時間数および労働日数
- 労務支出の計算を制御する、標準労務レート

従業員次元

Project Financial Planning では、詳細な従業員プランニングを実行できます。プロセスには、従業員構造など、Project Financial Planning への従業員のアップロードがあります。また、等級や給与など、従業員プロパティの勘定科目メンバーもアプリケーションにロードする必要があります([225 ページ](#)の「[従業員テンプレート](#)」を参照)。従業員メンバー・プロパティは、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide で説明されているようにカスタマイズできます。たとえば、計算に影響を与える従業員タイプ、等級、工数、ステータスおよび労務レートを変更できます。

ジョブ次元

Project Financial Planning では、ジョブ次元を使用して、上位レベルの従業員プランニングを実行できます。組織に存在するすべての職階が、ジョブ次元のメンバーとして Project Financial Planning に存在することを確認します。企業の HRMS から従業員のデータをインポートする場合、ジョブと従業員の正しい交差でデータをインポートする必要があります。

プロセス

財務計画(プランまたは予測のいずれか)を準備する前に、従業員データ(次元およびデータ)を更新することをお勧めします。従業員次元を更新し、アプリケーションをリフレッシュした後で、従業員報酬の計算を実行して、最新の従業員報酬のプランまたは予測を連結できます。


注： Project Financial Planning では、完全な従業員報酬のプランニング、または、単にプロジェクトの労務支出のプランニングを行う柔軟性が提供されます。この場合、労務要請、標準労務レート、および標準請求レートを操作し、従業員報酬情報(従業員次元、中間給与、およびその他の詳細仮定)をロードまたは調整する必要はありません。標準請求レートおよび標準労務レートのみをロードおよび管理します。

「要員管理」タスク・リストのタスク

1. 等級別の給与中間値、従業員の福利厚生仮定、デフォルトの労働日数および労働時間数、標準時間給など、従業員のグローバル・レートを設定します。
125 ページの「従業員のグローバル・レートの設定」を参照してください。
2. 従業員をインポートし、アプリケーションをリフレッシュします。
127 ページの「従業員のインポート」を参照してください。
3. 従業員報酬を計算します。
127 ページの「従業員報酬の計算」を参照してください。

「要員管理」タスク・リストの表示

▶ 「要員管理」タスク・リストを表示するには:

- 1 Project Financial Planning を起動します。
39 ページの「Project Financial Planning へのログオンおよびアクセス」を参照してください。
- 2 「表示」、「タスク・リスト」、「タスク・リスト」の順に選択します。
- 3 「要員管理」を展開します。
- 4 タスク・リストからタスクを起動するには、タスクの右側にある「タスク・リスト・ウィザードの起動」  をクリックします。

従業員のグローバル・レートの設定

グローバル・レートは、費用を算出する様々な計算で使用されます。これらの仮定は、多くの場合、上位レベルで設定され、特定の仮定については、下位レベルで変更できます。このタスクによって、等級別中間給与、従業員の福利厚生仮定、デフォルトの労働日数および労働時間数、標準時間給を設定できます。報酬の計

算でグローバル・レートを使用する方法の詳細は、[124 ページの「要員仮定」](#)を参照してください。

▶ 要員のグローバル・レートを設定するには:

1 「要員管理」タスク・リストの下で、「グローバル・レートの設定」を起動します。

[125 ページの「要員管理」タスク・リストの表示](#)を参照してください。

2 「9.00 WFP 設定レート」複合フォームの入力を完了します。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

注意:

- 「中間給与報酬仮定の設定」フォームに 13 個の等級レベルが表示されます。等級レベルの削除または追加の詳細は、[127 ページの「等級レベルの追加」](#)を参照してください。
- 「従業員の福利厚生仮定の設定」フォームに入力するデータは、年給の増額、医療費、および報奨の増額などの計算を制御するために使用されません。
- 「デフォルトの労働日数および労働時間数の設定」フォームに入力するデータは、時間給および労務時間の計算で使用されます。
- 「標準の時間当たり労務レートを入力」フォームに入力するデータは、労務割当てにおいて、個々の従業員の報酬を機密保持するために使用されます。標準時間給は、労務要請のためのプロジェクト労務支出の計算で使用されます。標準時間給と労務時間が乗算された結果がプロジェクト労務支出になります。労務支出は標準レートに基づいて計算されるため、標準レートが変更された場合は常に労務支出をすべて再計算する必要があります。同じジョブ次元メンバーを使用するすべてのプロジェクトのプロジェクト労務支出を再計算するには、「標準の時間当たり労務レートを入力」フォームを右クリックし、「プロジェクト労務の計算」を選択します。
- 「ベース請求レートの設定」フォームで、複数レベルの労務請求レートのベース仮定を設定できます。デフォルトでは、アプリケーションには、オンサイト/オフサイトにそれぞれ 3 レベルの、合計 6 つの請求レベルがあります。[\(127 ページの「等級レベルの追加」](#)と同様の方法で、さらにレベルを追加できます。)プロジェクト・レベルで請求レートを設定する場合、労務リソース請求のベース・レートを使用するか、プロジェクト固有のレートを定義することができます。「収益プランニング」のショートカット・メニュー「ベース請求レートのコピー」では、「実費清算労務請求レート」フォームでベース請求レートをプロジェクトにコピーできます。このデータは労務収益計算に使用されます: リソース別の時間数が、リソースの請求レートで乗算されます。
- 「ベース請求レベルの設定」フォームでは、ベース請求レートと同様に、各ジョブにベース請求レベルを設定できます。使用可能な請求レベルは次のとおりです: 「Level1」、「Level2」、「Level3」、「請求不可」、「未指定」、および「デフォルト」。プロジェクト・レベルでは、特定の労務リソースにデフォルトの請求レベルを選択した場合、ベース請求レベルが労務収益計算に使用されます。たとえば、「ソフトウェア・エンジニア」のベース請求レベルが「Level1」に定義され、プロジェクト「MATS」について、「ソ

「ソフトウェア・エンジニア」が「デフォルト」に定義されると、収益の計算には「Level1」が使用されます。

等級レベルの追加

Project Financial Planning には 13 個の等級レベルがあり、必要に応じて等級レベルを削除または追加できます。

▶ 等級レベルを追加するには:

- 1 等級スマート・リストで、新規等級レベルにスマート・リスト・エントリを追加します。
- 2 勘定科目次元で、「Workforce Planning - 勘定科目」メンバー、「仮定入力」メンバーを展開し、「等級別平均給与」メンバーの下に新規等級を追加します。

Project Financial Planning の計算に、新規等級レベルが含まれるようになります。

- 3 **等級レベルを追加した場合:** 追加した各新規等級レベルに対して、計算が自動的に機能するように、CalcLogic 別名テーブルに別名を入力します。

CalcLogic 別名構文は次のとおりです: Grade -n、n は新規レベルです。

スマート・リスト、次元、および別名テーブルの処理手順については、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。

従業員のインポート

要員プランを開始するには、通常、企業のソース HRMS から従業員データをロードします。

詳細は、次を参照してください:

- [124 ページの「従業員次元」](#)
- [付録 A「テンプレート」](#)
- Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide

従業員情報の更新後、アプリケーションをリフレッシュして、アプリケーションを Essbase と同期します。手順については、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。

従業員報酬の計算

エンティティの合計報酬を確認するには、「報酬の計算」タスクに関連付けられた、すべての従業員の報酬の計算ビジネス・ルールを実行する必要があります。このビジネス・ルールは、支出データに基づいて、エンティティ別に従業員報酬を計算します。ソース HRMS から従業員データをロードした後にバッチ処理で、またはエンティティのリソースをプランした後で、すべての従業員の報酬の計算ビジネス・ルールを実行できます。

▶ 従業員報酬を計算するには:

- 1 「要員管理」タスク・リストの下で、「報酬の計算」を起動します。
125 ページの「「要員管理」タスク・リストの表示」を参照してください。
- 2 すべての従業員の報酬の計算ビジネス・ルールを「起動」します。
- 3 「すべての従業員の報酬の計算」で、すべての要素の値が選択されていることを確認します。
実行時プロンプト要素の定義は、用語集を参照してください。
- 4 「起動」をクリックします。

注： ランタイム・プロンプト値ファイルの作成に関する情報を使用できるように、CalcMgrCmdLineLauncher.cmd ユーティリティを使用して、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。

7

要員のプランニング

この章の内容

情報	129
プロセス	130
要員プランニング・タスク・リストのタスク	130
要員プランニング・タスク・リストの表示	130
既存の従業員の更新	131
新規採用の追加	135
報酬の計算	137
従業員報酬合計の確認	137
未来年の報酬の計算	138
承認のためのプランの送信	138

情報

Workforce Planning を使用することにより、企業は目標を達成するために必要な従業員リソースを判別でき、従業員を様々な職位に割り当て、新規従業員の追加をプランできます。また、企業は健康保険および税金など従業員の雇用に伴う直接および間接的なコストを算出する必要があります。Workforce Planning では、特定の要因に基づいてこれらの支出を複雑さにかかわらず計算できます。促進要因ベースのプランニングでは、モデルに基づいた主要なビジネス仮定を実行でき、将来の財務パフォーマンスの動向を積極的に管理する洞察力が得られます。たとえば、パフォーマンスは合計報酬を判別する際にプライマリ要因となるボーナスや報奨の増額の指針となります。Workforce Planning は、従業員の他部署への異動、退職のプランニングおよび出産休暇または休職などのアクションにも対応できます。

マネージャは、将来の人数と関連する支出をモデリングし、要員支出について最新情報を活用できます。人数に直接関連する報酬支出をプランすることにより、プランナは大きく変わる支出の1つを効率的に管理できます。方向性が変更されるような物質的なイベントが発生する場合、プランナは、プランは妥当で役に立つことを確認しながら、早急に対応できます。

この項では、従業員に関連のある支出のプランニングについて説明します。従業員ステータスを変更するには、フォームのセルをクリックして、スマート・リストまたはメニューからアイテムを選択します。また、ビジネス・ルールを実行して、従業員レコードを変更できます(たとえば、従業員の別の部署への異動など)。従業員プロパティは、「等級」または「給与」などの勘定科目メンバーです。従業員メンバーは関連付けられたスマート・リストを持つことができ、それらは他の従業員プロパティに依存している場合もあります。たとえば、FT/PT (フル・タイ

ム/パートタイム)勘定科目メンバー内の値は、工数(FTE)勘定科目内で入力された値に依存します。従業員プロパティはカスタマイズできます。たとえば、計算に影響を与える従業員タイプ、等級、工数、ステータスおよびパフォーマンスを変更できます。

プロセス

従業員に関する関連情報がソースの HRMS システムからロードされると(127 ページの「[従業員のインポート](#)」を参照)、従業員の次元およびその勘定科目プロパティが Project Financial Planning アプリケーションに移入され、正確なリソース支出を確認して計算できます。マネージャは、通常、エンティティ内(担当部署または費用センター)の従業員に関する情報を確認します。これには給与、フルタイムまたはパートタイムなどの従業員プロパティ、およびボーナスや功績増加などの他の報酬仮定の検証が含まれます。その後、新規イベントの発生にともなってマネージャは調整を行います(従業員の採用、異動、退職など)。

従業員情報が正確であることを検証した後、新規採用を計画できます。新規採用した従業員を部署に追加するために、マネージャは、時間ベース採用予定の追加または月給ベース採用予定の追加ビジネス・ルールを使用できます。

要員プランニング・タスク・リストのタスク


1. 既存の従業員のステータスの確認、給与調整の適用および報酬の計算などを行い、従業員を管理します。
131 ページの「[既存の従業員の更新](#)」を参照してください。
2. 新規採用を追加します。
135 ページの「[新規採用の追加](#)」を参照してください。
3. 報酬を計算します。
134 ページの「[報酬の計算](#)」を参照してください。
4. 従業員報酬合計を確認します。
137 ページの「[従業員報酬合計の確認](#)」を参照してください。
5. 未来年の報酬支出を計算します。
138 ページの「[未来年の報酬の計算](#)」を参照してください。
6. 承認のためにプランを送信します。
138 ページの「[承認のためのプランの送信](#)」を参照してください。

要員プランニング・タスク・リストの表示

▶ 要員プランニング・タスク・リストを表示するには:

- 1 **Project Financial Planning** を起動します。

39 ページの「[Project Financial Planning へのログオンおよびアクセス](#)」を参照してください。

- 2 「表示」、「タスク・リスト」、「タスク・リスト」の順に選択します。
- 3 「要員プランニング」を展開します。
- 4 タスク・リストからタスクを起動するには、タスクの右にある「タスク・リスト・ウィザードの起動」をクリックします。

既存の従業員の更新

「既存の従業員」タスク・リストにより、従業員の確認、従業員ステータスの変更、従業員報酬の確認と更新、および報酬の計算を実行できます。

既存の従業員の確認

このタスクを使用して、エンティティ内の各従業員について、給与、功績の増加、および労働時間などの情報を確認して更新できます。ここで、従業員が正しく費用センターに割り当てられており、HRMS からロードされた情報が正しいことを確認できます。情報が正しいければ、このタスクを使用して給与の増加などの調整を行います。

「既存の従業員の確認」マスター詳細フォームでは、フォームの上部に既存の従業員の詳細、フォームの下部に従業員支出要約および従業員ステータス情報が表示されます。

▶ 既存の従業員を確認するには:

- 1 「要員プランニング」タスク・リストにナビゲートします。

130 ページの「[要員プランニング・タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

- 2 「既存の従業員」を起動します。
- 3 「既存の従業員の確認」マスター詳細フォームを確認します。

このフォームで、次を確認および更新します:

- 「給与基準」(「年次」または「1時間ごと」)
- 「給与レート」
- 「週次時間数」
- 「労働日数」
- 「従業員タイプ」(「常勤」、「契約社員」、「臨時」、「なし」)
- 「等級」
- 「工数」
- 「FT」(フル・タイム)または「PT」(パートタイム)
- 「支払タイプ」(「控除」または「非控除」)
- 「功績月」

- 「開始月」
- 「スキル・セット」
- 「税領域」
- 「健康保険」
- 「パフォーマンス」
- 「推奨功績%」
- 「変更功績%」

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

- このフォームからショートカット・メニューを使用して、従業員ステータスの変更、従業員の異動、従業員の退職の計画、報酬の計算、および従業員割当ての確認を実行します。
 - [132 ページ](#)の「[従業員ステータスの変更](#)」を参照してください。
 - [133 ページ](#)の「[従業員の異動](#)」を参照してください。
 - [134 ページ](#)の「[従業員の退職のプランニング](#)」を参照してください。
 - [134 ページ](#)の「[報酬の計算](#)」を参照してください。
 - [134 ページ](#)の「[従業員のプロジェクト割当ての確認](#)」を参照してください。

従業員ステータスの変更

従業員のステータスを変更するには、マネージャはアクションの新規の値、たとえば「産休」または「疾病傷害」などを選択します。

▶ 従業員のステータスを変更するには:

- 「既存の従業員の確認」フォームを開きます。
[131 ページ](#)の「[既存の従業員の確認](#)」を参照してください。
- フォームの上部で従業員の名前を右クリックし、「従業員ステータスの変更」を選択します。
- 「既存の従業員ステータスの変更」フォームを更新します。
「アクション」では、次の従業員ステータス・オプションを選択します:
 - 「アクティブ」
 - 「疾病傷害」
 - 「休職」
 - 「産休」
 - 「サバティカル」

注： 従業員のステータスを「アクティブ」から「疾病傷害」または「サバティカル」に変更した場合、その月の給与計算に影響はありません。ステータスを「休職」に変更した場合、その月の給与は計算されません。ステータスを「産休」に変更すると、ステータスが産休に設定された月について、給与は(給与% - 出産休暇) * (元の給与)として計算されます。「給与% - 出産休暇」は「従業員の福利厚生仮定の設定」フォームで設定します。[125 ページの「従業員のグローバル・レートの設定」](#)を参照してください。

4 「従業員ステータスの変更」をクリックします。

従業員の異動

従業員の異動を行うと、報酬支出が計算される対象の部門(またはエンティティ)が変更されます。マネージャはビジネス・ルールを利用して従業員の異動を行います。従業員はビジネス・ニーズに応じて2つの手順(「転出」および「転入」ビジネス・ルールを使用)または1つの手順(「異動」ビジネス・ルールを使用)で異動できます。

2つの手順の異動プロセスでは、セキュリティを確保できます。たとえば、A部署のマネージャは、アクセス権なしでB部署のメンバー・データを表示できません。A部署の所有者は、B部署の所有者が従業員を転入する同じ月に、その従業員を転出する必要があります。

セキュリティが問題にならない場合は(つまり、プランナが異動のソース・エンティティおよびターゲット・エンティティのアクセス権限を持つ場合)、プランナは1つのステップで異動プロセスを実行できます。「異動」ビジネス・ルールでは、従業員を1つの部署から別の部署へと異動します。

注： プロジェクトに割り当てられている従業員は異動できません。

▶ 従業員を異動するには:

1 「既存の従業員の確認」フォームを開きます。

[131 ページの「既存の従業員の確認」](#)を参照してください。

2 フォームの上部で従業員の名前を右クリックし、「従業員の異動」を選択し、オプションを選択します:

- 「転入」 - 「転入」ビジネス・ルールを実行し、新しい部署に従業員を転入します。
- 「転出」 - 「転出」ビジネス・ルールを実行し、現在の部署から従業員を転出します。
- 「異動」 - 「異動」ビジネス・ルールを実行し、従業員を1つの部署から転出して別の部署に転入する作業を1回のステップで実行します。

実行時プロンプト要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

3 「異動」をクリックします。

従業員が転出された後、転出日以降は従業員データは転出元の部署に残りません。従業員が新しい部署に異動された時、ステータスがその転入先の部署で「アクティブ」になり、当該従業員の給与が新しい部署で計算されます。

従業員の退職のプランニング

従業員の退職を計画するには、このタスクを実行します。

注： プロジェクトに割り当てられている従業員の退職は計画できません。

▶ 従業員の退職を計画するには:

- 1 「既存の従業員の確認」フォームを開きます。
131 ページの「既存の従業員の確認」を参照してください。
- 2 フォームの上部で従業員の名前を右クリックし、「退職プラン」を選択します。
- 3 「退職プラン」で、値を指定または選択します。
- 4 「OK」をクリックします。

報酬の計算

このタスクでは、既存の従業員の報酬を計算します。

▶ 従業員報酬を計算するには:

- 1 「既存の従業員の確認」フォームを開きます。
131 ページの「既存の従業員の確認」を参照してください。
- 2 フォームの上部で従業員の名前を右クリックし、「報酬の計算」を選択します。
これにより、既存の従業員報酬の計算ビジネス・ルールが起動します。
- 3 「OK」をクリックします。

従業員のプロジェクト割当ての確認

このタスクにより、従業員が割り当てられているプロジェクトと、配賦された月別の割合を確認できます。

▶ 従業員のプロジェクト割当てを確認するには:

- 1 「既存の従業員の確認」フォームを開きます。
131 ページの「既存の従業員の確認」を参照してください。
- 2 フォームの上部で従業員の名前を右クリックし、「従業員プロジェクト割当ての確認」を選択します。
- 3 「5.05 従業員割当て詳細の確認」フォームを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

新規採用の追加

要員の要求が割当て可能な従業員数を超過した場合、マネージャはこのタスクを使用して、将来採用される従業員によって補充される空きジョブを追加できます。

「新規採用の追加」マスター詳細フォームでは、フォームの上部に新規採用要求の詳細、フォームの下部に従業員支出要約が表示されます。

▶ 新規採用を追加するには:

- 1 「要員プランニング」タスク・リストの下で、「新規採用の追加」を起動します。
130 ページの「要員プランニング・タスク・リストの表示」を参照してください。
- 2 「3.00 新規採用要求」マスター詳細フォームの入力を完了します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。
- 3 「新規採用 - 要求」タブからショートカット・メニューを使用して、採用予定(TBH)要請の追加および削除、報酬の計算、および要請のステータスの変更を実行します。
 - 135 ページの「採用予定(TBH)要請の追加」を参照してください。
 - 136 ページの「採用予定(TBH)要請の削除」を参照してください。
 - 134 ページの「報酬の計算」を参照してください。
 - 136 ページの「採用要請ステータスの変更」を参照してください。

採用予定(TBH)要請の追加

このタスクによって空きのジョブが追加され、将来、採用する従業員によって補充されます。

▶ 採用予定要請を追加するには:

- 1 「新規採用の追加」複合フォームを開きます。
135 ページの「新規採用の追加」を参照してください。
- 2 「新規採用 - 要求」フォームを右クリックして「採用予定の追加」を選択し、「給与」または「1時間ごと」を選択します。
- 3 「採用予定の追加」で、要請に該当する設定を指定または選択します:
 - 「ジョブの選択」 - プロジェクトに必要なジョブのタイプ。
 - 「従業員タイプ」 - 「常勤」、「契約社員」または「臨時」
 - 「要請の数」 - 必要な要請の数。各要請について行が作成されます。
 - 「工数の入力」 - 職階に対する工数。たとえば工数が.5 であれば、その職階には半日勤務の従業員が必要です。
 - 「年」 / 「開始月」 - 要請の年および開始月。
 - 「等級」 - 要請の等級。

- 「市場調整」:新規採用の報酬計算には、等級別中間給与レートが使用されます。中間給与が採用予定者には不十分である場合(地理条件の違い、または稀な技能を持つなどの理由による)、市場調整値を指定すると、職務の採用に必要な中間給与に上乘せする値を指定できます。
- 「支払タイプ」 - 「控除」または「非控除」
- 「週次時間数」 - 時給の場合、週当たりの稼働時間を入力します。
- 「給与レート」
- 「健康保険」 - 「個人」、「個人+1」または「家族」
- 「税領域」 - 「USA」または「領域なし」
- 「コメント」(オプション)

4 「追加」をクリックします。

採用予定(TBH)要請の削除

このルールを使用して、必要なくなった採用予定要請を削除したり、誤って追加された採用予定要請を削除します。

▶ 採用予定要請を削除するには:

- 1 「新規採用の追加」複合フォームを開きます。
135 ページの「[新規採用の追加](#)」を参照してください。
- 2 「新規採用 - 要求」フォームから、要請を右クリックします。
- 3 「採用予定の削除」を選択します。

採用要請ステータスの変更

「要請ステータスの変更」ビジネス・ルールを使用すると、マネージャは採用要請のステータスを承認、拒否、延期または取消しに変更して組織の要件に対応できます。要求が作成されると、採用要請ステータスは「新規」に設定されます。要求が承認用に提出されると、承認の担当者は、計画の承認プロセスを進める前に、個別の要求のステータスを変更する必要があります。

▶ 採用要請のステータスを変更するには:

- 1 「新規採用の追加」複合フォームを開きます。
135 ページの「[新規採用の追加](#)」を参照してください。
- 2 「新規採用 - 要求」フォームを右クリックして、「要請ステータスの変更」を選択します。
- 3 「要請ステータスの変更」で、該当する設定を選択します:
 - 「ジョブの選択」 - 変更するジョブ。
 - 「採用要請」 - 採用要請番号。
 - 「ステータスの入力」 - 次のオプションから選択します:

- 「承認済」 - 要請は承認されています。採用マネージャは、組織に新しい人員を採用できます。
- 「未承認」 - 要請が拒否されたか、承認されていません。採用マネージャは、組織に新しい人員を採用できません。
- 「保留」 - 要請が延期されたか、保留にする必要があります。
- 「クローズ済」 - 要請は完了しているか取り消されています。

4 「OK」をクリックします。

報酬の計算

エンティティの合計報酬を確認するには、「報酬の計算」タスクに関連付けられた、すべての従業員の報酬の計算ビジネス・ルールを実行する必要があります。このビジネス・ルールは、支出データに基づいて、エンティティ別に従業員報酬を計算します。ソース HRMS から従業員データをロードした後にバッチ処理で、またはエンティティのリソースをプランした後で、すべての従業員の報酬の計算ビジネス・ルールを実行できます。

▶ すべての従業員の報酬を計算するには:

1 「要員プランニング」タスク・リストの下で、「報酬の計算」を起動します。

130 ページの「要員プランニング・タスク・リストの表示」を参照してください。

2 すべての従業員の報酬の計算ビジネス・ルールを起動します。

3 「起動」をクリックします。

注: ランタイム・プロンプト値ファイルの作成に関する情報を使用できるように、CalcMgrCmdLineLauncher.cmd ユーティリティを使用して、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。

従業員報酬合計の確認

「4.16 従業員報酬合計」マスター詳細フォームでは、フォームの上部に従業員報酬合計の詳細、フォームの下部に1時間当たりの費用が表示されます。

▶ 従業員報酬合計を確認するには:

1 「要員プランニング」タスク・リストの下で、「従業員報酬合計の確認」を起動します。

130 ページの「要員プランニング・タスク・リストの表示」を参照してください。

2 「4.12 従業員報酬合計」フォームを確認します。

フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

未来年の報酬の計算

「未来年の報酬の計算」タスクを使用して、マネージャは組織の未来年の報酬支出を判断できます。報酬の基準とする年を選択して、将来の報酬を予測できます。計算では、グローバル仮定に入力された、年ごとの功績増加があることを仮定しています。

▶ 未来年の報酬を計算するには:

1 「要員プランニング」タスク・リストの下で、「未来年の報酬の計算」を起動します。

130 ページの「要員プランニング・タスク・リストの表示」を参照してください。

2 未来年の報酬支出の計算ビジネス・ルールの「起動」を選択します。

3 「未来年の報酬支出の計算」で、組織に適用する設定を指定または選択します:

- 「部署」 - 未来年の報酬を計算するエンティティ。
- 「シナリオ」
- 「バージョン」
- 「基準年の選択」 - 報酬の基準とする年。
- 「将来年の選択」 - 報酬を予測する最終年。たとえば、2012 を基準年とし、2015 を将来年とした場合、Project Financial Planning によって 2013 年、2014 年および 2015 年の報酬が予測されます。
- 「既存のデータのオーバーライド」:
 - 「はい」: 従業員について選択された将来年に入力されたすべての報酬データを上書きして再計算する場合に選択します。
 - 「いいえ」: 選択された将来年に対して従業員について特に入力されたデータを上書きしない場合に選択します。

4 「起動」をクリックします。

注: ランタイム・プロンプト値ファイルの作成に関する情報を使用できるように、CalcMgrCmdLineLauncher.cmd ユーティリティを使用して、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。

承認のためのプランの送信

企業プランナ、運営マネージャまたは部署マネージャは、要員プランを準備し、時に複数のシナリオを含めます。これらの管理者は、作成した要員プランをレビューおよび承認のために財務部および人事部の上級マネージャに提出します。企業プランナは通常、プランを連結し、要員に関するレポートを準備します。企業は変動する状況に対応するために、必要に応じて、プランを変更します。

要員要件を計画した後、承認のために Planning の承認機能を使用して計画を提出します。Oracle Hyperion Planning User's Guide の第 10 章「プランニング・ユニットの管理」を参照してください。

8

要員分析の実行

この章の内容

情報	139
プロセス	139
要員分析タスク・リストのタスク	140
要員分析タスク・リストの表示	140
データのロール・アップ	141
リソース・マネージャ・ダッシュボードの表示	141
稼働率の確認	141
プロジェクト全体における労務要求の確認	142
プロジェクトへのスタッフ配属	142
新規採用の要求	144
報酬の再計算	145
合計報酬の確認	146
従業員の人数および工数の確認	146

情報

要員分析は、リソース・マネージャによる従業員稼働率の確認、スタッフ配属要求の管理、および新規採用の計画に役立てられます。

要員分析は、Project Financial Planning のオプションのコンポーネントです。Project Financial Planning を使用せずに詳細なプロジェクト割当てを実行した場合は、その情報をインポートできます。

プロセス


Project Financial Planning は、対話型パフォーマンス・レビュー・フォームでキー・メトリックを提供することにより、マネージャに管理対象領域の全体像を提供します。これによって組織のパフォーマンスを理解し、問題点を識別できます。ここから、リソース・マネージャは詳細に従業員の稼働率を確認して、目標に対する部門のパフォーマンスを調べ、プロジェクトに使用可能なリソースを判断できます。リソース・マネージャはリソースのすべてのプロジェクト要求を確認して、プロジェクトにスタッフを配属する方法を決定します。リソース・マネージャは、従業員をプロジェクトに割り当てるか、新規採用を要求してプロジェクトにスタッフを割り当てられます。

要員分析タスク・リストのタスク

1. 要員プランニング・キューブのデータをロールアップします。
141 ページの「データのロール・アップ」を参照してください。
2. リソース・マネージャ・ダッシュボードを使用して稼働率トレンド、採用プラン、工数別プロジェクト・スタッフ配属要求、および労務時間別プロジェクト・スタッフ配属要求を表示します。
141 ページの「リソース・マネージャ・ダッシュボードの表示」を参照してください。
3. 労務の稼働率を確認します。
141 ページの「稼働率の確認」を参照してください。
4. プロジェクト全体における労務要求を確認します。
142 ページの「プロジェクト全体における労務要求の確認」を参照してください。
5. プロジェクトにスタッフを配属します。
142 ページの「プロジェクトへのスタッフ配属」を参照してください。
6. 新規採用要求を提示します。
144 ページの「新規採用の要求」を参照してください。
7. 報酬を再計算します。
145 ページの「報酬の再計算」を参照してください。
8. 合計報酬を確認します。
146 ページの「合計報酬の確認」を参照してください。
9. 従業員の数および工数を確認します。
146 ページの「従業員の数および工数の確認」を参照してください。

要員分析タスク・リストの表示

▶ 要員分析タスク・リストを表示するには:

- 1 **Project Financial Planning** を起動します。
39 ページの「Project Financial Planning へのログオンおよびアクセス」を参照してください。
- 2 「表示」、「タスク・リスト」、「タスク・リスト」の順に選択します。
- 3 「要員分析」を展開します。
- 4 タスク・リストからタスクを起動するには、タスクの右にある「タスク・リスト・ウィザードの起動」をクリックします。

データのロール・アップ

連結された要員の支出を表示するには、「データのロール・アップ」タスクを使用します。

▶ データをロール・アップするには:

- 1 「要員分析」タスク・リストの下で、「ロールアップ・データ」を起動します。
140 ページの「要員分析タスク・リストの表示」を参照してください。
- 2 WFP キューブのロールアップ・ビジネス・ルールの「起動」を選択します。
実行時プロンプト要素の定義は、用語集を参照してください。
- 3 「起動」をクリックします。

注: ランタイム・プロンプト値ファイルの作成に関する情報を使用できるように、CalcMgrCmdLineLauncher.cmd ユーティリティを使用して、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。

リソース・マネージャ・ダッシュボードの表示

「リソース・マネージャ・ダッシュボード-要員の概要」タスクを使用すると、対話形式で主要要素を提示することにより、組織内のリソースを管理できます。要素には、稼働率、採用プランおよびプロジェクトのスタッフ配属があります。これを行うことで、組織のパフォーマンスを理解し、問題点を識別するのに役立ちます。

「リソース・マネージャ・ダッシュボード」のコンポーネント:

- 「稼働率トレンド」
- 「採用プラン」
- 「プロジェクトのスタッフ配属要求 - 工数」
- 「プロジェクトのスタッフ配属要求 - 労務時間」

▶ 「リソース・マネージャ・ダッシュボード」を表示するには:

- 1 「要員分析」タスク・リストの下で、「リソース・マネージャ・ダッシュボード」を起動します。
140 ページの「要員分析タスク・リストの表示」を参照してください。
- 2 「リソース・マネージャ・ダッシュボード」を確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

稼働率の確認

このタスクは、従業員稼働率および従業員割当ての確認に役立ちます。

従業員稼働率の計算について:

- 稼働率 = 合計労務時間 / 労働時間
- 合計労務時間: ある従業員のすべてのプロジェクトで労務時間の合計
- 労働時間: ある従業員が労働可能な時間
- 従業員が労働可能であるのにプロジェクトに割り当てられていない場合、その従業員の稼働率は0(ゼロ)です。

▶ 従業員稼働率を確認するには:

- 1 「要員分析」タスク・リストの下で、「稼働率の確認」を起動します。
140 ページの「要員分析タスク・リストの表示」を参照してください。
- 2 「5.01 従業員稼働率の確認」複合フォームを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

プロジェクト全体における労務要求の確認

「プロジェクト全体における労務要求の確認」タスクを使用すると、リソース・マネージャはすべてのプロジェクトにおいて組織の連結されたリソース要求をジョブごとに確認できます。詳細な分析を実行し、各リソースを要求しているプロジェクト、要求された時間、人数および工数を判断できます。これを行うことで、スタッフ配属要求を満たす最適な方法を判断し、同様のジョブを結合する機会を見つけるために役立ちます。

▶ プロジェクト全体における労務要求を確認するには:

- 1 「要員分析」タスク・リストの下で、「プロジェクト全体における労務要求の確認」を起動します。
140 ページの「要員分析タスク・リストの表示」を参照してください。
- 2 「5.11 プロジェクト要請の確認」複合フォームを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

プロジェクトへのスタッフ配属

プロジェクトによるリソース要求を満たすには、従業員をプロジェクト要求に割り当てるか、追加のリソースを採用します。通常は、プロジェクトのスタッフ配属を行うには、適切なジョブ・スキルを持ち、プロジェクトに割り当て可能な既存のリソースを割り当てます。「プロジェクトへのスタッフ配属」タスクを使用すると、リソース要求をプロジェクト・レベルおよびジョブ・レベルで表示し、既存の従業員によって要求を満たせるかどうかを判断できます。

▶ プロジェクトにスタッフを配属するには:

- 1 「要員分析」タスク・リストの下で、「プロジェクトへのスタッフ配属」を起動します。
140 ページの「要員分析タスク・リストの表示」を参照してください。

- 2 「8.14 プロジェクト要請の調整」複合フォームの入力を完了します。
フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。
- 3 フォームからショートカット・メニューを使用して、要求ステータスを変更し、従業員を割り当てます。
 - [143 ページの「要請ステータスの変更」](#)を参照してください。
 - [143 ページの「既存従業員の割当て」](#)を参照してください。

要請ステータスの変更

このタスクを使用して、労務要請のステータスを承認済、未承認または保留に変更できます。

▶ 要請ステータスを変更するには:

- 1 「8.14 プロジェクト要請の調整」複合フォームを開きます。
[142 ページの「プロジェクトへのスタッフ配属」](#)を参照してください。
- 2 「プロジェクト要請」タブを選択し、要請を右クリックして、「要請ステータスの変更」を選択します。
- 3 「要請ステータスの変更」で、要請に該当する設定を指定または選択します:
 - 「ジョブの選択」
 - 「労務要請」 - 労務要請番号。
 - 「ステータスの入力」 - 次のオプションから選択します:
 - 「承認済」
 - 「未承認」 - スタッフ配属要求は拒否されたか取り消されています
 - 「保留」 - 要請が延期されたか、保留にする必要があります。
- 4 「OK」をクリックします。

既存従業員の割当て

「既存の従業員の割当て」ビジネス・ルールを使用して、マネージャは従業員を労務要請に配賦できます。従業員を割り当てると、従業員の稼働率がプロジェクトでの作業を反映して更新されます。

▶ 従業員をプロジェクトに割り当てるには:

- 1 「8.14 プロジェクト要請の調整」複合フォームを開きます。
[142 ページの「プロジェクトへのスタッフ配属」](#)を参照してください。
- 2 フォームの下部の「既存の従業員の割当て」領域から、右クリックし、「既存の従業員の割当て」を選択します。
- 3 「既存の従業員の割当て」で、プロジェクトに該当する値を指定または選択します:
 - 「プロジェクトの入力」

- 「労務要請の入力」
- 「ジョブの選択」
- 「既存の従業員の選択」
- 「コメント」(オプション)

4 「起動」をクリックします。

新規採用の要求

プロジェクトのリソース要求が既存の従業員では満たせないとリソース・マネージャが判断した場合、新規採用要求を提起して、ジョブが将来の従業員によって満たされることを示せます。

▶ 新規採用を要求するには:

- 1 「要員分析」タスク・リストの下で、「新規採用要求」を起動します。
140 ページの「要員分析タスク・リストの表示」を参照してください。
- 2 「スタッフ配属要求」複合フォームの入力を完了します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。
- 3 「スタッフ配属要求」フォームからショートカット・メニューを使用して、採用予定要請の追加、報酬の計算、および要請のステータスの変更を実行します。
 - 144 ページの「採用予定(TBH)要請の追加」を参照してください。
 - 145 ページの「報酬の計算」を参照してください。
 - 143 ページの「要請ステータスの変更」を参照してください。

採用予定(TBH)要請の追加

エンティティの従業員情報が正確であることを検証した後、採用の追加に重点を置くことができます。「新規採用要求」タスクによって空きのジョブが追加され、将来の従業員によって補充されます。

▶ 採用予定要請を追加するには:

- 1 「スタッフ配属要求」複合フォームを開きます。
144 ページの「新規採用の要求」を参照してください。
- 2 フォームの下部の「新規採用要求」を右クリックして「採用予定の追加」を選択し、「給与」または「1時間ごと」を選択します。
- 3 「採用予定の追加」で、要請に該当する設定を指定または選択します:
 - 「ジョブの選択」 - プロジェクトに必要なジョブのタイプ。
 - 「従業員タイプ」 - 「常勤」、「契約社員」または「臨時」
 - 「要請の数」 - 必要な要請の数。
 - 「工数の入力」 - 職階に対する工数。たとえば工数が5であれば、その職階には半日勤務の従業員が必要です。

- 「年」 / 「開始月」 - 要請の年および開始月。
- 「週次時間数」 - 時給の場合、週当たりの稼働時間を入力します。
- 「給与レート」
- 「等級」 - 要請の等級。
- 「市場調整」: 新規採用の報酬計算には、等級別中間給与レートが使用されます。中間給与が採用予定者には不十分である場合(地理条件の違い、または稀な技能を持つなどの理由による)、市場調整値を指定すると、職務の採用に必要な中間給与に上乗せする値を指定できます。
- 「支払タイプ」 - 「控除」または「非控除」
- 「健康保険」 - 「個人」、「個人+1」または「家族」
- 「税領域」 - 「USA」または「領域なし」
- 「コメント」(オプション)

4 「追加」をクリックします。

報酬の計算

新規採用報酬の計算ビジネス・ルールを実行し、新規採用の報酬支出を計算します。

▶ 新規採用の報酬を計算するには:

- 1 「スタッフ配属要求」複合フォームを開きます。
144 ページの「[新規採用の要求](#)」を参照してください。
- 2 フォームの下部の「新規採用要求」を右クリックして、「報酬の計算」を選択します。
- 3 「OK」をクリックします。

報酬の再計算

すべての従業員の報酬の計算ビジネス・ルールを実行して報酬支出を再計算し、採用の追加やリソースの割当てを含めたスタッフ配属プロジェクト・タスクの変更を反映します。

▶ 従業員報酬を計算するには:

- 1 「要員分析」タスク・リストの下で、「報酬の再計算」を起動します。
140 ページの「[要員分析タスク・リストの表示](#)」を参照してください。
- 2 すべての従業員の報酬の計算ビジネス・ルールを「起動」します。
実行時プロンプト要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。
- 3 「起動」をクリックします。

注： ランタイム・プロンプト値ファイルの作成に関する情報を使用できるように、CalcMgrCmdLineLauncher.cmd ユーティリティを使用して、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。

合計報酬の確認

「合計報酬の確認」タスクを使用すると、マネージャは組織の従業員の報酬合計を確認できます。

▶ 合計報酬を確認するには:

- 1 「要員分析」タスク・リストの下で、「合計報酬の確認」を起動します。
140 ページの「要員分析タスク・リストの表示」を参照してください。
- 2 「4.12 従業員報酬合計」フォームを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

従業員の人数および工数の確認

このタスクを使用して、マネージャは組織の工数(FTE)および人数の合計を確認できます。

▶ 従業員の人数および工数を確認するには:

- 1 「要員分析」タスク・リストの下で、「従業員の人数および工数の確認」を起動します。
140 ページの「要員分析タスク・リストの表示」を参照してください。
- 2 「4.15 人数および工数」フォームの入力を完了します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

第IV部

資本資産のプロジェクトへの割当て

資本資産のプロジェクトへの割当ての内容：

- 資本資産の管理
- 資本のプランニング
- 資本資産分析の実行

9

資本資産の管理

この章の内容

情報	149
プロセス	149
「資本管理」タスク・リストのタスク	150
「資本管理」タスク・リストの表示	150
資産クラスおよび資産詳細の設定について	151
資本に関する仮定の設定	151
既存資産のインポート	152
資本資産支出のロールアップ	153
既存資産に関するロード済減価償却および償却の確認	153
資産関連支出の計算	154

情報

資本管理では、次のようなタスクを使用して、Project Financial Planning で資本資産をプランニングし、支出とするための基礎を準備できます:

- 資産管理システムから Project Financial Planning への資産のロード
- ロード済減価償却費、償却、および費用センターへの資産割当ての確認
- 各資産クラスに対するグローバル仮定の確立および計算促進要因の設定
- グローバル・レートへの例外の場合、資産レベルでの、修復、メンテナンス、税金および保険などの関連資産支出の更新
- 資本支出を計算および連結するためのロールアップ・タスクの起動

プロセス

資本資産の管理は、減価償却方法、資産の耐用年数、減価償却換算、およびその他の主要な仮定など、資本資産の会社仮定を設定することから開始します。資産クラスおよび資産の次元を更新し、アプリケーションをリフレッシュした後で、資産関連支出の計算を実行して、最新の資産関連支出のプランまたは予測を連結できます。

タスク・リストでは、指示に従って、資本支出を要求、正当化、確認、および承認します。


注意:

- 財務計画(プランまたは予測のいずれか)を準備する前に、既存の資産カテゴリおよび資産詳細データ(次元およびデータ)を更新することをお勧めします。2つの次元を更新し、アプリケーションをリフレッシュした後で、資産関連支出の計算を実行して、プランまたは予測の最新の資産関連支出を連結できます。
- Project Financial Planning では、完全な資産支出のプランニング、または、プロジェクトの資本支出のプランニングを行う柔軟性が提供されます。この場合、資産要請、標準装置費用、および装置請求レートを操作し、特定の資産情報(資産詳細次元、資産レート、資産単位、購入日、およびその他の詳細仮定)をロードまたは調整する必要はありません。装置請求レートおよび標準装置費用のみをロードおよび管理します。

「資本管理」タスク・リストのタスク

1. 資本に関する仮定を設定します。
151 ページの「資本に関する仮定の設定」を参照してください。
2. 既存資産をインポートします。
152 ページの「既存資産のインポート」を参照してください。
3. ロールアップ・ビジネス・ルールを実行して、資産支出を連結します。
153 ページの「資本資産支出のロールアップ」を参照してください。
4. 既存資産に関するロード済減価償却および償却を確認します。
153 ページの「既存資産に関するロード済減価償却および償却の確認」を参照してください。
5. 資産関連支出を計算します。
154 ページの「資産関連支出の計算」を参照してください。

「資本管理」タスク・リストの表示

- ▶ 「資本管理」タスク・リストを表示するには:
- 1 Project Financial Planning を起動します。
39 ページの「Project Financial Planning へのログオンおよびアクセス」を参照してください。
 - 2 「表示」、「タスク・リスト」、「タスク・リスト」の順に選択します。
 - 3 「資本管理」を展開します。
 - 4 タスク・リストからタスクを起動するには、タスクの右側にある「タスク・リスト・ウィザードの起動」  をクリックします。

資産クラスおよび資産詳細の設定について

サブトピック

- [資産クラスへの標準装置の追加について](#)
- [資産詳細次元の設定について](#)

資産クラスへの標準装置の追加について

資産クラス次元は、企業が所有する資産の異なるカテゴリを詳述します。資産クラスは、有形資産(備品および設備、機械および装置、コンピュータなど)および無形資産(リース資産改善費、ソフトウェア権利、営業権など)に分けられます。資産クラス次元には、プロジェクトで使用するためにプロジェクト・マネージャが要求する標準装置のリストも含まれます。要求時には、プロジェクト・マネージャは、プロジェクトで必要な装置のタイプは認識していますが、既存資産と新規資産のどちらが要件を満たすかは認識していません。そのため、プロジェクト・マネージャは、装置タイプのみを要求します。標準装置では、プロジェクトで使用するために要求される材料資産の簡潔なリストが提供されます。その他の資産タイプを含めることはできません。Project Financial Planning を使用する前に標準装置をアプリケーションに追加すること、および、財務計画(プランまたは予測のいずれか)を準備する前に標準装置データ(次元およびデータ)を更新することをお勧めします。

資産詳細次元の設定について

Project Financial Planning では、詳細な資産プランニングを実行できます。プロセスには、Project Financial Planning への資産のアップロードがあります。また、耐用年数、使用開始日、能力、および費用など、資産プロパティの勘定科目メンバーもアプリケーションにロードする必要があります。財務計画(プランまたは予測のいずれか)を準備する前に、主要な装置情報(次元およびデータ)を更新することをお勧めします。

資本に関する仮定の設定

「資本に関する仮定の設定」タスクによって、資産情報を処理できます。各資産クラス(たとえば、建物または機械)またはすべての有形資産または無形資産のグローバル仮定を確立することにより促進要因を設定できます。エンティティ・レベルまたは「エンティティなし」(グローバル)レベルで、次のデフォルトの仮定を設定できます:

- 資産の耐用年数
- 減価償却方法
- 減価償却換算
- 償却方法
- 税金
- 保険支出

- 修復およびメンテナンス費用

仮定がエンティティ・レベルで設定されていない場合、グローバル仮定が計算で使用されます。

▶ 資本に関する仮定を設定するには:

- 1 「資本管理」タスク・リストの下で、「資本に関する仮定の設定」を起動します。
150 ページの「[「資本管理」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。
- 2 「装置の標準レートの設定」フォームの入力など、「グローバル資本仮定」複合フォームに入力します。

このフォームで設定されるレートは、プロジェクトへの装置の使用状況の費用の計算に使用されます。標準レートと、プロジェクトによって要求されたユニットを乗算します。装置請求レートを設定すると、各装置に異なる請求レートを設定することが可能になり、装置収益の計算(ユニット数と装置の請求レートを乗算)に使用されます。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

既存資産のインポート

資本プランニングを開始するには、通常、企業のソース固定資産システムから主要資産をロードします。既存資産をプロジェクトに割り当て、支出とすることを容易にするために、Project Financial Planning では、データおよびメタデータをアプリケーションにインポートするために使用できる、インポート・ユーティリティおよびサンプル・テンプレート・ファイルが提供されます。管理者は、ソース・システムからアプリケーションのメタデータおよびデータを定期的に更新できます。

詳細は、次を参照してください:

- [34 ページの「メタデータとデータのロード」](#)
- 提供されているインポート・ユーティリティおよびサンプル・テンプレート・ファイルの使用法の詳細は、[付録 A「テンプレート」](#)
- 既存の主要資産のようなデータのロードの詳細は、[225 ページの「資産詳細テンプレート」](#)
- 資産の減価償却および償却データのロードの詳細は、[234 ページの「資産減価償却および償却テンプレートの説明」](#)

注意:

- 通常、将来の期間のための資産の減価償却および償却は、ソース・システム(固定資産元帳など)で計算されるため、将来の期間のデータをサブシステムからロードする必要があります。その後、減価償却および償却における購入および除・売却の影響を正確に反映するために、ソースからこのデータを定期的にリフレッシュします。
- 新しく買収取得された資産を反映し、除・売却済の資産を削除するために、マネージャは、資産詳細次元を定期的に維持します。

- 固定資産システムから Project Financial Planning に、すべての資産をロードしないことをお勧めします。プロジェクトで使用される資産のみをロードします。
- 資本資産情報の更新後、アプリケーションをリフレッシュして、アプリケーションを Oracle Essbase と同期します。手順については、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。

資本資産支出のロールアップ

資産支出を確認する前に、資産階層のデータを連結するビジネス・ルールを起動します。

▶ 資本資産支出をロールアップするには:

- 1 「資本管理」タスク・リストの下で、「ロールアップ・ルールの実行」を起動します。

150 ページの「[「資本管理」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

- 2 RollupCapexCube ビジネス・ルールを「起動」します。

実行時プロンプト要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

- 3 「起動」をクリックします。

注： ランタイム・プロンプト値ファイルの作成に関する情報を使用できるように、CalcMgrCmdLineLauncher.cmd ユーティリティを使用して、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。

既存資産に関するロード済減価償却および償却の確認

資本資産支出をロードおよびロールアップした後で、マネージャは各期間およびエンティティの資産を確認します。既存資産でのロード済減価償却および償却の確認タスクを使用すると、既存有形資産、資産クラスおよび資産の詳細情報、期間別の減価償却および償却の金額などのアイテムを表示および更新できます。

▶ ロード済減価償却および償却を確認するには:

- 1 「資本管理」タスク・リストの下で、「ロード済原価償却および償却の確認」を起動します。

150 ページの「[「資本管理」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

- 2 「9.10 ロード済減価償却および償却の確認」フォームを確認します。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

資産関連支出の計算

「資産関連支出の計算」タスクでは、資産マネージャは、資産と資産クラスの組合せに対してエンティティ・レベルで定義される仮定に基づいて、資産関連支出(税金、保険、修復およびメンテナンス)を計算できます。税金、保険、修復およびメンテナンス費用は、資産価値のパーセンテージとして入力されます。レートは、年次で定義されます。これらの関連支出の支出合計を表示するには、「資産関連支出の計算」タスクから「資産関連支出の計算」ビジネス・ルールを起動します。

▶ 資産関連支出を計算するには:

- 1 「資本管理」タスク・リストの下で、「資産関連支出の計算」を起動します。
150 ページの「[「資本管理」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。
- 2 「資産関連支出の計算」ビジネス・ルールを「起動」します。
実行時プロンプト要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。
- 3 「起動」をクリックします。

注： ランタイム・プロンプト値ファイルの作成に関する情報を使用できるように、CalcMgrCmdLineLauncher.cmd ユーティリティを使用して、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。

この章の内容

情報	155
プロセス	155
「資本プランニング」タスク・リストのタスク	156
「資本プランニング」タスク・リストの表示	156
資本プランニングを操作する際の考慮事項	156
既存資産の確認	157
新規資産の追加	164
資産関連支出の計算	173
ユニット当たり資産の費用詳細の確認	173
承認のためのプランの送信	173

情報

資本プランニングは、資本支出の管理、優先付けおよびプランに役立ちます。Project Financial Planning を使用すると、エンティティの装置支出の計算およびプロジェクト全体の資産の稼働率の追跡を行うことができます。これにより、プランナは、エンティティ全体の装置、機械およびその他の資産の要件を包括的な視点で把握し、資本購入の決定に至ることができます。

新規有形資産または無形資産費用をプランし、利益と損失、キャッシュ・フローおよび貸借対照表に与える影響を確認できます。また、支出を確認して資本支出のタイミングおよび費用を調整できます。さらに、譲渡、除・売却および減損など、資産を管理できます。

プロセス

資産マネージャとして、資本資産のプランのために次のタスクを実行します：

- エンティティの既存資産を確認し、必要に応じて、これらに対して変更を加えます。たとえば、資産の所有権を他の組織に譲渡したり、これを除・売却します。
- 新規資産を追加および調整します。
- CIP (工事中)資産を確認および調整します。
- 資産の関連支出を計算します。
- ユニット当たりの資産の支出を計算し、確認します。

- 承認のためにプランを送信します。


注： Project Financial Planning には、詳細または代替の資本資産プランを策定したり、プロジェクトの配賦済装置支出のプランを策定する柔軟性があります。この場合、装置要請、標準の装置レートおよび標準の請求レートを操作します。特定の資産情報をロードしたり調整したりする必要はありません。ロードして管理するのは、標準の装置、請求レートおよび標準の装置レートのみです。

「資本プランニング」タスク・リストのタスク

1. 主要資産および無形資産などの既存資産を確認します。
157 ページの「[既存資産の確認](#)」を参照してください。
2. 新規資産またはリース資産を追加および調整します。
164 ページの「[新規資産の追加](#)」を参照してください。
3. 資産関連支出を計算します。
173 ページの「[資産関連支出の計算](#)」を参照してください。
4. ユニット当たり資産の費用詳細を確認します。
173 ページの「[ユニット当たり資産の費用詳細の確認](#)」を参照してください。
5. 承認のためにプランを送信します。
173 ページの「[承認のためのプランの送信](#)」を参照してください。

「資本プランニング」タスク・リストの表示

▶ 「資本プランニング」タスク・リストを表示するには:

- 1 **Project Financial Planning** を起動します。
39 ページの「[Project Financial Planning へのログオンおよびアクセス](#)」を参照してください。
- 2 「表示」、「タスク・リスト」、「タスク・リスト」の順に選択します。
- 3 「資本プランニング」を展開します。
- 4 タスク・リストからタスクを起動するには、タスクの右側にある「タスク・リスト・ウィザードの起動」 をクリックします。

資本プランニングを操作する際の考慮事項

資本プランニングを操作する際は、次の点を考慮します:

- アプリケーション期間範囲前の既存の資産の減価償却計算は、SLN および SYD 減価償却方法のみサポートされています。DB 年または DB 期間減価償却法はサポートされていません。たとえば、アプリケーションの期間範囲が 2004 年 1 月から 2015 年 12 月までで、資産の使用開始日が 2000 年 1 月 1 日の場合、減価償却計算は SLN および SYD 法のみサポートされています。
- 残存価額をゼロに設定した場合、DB 年または DB 期間減価償却法では目的の結果を得ることができない可能性があります。正しい減価償却計算を得るために、DB 年減価償却法を使うとき、Oracle は残存価額の設定を少なくとも 1% の基本費用に設定することを推奨します。
- 資本プランニングのモデルは 12 か月のカレンダーに基づいています。週次モデルではありません。
- 複数通貨のアプリケーションに対して、減価償却計算は計算するエンティティ・メンバーの基本通貨を使用します。通貨の上書きオプションが有効な場合、減価償却計算は入力された値の通貨を使用します。

既存資産の確認

サブトピック

- [既存の主要資産の管理](#)
- [既存の副資産の管理](#)

既存の主要資産の管理

エンティティの資産を確認したり、必要に応じてこれらを変更します。「既存資産の確認」フォームを使用すると、すべての既存資産の仮定の確認および更新を行うことができます。確認は、主要な既存有形資産、無形資産およびリース資産などの資産のタイプ別に行います。資産の能力、ステータス、保険料率の仮定などの情報を更新できます。さらに、資産を譲渡、除・売却および減損できます。

「既存資産の確認」マスター詳細フォームでは、上部のフォームには主要資産の詳細が表示されます。下部のフォームには資産支出が表示されます。

注：「資産の譲渡」または「資産の除・売却」ビジネス・ルールを実行すると、資産のステータスを変更できます。資産のステータスは直接変更できません。

▶ 既存の主要資産を確認するには:

1 「資本プランニング」タスク・リストに移動します。

156 ページの「[「資本プランニング」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

2 「既存資産」を展開します。

3 「既存の主要資産の管理」タスクを起動します。

4 「1.06 既存資産の管理」複合フォームを確認します。

フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

- 5 フォームのタブ領域からショートカット・メニューを使用して、資産の計算、資産の減損、資産の譲渡、資産の除・売却、無形資産の計算、計算済詳細の確認、すべてのリース資産の計算、財務諸表への資産の影響の表示を行います。
 - 158 ページの「資産の計算」を参照してください
 - 159 ページの「資産の減損」を参照してください。
 - 159 ページの「資産の譲渡」を参照してください。
 - 160 ページの「資産の除・売却」を参照してください。
 - 161 ページの「無形資産の計算」を参照してください。
 - 161 ページの「計算済の詳細の確認」を参照してください。
 - 162 ページの「すべてのリース資産の計算」を参照してください。
 - 162 ページの「財務諸表への資産の影響の表示」を参照してください。

資産の計算

「資産の計算」ビジネス・ルールを使用して、個々の資産または資産クラス全体を計算します。このビジネス・ルールを使用すると、1つの資産クラス内の複数の資産に対して変更を行い、それらのすべてを1つの手順で計算できます。このフォームの任意の仮定に対して変更を加える場合、「資産の計算」ビジネス・ルールを実行して変更を反映します。支出の確認および更新フォームで結果を確認できます。「資産の計算」ビジネス・ルールを使用して、1つの資産を計算し、「すべて計算」ビジネス・ルールを使用して、すべての資産に対して資産関連の支出を計算します。

▶ 資産を計算するには:

- 1 「1.06 既存資産の管理」複合フォームを開きます。
157 ページの「既存の主要資産の管理」を参照してください。
- 2 「1.01 既存の主要資産の管理」タブを選択して、資産を右クリックして、「資産の計算」を選択します。

注: 表示されるショートカット・メニュー・アイテムは、フォーム設定およびフォーム内で右クリックする場所に応じて異なります。

- 3 「資産の計算」ウィンドウで、エンティティで適用する値を指定または選択します:
 - 「資産クラス」 - 譲渡する資産が属するクラス(たとえば、土地、建物、オフィス機器など)。
 - 「資産詳細」 - 計算する資産。

資産クラス内のすべての資産を計算するには、「既存合計」を選択します。これによって、資産クラス内のすべての既存の資産を計算します。「新規合計」を選択すると、すべての新規資産が計算されます。

- 4 「OK」をクリックします。

資産の減損

市場における資産の価値が貸借対照表に示された価値よりも低い場合、これを減損できます。つまり、提示された市場価格に対して、資産勘定の評価損を計上します。無形資産のみを減損できます。

▶ 資産を減損するには:

1 「1.06 既存資産の管理」複合フォームを開きます。

157 ページの「既存の主要資産の管理」を参照してください。

2 「1.04 既存の主要無形資産の管理」タブを選択して、フォームを右クリックして、「資産の減損」を選択します。

注: 表示されるショートカット・メニュー・アイテムは、フォーム設定およびフォーム内で右クリックする場所に応じて異なります。

3 「資産の減損」で、減損される資産に適用する値を指定または選択します:

- 「資産クラス」 - 減損する資産が属するクラス(たとえば、土地、建物、オフィス機器など)。
- 「資産詳細」 - 減損する資産。
- 「減損日」 - 減損が有効な日付(MM/DD/YY フォーマット)。
- 「公正価額」 - 資産の公正価格。
- 「減損オプション」 - 次のオプションから選択します:
 - 「支出」 - 資産価値を費用として落とします。
 - 「資産計上済」 - 資産価値を計上します。資産計上オプションを選択した場合、減損値は資本準備金に転記されます。
 - 「一部資産計上済」 - 資産価値の一部を計上します。「一部資産計上済」を選択すると、減損価額が「資産計上 %」に基づいて資本準備金に配分されます。償却は減損の次の月から低減されます。
- 「資産計上 %」 - 「一部資産計上済」を選択した場合、計上されるパーセンテージを入力します。

4 「OK」をクリックします。

資産の譲渡

資産の最適使用を確実にするため、設備マネージャおよび費用センター・マネージャが固定資産リソースを部署間で譲渡できます。譲渡をプランするとき、ユーザーがソースおよび宛先エンティティに対してアクセス権を持つことを確認してください。

▶ 資産を譲渡するには:

1 「1.06 既存資産の管理」複合フォームを開きます。

157 ページの「既存の主要資産の管理」を参照してください。

- 2 「1.04 既存の主要無形資産の管理」タブを選択して、フォームを右クリックして、「資産の譲渡」を選択します。

注： 表示されるショートカット・メニュー・アイテムは、フォーム設定およびフォーム内で右クリックする場所に応じて異なります。

- 3 「資産の譲渡」で、譲渡される資産に適用可能な値を指定または選択します:

- 「資産クラス」 - 譲渡する資産が属するクラス(たとえば、土地、建物、オフィス機器など)。
- 「ライン・アイテム」 - 譲渡する資産。
- 「異動元」 - 資産の譲渡元のエンティティ。
- 「異動先」 - 資産の譲渡先のエンティティ。
- 「譲渡日」 - 譲渡が有効な日付。日付フォーマットは、アプリケーション設定に基づいて変わります。
- 「理由」 - 譲渡が必要な理由。

- 4 「OK」をクリックします。

資産が譲渡されると、関連する支出に影響があります。ソース内の資産譲渡の影響および宛先エンティティを表示するには、ライン・アイテムを右クリックして、「計算済の詳細」を選択します。

注： 資産データは、譲渡日後はエンティティ内で保持されません。資産を譲渡したエンティティ内の資産支出を再計算する必要があります。

資産の除・売却

資産が除・売却される時、資産残高は除・売却日に終了し、売り上げの損失または利益または減価償却が計算されます。また、除・売却日後、資産関連の支出は、除・売却した資産に対して計算されません。

▶ 資産を除・売却するには:

- 1 「1.06 既存資産の管理」複合フォームを開きます。

[157 ページの「既存の主要資産の管理」](#)を参照してください。

- 2 「1.04 既存の主要無形資産の管理」タブを選択して、フォームを右クリックして、「資産の除・売却」を選択します。

注： 表示されるショートカット・メニュー・アイテムは、フォーム設定およびフォーム内で右クリックする場所に応じて異なります。

- 3 「資産の除・売却」で、除・売却される資産に適用する値を指定または選択します:

- 「資産クラス」 - 除・売却する資産が属するクラス(たとえば、土地、建物、オフィス機器など)。
- 「ライン・アイテム」 - 除・売却する資産。

- 「除・売却日」 - 除・売却が有効な日付(MM/DD/YY フォーマット)。
- 「除・売却オプション」 - 次のオプションから選択します:
 - 「売却」 - 資産が売却されました。
 - 「償却」 - 資産が償却されました。
- 「除・売却費用」 - 資産を除・売却する費用。
- 「売却価額または償却」 - 資産の売却額または償却額。

4 「OK」をクリックします。

資産が除・売却されます。ソース内の資産の除・売却の影響および宛先エンティティを表示するには、ライン・アイテムを右クリックして、「計算済の詳細」を選択します。

ヒント: 資産の一部を除・売却したい場合があります。たとえば、コンピュータ 1 とコンピュータ 2 は 1 つの資産として作成されており、コンピュータ 2 を除・売却したいが、コンピュータ 1 はしたくありません。まずそれぞれのコンピュータに新しい資産を作成します(164 ページの「[新規資産の追加および調整](#)」を参照)。次に、両方のコンピュータを含む元の資産を削除します(166 ページの「[資産の削除](#)」を参照)。コンピュータ 2 の資産を除・売却します(160 ページの「[資産の除・売却](#)」を参照)。コンピュータ 1 の償却は続きます。

無形資産の計算

このタスクを実行すると、組織内の無形資産の支出を計算できます。

▶ 無形資産を計算するには:

- 1 「1.06 既存資産の管理」複合フォームを開きます。
157 ページの「[既存の主要資産の管理](#)」を参照してください。
- 2 「1.04 既存の主要無形資産の管理」タブを選択して、フォームを右クリックして、「無形資産の計算」を選択します。
- 3 「無形資産の計算」で、計算する無形資産の資産クラスを入力し、「OK」をクリックします。

計算済の詳細の確認

このタスクを実行すると、指定した既存の資産の全体の支出をエンティティ・レベルで確認し、必要に応じて、様々な年についてそれらを更新します。支出は、「既存資産の確認」フォームで資産別に入力した仮定から計算された結果です。各支出行は、基本費用にパーセンテージを乗算して計算されます。たとえば、修理およびメンテナンスは、基本費用に修理およびメンテナンスのパーセンテージを乗算して算出します。

▶ 計算済の詳細を確認するには:

- 1 「1.06 既存資産の管理」複合フォームを開きます。
157 ページの「既存の主要資産の管理」を参照してください。
- 2 最初の2つのタブの1つを選択し、フォームを右クリックし、「計算済の詳細」を選択します。

注: 表示されるショートカット・メニュー・アイテムは、フォーム設定およびフォーム内で右クリックする場所に応じて異なります。

- 3 詳細フォームを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

すべてのリース資産の計算

このタスクを実行すると、エンティティのすべてのリース資産の支出を計算できます。

▶ すべてのリース資産を計算するには:

- 1 「1.06 既存資産の管理」複合フォームを開きます。
157 ページの「既存の主要資産の管理」を参照してください。
- 2 「1.06 既存のリース資産の管理」タブを選択して、フォームを右クリックして、「すべて計算」を選択します。
- 3 CalculateAllLeasedAssets が正常に実行されたというメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。

財務諸表への資産の影響の表示

サブトピック

- [損益計算書への資産の影響の表示](#)
- [貸借対照表への資産の影響の表示](#)
- [キャッシュ・フロー計算書への資産の影響の表示](#)

これらのタスクを実行すると、損益計算書、貸借対照表およびキャッシュ・フロー計算書で、資本支出の効果および資本支出の関連アクションを表示できます。同じ資産クラス、すべての資産クラスまたは1つの資産に対して、部署別または部署全体の影響を確認できます。

損益計算書への資産の影響の表示

このタスクを実行すると、損益計算書で資産関連の支出の影響を表示できます。

▶ 損益計算書にリース資産の影響を表示するには:

- 1 「1.06 既存資産の管理」複合フォームを開きます。
157 ページの「既存の主要資産の管理」を参照してください。

- 2 「1.06 既存のリース資産の管理」タブを選択して、フォームを右クリックして、「財務諸表」、「利益と損失の影響」の順に選択します。
- 3 「6.05 利益と損失の影響 - ドリル・スルー」フォームを確認します。
フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

貸借対照表への資産の影響の表示

このタスクを実行すると、貸借対照表に資産の影響を表示できます。

- ▶ 貸借対照表への資産の影響を表示するには:
- 1 「1.06 既存資産の管理」複合フォームを開きます。
[157 ページの「既存の主要資産の管理」](#)を参照してください。
 - 2 「1.06 既存のリース資産の管理」タブを選択して、フォームを右クリックして、「財務諸表」、「貸借対照表の影響」の順に選択します。
 - 3 「6.10 貸借対照表の影響 - 詳細」フォームを確認します。
フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

キャッシュ・フロー計算書への資産の影響の表示

このタスクを実行すると、キャッシュ・フロー計算書に資産の影響を表示できます。

- ▶ キャッシュ・フロー計算書への資産の影響を表示するには:
- 1 「1.06 既存資産の管理」複合フォームを開きます。
[157 ページの「既存の主要資産の管理」](#)を参照してください。
 - 2 「1.06 既存のリース資産の管理」タブを選択して、フォームを右クリックして、「財務諸表」、「キャッシュ・フローの影響」の順に選択します。
 - 3 「6.00 キャッシュ・フローの影響 - ライン・アイテムの詳細」フォームを確認します。
フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

既存の副資産の管理

- ▶ 既存の副資産を確認するには:
- 1 「資本プランニング」タスク・リストに移動します。
[156 ページの「資本プランニング」タスク・リストの表示](#)を参照してください。
 - 2 「既存資産」を展開します。
 - 3 「既存の副資産の管理」タスクを起動します。
 - 4 「1.09 既存の副資産の管理」フォームを確認します。

フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

- 5 フォームから、ショートカットメニューを使用して、資産の詳細を表示します。
164 ページの「資産の詳細の表示」を参照してください。

資産の詳細の表示

このタスクを実行すると、資産の情報をすべて確認できます。貸借対照表への影響と資産に対するすべての支出を表示できます。

▶ すべてのリース資産を計算するには:

- 1 「1.09 既存の副資産の管理」フォームを開きます。
163 ページの「既存の副資産の管理」を参照してください。
- 2 フォームを右クリックして、「資産の詳細」を選択します。
- 3 「5.05 資本支出要約 - ライン・アイテムの詳細」フォームを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

新規資産の追加

サブトピック

- [新規資産の追加および調整](#)
- [新規リース資産の追加および調整](#)
- [工事中資産の確認および調整](#)

新規資産の追加および調整

「3.00 新規資産要求」マスター詳細フォームでは、上部のフォームに新規資産要求の詳細が表示されます; 下部のフォームには資産支出の要約が表示されます。

▶ 新規資産を追加および調整するには:

- 1 「資本プランニング」タスク・リストに移動します。
156 ページの「[「資本プランニング」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。
- 2 「新資産の追加」を起動します。
- 3 「3.00 新規資産要求」マスター詳細フォームを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。
- 4 フォームからショートカット・メニューを使用して、新規資産の追加および削除、資産の計算、計算済詳細の確認、資産の調整、資産の要請ステータスの変更、無形資産の計算および財務諸表での資産の影響の表示を行います。
 - [165 ページの「資産の追加」](#)を参照してください。
 - [166 ページの「資産の削除」](#)を参照してください。

- 166 ページの「資産の調整」を参照してください。
- 158 ページの「資産の計算」を参照してください。
- 167 ページの「資産の要請ステータスの変更」を参照してください。
- 161 ページの「計算済の詳細の確認」を参照してください。
- 161 ページの「無形資産の計算」を参照してください。
- 162 ページの「財務諸表への資産の影響の表示」を参照してください。

資産の追加

「3.00 新規資産要求」フォームから有形資産および無形資産を追加できます。資産を追加した後に、損益計算書に購入の影響を表示できます。

▶ 資産を追加するには:

1 「資本プランニング」タスク・リストに移動します。

156 ページの「「資本プランニング」タスク・リストの表示」を参照してください。

2 「新資産の追加」を起動します。

3 「新規有形資産要求」または「新規無形資産要求」フォームを右クリックして、「新資産の追加」を選択します。

注： 表示されるショートカット・メニュー・アイテムは、フォーム設定およびフォーム内で右クリックする場所に応じて異なります。

4 「新資産の追加」から、資産購入に適用する値を指定または選択します:

- 「資産クラス」 - 資産のカテゴリ。
- 「説明」 - 資産の簡単な説明。
- 「資産 ID」 - 資産の ID。
- 「資産資本取得要求番号」
- 「優先度」 - 組織での購入の重要度を示すランク。この情報は、要求を満たすかどうかを決定する際に役立ちます。
- 「理由」 - 資産要求の優先度の理由。
- 「取得費用」
- 「追加費用」
- 「資産単位」 - 資産単位に必要な数。
- 「資産レート」 - 資産の単位ごとの費用。
- 「残存価額」 - 除・売却時の資産の価値。
- 「能力単位」 - 資産能力の単位(たとえば、ユニットまたは時間など)。単位当たりの資産費用の計算は、このフィールドの値に基づいて行われます。このフィールドの値が不明の場合、空白にすることができます。
- 「購入日」 - 資産を購入する必要がある日付。

- 「使用開始日」 - 資産の使用を開始する日付。減価償却費用は「使用開始日」に基づいています。
- 「年あたり FOG 費用」 - 燃料、石油およびガスの費用(年間)。
- 「保険%」 - 資産の保険の年間レートを指定します。費用は、指定された%を基本費用合計に掛けて算出されます。
- 「メンテナンス%」 - 資産を維持するための年間レートを指定します。費用は、指定された%を基本費用合計に掛けて算出されます。
- 「資産能力」 - 購入済の各ユニットの実際の能力。(稼働率の計算での資産能力および能力単位の使用の詳細は、178 ページの「装置の稼働率の確認」を参照してください。)
- 「修理%」
- 「物理的な場所」 - 資産が必要な場所。

5 「OK」をクリックします。

「新資産の追加」ビジネス・ルールでは、最初の使用可能なライン・アイテムに詳細情報が追加されます。

資産の削除

資産を間違っって追加した場合、資産を削除できます。(資産の削除と 160 ページの「資産の除・売却」を比較してください。)
「資産の削除」ビジネス・ルールを使用すると、資産を削除できます。

▶ 資産を削除するには:

1 「資本プランニング」タスク・リストに移動します。

156 ページの「「資本プランニング」タスク・リストの表示」を参照してください。

2 「新資産の追加」を起動します。

3 「新規有形資産要求」または「新規無形資産要求」フォームで資産を右クリックして、「資産の削除」を選択します。

注: 表示されるショートカット・メニュー・アイテムは、フォーム設定およびフォーム内で右クリックする場所に応じて異なります。

4 「OK」をクリックします。

資産の調整

このタスクを実行すると、新規資産の要請を実際の資産で調整できます。

▶ 資産を調整するには:

1 「資本プランニング」タスク・リストに移動します。

156 ページの「「資本プランニング」タスク・リストの表示」を参照してください。

- 2 「新資産の追加」を起動します。
- 3 「新規有形資産要求」、「新規リース資産要求」または「新規リース資産の詳細」フォームから資産を右クリックして、「資産の調整」を選択します。

注： 表示されるショートカット・メニュー・アイテムは、フォーム設定およびフォーム内で右クリックする場所に応じて異なります。

- 4 「資産の調整」から、調整する資産に適用する値を指定または選択します：
 - 「新規資産詳細」 - 調整する資産。
 - 「調整済資産詳細」 - 調整済の資産。
- 5 「調整」をクリックします。

資産の要請ステータスの変更

このタスクを実行すると、資産の要請ステータスを承認済、未承認または保留に変更できます。要求が追加されたとき、資産の要請ステータスは、「新規」に設定されています。要求が承認を得るために送信された後に、承認者は個々の要求のステータスを変更してから、承認プロセスでプランを上位へ移動する必要があります。

▶ 資産の要請ステータスを変更するには:

- 1 「資本プランニング」タスク・リストに移動します。
[156 ページの「資本プランニング」タスク・リストの表示](#) を参照してください。
- 2 「新資産の追加」を起動します。
- 3 「新規有形資産要求」・フォームで資産を右クリックして、「資産要請ステータスの変更」を選択します。

注： 表示されるショートカット・メニュー・アイテムは、フォーム設定およびフォーム内で右クリックする場所に応じて異なります。

- 4 「資産要請ステータスの変更」から、変更する要請ステータスを持つ資産に適用する値を指定または選択します：
 - 「資産クラス」 - 変更する要請ステータスを持つ装置のタイプ。
 - 「資産詳細」 - 変更する要請ステータスを持つ要請ライン・アイテム。
 - 「ステータスの入力」 - 次のオプションから選択します：
 - 「承認済」 - 要請が次の段階に移行する承認を得ています。
 - 「未承認」 - 要請が拒否されたか、承認されていません。
 - 「保留」 - 要請が延期されたか、保留にする必要があります。
- 5 「OK」をクリックします。

新規リース資産の追加および調整

このタスクを実行すると、実際のリースに対して新規リース資産の要請を調整できます。

▶ 新規リース資産を追加および調整するには:

1 「資本プランニング」タスク・リストに移動します。

156 ページの「[「資本プランニング」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

2 「新資産の追加」タスクを起動します。

3 「新規リース資産要求」タブを選択します。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

4 「新規リース資産要求」フォームから、リース資産の追加、リース資産の削除、リース資産の計算、すべての計算、資産の調整、計算済詳細の確認および財務諸表へのリース資産の影響の表示を行うことができます。

- 168 ページの「[リース資産の追加](#)」を参照してください。
- 170 ページの「[リース資産の削除](#)」を参照してください
- 170 ページの「[リース資産の計算](#)」を参照してください
- 162 ページの「[すべてのリース資産の計算](#)」を参照してください
- 166 ページの「[資産の調整](#)」を参照してください
- 161 ページの「[計算済の詳細の確認](#)」を参照してください
- 162 ページの「[財務諸表への資産の影響の表示](#)」を参照してください

リース資産の追加

このタスクを実行すると、リース資産を追加できます。

2つのタイプのリース:

- オペレーティング・リース - 賃貸契約と同様、オペレーティング・リースは短期間用です。賃貸人は、所有権のリスクの負担とメリットがあり、一般的に、資産のメンテナンス、保険および修理費用を負担します。
- 資産計上済リース - 資産の耐用年数のほぼ全期間で継続するリースで、リース期間終了後、資産の価値がなくなります。リースでは、メンテナンス、修理、保険および老朽化を含め、所有権のすべてのリスクとメリットを見積もります。賃貸人の主な役割は、資産に対して資金を提供することです。終了時に、資産は、通常、指定金額を支払った賃借人に譲渡されます。これは、分割払いで資産を購入する場合と同じです。

オペレーティング・リースか資産計上済リースかを分類する際に、Project Financial Planning が適用する基準は次のとおりです:

- リース期間終了時の所有権の譲渡
- リース期間中の特定日に廉価(想定される資産の市場価格よりも安い価格)での購入オプション

- リース期間が資産の耐用年数の大部分を占める(資産の耐用年数耐用年数の少なくとも 75%)
- リース支払額の現在価値が資産の初期価格の 90%を超える

財務諸表へのリースのタイプの影響:

- オペレーティング・リース - これらのリース支払額は、損益計算書上で営業経費(賃貸支出)として記録されます。
- 資産計上済リース:
 - 貸借対照表に資産および負債を記録し、装置の価値(リース支払額の純現在価値)およびそれぞれのリース支払額の債務(負債)を反映します
 - 資産をその耐用年数の期間に減価償却します。これは、貸借対照表上で資産の価値を減らし、損益計算書上に減価償却の支出を発生させます
 - リース関連の利率は、損益計算書上で支出として示す必要があります(帰属利子の支払い)

▶ リース資産を追加するには:

1 「資本プランニング」タスク・リストに移動します。

156 ページの「[「資本プランニング」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

2 「新資産の追加」を起動します。

3 「新規リース資産要求」または「新規リース資産の詳細」タブを選択し、右クリックして、「新規リース資産の追加」を選択します。

注: 表示されるショートカット・メニュー・アイテムは、フォーム設定およびフォーム内で右クリックする場所に応じて異なります。

4 「新規リース資産の追加」から、エンティティに適用可能な値を指定または選択します:

- 「資産クラス」 - 新規リース装置が属する資産クラス。
- 「ID」 - 新規リース装置の ID。
- 「説明」 - 資産の簡単な説明。
- 「資産単位」 - リースするユニットの数。
- 「資産能力」 - リース資産の能力。
- 「能力単位」 - リース資産能力の単位。単位当たりの資産費用の計算は、このフィールドの値に基づいて行われます。このフィールドの値が不明の場合、空白にすることができます。
- 「理由」 - リース資産要求の理由。
- 「優先度」 - 資産要求の優先度。これは、承認プロセスの確認に役立ちます。
- 「リース日」 - リースを開始する日付。
- 「リース期間(年)」

- 「頭金」
- 「リース支払」
- 「支払い頻度」
- 「支払時期」 - リース支払を行う必要がある時期。
- 「暗黙的利率」 - リースの利率。
- 「リース期間後の所有者」 - リースが終了するときの装置の所有者。
- 「リース開始時の資産価値」 - リース開始時の価値。
- 「リース開始時の資産寿命(年)」 - リース開始時の資産の寿命(年単位)。
- 「リース終了時の購入価格」 - リース終了時の購入価格。
- 「中古市場価格(残存価額)」 - リース資産の想定される残存価額。

5 「リース資産の追加」をクリックします。

リース資産を追加すると、Project Financial Planningにより、入力したパラメータに基づいてリース・タイプ(オペレーティング・リースまたは資産計上済リース)が自動的に選択されます。リース資産を追加した後、「新規リース資産の詳細」フォームでリース・タイプを変更できます。資産パラメータを後で変更する場合は、該当する場合、リース・タイプも変更する必要があります。

リース資産の削除

このタスクを実行すると、リース資産を削除できます

▶ リース資産を削除するには:

1 「資本プランニング」タスク・リストに移動します。

156 ページの「[「資本プランニング」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

2 「新資産の追加」を起動します。

3 「新規リース資産要求」または「新規リース資産の詳細」タブを選択します。

4 リース資産を右クリックし、「リース資産の削除」を選択します。

注： 表示されるショートカット・メニュー・アイテムは、フォーム設定およびフォーム内で右クリックする場所に応じて異なります。

5 「OK」をクリックします。

リース資産の計算

このタスクを実行すると、リース資産の計算および財務諸表にリース資産の更新済影響の表示を行うことができます。資産計上済リースは損益計算書と貸借対照表に影響を与えますが、オペレーティング・リースは損益計算書のみに影響を与えます。

▶ リース資産を計算するには:

1 「資本プランニング」タスク・リストに移動します。

156 ページの「[「資本プランニング」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

2 「新資産の追加」を起動します。

3 「新規リース資産要求」または「新規リース資産の詳細」タブを選択します。

4 フォームを右クリックして、「リースの計算」を選択します。

注: 表示されるショートカット・メニュー・アイテムは、フォーム設定およびフォーム内で右クリックする場所に応じて異なります。

5 CalculateLeasedAsset が正常に実行されたというメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。

工事中資産の確認および調整

工事中資産の確認

エンティティで処理中の CIP (工事中)資産をすべて確認できます。資本プロジェクトの使用開始後、既存の資産に対してこれらの資産を調整できます。CIP では、労務を含め、工事中資産の費用を累計し、資産の使用が開始されるまで、貸借対照表上でこれを実行します。

関連項目:

- CIP の定義は、[CIP \(工事中\)](#)を参照してください。

▶ 工事中(CIP)資産を確認および調整するには:

1 「資本プランニング」タスク・リストに移動します。

156 ページの「[「資本プランニング」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

2 「新資産の追加」を起動し、「CIP 資産」タブを選択します。

3 「CIP 資産」フォームを確認します。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

注: 「工事中(CIP)資産」フォームを表示する場合、データをフォームに表示するには、行ヘッダーで少なくとも 1 つの次元を表示する必要があります。

4 「CIP 資産」フォームからショートカット・メニューを使用して、CIP 資産を調整します。

工事中資産の調整

このタスクを実行すると、既存資産に対して CIP を調整できます。(CIP の定義は、[CIP \(工事中\)](#)を参照してください。)

CIP の終了後、調整を行うと、既存資産に対して工事された資産が移動されます。調整では、「工事中」資産クラスから現在の資産にデータが削除されます。CIP 資産を調整後、新しく工事された資産が使用可能になります。

▶ CIP 資産を調整するには:

1 「資本プランニング」タスク・リストに移動します。

156 ページの「[「資本プランニング」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

2 「新資産の追加」を起動し、「CIP 資産」タブを選択します。

3 「CIP 資産」フォームを右クリックして、「CIP 資産の調整」を選択します。

注: 「工事中(CIP)資産」フォームを表示する場合、データをフォームに表示するには、行ヘッダーで少なくとも 1 つの次元を表示する必要があります。

4 「CIP 資産の調整」から、調整する CIP 資産に適用する値を指定または選択します:

- 「調整済資産クラス」 - 調整する CIP 資産が属するカテゴリ。
- 「調整済資産詳細」 - 調整する CIP 資産。
- 「CIP 資産クラス」 - 既存資産のカテゴリ。
- 「資産単位」 - 資産単位の数。
- 「資産能力」 - 各ユニットの実際の能力。
- 「能力単位」 - 資産能力の単位(たとえば、ユニットまたは時間など)。単位当たりの資産費用の計算は、このフィールドの値に基づいて行われます。このフィールドの値が不明の場合、空白にすることができます。
- 「残存価額」 - 除・売却時の資産の価値。
- 「使用開始日」 - 資産の使用を開始する日付。

5 「調整」をクリックします。

工事中資産の計算

このタスクを実行すると、CIP 資産を計算できます。

▶ CIP 資産を計算するには:

1 「資本プランニング」タスク・リストに移動します。

156 ページの「[「資本プランニング」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

2 「新資産の追加」を起動し、「CIP 資産」タブを選択します。

3 「CIP 資産」フォームを右クリックして、「CIP 資産の計算」を選択します。

情報ダイアログ・ボックスに「CIP 資産の計算が成功しました」と表示されたら、「OK」をクリックします。

資産関連支出の計算

「資産関連支出の計算」ビジネス・ルールを使用すると、組織の資産関連の支出を計算できます。

▶ 資産関連支出を計算するには:

1 「資本プランニング」タスク・リストに移動します。

156 ページの「[「資本プランニング」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

2 「資産関連支出の計算」タスクを選択します。

3 「資産関連支出の計算」ビジネス・ルールを「起動」します。

実行時プロンプト・フィールドの定義は、[用語集](#)を参照してください。

4 「起動」をクリックします。

ユニット当たり資産の費用詳細の確認

「ユニット当たり資産の費用詳細の確認」タスクを使用すると、各資産のユニット当たりの費用を確認できます。資産のユニット当たりの費用は、所有者費用および運用費用として計算されます。

▶ ユニット当たり資産の費用詳細を確認するには:

1 「資本プランニング」タスク・リストの下で、「ユニット当たり資産の費用詳細の確認」を起動します。

156 ページの「[「資本プランニング」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

2 「8.00 ユニット当たり資産の費用詳細」フォームを確認します。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

承認のためのプランの送信

資本プランニング・タスクの完了後、承認を得るためにプランを他のユーザーに移動できます。「承認のためにプランを送信」ページに移動し、プランニング・ユニットを開始または上位へ移動します。プランニング・ユニットを上位へ移動した後、その新しい所有者は書き込めますが(所有者に書き込みアクセス権があると仮定した場合)、プランニング・ユニットに書き込みできなくなります。プランニング・ユニットの上位への移動の詳細は、Oracle Hyperion Planning User's Guide のプランニング・ユニットの管理に関する章を参照してください。

この章の内容

情報	175
プロセス	175
「資本分析」タスク・リストのタスク	176
「資本分析」タスク・リストの表示	176
装置支出の計算	177
装置の概要の表示	177
装置の稼働率の確認	178
プロジェクト全体の装置要求の確認	179
装置のプロジェクトへの割当て	179
新規装置要求の提起	181
装置費用の再計算	185
財務諸表での影響の確認	185

情報

資本資産分析は、リソース・マネージャによる資本の稼働率の確認、資本要求の管理および新規装置のプランに役立ちます。資本資産分析は、Project Financial Planning のオプションのコンポーネントです。Project Financial Planning の外部の詳細な資産管理を実行する場合、情報をインポートできます。

資産要件を分析すると、資産マネージャが資産の詳細とエンティティごとの稼働率へのアクセス、および可用性に基づいた資産と装置の割当てを行うことができます。承認済プロジェクトで必要なときに使用できない資産が要求されている場合、資産マネージャは部署間での資産の購入、リースまたは譲渡を要求できます。資産の支出および可用性を分析すると、マネージャは資産の稼働率について適切に判断できます。

プロセス

資産、資産マネージャの要件を管理するには:

- 資本資産の要件をエンティティ別に確認します
- 使用可能な資本資産およびそれに関連する支出を確認します
- 資産の可用性、要件および支出に基づいて承認済プロジェクトに資産を配賦します。

- 組織の要件に基づいて、オペレーショナル・リースまたはキャピタル・リースで新規資産またはリース装置を購入するかどうかを決定します。
- キャッシュ・フロー、貸借対照表および利益と損失に基づいて、新規リース資産の支出を計算し、必要に応じてそれらを要求します。

Project Financial Planning には、詳細または代替の資本資産プランを策定したり、プロジェクトの配賦済装置支出のプランを簡単に策定する柔軟性があります。この場合、装置要請、標準の装置レートおよび標準の請求レートを操作します。特定の資産情報をロードしたり調整したりする必要はありません。ロードして管理するのは、標準の装置、請求レートおよび標準の装置レートのみです。


「資本分析」タスク・リストのタスク

1. プロジェクト全体の装置を計算します。
177 ページの「[装置支出の計算](#)」を参照してください。
2. 装置の概要を表示します。
177 ページの「[装置の概要の表示](#)」を参照してください。
3. プロジェクトの装置稼働率を確認します。
178 ページの「[装置の稼働率の確認](#)」を参照してください。
4. プロジェクト全体の装置要求を確認します。
179 ページの「[プロジェクト全体の装置要求の確認](#)」を参照してください。
5. 装置をプロジェクトに割り当てます。
179 ページの「[装置のプロジェクトへの割り当て](#)」を参照してください。
6. 新規装置要求を提起します。
181 ページの「[新規装置要求の提起](#)」を参照してください。
7. 装置費用を再計算します。
185 ページの「[装置費用の再計算](#)」を参照してください。
8. 財務諸表で影響を確認します。
185 ページの「[財務諸表での影響の確認](#)」を参照してください。

「資本分析」タスク・リストの表示

▶ 「資本分析」タスク・リストを表示するには:

- 1 **Project Financial Planning** を起動します。
39 ページの「[Project Financial Planning へのログオンおよびアクセス](#)」を参照してください。
- 2 「表示」、「タスク・リスト」、「タスク・リスト」の順に選択します。
- 3 「資本分析」を展開します。

- 4 タスク・リストからタスクを起動するには、タスクの右側にある「タスク・リスト・ウィザードの起動」をクリックします。

装置支出の計算

組織の集約済装置支出を表示するには、「装置のロールアップ」タスクを使用します。

▶ プロジェクト全体の装置を計算するには:

- 1 「資本分析」タスク・リストの下で、「装置のロールアップ」を起動します。
176 ページの「[「資本分析」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。
- 2 RollupCapexCube ビジネス・ルールを「起動」します。
実行時プロンプト要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。
- 3 「起動」をクリックします。

注： ランタイム・プロンプト値ファイルの作成に関する情報を使用できるように、CalcMgrCmdLineLauncher.cmd ユーティリティを使用して、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。

装置の概要の表示

「装置の概要」タスクを実行すると、資産がどの程度稼働しているかを表示できます:

- 「装置稼働率」フォームには、装置の稼働率が月別に表示されます(たとえば、デスクトップの8月の稼働率は67.5%です)。100を下回る割合は装置が余っていることを示し、100を超える割合は装置が不足していることを示します。
- 「装置の保留中の要請」には、月別の保留中の要請数が表示されます。
- 「資本支出」には、カテゴリ別のその年の資本支出の比率が表示されます(たとえば、建物が合計資本支出の73%を占めています)。詳細情報については、各カテゴリにドリル・ダウンできます。
- 「キャッシュ・アウトフロー」には、その年の資本購入および装置営業経費の比率が表示されます。詳細については、ドリル・ダウンします。

▶ 装置の概要を表示するには:

- 1 「資本分析」タスク・リストの下で、「装置の概要」を起動します。
176 ページの「[「資本分析」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。
- 2 「装置の概要」複合フォームを確認します。
フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

装置の稼働率の確認

「装置稼働率の確認」タスクを実行すると、資産と装置がエンティティ別および資産クラス別にどの程度稼働しているかを確認できます。「5.12 装置稼働率」フォームを使用すると、資産そのものと、資産がプロジェクトにどのように割り当てられているか(使用状況の割合)を確認できます。

- 「装置稼働率置」を使用すると、資産と装置のエンティティ・レベルでの稼働率、および同じエンティティの特定の年内の別のプロジェクトへの割当てを表示できます(たとえば、7月のラップトップへの配賦%は15単位で25%です)。
- 「プロジェクト全体における資産の使用状況」には、「装置稼働率」フォームで選択された資産クラスおよびエンティティ次元の使用状況が表示されます(たとえば、資産クラス Lenovo E6410 ラップトップの稼働率は、ある契約プロジェクトで42%です)。

資産の稼働率の計算について

- 稼働率 = 資産の使用状況(資産単位) / 資産能力
- 資産の使用状況(資産単位): すべてのプロジェクトで使用されている資産
- 資産能力: 資産の能力
- 資産単位または資産能力は使用できるが、どのプロジェクトでも使用されていない場合、資産稼働率は0(ゼロ)です。

能力の UOM (単位)が「各」の場合:

- 能力の単位が「各」として指定されている場合、稼働率はプロジェクト全体で使用されているユニット数を使用可能な合計ユニット数(資産能力)で除算して計算されます。
- たとえば、ラップトップが200ユニットあり(能力単位に「各」を指定)、プロジェクトに180ユニットが割り当てられている場合、ラップトップの稼働率は、180を200で除算して90%になります。

能力の UOM(単位)が「時間」の場合:

- 能力の単位が「時間」として指定されている場合、稼働率は資産の使用状況を資産能力で除算して計算されます。
- たとえば、2台のクレーンのプロジェクトでの使用時間がそれぞれ100時間で、クレーンごとの使用可能な時間が170時間の場合、クレーンの稼働率は、 $(100 * 2) / (170 * 2)$ で除算して58%になります。

▶ 装置の稼働率を確認するには:

- 1 「資本分析」タスク・リストの下で、「装置稼働率の確認」を起動します。
[176 ページの「「資本分析」タスク・リストの表示](#) を参照してください。
- 2 「5.12 装置稼働率」複合フォームに入力します。
フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

プロジェクト全体の装置要求の確認

「プロジェクト全体における装置要求の確認」タスクは、プロジェクト別の配賦の割合および資産の使用状況を示しています。資産が複数のプロジェクトで使用される場合、配賦の割合は必然的に「すべてのプロジェクト」レベルで集約されます。

- 上部のフォームには、合計装置要請数が表示されます。
- 下部のフォームには、プロジェクト別の装置要請数が表示されます。

▶ プロジェクト全体の装置要求を確認するには:

- 1 「資本分析」タスク・リストの下で、「プロジェクト全体における装置要求の確認」を起動します。

176 ページの「[「資本分析」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

- 2 「7.15 プロジェクト全体における装置要求」複合フォームを確認します。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

装置のプロジェクトへの割当て

「装置のプロジェクトへの割当て」タスクを実行すると、必要に応じて、マネージャは現在の装置の割当ての表示、ステータスの変更および装置のプロジェクトへの割当てを行うことができます。資産マネージャは、プロジェクト・レベルで装置要求を確認できます。その後、要請ステータスを承認済、保留または未承認(拒否済)に変更できます。要請を満たすには、既存の装置をプロジェクトに割り当てる必要があります。

▶ 装置をプロジェクトに割り当てるには:

- 1 「資本分析」タスク・リストの下で、「装置のプロジェクトへの割当て」を起動します。

176 ページの「[「資本分析」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

- 2 「プロジェクト装置要請の調整」複合フォームに入力します。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

- 3 「プロジェクト別の装置の詳細要求」タブからショートカット・メニューを使用して、「要請ステータスの変更」を実行できます。

179 ページの「[要請ステータスの変更](#)」を参照してください。

- 4 「既存の装置の可用性」フォームからショートカット・メニューを使用すると、「既存の装置の割当て」を実行できます。

180 ページの「[既存の装置のプロジェクトへの割当て](#)」を参照してください。

要請ステータスの変更

このタスクを実行すると、装置の要請ステータスを承認済、未承認または保留に変更できます。

▶ 要請ステータスを変更するには:

- 1 「プロジェクト装置要請の調整」複合フォームを開きます。
179 ページの「装置のプロジェクトへの割当て」を参照してください
- 2 「プロジェクト別の装置の詳細要求」タブを選択して、右クリックして「要請ステータスの変更」を選択します。
- 3 「要請ステータスの変更」から、プロジェクトに適用する値を指定または選択します:
 - 「資産クラス」 - 資産クラス。これは、会社が所有する資産の様々なカテゴリに分類する区分です。
 - 「資産詳細」 - 変更する資産。
 - 「ステータスの入力」 - オプションを選択します:
 - 「承認済」 - 要請が次の段階に移行する承認を得ています。
 - 「未承認」 - 要請が拒否されたか、承認されていません。
 - 「保留」 - 要請が延期されたか、保留にする必要があります。
- 4 「OK」をクリックします。

既存の装置のプロジェクトへの割当て

このタスクを実行すると、既存の装置をプロジェクトに割り当てることができます。

▶ 既存の装置をプロジェクトに割り当てるには:

- 1 「プロジェクト装置要請の調整」複合フォームを開きます。
179 ページの「装置のプロジェクトへの割当て」を参照してください
- 2 「既存の装置の可用性」フォームを選択して、右クリックして、「既存の装置の割当て」を選択します。
- 3 「既存の装置の割当て」から、プロジェクトに適用可能な値を指定または選択します:
 - 「プロジェクトの入力」 - 既存の装置を割り当てることができるプロジェクト。
 - 「資産クラス」 - 資産クラス。これは、会社が所有する資産の様々なカテゴリに分類する区分です。
 - 「資産詳細」 - プロジェクトに割り当てる資産。
 - 「装置要請」 - 既存の装置を割り当てる装置要請番号。
 - 「装置単位」 - プロジェクトに必要な装置単位の数。
 - 「理由」 - 装置が必要な理由。
- 4 「起動」をクリックします。

新規装置要求の提起

資産マネージャが、プロジェクトに対する装置要求を既存の使用可能な装置では満たすことができないと判断した場合、新規有形資産またはリース資産を要求できます。これは、装置要請が将来購入される新規資産によって補充されることを示します。

▶ 新規装置要求を提起するには:

- 1 「資本分析」タスク・リストの下で、「新規装置要求」を起動します。
176 ページの「[「資本分析」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。
- 2 「新規装置要求」複合フォームに入力します。
フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。
- 3 「新規装置要求」複合フォームから、資産の追加、資産の計算、計算済の詳細の確認、財務諸表への要求の影響の表示および要請ステータスの変更を行うことができます。
 - 181 ページの「[新規資産の追加](#)」を参照してください。
 - 183 ページの「[資産の計算](#)」を参照してください。
 - 183 ページの「[計算済の詳細の確認](#)」を参照してください。
 - 183 ページの「[財務諸表への装置要求の影響の表示](#)」を参照してください。
 - 179 ページの「[要請ステータスの変更](#)」を参照してください。

新規資産の追加

Project Financial Planning を使用して個別に資産を追加できます。このタスクを実行すると、Project Financial Planning で新規資産を追加できます。

▶ 資産を追加するには:

- 1 「新規装置要求」複合フォームを開きます。
181 ページの「[新規装置要求の提起](#)」を参照してください
- 2 「新規有形資産要求 - プロジェクト」または「新規リース資産要求 - プロジェクト」・フォームを右クリックして、「新資産の追加」を選択します。
- 3 「新資産の追加」,から、プロジェクトに適用する値を指定または選択します:
 - 有形資産の場合:
 - 「標準装置」 - プロジェクトに必要な装置。
 - 「装置要請」 - 新規有形資産が提起されている要請番号。
 - 「資産 ID」 - 新規有形資産に ID を割り当てます。
 - 「説明」 (オプション)
 - 「資産レート」 - 新規有形資産の資産レート。
 - 「資産単位」 - 提起する資産単位の数。

注： 資産単位は、装置要請の資産単位の数を超えることはできません。

- 「理由」 - 資産が必要な理由。
- 「物理的な場所」 - 新規有形資産要求が行われた場所。

注： このスマート・リストをニーズに合わせてカスタマイズできます。スマート・リストに値を追加しても、ビジネス・ルールには影響しません。

- 「優先度」 - 新規資産要求の優先度。
- 「購入日」
- 「残存価額」 - 新規有形資産の中古市場価格。
- リース資産の場合:
 - 「標準装置」 - プロジェクトに必要な装置。
 - 「装置要請」 - 新規リース資産が提起されている要請番号
 - 「ID」 - 新規リース資産に ID を割り当てます。
 - 「説明」 (オプション)
 - 「資産単位」 - 提起するリース資産単位の数。

注： 資産単位は、装置要請の資産単位の数を超えることはできません。

- 「理由」 - 装置が必要な理由。
- 「優先度」 - 新規リース資産要求の優先度を指定します。
- 「リース日」 - 新規リース資産のリース日。
- 「リース期間(年)」 - 新規リース資産要求が行われている年数。
- 「頭金」 - 新規リース資産要求に対する頭金。
- 「リース支払」 - 新規資産のリース支払。
- 「支払い頻度」 - 新規リース資産の支払いの頻度。
- 「支払時期」
- 「暗黙的利率」 - 新規リース資産の利率。
- 「リース期間後の所有者」 - 新規資産のリース期間終了後の所有者。
- 「リース開始時の資産価値」
- 「リース開始時の資産寿命(年)」
- 「リース終了時の購入価格 |」
- 「中古市場価格(残存価額)」

4 「OK」または「起動」をクリックします。

資産の計算

このタスクを実行すると、資産を計算できます。

▶ プロジェクト装置支出を計算するには:

- 1 「新規装置要求」複合フォームを開きます。
181 ページの「新規装置要求の提起」を参照してください
- 2 「新規有形資産要求 - プロジェクト」または「新規リース資産要求 - プロジェクト」・フォームを右クリックして、「資産の計算」を選択します。
- 3 「OK」または「起動」をクリックします。

計算済の詳細の確認

このタスクを実行すると、有形資産の計算済の詳細を確認できます。

▶ 計算済の詳細を確認するには:

- 1 「新規装置要求」複合フォームを開きます。
181 ページの「新規装置要求の提起」を参照してください。
- 2 「新規有形資産要求 - プロジェクト」・タブを選択して、「計算済の詳細」を選択します。
- 3 「ドリル・ダウン - 新規有形資産」フォームを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

注: ショートカット・メニューを使用すると、前のフォームに戻ることができます。

財務諸表への装置要求の影響の表示

サブトピック

- [損益計算書への装置要求の影響の表示](#)
- [貸借対照表への装置要求の影響の表示](#)
- [キャッシュ・フロー計算書への装置要求の影響の表示](#)

このタスクを実行すると、損益計算書、貸借対照表およびキャッシュ・フロー計算書に装置要求の影響を表示できます。

損益計算書への装置要求の影響の表示

このタスクを実行すると、損益計算書に装置要求の影響を表示できます。

▶ 損益計算書に装置要求の影響を表示するには:

- 1 「新規装置要求」複合フォームを開きます。

181 ページの「新規装置要求の提起」を参照してください

2 次のいずれかのアクションを選択します:

- 「新規有形資産要求 - プロジェクト」・フォームを右クリックして、「利益と損失の影響」を選択します。
- 「新規リース資産要求 - プロジェクト」・フォームを右クリックして、「財務諸表」、「利益と損失の影響」の順に選択します。

3 「6.05 利益と損失の影響 - ドリル・スルー」フォームを確認します。

フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

注: ショートカット・メニューを使用すると、前のフォームに戻ることができます。

貸借対照表への装置要求の影響の表示

このタスクを実行すると、貸借対照表に装置要求の影響を表示できます。

▶ 貸借対照表に装置要求の影響を表示するには:

1 「新規装置要求」複合フォームを開きます。

181 ページの「新規装置要求の提起」を参照してください

2 次のいずれかのアクションを選択します:

- 「新規有形資産要求 - プロジェクト」・フォームを右クリックして、「貸借対照表の影響」を選択します。
- 「新規リース資産要求 - プロジェクト」・フォームを右クリックして、「財務諸表」、「貸借対照表の影響」の順に選択します。

3 「6.10 貸借対照表の影響 - 詳細」フォームを確認します。

フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

注: ショートカット・メニューを使用すると、前のフォームに戻ることができます。

キャッシュ・フロー計算書への装置要求の影響の表示

このタスクを実行すると、キャッシュ・フロー計算書に装置要求の影響を表示できます。

▶ キャッシュ・フロー計算書に装置要求の影響を表示するには:

1 「新規装置要求」複合フォームを開きます。

181 ページの「新規装置要求の提起」を参照してください。

2 次のいずれかのアクションを選択します:

- 「新規有形資産要求 - プロジェクト」・フォームを右クリックして、「キャッシュ・フローの影響」を選択します。

- 「新規リース資産要求 - プロジェクト」・フォームを右クリックして、「財務諸表」、「キャッシュ・フローの影響」の順に選択します。
- 3 「6.00 キャッシュ・フローの影響 - ライン・アイテムの詳細」フォームを確認します。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

注： ショートカット・メニューを使用すると、前のフォームに戻ることができません。

装置費用の再計算

装置に変更または追加した後で、装置費用の再計算タスクを実行すると、エンティティ・マネージャが装置の費用を再計算できます。

▶ 装置費用を再計算するには:

- 1 「資本分析」タスク・リストの下で、「装置費用の再計算」を起動します。
[176 ページの「資本分析」タスク・リストの表示](#)を参照してください。
- 2 RollupCapexCube ビジネス・ルールを起動します。
実行時プロンプト要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。
- 3 「起動」をクリックします。

注： ランタイム・プロンプト値ファイルの作成に関する情報を使用できるように、CalcMgrCmdLineLauncher.cmd ユーティリティを使用して、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。

財務諸表での影響の確認

資本支出および関連アクションの影響を確認すると、利益と損失、貸借対照表およびキャッシュ・フローに効果が表示されます。同じ資産クラス、すべての資産クラスまたは1つの資産に対して、部署別または部署全体の財務上の影響を確認できます。

▶ 財務諸表に装置要求の影響を表示するには:

- 1 「資本分析」タスク・リストの下で、「財務諸表への影響の確認」を起動します。
[176 ページの「資本分析」タスク・リストの表示](#)を参照してください。
- 2 「財務諸表への資本の影響」複合フォームに入力します。
フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。
- 3 「キャッシュ・フローの影響」フォームからショートカット・メニューを使用すると、資産の詳細を表示できます。
[186 ページの「資産の詳細の表示](#)」を参照してください。

資産の詳細の表示

このタスクを実行すると、資産についての資本支出の詳細を表示できます。すべてのプロジェクトを移動すると、新規資産支出要求を確認できます。

▶ 資産の詳細を表示するには:

- 1 「財務諸表への資本の影響」複合フォームを開きます。
185 ページの「財務諸表での影響の確認」を参照してください。
- 2 「キャッシュ・フローの影響」フォームを右クリックして、「資産の詳細」を選択します。
- 3 「5.05 資本支出要約 - ライン・アイテムの詳細」フォームを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

注： ショートカット・メニューを使用すると、前のフォームに戻ることができます。

第 V 部

財務分析の実行

財務分析の実行の内容：

- 財務分析の実行
- プロジェクトの確認

この章の内容

情報	189
プロセス	189
「財務分析」タスク・リストのタスク	189
「財務分析」タスク・リストの表示	190
ロールアップの実行	190
財務概要の表示	190
詳細分析の実行	193
プロジェクト資金調達の確認	195
ターゲット・エンティティの設定	195
承認のためのプランの送信	197

情報

Project Financial Planning を使用すると、財務部門のユーザーが、新規プロジェクト提案および既存のプロジェクトについて組織での財務上の影響を確認できます。財務部門のマネージャは、プロジェクト全体の組織の損益計算書およびキャッシュ・フローを確認できます。

プロセス


財務部門のマネージャは、まず、ロールアップを実行してから、現在の年の財務情報、資金調達要求合計、純利益とキャッシュ・フローの傾向、および人数の傾向などのいくつかの主な財務メジャーの概要を確認します。財務メジャーの確認後、組織のエンティティおよびプロジェクト財務情報の詳細分析を実行できます。詳細分析では、組織ごとの純収益、支出合計、純利益または損失、プロジェクト・キャッシュ・フローおよび投資利益率(ROI)が示されます。次に、財務部門のマネージャは、資金調達を決定し、承認を得るためのプランを送信します。

「財務分析」タスク・リストのタスク

1. ロールアップを実行します。
190 ページの「ロールアップの実行」を参照してください。
2. 現在の年の財務情報、資金調達要求合計、純利益とキャッシュ・フローの傾向、および人数の傾向をプロジェクト・レベルで確認します。

- 190 ページの「財務概要の表示」を参照してください。
3. プロジェクトの財務情報およびリソースの詳細分析を実行します。
193 ページの「詳細分析の実行」を参照してください。
 4. 資金要求の確認およびプロジェクトへの資金調達の配賦など、プロジェクトの資金調達を確認します。
195 ページの「プロジェクト資金調達の確認」を参照してください。
 5. 承認のためにプランを送信します。
197 ページの「承認のためのプランの送信」を参照してください。

「財務分析」タスク・リストの表示

- ▶ 「財務分析」タスク・リストを表示するには:
- 1 **Project Financial Planning** を起動します。
39 ページの「Project Financial Planning へのログオンおよびアクセス」を参照してください。
 - 2 「表示」、「タスク・リスト」、「タスク・リスト」の順に選択します。
 - 3 「財務分析」を展開します。
 - 4 タスク・リストからタスクを起動するには、タスクの右側にある「タスク・リスト・ウィザードの起動」をクリックします。

ロールアップの実行

- ▶ ロールアップを実行するには:
- 1 「財務分析」タスク・リストの下で、「ロールアップの実行」を起動します。
190 ページの「「財務分析」タスク・リストの表示」を参照してください。
 - 2 「ロールアップの実行」ビジネス・ルールを「起動」します。
実行時プロンプト要素の定義は、用語集を参照してください。
 - 3 「起動」をクリックします。

注： ランタイム・プロンプト値ファイルの作成に関する情報を使用できるように、CalcMgrCmdLineLauncher.cmd ユーティリティを使用して、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。

財務概要の表示

財務概要では、組織の財務実績の高度なビューが提供されます。概要は、問題を識別し、財務を対話形式で作業するために役立ちます。

現在の年の財務情報、資金調達要求合計、純利益とキャッシュ・フローの傾向、および人数の傾向をプロジェクト・レベルで確認できます

▶ 財務概要を表示するには:

- 1 「財務分析」タスク・リストの下で、「財務概要」を起動します。
190 ページの「財務分析」タスク・リストの表示」を参照してください。
- 2 「財務概要」を確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。
- 3 「資金調達要求合計」フォームからショートカット・メニューを使用して、資金の配賦、資金調達ステータスの変更、プロジェクト財務諸表の確認およびプロジェクト KPI の確認を行います。
 - 191 ページの「資金の配賦」を参照してください。
 - 192 ページの「資金調達ステータスの変更」を参照してください。
 - 192 ページの「プロジェクト財務諸表の確認」を参照してください。
 - 193 ページの「プロジェクト KPI の確認」を参照してください。

資金の配賦

プロジェクトの支出をプランニング後、プロジェクト・マネージャは資金調達を要求します。財務部門のマネージャは、プロジェクトに必要な資金調達および必要な資金を確保する方法を決定します。資金調達ソースを決定すると、財務部門のマネージャはプロジェクトに資金を配賦します。プロジェクトは、資金のソース、プロジェクトの資本コストの詳細および資金調達タイムラインとともに割り当てることができます。この情報により、プロジェクトの資本コスト情報、およびキャッシュ・インフローとキャッシュ・アウトフローが決まります。

▶ 資金を配賦するには:

- 1 「財務概要」を開きます。
190 ページの「財務概要の表示」を参照してください。
- 2 「資金調達要求合計」フォームを右クリックして、「資金の配賦」を選択します。
- 3 「資金の配賦」で、プロジェクトに適用可能な値を指定または選択します:
 - 「資金調達ソース・コード」 - 資金調達ソースを指定します。
 - 「資金調達ソースの説明」(オプション)
 - 「資金調達証書タイプ」 - 「内部資金調達」、「外部資金調達短期」、「外部資金調達長期」、「劣後負債」、「71/2%優先債券」または「未指定」

注: このスマート・リストをニーズに合わせてカスタマイズできます。

- 「資金調達額」 - プロジェクトに配賦された資金調達額。配賦された資金がプロジェクト・マネージャからの資金調達要求以下である場合があります。
- 「資金調達日」 - 資金を確保した日付。

- 「期間(月)」 - 資金の返済期間(月単位)。
- 「返済頻度」 - 「四半期ごと」、「半期ごと」または「年ごと」。
- 「暗黙的利率」

4 「OK」をクリックします。

資金調達ステータスの変更

このタスクを実行すると、選択した資金調達ステータスを承認済、未承認または保留に変更できます。

要求されたとき、資金調達ステータスは、「新規」に設定されています。要求が承認のために送信されると、承認者は、承認プロセスでプランを上位へ移動する前に個々の要求のステータスを変更できます。資金が配賦されると、自動的にステータスが承認済に変更されます。

▶ プロジェクトの資金調達ステータスを変更するには:

1 「財務概要」を開きます。

190 ページの「財務概要の表示」を参照してください。

2 「資金調達要求合計」フォームを右クリックして、「資金調達ステータスの変更」を選択します。

3 「資金調達ステータスの変更」ウィンドウで、プロジェクトに適用可能な値を指定または選択します:

- 「プロジェクトの入力」
- 「資金要求」
- 「ステータスの入力」 - 次のオプションから選択します:
 - 「承認済」 - プロジェクトが次の段階に移行する承認を得ています。
 - 「未承認」 - プロジェクトが拒否されたか、承認されていません。
 - 「保留」 - 資金調達が延期されたか、保留にする必要があります。

4 「OK」をクリックします。

プロジェクト財務諸表の確認

このタスクは、支出と収益を使用するプロジェクトのキャッシュ・フロー計算書および損益計算書への影響の確認に役立ちます。

▶ プロジェクト財務諸表を確認するには:

1 「財務概要」を開きます。

190 ページの「財務概要の表示」を参照してください。

2 「資金調達要求合計」フォームを右クリックして、「プロジェクト財務諸表の確認」を選択します。

3 「財務諸表への影響の確認」複合フォームを確認します。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

- 4 フォームのタブ領域からショートカット・メニューを使用して、プロジェクトを計算します。

プロジェクト KPI の確認

プロジェクトのキー・パフォーマンス・インディケータ(KPI)を確認できます。KPIには、年単位ものや、プロジェクトの最初から最後までをベースにしたものがあります。エンティティで定義された割引率および税率のプロジェクト・レベルのデフォルト値を確認し、必要な変更を加えます。

▶ プロジェクト KPI を確認するには:

- 1 「財務概要」を開きます。

190 ページの「[財務概要の表示](#)」を参照してください。

- 2 「資金調達要求合計」フォームを右クリックして、「プロジェクト KPI の確認」を選択します。

- 3 「1.50 プロジェクト・メトリックおよび KPI」複合フォームを確認します。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

- 4 フォームのタブ領域からショートカット・メニューを使用して、プロジェクト・メトリックおよびプロジェクトを計算します。

193 ページの「[プロジェクト・メトリックの計算](#)」を参照してください。

プロジェクト・メトリックの計算

このルールでは、プロジェクトのすべての KPI および年次パフォーマンス・インジケータを計算します。

▶ プロジェクト・メトリックを計算するには:

- 1 「1.50 プロジェクト・メトリックおよび KPI」複合フォームを開きます。

193 ページの「[プロジェクト KPI の確認](#)」を参照してください。

- 2 フォームのタブ領域を右クリックして、「プロジェクト・メトリックの計算」を選択します。

- 3 「OK」をクリックします。

詳細分析の実行

詳細分析では、組織内の各エンティティの財務実績の高度なビューが提供されます。問題の特定に役立つ、主要な財務メジャーが提供されます。これを使用すると、財務情報を対話式で操作できます。組織および組織内のプロジェクトの純収益、支出合計、純利益/(損失)、キャッシュ・フローおよび ROI を確認できます。

▶ 詳細分析を実行するには:

- 1 「財務分析」タスク・リストの下で、「詳細分析」を起動します。
190 ページの「「財務分析」タスク・リストの表示」を参照してください。
- 2 「財務確認」複合フォームを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。
- 3 フォームからショートカット・メニューを使用して、プロジェクト・メトリックを計算し、損益計算書への影響およびキャッシュ・フローへの影響を分析します。
 - 193 ページの「プロジェクト・メトリックの計算」を参照してください。
 - 194 ページの「損益計算書への影響の分析」を参照してください。
 - 194 ページの「キャッシュ・フローへの影響の分析」を参照してください。

損益計算書への影響の分析

このタスクを実行すると、特定のプロジェクトの詳細な分析を実行できます。このメニュー・オプションを使用すると、選択したプロジェクトの損益計算書が起動されます。

▶ 損益計算書での影響を分析するには:

- 1 「財務確認」複合フォームを開きます。
193 ページの「詳細分析の実行」を参照してください。
- 2 フォームの下部領域を右クリックして、「損益計算書への影響」を選択します。
- 3 「8.01 損益計算書への影響」フォームを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。
- 4 フォームからショートカット・メニューを使用して、プロジェクトを計算します。

キャッシュ・フローへの影響の分析

このタスクを実行すると、特定のプロジェクトの詳細な分析を実行できます。このメニュー・オプションを使用すると、選択したプロジェクトのプロジェクト・キャッシュ・フローが起動されます。

▶ キャッシュ・フローへの影響を分析するには:

- 1 「財務確認」複合フォームを開きます。
193 ページの「詳細分析の実行」を参照してください。
- 2 フォームの下部領域を右クリックして、「キャッシュフローへの影響」を選択します。
- 3 「8.02 キャッシュフローへの影響」フォームを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。
- 4 フォームからショートカット・メニューを使用して、プロジェクトを計算します。

プロジェクト資金調達の確認

このタスクを実行すると、プロジェクトの資金調達要求の表示およびプロジェクトに配賦された資金の確認を行うことができます。

▶ 要求を確認し、資金を配賦するには:

- 1 「財務分析」タスク・リストの下で、「プロジェクト資金調達」を起動します。
190 ページの「[「財務分析」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。
- 2 「要求の確認と資金の配賦」複合フォームに入力します。
フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。
- 3 フォームからショートカット・メニューを使用して、資金の配賦、資金調達ステータスの変更、プロジェクト財務諸表の確認、プロジェクト KPI の確認および資金の割当て解除を行います。
 - 191 ページの「[資金の配賦](#)」を参照してください。
 - 192 ページの「[資金調達ステータスの変更](#)」を参照してください。
 - 192 ページの「[プロジェクト財務諸表の確認](#)」を参照してください。
 - 193 ページの「[プロジェクト KPI の確認](#)」を参照してください。
 - 195 ページの「[資金の割当て解除](#)」を参照してください。

資金の割当て解除

このルールを使用して、不要になったプロジェクトへの資金調達を削除したり、間違っって追加した資金調達要求を削除します。

▶ 資金の割当てを解除するには:

- 1 「要求の確認と資金の配賦」複合フォームを開きます。
195 ページの「[プロジェクト資金調達の確認](#)」を参照してください。
- 2 「資金配賦」フォームを右クリックして、「資金の割当て解除」を選択します。
- 3 「資金の割当て解除」ウィンドウで、要求された値を入力します。
フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。
- 4 「OK」をクリックします。

ターゲット・エンティティの設定

このタスクを実行すると、エンティティのターゲットを設定できます。親エンティティ・レベルでターゲットを設定し、下位レベルのエンティティに継承できます。ターゲット値は、仮定バージョン内のプロジェクトのパフォーマンスの分析に役立ちます。ターゲット・エンティティが要件を満たす場合、これらを仮定分析に含めたり、この分析から除外できます。

▶ ターゲット・エンティティを設定するには:

1 「財務分析」タスク・リストの下で、「エンティティのターゲットの設定」を起動します。

190 ページの「「財務分析」タスク・リストの表示」を参照してください

2 ドロップダウン・リストから「エンティティ」を選択し、「ターゲット・データの設定」タブを選択します。

3 次のいずれかのアクションを実行します:

1. 「前年比(YOY)」テキスト・ボックスにパーセンテージの値を入力します。整数(5 など)を入力する必要があります。
2. 「直接入力」テキスト・ボックスに値を入力します。

注: 「前年比(YOY)」と「直接入力」の両方の値が入力された場合、ターゲット値の設定には「直接入力」の値が優先されます。

4 「ターゲット・データの設定」フォームを右クリックして、「ターゲットの計算」を選択します。

5 「実行時プロンプト」で、「ターゲットの計算」条件の値を設定します:

1. 「シナリオの入力」で、ターゲットを計算するシナリオを選択します。
2. 「既存データの上書き」で、エンティティのデータを上書きするオプションを選択します。
3. 「ターゲットの割当て先」で、ターゲットを割り当てるオプションを選択します(「子」または「子孫」)。
4. 「%マークアップ」で、ターゲットの親エンティティのパーセンテージの値を入力します。
5. 「直接入力の割当てロジック」で、オプションを選択します。

- 分散しない

分散しない - このオプションを選択した場合、親エンティティの値はターゲットの割当てプロンプトの選択に従って子孫または子に継承されます。

- 均等分割

均等分割 - このオプションを選択した場合、親エンティティの値は子孫または子の間で均等に分割されます。

たとえば、親エンティティに直接入力値 5000 を指定し、親エンティティに 5 個の子孫がある場合、「均等分割」オプションを選択すると、各子孫エンティティに直接入力として値 1000 が割り当てられます。

- 比例して分割

比例して分割 - このオプションを選択した場合、親エンティティの値は実績値に比例して子孫または子の間で分割されます。

たとえば、実績値 1000 が割り当てられた親エンティティ A と実績値 100 が割り当てられた子エンティティ B を考えてみます。親エンティティ A に値 5000 を直接入力した場合、子エンティティ B は値 500 を継承します。実績の比率に基づいて値が割り当てられます。

6. 「OK」をクリックします。

「ターゲットの計算に成功しました」が表示されます。「OK」をクリックします。

ターゲットの設定に指定した値に基づいて、下部のターゲットの確認に計算された値が表示されます。

注： 未来年のターゲットを設定できます。指定した値は分析のために監視されます。

注： 実績値に基づいて、**前年比(YOY)**のパーセンテージの値を指定できます。実績値が存在しない場合、「**直接入力**」に値を入力できます。

ターゲット・エンティティの許容差の値の設定

このタスクでは、エンティティに許容差の値を設定できます。このタスクは、特定のパーセンテージ分ターゲットに満たない仮定バージョンのマーク付けに役立ちます。たとえば、ターゲットの収益に値 1000 が割り当てられ、パーセンテージの許容差が 5 の場合、仮定バージョンの収益は 950 以上です。950 未満は無効です。予想される値がこれに満たない場合、値は赤で示されます。

「既存のプロジェクトを含める/除外する」フォームおよび「新規プロジェクトを含める/除外する」フォームでターゲット・エンティティに許容差の値を設定すると、仮定 vs ターゲット複合フォーム内に値が表示されます。詳細は、「プロジェクトの確認」タスク・リスト」を参照してください。

▶ 許容差の値を設定するには:

1 「財務分析」タスク・リストの下で、「エンティティのターゲットの設定」を起動します。

190 ページの「財務分析」タスク・リストの表示」を参照してください

2 ドロップダウン・リストから「エンティティ」を選択し、「許容差の設定」タブを選択します

3 テキスト・ボックスに許容差のパーセンテージの値を入力します。整数(5 など)を入力する必要があります。

承認のためのプランの送信

プロジェクトのすべてのタスクを完了し、財務諸表を確認し、資金調達を要求した後、承認を得るためにプランを他のユーザーに移動できます。「承認のためにプランを送信」ページに移動し、プランニング・ユニットを開始または上位へ移動します。プランニング・ユニットを上位へ移動した後、その新しい所有者は書き込めますが(所有者に書き込みアクセス権があると仮定した場合)、プランニング・ユニットに書き込みできなくなります。プランニング・ユニットの上位への移動の詳細は、Oracle Hyperion Planning User's Guide のプランニング・ユニットの管理に関する章を参照してください。

この章の内容

プロジェクトの確認について	199
プロジェクトの確認のプロセス	199
「プロジェクトの確認」タスク・リストのタスク	200
「プロジェクトの確認」タスク・リストの表示	200
部署レベル財務諸表の計算	200
実績の確認	201
既存のプロジェクトの確認	202
新規プロジェクトの確認	206
仮定分析の実行	207
プロジェクトの承認	214

プロジェクトの確認について

このタスク・リストでは、プロジェクト提案の確認、承認および拒否を担当するユーザーが承認の意思決定を行うことができます。承認を待機している新規プロジェクト提案の識別についてユーザーを支援し、既存のプロジェクトのパフォーマンスに関する情報を提供します。


プロジェクトの確認のプロセス

このタスク・リストは、プロジェクト提案を確認する上で役立ち、プロジェクトの実行方法に関する情報を提供します。プロセスは、組織全体の財務諸表の計算から開始します。計算の実行後に、確認プロセスを開始できます。まず、新規プロジェクト提案の財務上の影響に注目してから、既存のプロジェクトの予測更新の影響を分析します。確認プロセスには、損益計算書、キャッシュ・フロー、資金調達要求およびKPIの確認が含まれます。さらに、プロジェクト・スコアを比較して財務と主観の観点からプロジェクトを評価し、プロジェクトの表示と承認における別の分析ポイントとしてプロジェクトの理由を確認できます。最後に、各プロジェクトと組織のハイレベルな財務実績のビューが財務概要に表示されます。概要は、問題を識別し、財務を対話形式で作業するために役立ちます。当年の財務、純利益、キャッシュ・フロー・トレンドおよびプロジェクト・レベルのプロジェクト・スコアを確認できます。

「プロジェクトの確認」タスク・リストのタスク

1. 部署レベルの財務諸表を計算します。
200 ページの「[部署レベル財務諸表の計算](#)」を参照してください。
2. 実績を確認します。
201 ページの「[実績の確認](#)」を参照してください。
3. 既存のプロジェクト詳細および EVM メジャーの比較を含め、既存のプロジェクトを確認します。
202 ページの「[既存のプロジェクトの確認](#)」を参照してください。
4. 新規プロジェクト詳細およびプロジェクト・スコアの比較を含め、新規プロジェクトを確認します。
206 ページの「[新規プロジェクトの確認](#)」を参照してください。
5. 仮定分析を実行します。
207 ページの「[仮定分析の実行](#)」を参照してください。
6. プロジェクトを承認します。
214 ページの「[プロジェクトの承認](#)」を参照してください。

「プロジェクトの確認」タスク・リストの表示

- ▶ 「プロジェクトの確認」タスク・リストを表示するには:
- 1 **Project Financial Planning** を起動します。
39 ページの「[Project Financial Planning へのログオンおよびアクセス](#)」を参照してください。
 - 2 「表示」、「タスク・リスト」、「タスク・リスト」の順に選択します。
 - 3 「プロジェクトの確認」を展開します。
 - 4 タスク・リストからタスクを起動するには、タスクの右にある「タスク・リスト・ウィザードの起動」をクリックします。

部署レベル財務諸表の計算

このタスクでは、組織全体の財務諸表を計算できます。

- ▶ 部署レベルの財務諸表を計算するには:
- 1 「プロジェクトの確認」タスク・リストの下で、「部門レベルの財務諸表の計算」を起動します。

200 ページの「プロジェクトの確認」タスク・リストの表示」を参照してください。

- 2 Calculate DepartmentalFS_Ruleset ビジネス・ルールを「起動」します。

実行時プロンプト要素の定義は、用語集を参照してください。

- 3 「起動」をクリックします。

注： ランタイム・プロンプト値ファイルの作成に関する情報を使用できるように、CalcMgrCmdLineLauncher.cmd ユーティリティを使用して、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。

実績の確認

サブトピック

- 部署別財務実績の確認
- 財務諸表への影響の確認

このタスク・リストでは、組織の財務実績を要約する財務概要が提供されます。概要は、問題を識別し、財務を対話形式で作業するために役立ちます。当年の財務、純利益およびキャッシュ・フロー・トレンドを確認できます。

部署別財務実績の確認

当年度の財務、キャッシュ・フロー・トレンド、純利益トレンドおよび人数トレンドを部署レベルで確認できます。

▶ 部署別財務実績を確認するには:

- 1 「プロジェクトの確認」タスク・リストに移動します。

200 ページの「プロジェクトの確認」タスク・リストの表示」を参照してください。

- 2 「パフォーマンスの確認」を展開し、「部署別財務実績」を起動します。
- 3 「部署の概要」複合フォームを確認します。

フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

財務諸表への影響の確認

▶ 財務諸表への影響を確認するには:

- 1 「プロジェクトの確認」タスク・リストに移動します。

200 ページの「プロジェクトの確認」タスク・リストの表示」を参照してください。

- 2 「パフォーマンスの確認」を展開し、「財務諸表への影響の確認」を起動します。
- 3 「1.0 部署別財務諸表」複合フォームを確認します。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

4 フォームから、ショートカット・メニューを使用してプロジェクトを計算します。

既存のプロジェクトの確認

サブトピック

- [既存のプロジェクト詳細の確認](#)
- [EVM メジャーの比較](#)
- [EVM 分析例](#)
- [EVM メジャーの計算](#)

既存のプロジェクト詳細の確認

このタスクでは、確認と承認を待機している既存のプロジェクトの財務および非財務詳細を提供します。予測変更の承認または拒否に必要な情報が提供されます。プロジェクトの期間中の損益計算書への影響、キャッシュ・フロー、資金調達要求および KPI を確認できます。

▶ 既存のプロジェクトを確認するには:

1 「プロジェクトの確認」タスク・リストの下で、「既存のプロジェクトの確認」を展開し、「既存のプロジェクト詳細の確認」を起動します。

[200 ページの「プロジェクトの確認」タスク・リストの表示](#)を参照してください。

2 「2.11 既存のプロジェクトの確認」複合フォームを確認します。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

3 「既存のプロジェクトの詳細」フォームから、ショートカット・メニューを使用して、プロジェクト・ステータスの変更、プロジェクトの移動、プロジェクトのパフォーマンスの確認、支出計画の実行、プロジェクト財務の計算などのプロジェクト管理タスクを実行します。「プロジェクトのパフォーマンス」フォームから、ショートカット・メニューを使用して、プロジェクトを計算し、資金要求の追加および取消しを行います。

プロジェクト管理タスクの実行の詳細は、[第4章「既存のプロジェクトの管理」](#)を参照してください。

EVM メジャーの比較

このタスクでは、達成額管理(EVM)メジャーを比較して、プロジェクトのパフォーマンスを監視します。

EVM 分析を使用して、次を実行します:

- EAC (完了時の見積り)およびプロジェクト完了日の予測
- 原価差異およびスケジュール差異傾向の表示
- 異なるプロジェクトのパフォーマンスの比較

次の表に、EVM 分析の実行に使用されるメジャーをリストしています:

表 3 EVM メジャー

メジャー	定義	計算方法
ACWP	実行された作業の実績原価	プロジェクト開始日から EVM 分析日までの累積実績金額
BCWS	スケジュールされた作業の予算計上済費用	プロジェクト開始日から EVM 分析日までの累積プラン金額
BCWP	実行された作業の予算計上済費用	達成額(プロジェクト存続期間の累積プラン値) * (完了した作業の%)
BAC	完了時の予算	プロジェクトの予算合計
CV	原価差異	BCWP - ACWP
SV	スケジュール差異	BCWP - BCWS
CPI	原価パフォーマンス指数	BCWP / ACWP
SPI	スケジュール・パフォーマンス指数	BCWP / BCWS
EAC	完了時の見積り	終了していない作業の予算計上済費用 + 終了した作業の実績原価 = ((BAC-BCWP) / CPI) + ACWP
IEAC	完了時の独立した見積り	BAC / CPI
ISAC	完了時の独立したスケジュール	スケジュール / SPI
VAC	完了時の差異	BAC - EAC
TCPI	パフォーマンス指数の完了	(BAC - BCWP) / (EAC - ACWP)
推定完了日		開始日 + ISAC (日数)
PM - EAC	完了時のプロジェクト・マネージャの見積り	予測支出合計
PM - 推定完了日	プロジェクト・マネージャの推定完了日	予測に準拠した完了日

Project Financial Planning は、EVM 分析に関して次の仮定を作成します:

- 完了率は、実績とは別にトランザクション・システムによって提供されます
- EVM メジャーは、プロジェクトのパフォーマンスを確認する前に明示的に計算されます
- 承認されたプランはプラン(シナリオ)および最終(バージョン)内にあり、データは CalculateFinancialStatements ビジネス・ルールの実行によって集約されます。97 ページの「財務諸表の計算」を参照してください。
- 実績は実績(シナリオ)および最終(バージョン)にインポートされ、データは CalculateFinancialStatements ビジネス・ルールの実行によって集約されます。

▶ EVM 分析を実行するには:

- 1 「プロジェクトの確認」タスク・リストの下で、「既存のプロジェクトの確認」を展開し、「EVM メジャーの比較」を起動します。

200 ページの「[「プロジェクトの確認」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

- 2 「2.12 EVM メジャーの確認」フォームを確認します。

フォームの上部には、様々なメジャー(BAC、EAC、CV など)の比較を可能にするチャート・ビューが表示され、下部には、EVM メジャーの詳細を示すグリッド・ビューが表示されます。

- 3 「2.12 EVM メジャーの確認」フォームの下部のグリッド・ビューから、ショートカット・メニューを使用して、EVM メジャーを計算します。

205 ページの「[EVM メジャーの計算](#)」を参照してください。

EVM 分析例

これらは、MIS と呼ばれるプロジェクトのプラン済プロジェクト統計です:

- MIS プラン済プロジェクト期間: 5 か月(2012 年 6 月 1 日から 2012 年 10 月 31 日)
- 月当たりの MIS プラン済プロジェクト支出(プラン、作業中): \$10,000 (プロジェクト支出合計は\$50,000)
- 月当たりの完了済 MIS %: 20% (100% / 5 か月 = 20%)

2012 年 8 月の終わりに、実績プロジェクト支出および完了率がトランザクション・システムから Planning にインポートされます:

- MIS 実績プロジェクト支出(実績、最終): 6 月は\$12,000、7 月は\$12,000、8 月は\$12,000
- 月当たりの MIS 実績%完了: 6 月は 20%、7 月は 40%、8 月は 50%

EVM 分析により、8 月までの各月において\$2,000 の支出過多があり、8 月の最後の時点で作業がプランされた 60%ではなく 50%しか完了していません。

次の表に、8 月のメジャーによる EVM 計算を示します:

表 4 MIS プロジェクトの EVM 計算例 - 2012 年 8 月

メジャー	計算
ACWP	\$36,000 (6 月、7 月および 8 月の実績支出)
BCWS	\$30,000 (6 月、7 月および 8 月のプラン済支出)
BCWP	$\$50,000 * 50\%$ (プラン済予算合計 * 完了した%作業) = \$25,000
BAC	\$50,000 (予算合計)
CV	$BCWP - ACWP = \$25,000 - \$36,000 = -\$11,000$

メジャー	計算
SV	$BCWP - BCWS = \$25000 - \$30000 = -\$5000$
CPI	$BCWP / ACWP = \$25000 / \$36000 = 0.69444$
SPI	$BCWP / BCWS = \$25000 / \$30000 = 0.83$
EAC	$((BAC-BCWP)/CPI) + ACWP = ((\$50000 - \$25000) / 0.69444) + \$36000 = 72000$
IEAC	$BAC / CPI = \$50000 / 0.69444 = 72000$
ISAC	スケジュール/ SPI = 5 か月/ 0.83 = 6 か月
VAC	$BAC - EAC = \$50000 - \$72000 = -\$22000$
推定完了日	開始日 + ISAC (日数) = 2012 年 11 月 30 日
PM - EAC	予測支出合計
PM - 推定完了日	予測に準拠した完了日

EVM メジャーの計算

このタスクを実行すると、EVM メジャーを計算できます。

▶ EVM メジャーを計算するには:

- 1 「プロジェクトの確認」タスク・リストの下で、「既存のプロジェクトの確認」を展開し、「EVM メジャーの比較」を起動します。

200 ページの「[「プロジェクトの確認」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

- 2 「2.12 EVM メジャーの確認」フォームの下部のグリッド・ビューを右クリックし、「EVM メジャーの計算」を選択します。

実行時プロンプト要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

- 3 「OK」をクリックします。

注： ランタイム・プロンプト値ファイルの作成に関する情報を使用できるように、CalcMgrCmdLineLauncher.cmd ユーティリティを使用して、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。

新規プロジェクトの確認

サブトピック

- [新規プロジェクト詳細の確認](#)
- [プロジェクト・スコアの比較](#)

新規プロジェクト詳細の確認

このタスクでは、確認と承認を待機している新規プロジェクト提案を表示できません。提案の承認または拒否に必要なすべての情報が提供されます。プロジェクトの期間中の損益計算書への影響、キャッシュ・フロー、資金調達要求および KPI を確認できます。

▶ プロジェクト提案を確認するには:

- 1 「プロジェクトの確認」タスク・リストの下で、「新規プロジェクトの確認」を展開し、「新規プロジェクト詳細の確認」を起動します。

200 ページの「[プロジェクトの確認](#)」タスク・リストの表示」を参照してください。

- 2 「2.10 新規プロジェクト提案の確認」複合フォームを確認します。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

- 3 「新規プロジェクトの詳細」フォームから、ショートカット・メニューを使用して、プロジェクトの追加と削除、プロジェクトの調整、プロジェクト・ステータスの変更、プロジェクトの移動、支出および収益プランニングの実行、プロジェクトのパフォーマンスの確認などのプロジェクト提案タスクを実行します。「プロジェクトのパフォーマンス」・フォームから、ショートカット・メニューを使用して、プロジェクトを計算し、資金要求の追加および取消しを行います。

プロジェクト提案タスクの実行の詳細は、[第 5 章「新規プロジェクトの提案」](#)を参照してください。

プロジェクト・スコアの比較

プロジェクト・スコアリングでは、事前定義された一連の目標値に対するプロジェクトのパフォーマンスをエンティティおよびプロジェクト・レベルで追跡し、主観的要因および財務要因に基づいてプロジェクトをスコアリングします。これらのスコアを使用してプロジェクトをランク付けし、他のプロジェクトおよび事前定義された一連の制約と比較して、プロジェクトのパフォーマンスを分析します。財務スコアは財務メトリックとプロジェクトの要因に依存しており、財務プランニングをベースにしています。主観的スコアは定性的な要因および事前定義された質問への応答およびエンティティの責任者による評価をベースにしています。個々のプロジェクトおよびプロジェクト全体のプロジェクト・スコアを確認できます。

プロジェクトのスコアリング・プロセスは、プロジェクト・スコアのコンポーネントの加重を定義するエンティティの責任者が開始します。これらの加重は、主観的レベルまたは財務レベルで定義され、主観的加重はさらにコンポーネントとサブコンポーネントに分割されます。主観的スコアリングは、エンティティの責

任者が定義した、プロジェクトのパフォーマンスに関係がある質問をベースにしています。プロジェクト・マネージャがプロジェクトの財務プランニングを完了後、計算された財務メトリックおよびパラメータの詳細を利用して、財務スコアが自動的に計算されます。主観的スコアの場合、プロジェクト・マネージャが事前定義された質問に回答し、その応答に基づいてエンティティの責任者がプロジェクトの主観的スコアを決定します。財務スコアと主観的スコアの組合せを使用して、プロジェクトをランク付けします。プロジェクトのランク付けを利用して、エンティティ、財務部門および企業の経営者はプロジェクトを承認して資金を割り当てるかどうかを決定できます。

エンティティ内のプロジェクトのすべての財務スコアと戦略スコアを確認し、承認を得るためにスコアを使用してプロジェクトをランク付けできます。

▶ プロジェクト・スコアを比較するには:

1 「プロジェクトの確認」タスク・リストの下で、「新規プロジェクトの確認」を展開し、「プロジェクト・スコアの比較」を起動します。

200 ページの「[「プロジェクトの確認」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

2 「プロジェクト・スコアと理由の確認」複合フォームを確認します。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

3 フォームから、ショートカット・メニューを使用してプロジェクト・スコアを計算します。

仮定分析の実行

このタスクでは、プロジェクト内のバリエーションを分析できます。プロジェクトのターゲットを設定し、異なる結果または仮定のセットを評価します。Project Financial Planning 内で仮定バージョンを使用して考えられる様々な結果の評価を行えます。分析に基づいて、承認に必要なパラメータをすべて満たすプロジェクトを承認します。

仮定分析バージョンをプロジェクトにコピーするための条件は3つあります:

- 必須プロジェクトはすべて仮定バージョンにコピーできます
 - 必須 - 間接プロジェクトを新たに追加する際、このオプションが表示されません。仮定分析バージョンをコピーするための条件のうち「必須」が最も優先されます。
 - 「必須」フィールドが「はい」の場合、そのプロジェクトは仮定バージョンに含まれます。
 - 「必須」フィールドが「いいえ」の場合、そのプロジェクトは仮定バージョンから除外されます。
 - 「必須」フィールドにオプションを指定しない場合、プロジェクトを仮定バージョンに含めるか、除外するかについては他の条件が斟酌されます。

注: 「必須」フィールドは間接プロジェクトにのみ適用されます。

- 「新規プロジェクトを含める/除外する」および「既存のプロジェクトを含める/除外する」の両フォームで、「含める/除外する」ドロップダウン・リストを使用して、プロジェクトを含めるか除外するかを選択できます
- 「含める/除外する場合の基準」で指定される条件に基づきます。

「既存のプロジェクトを含める/除外する」の表示


このタスクでは、既存のプロジェクトのパフォーマンスを確認できます。既存のプロジェクトから、プロジェクトを仮定バージョンに含める、または仮定バージョンから除外することができます。

▶ プロジェクトを仮定バージョンに含める/除外するには:

- 1 「プロジェクトの確認」タスク・リストの下で、「既存のプロジェクトを含める/除外する」タスクを起動します。

200 ページの「[「プロジェクトの確認」タスク・リストの表示](#)」を参照してください

- 2 「含める/除外する」タブを選択します。

- 3 ドロップダウン・リストから「ページ次元」を選択し、 をクリックします。

- 4 仮定バージョンに**含める**または**除外する**プロジェクトを選択します。

- 5 「保存」をクリックします。

「データが保存されました。」が表示されます。「OK」をクリックします。


「新規プロジェクトを含める/除外する」の表示

このタスクでは、新規プロジェクトのパフォーマンスを確認できます。新しく追加したプロジェクトから、プロジェクトを仮定バージョンに含める、または仮定バージョンから除外することができます。

▶ プロジェクトを仮定バージョンに含める/除外するには:

- 1 「プロジェクトの確認」タスク・リストの下で、「新規プロジェクトを含める/除外する」タスクを起動します。

200 ページの「[「プロジェクトの確認」タスク・リストの表示](#)」を参照してください

- 2 ドロップダウン・リストから「ページ次元」を選択し、 をクリックします。

- 3 仮定バージョンに**含める**または**除外する**プロジェクトを選択します。

- 4 「保存」をクリックします。

「データが保存されました。」が表示されます。「OK」をクリックします。

「含める/除外する場合の基準」の実行

このタスクでは、基準を満たすかどうかに応じてプロジェクトを仮定バージョンにコピーできます。「承認条件」列から基準を選択して、上限および下限の詳細などの範囲を指定します。指定した範囲内ですべての条件が満たされた場合、そのプロジェクトは仮定バージョンに自動的にコピーされます。たとえば、純利益および純収益基準が 10,000(下限)と 99,999(上限)の範囲内にある場合、このプロジェクトは仮定バージョンにコピーされます。

▶ 「含める/除外する場合の基準」を実行するには:

- 1 「含める/除外する場合の基準」を指定するプロジェクトを選択します。
- 2 選択したプロジェクト上で右クリックし、「含める/除外する場合の基準」を選択します。
- 3 「3.02 既存のプロジェクトを含める/除外する」ダイアログ・ボックスで、基準を選択し、上限および下限の詳細などの範囲を指定します。
- 4 「承認条件」列で詳細を指定し、「保存」をクリックします。

プロジェクト詳細の取得

このタスクでは、ソース・シナリオおよびバージョンからプロジェクト情報を取得できます。

前提条件: プロジェクトの詳細を取得する前に、次の代替変数に値が設定されていることを確認する必要があります:

- SourceScenarioNewProjects
- SourceVersionNewProjects

詳細は、[31 ページの「製品の最初の実装タスク」](#)を参照してください。

これらの代替変数を使用すると、プロジェクトのソースのシナリオおよびバージョンからグローバル仮定データ(Workforce/Capex)を取得できます。また、プロジェクトの詳細(仮定バージョン内の支出および収益)の計算に役立ちます。

次のタスクを実行する前に、ソースのシナリオおよびバージョンからプロジェクト情報を取得する必要があります。

- プロジェクト日付のシフト
- 支出の変更
- 収益の変更

注: 仮定バージョンに含めるまたは除外するすべてのプロジェクトについて、プロジェクトを含めるまたは除外する前にプロジェクト情報を取得する必要があります。

▶ プロジェクト詳細を取得するには、情報の取得対象のプロジェクトを右クリックし、「プロジェクトの詳細の取得」を選択します。

プロジェクト終了日の変更

このタスク・リストを使用すると、プロジェクトの開始日を1月以上ずつ前後に移動できます。Project Financial Planning では、新規プロジェクトと既存のプロジェクトの終了日を変更できます。たとえば、Project Financial Planning で EVM 分析を実行し、プロジェクトが遅延していることを示す情報が表示された場合、プロジェクトの終了日を変更します。

リソース割当てがプロジェクトの終了日を超えて継続する場合、終了日の変更ルールを実行すると、「リソース割当て(労務、装置および材料)がプロジェクト期間に違反しています」という内容のエラー・メッセージが表示されます。

リソース割当てが提案されたプロジェクトの終了日以内にある場合、プロジェクトの終了日は提案された終了日に変更されます。ただし、ユーザーによる終了日の変更が可能であるため、プロジェクトに関連するリソース割当ての詳細を確認する必要があります。Project Financial Planning では、プロジェクトに割り当てられているリソースに対する変更は行われません。

▶ プロジェクト終了日を変更するには:

- 1 「プロジェクトの確認」タスク・リストの下で、「既存のプロジェクトを含める/除外する」を起動します。

200 ページの「[「プロジェクトの確認」タスク・リストの表示](#)」を参照してください

- 2 「含める/除外する」タブを選択します。
- 3 プロジェクト終了日を変更するプロジェクトを右クリックし、「プロジェクト終了日の変更」を選択します。
- 4 「実行時プロンプト」で、「提案されたプロジェクトの終了日」の詳細を指定します。

「提案されたプロジェクトの終了日」で、カレンダー・アイコンを使用して日付を選択する必要があります。

- 5 「OK」をクリックします。

「提案されたプロジェクトの終了日が成功しました」が表示されます。「OK」をクリックします。

仮定バージョンのコピー

▶ プロジェクトを新規仮定バージョンにコピーするには:

- 1 新規仮定バージョンにコピーするプロジェクトを選択します。
- 2 選択したプロジェクト上で右クリックし、「新規仮定バージョンにコピー」を選択します。
- 3 「実行時プロンプト」ダイアログ・ボックスで、次の詳細を入力します:

1. 「ソース・シナリオの選択」で、メンバー・セクタ・アイコンを使用してシナリオを選択します。

2. 「ソース・バージョン」で、メンバー・セレクト・アイコンを使用してソース・バージョンを選択します。
3. 「仮定シナリオの選択」で、メンバー・セレクト・アイコンを使用して仮定シナリオを選択します。
4. 「仮定バージョン」で、新規仮定バージョンの名前を入力します。

注：「新規仮定バージョンにコピー」・ルールを実行すると、新規**仮定バージョン**・メンバーがバージョン次元内に作成されます。

4 「OK」をクリックします。

「仮定バージョンのコピーに成功しました | Approve What-If was successful□」が表示されます。「OK」をクリックします。

注：必要なデータを指定すると、下部のフォーム**仮定 vs ターゲット**および**仮定 vs ターゲット差異の確認**に値が表示されます。

▶ プロジェクトを既存の仮定バージョンにコピーするには:

- 1 既存の仮定バージョンにコピーするプロジェクトを選択します。
- 2 選択したプロジェクト上で右クリックし、「既存の仮定バージョンにコピー」を選択します。
- 3 「実行時プロンプト」ダイアログ・ボックスで、次の詳細を入力します:
 1. 「ソース・シナリオの選択」で、メンバー・セレクト・アイコンを使用してシナリオを選択します。
 2. 「ソース・バージョン」で、メンバー・セレクト・アイコンを使用してソース・バージョンを選択します。
 3. 「仮定シナリオの選択」で、メンバー・セレクト・アイコンを使用して仮定シナリオを選択します。
 4. 「仮定バージョンの選択」で、メンバー・セレクト・アイコンを使用して仮定バージョンを選択します。
- 4 「OK」をクリックします。


「既存のプロジェクトの既存の仮定バージョンへのコピーに成功しました」が表示されます。「OK」をクリックします。

仮定バージョンの確認

このフォームおよびグラフ内に存在する数量情報は、判断を下す際に役立ちます。棒グラフは、仮定値とターゲット差異の差分を比較する場合に便利です。カーソルを水平棒の上に置くと、その会計年度の収益値が表示されます。財務値は y 軸に表示されます。会計年度は x 軸に表示されます。凡例は、レポートの右下に表示されます。

▶ 仮定 vs ターゲット差異の確認レポートを表示するには:

- 1 **ターゲットと比較する「仮定バージョン」**をドロップダウン・リストから選択します。

- 2  をクリックします。

データ検証メッセージの確認

次のように許容差の限度を超えた場合、ユーザーはデータ検証リンクを使用して重要な情報を得ることができます:

- 利益が許容差の値を超えています
- 労務リソース合計が許容差の値を超えています
- 投資合計が許容差の値を超えています
- 収益が許容差の値を超えています

仮定バージョンの承認

このタスクでは、仮定バージョンを承認できます。仮定バージョンが承認されると、変更されたプロジェクトのデータ全体がソースのシナリオとバージョンにコピーされます。データとともにプロジェクトのステータスがソースで次のように変更されます。

- 既存のプロジェクト・ステータスが「アクティブ」に更新されます
- 新しいプロジェクト・ステータスが「承認済」に更新されます

プロジェクトが承認されると、変更されたプロジェクト・データ全体が最終バージョンにコピーされます。

▶ 仮定バージョンを承認するには:

- 1 「仮定 vs ターゲット」・フォームの下で、承認する**仮定バージョン**を選択します。
- 2 選択した仮定バージョンを右クリックし、「仮定の承認」を選択します。
- 3 「実行時プロンプト」ダイアログ・ボックスで、次の詳細を入力します:
 1. 「仮定シナリオの選択」で、メンバー・セレクトア・アイコンを使用してシナリオを選択します。
 2. 「仮定バージョンの選択」で、メンバー・セレクトア・アイコンを使用して仮定バージョンを選択します。
 3. 「既存のプロジェクトのソース・シナリオの選択」で、メンバー・セレクトア・アイコンを使用してシナリオを選択します。
 4. 「既存のプロジェクトのソース・バージョンの選択」で、メンバー・セレクトア・アイコンを使用してバージョンを選択します。
 5. 「除外された既存のプロジェクトのステータスを保留に変更」で、「はい」または「いいえ」を選択します。
 6. 「新規プロジェクトのソース・シナリオの選択」で、メンバー・セレクトア・アイコンを使用してシナリオを選択します。
 7. 「新規プロジェクトのソース・バージョンの選択」で、メンバー・セレクトア・アイコンを使用してバージョンを選択します。
- 4 「OK」をクリックします。

「仮定の承認に成功しました | Approve What-If was successful□」が表示され
ます。「OK」をクリックします。

仮定バージョンの削除

このタスクでは、仮定バージョンを削除できます。これは、不要な仮定バージョンの処分に役立ちます。

▶ 仮定バージョンを削除するには:

- 1 「仮定 vs ターゲット」・フォームの下で、削除する仮定バージョンを選択します。
- 2 選択した仮定バージョンを右クリックし、「仮定の削除」を選択します。
- 3 「OK」をクリックします。

注: 「仮定の削除」ルールを実行した後、選択した「仮定(What-if)」バージョン・メンバーがバージョン次元から削除されます。

仮定バージョンからのプロジェクトの削除

このタスクでは、仮定バージョンからプロジェクトを削除できます。これは、仮定バージョンからのプロジェクトの処分に役立ちます。仮定バージョンに含まれるプロジェクトを削除できます。リーフ・レベル・プロジェクト・メンバーのみ仮定バージョンから削除できます。

▶ 仮定バージョンからプロジェクトを削除するには:

- 1 「仮定 vs ターゲット」・フォームで、仮定バージョンを展開し、プロジェクトを選択します。
- 2 削除するプロジェクトを右クリックし、「プロジェクトの削除」を選択します。
- 3 「OK」をクリックします。

プロジェクト日付の調整

▶ プロジェクト終了日を調整するには:

- 1 「プロジェクトの確認」タスク・リストの下で、「新規プロジェクトを含める/除外する」を起動します。

200 ページの「[「プロジェクトの確認」タスク・リストの表示](#)」を参照してください

- 2 プロジェクト終了日を変更するプロジェクトを右クリックし、「プロジェクト開始日の調整」を選択します。
- 3 「プロジェクト開始日の調整」に移動した後、次のいずれかのオプションを選択します:
 - プロジェクト開始日のシフト
 - 前の開始日に戻る

- プロジェクト終了日の変更

4 「プロジェクト開始日のシフト」を選択した場合、「実行時プロンプト」ダイアログ・ボックスで次の詳細を指定します。

1. 「プロジェクトの選択」で、メンバー・セレクタ・アイコンを使用してプロジェクトを選択します。
2. 「プロジェクト開始日のシフト」で、「戻る」または「先」を選択します。
3. 「月数」で、プロジェクトの開始日をシフトする月数を入力します。

注： 一度にシフトできるのは1つのプロジェクトのみです。

注： プロジェクトの日付をシフトしても、プロジェクトの期間は変更されません。シフトする前にプロジェクトが2年間にわたる場合、プロジェクトをシフトした後もプロジェクトは2年間にわたります。プロジェクトに対するリソースの割当てはすべて同じ期間によってシフトされます。ただし、プロジェクトの支出をシフトした後、収益は、シフト後にプロジェクトが収まる会計年度に定義された仮定を使用して再計算されるため、変更される可能性があります。

5 「前の開始日に戻る」オプションを選択した場合、プロジェクトの日付を元に戻すことができます。

注： 最近シフトしたプロジェクトの場合のみ、このオプションを使用できません。

注： プロジェクト終了日を変更すると、「前の日付に戻る」ルールを使用して前の開始日に戻すことはできません。「前の日付に戻る」が機能するのは、「プロジェクト開始日のシフト」を使用してシフトしたプロジェクトに対してのみです。

注： 「プロジェクト開始日のシフト」および「前の日付に戻る」ルールは、一度に1つのプロジェクトに対してのみ実行できます。

6 「プロジェクト終了日の変更」を選択する場合、「実行時プロンプト」に次の詳細を入力します: 「提案されたプロジェクトの終了日」で、カレンダー・アイコンを使用して日付を選択できます。

7 「OK」をクリックします。

プロジェクトの承認

承認に必要なすべてのパラメータを満たすプロジェクトを承認できます。

▶ プロジェクトを承認するには:

- 1 「プロジェクトの確認」タスク・リストの下で、「プロジェクトの承認」を起動します。

200 ページの「プロジェクトの確認」タスク・リストの表示」を参照してください。

2 「承認の管理」フォームを確認します。

フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

3 プランニング・ユニットのステータスを「承認済」に変更します。

プランニング・ユニットで実行できるすべての確認および承認タスクの詳細は、Oracle Hyperion Planning User's Guide のプランニング・ユニットの管理に関する項を参照してください。



テンプレート

この付録の内容

テンプレートについて.....	217
サンプル・テンプレート・ファイルの抽出.....	217
テンプレート・ファイルのフォーマット.....	218
前提条件と推奨事項.....	219
データ・ロードの設定.....	219
データ・ロード・ファイルの順序.....	220
CSV データ・ロード・ファイルのインポート.....	221
テンプレート・ファイルの説明.....	223

テンプレートについて

Project Financial Planning では、データおよびメタデータをアプリケーションにインポートするために使用できる、インポート・ユーティリティおよびサンプル・テンプレート・ファイルが提供されます。データおよびメタデータをインポートするには、ExportPFPTemplates ユーティリティを使用して、サンプル・テンプレート・ファイルをユーザー定義のルート・フォルダに抽出します。

ExportPFPTemplates_EPMA ユーティリティを使用して、サンプル・テンプレート・ファイルを Project Financial Planning Performance Management Architect アプリケーションのユーザー定義ルート・フォルダに抽出します。サンプル・テンプレート・ファイルは、データを Project Financial Planning アプリケーションにロードするために CSV ファイル・フォーマットに設定する方法を示します。次に、サンプル・テンプレート・ファイルを使用して、CSV フォーマットのデータ・ロード・ファイルを作成します。最後に、PFPIImportUtility を使用して、データおよびメタデータを Project Financial Planning アプリケーションにインポートします。データおよびメタデータを Project Financial Planning Performance Management Architect アプリケーションにインポートするには、PFPIImportUtility_EPMA を使用します。

サンプル・テンプレート・ファイルの抽出

サンプル・テンプレート・ファイルを使用するには、まず HspPPIT.JAR からこれらのファイルを抽出します。ExportPFPTemplates ユーティリティを使用して、ユーザー定義のルート・フォルダにこれらを抽出し、PasswordEncryption.cmd ユーティリティを使用して暗号化されたパスワードを生成します。

▶ サンプル・テンプレート・ファイルを抽出するには:

1 コマンド・プロンプトを開き、Planning のインストール場所に移動します。

たとえば、使用している Oracle インスタンスが c:\Oracle の場合は、c:\Oracle\Middleware\user_projects\epmsystem1\Planning\planning1 に移動します。

2 次のいずれかのコマンドを入力します:

- `ExportPFPTemplates.cmd <root folder location> <language>`
- `ExportPFPTemplates_EPMA.cmd <root folder location> <language>`
(Project Financial Planning Performance Management Architect アプリケーションの場合)

ここで、<root folder location>はサンプル・テンプレート・ファイルを抽出するディレクトリ、<language>は Planning ロケールの言語コード(たとえば、フランス語は fr、英語は en、簡体字中国語は zh_cn)です。

注: 言語コードには小文字を使用してください。

3 PasswordEncryption.cmd <password file location>と入力します。

<password file location>は、パスワード・ファイルを格納するディレクトリです。

注: パスワード・ファイルの名前を指定しない場合、デフォルトのパスワード・ファイル名は password.txt です。

4 ルート・フォルダとパスワード・ファイルの場所に移動します。サンプル・テンプレート・ファイルが表示されており、パスワード・ファイルが作成されていることを確認します。

テンプレート・ファイルのフォーマット

テンプレートと同じフォーマットの CSV ファイルを同じファイル名で作成します。

サンプル・テンプレート・ファイル内の最初の行には、メンバー・プロパティとロードする値を識別するヘッダー・レコードが含まれます。ヘッダー・レコードには、予算項目(「エンティティ」、「資産クラス」、「従業員」、「プロジェクト」など)、データ・ロードのキューブ名、ロードするデータの種類(プロジェクトの開始日と終了日、資産の説明、従業員タイプなど)およびデータをロードする視点(POV)が含まれます。「POV」列には、データをロードする予算に関する情報(シナリオとバージョン)およびロードしているデータに関連付けられたアーティファクト(エンティティ、職階、従業員など)が含まれます。

たとえば、次の表に、Project Asset Assignment サンプル・テンプレート・ファイルのヘッダー・レコードとサンプル・データ行をリストします。

表 5 サンプル・テンプレート・ファイル

資産詳細	データ・ロードのキューブ名	割当て・開始日	割当て・終了日	資産単位	理由	視点(POV)
Lenovo T400 ラップトップ	Capex	09-01-2011	08-31-2013	8	割当て済	USA、"年なし"、BegBalance、"契約プロジェクト 1"、ローカル、"プラン"、"作業中"、"ラップトップ"

このサンプル・データ行は、「Lenovo T400 ラップトップ」データをプラン(シナリオ)、作業中(バージョン)、ラップトップ(資産クラス)、契約プロジェクト 1(プロジェクト)、USA(エンティティ)、年なし(年)、BegBalance(期間)、ローカル(通貨)の Capex キューブにロードします。

テンプレート・フォーマットの詳細は、[223 ページの「テンプレート・ファイルの説明」](#)を参照してください。

前提条件と推奨事項

- 開発またはテスト環境で現在のアプリケーションのコピーを使用して CSV ロード・ファイルを作成およびテストすることをお勧めします。ロード・ファイルでデータが正しくロードされることを確認した後で、それらのロード・ファイルを本番環境で実行します。
- 最初にメタデータをロードし、次にデータをロードします。ロード・ファイルは、[220 ページの「データ・ロード・ファイルの順序」](#)で指定されている順序で実行します。
- データをレベル 0 メンバーにのみロードしてから、必要に応じてデータを親メンバーにロールアップします。データを親メンバーにロードしてからデータを集約する場合、親メンバーに入力された値はロールアップされた値で上書きされます。
- CSV ファイル・データのすべての日付は mm-dd-yyyy のフォーマットにする必要があります。
- すべてのパーセンテージ値は 100 で割った後に入力する必要があります。たとえば、パーセンテージ値 30%を追加する場合、CSV ファイルに値 0.3 を入力する必要があります。

データ・ロードの設定

データをインポートする前に、データ・ロード・ファイル内のメンバーが Project Financial Planning アプリケーションのデータ・ロード設定で指定されていることを確認します。データ・ロード・ファイルは次の要素から構成されます:

- 「データ・ロード次元」は、データのロード先の次元です。これは常にテンプレート・ヘッダーの最初の列になります。
- 「データ・ロードのキューブ名」は、データのロード先のプラン・タイプの名前です。これはテンプレート・ヘッダーの 2 番目の列です。

- 「視点(POV)」は、データをロードする交差の定義に必要なその他すべての次元を構成します。これはテンプレート・ヘッダーの最後の列です。
- 「ドライバ次元」は、データのロード先のメンバーです。1回のロードに1つのドライバ次元を指定できます。テンプレート・ヘッダー内の「データ・ロード次元」、データ・ロードのキューブ名および「視点(POV)」を除く列がドライバ次元を構成します。

たとえば、次のヘッダー・レコードでは、「勘定科目」がデータ・ロード次元で、「期間」がドライバ次元です。

表 6 「データ・ロード次元」と「ドライバ次元」の例

勘定科目	データ・ロードのキューブ名	1月	2月	...	11月	12月	視点(POV)
データ・ロード次元(勘定科目)	データ・ロードのキューブ名	ドライバ次元(期間)					視点(POV)

データ・ロード・ファイル・ヘッダー内のドライバ次元のすべてのメンバーが、アプリケーションの「データ・ロード管理」ページの「ドライバ次元」フィールドにリストされていることを確認します。ドライバ・メンバーの設定の詳細は、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide の第 5 章を参照してください。

注： メタデータをロードするためのデータ・ロードの設定は必要ありません。

データ・ロード・ファイルの順序

ソース・データが正しくロードされるようにするために、PFPIImportUtility スクリプトを使用する場合にアーティファクトがデフォルトで次の順序でロードされます。

注： Project Financial Planning Performance Management Architect アプリケーションでは、データは、リリース 11.1.2.2.300 の Oracle Project Financial Planning User's Guide に記載されている順序でロードされます。

表 7 データ・ロード・ファイルの順序

インポートするアーティファクト	サンプル・テンプレート・ファイル
スマート・リスト	SmartList.csv
資産詳細メタデータ	AssetMem.csv
従業員メタデータ	EmployeeMem.csv
エンティティ・メタデータ	EntityMem.csv
プロジェクト・メタデータ	ProjectMem.csv
資本に関する仮定	ImportGlobalCapitalAssumptions.csv
諸経費仮定	ImportOverheadAssumptions.csv

インポートするアーティファクト	サンプル・テンプレート・ファイル
要員仮定	ImportWFPAssumptions.csv
資産減価償却および償却データ	Asset Depreciation and Ammortization.csv
エンティティ・レベルの実績	ImportEntityLevelActuals.csv
プロジェクト・データ(新規および既存)	ProjectDetails.csv
プロジェクト支出データ	ProjectExpense.csv
プロジェクト収益データ	ProjectRevenue.csv
プロジェクト完了	ProjectCompletion.csv
プロジェクトへの従業員の割当て(新規および既存)	ImportEmployeeProjectAssignment.csv
プロジェクトへの既存の資産の割当て	ImportProjectAssetAssignments.csv
プロジェクトの材料要件	ImportProjectMaterialRequirements.csv
既存の従業員データ	ImportExistingEmployees.csv
既存の主要資産データ	ImportAssets.csv

注： データをロードする前に、必要なすべての従属メタデータがすでに存在するか、CSV ファイルを通じてロードされていることを確認します。

CSV データ・ロード・ファイルのインポート

CSV データ・ロード・ファイルの作成後に、テンプレート・ファイルをデータ・ロード・ファイルで置換します。データ・ロード・ファイルがテンプレート・ファイルと同じ名前であること、およびデータ・ロード・ファイルのフォーマットが提供されているテンプレートと同じフォーマットであることを確認します。

PFPIImportUtility.bat ファイルを実行してデータ・ロード・ファイルをインポートし、PFPIImportUtility_EPMA.bat ファイルを実行して Project Financial Planning Performance Management Architect アプリケーションのデータ・ロード・ファイルをインポートします。

▶ CSV データ・ロード・ファイルをインポートするには:

1 Planning のインストール場所に移動します。

たとえば、使用している Oracle インスタンスが C:\Oracle の場合は、C:\Oracle\Middleware\user_projects\epmsystem1\Planning\planning1 に移動します。

2 次のコマンドを実行します:

```
PFPIImportUtility.bat <parameter1> <parameter2> <parameter3>
<parameter4> <parameter5> <parameter6>
```

ここで:

- <parameter1> = アプリケーション名
- <parameter2> = ユーザー名
- <parameter3> = ファイル名を含むパスワード・ファイルのパス
- <parameter4> = CSV ファイルが存在するフォルダの場所
- <parameter5> = インポートのモードを選択するためのスイッチ
データをリレーショナル・テーブルからロードするにはパラメータ table
を使用し、データを CSV テンプレートからロードするにはパラメータ
file を使用します。
- <parameter6> = 部分的なロード・パラメータ
このパラメータは、次の 1 つ以上の値に設定できます(カンマ区切り):
 - employee - 従業員に関連するすべてのデータおよびメタデータをロードします
 - asset - 資産に関連するすべてのデータおよびメタデータをロードします
 - assumption - 仮定データをロードします
 - project - プロジェクトに関連するすべてのデータおよびメタデータをロードします
 - all - すべてのデータおよびメタデータをロードします

例: employee, asset (従業員と資産に関連するデータおよびメタデータをロードします)

例: all (すべてのデータおよびメタデータをロードします)

3 Project Financial Planning アプリケーションを開き、データがロードされたことを確認します。

▶ Project Financial Planning Performance Management Architect アプリケーションの CSV データ・ロード・ファイルをインポートするには:

1 Planning のインストール場所に移動します。

たとえば、使用している Oracle インスタンスが c:\Oracle の場合は、c:\Oracle\Middleware\user_projects\epmsystem1\Planning\planning1 に移動します。

2 PFPIImportUtility_EPMA.bat を実行します。

3 プロンプトが表示されたら、データ・ロード・ファイルが格納されているルート・フォルダの場所、パスワード・ファイルの場所および言語コード(たとえば、英語の場合は en)を入力します。

注： 言語コードには小文字を使用してください。

4 Project Financial Planning アプリケーションを開き、データがロードされたことを確認します。

テンプレート・ファイルの説明

サブトピック

- [スマート・リストとスマート・リスト値テンプレートの説明](#)
- [メタデータ・テンプレートの説明](#)
- [データ・テンプレートの説明](#)
- [プロジェクト完了テンプレートの説明](#)

Project Financial Planning Performance Management Architect テンプレート・ファイルの詳細は、リリース 11.1.2.2.300 の Oracle Project Financial Planning User's Guide を参照してください。

注： メタデータ・テンプレートを使用して、Performance Management Architect を介して作成された Project Financial Planning アプリケーションにメタデータをインポートしないでください。Project Financial Planning Performance Management Architect アプリケーションのメタデータの変更は、Performance Management Architect 次元ライブラリを介してのみ行います。これにより、Oracle Hyperion EPM Architect と Planning の同期が保証されます。

スマート・リストとスマート・リスト値テンプレートの説明

スマート・リストとスマート・リスト値をロードする前に、関連付けられている製品フィールド名とエントリ名を識別します。スマート・リストをロードするには、データ・ロード・ファイルの「スマート・リスト名」列で製品またはメンバー名を指定します。スマート・リスト値をロードするには、データ・ロード・ファイルの「エントリ名」列に対応するエントリ名を入力します。

スマート・リストとスマート・リスト値は、SmartList.csv データ・ロード・ファイルと同じフォーマットのファイルを使用してロードします。次の表に、このファイルのヘッダー・レコードとサンプル・データをリストします。

表 8 Smartlist.csv データ・ロード・ファイルのヘッダー・レコードおよびサンプル・データ

ヘッダー・レコード	サンプル・データ
スマート・リスト名	ProjectManager
エントリ名	PaulKim
エントリ・ラベル	Paul Matthew Kim

次のスマート・リストのエントリのみ追加できます:

- AssignmentLocation
- Customer
- FundingSource
- PhysicalLocation

- ProjectCostLevel
- ProjectManager
- SkillSet

メタデータ・テンプレートの説明

サブトピック

- [エンティティ・メタデータ・テンプレート](#)
- [プロジェクト・メタデータ・テンプレート](#)
- [資産詳細テンプレート](#)
- [従業員テンプレート](#)
- [ジョブ・テンプレート](#)

メタデータをロードする場合は、エンティティ、プロジェクト、資産詳細従業員およびジョブの次元にメンバーを追加できます。

注意:

- メタデータをロードする場合は、子をロードする前にアプリケーションに親メンバーが存在することを確認します。
- すべてのテンプレートは、POV から通貨次元を削除することで単一通貨 Project Financial Planning アプリケーションに使用できます。たとえば、次の POV があるとします:

BegBalance、"年なし"、ローカル、"プロジェクトなし"、"USA"、"シナリオなし"、"バージョンなし"、"BI マシン"

これは次に変更できます:

BegBalance、"年なし"、"プロジェクトなし"、"USA"、"シナリオなし"、"バージョンなし"、"BI マシン"

エンティティ・メタデータ・テンプレート

エンティティ次元では、「USA」や「メキシコ」などのエンティティと、「北米」などの親エンティティをロードします。エンティティ・メタデータは、EntityMem.csv データ・ロード・ファイルと同じフォーマットのファイルを使用してロードします。次の表に、このファイルのヘッダー・レコードとサンプル・データをリストします。

表 9 EntityMem.csv のヘッダー・レコードおよびサンプル・データ

ヘッダー・レコード	サンプル・データ
エンティティ	USA
親	北米
説明(オプション)	米国エンティティ
別名: デフォルト	アメリカ合衆国

注： 別名は、既存の別名またはメンバー名と重複できません。

プロジェクト・メタデータ・テンプレート

プロジェクト次元に、既存のプロジェクトのメタデータを追加します。プロジェクト・メタデータは、ProjectMem.csv データ・ロード・ファイルと同じフォーマットのデータ・ファイルを使用してロードします。次の表に、このファイルのヘッダー・レコードとサンプル・データをリストします。

表 10 ProjectMem.csv のヘッダー・レコードおよびサンプル・データ

ヘッダー・レコード	サンプル・データ
プロジェクト	IT プロジェクト
親	既存の契約プロジェクト
説明(オプション)	情報技術プロジェクト
別名: デフォルト	情報技術プロジェクト

注： 別名は、既存の別名またはメンバー名と重複できません。

資産詳細テンプレート

資産詳細次元に、資産詳細メンバーを追加します。資産詳細は、AssetMem.csv データ・ロード・ファイルと同じフォーマットのデータ・ファイルを使用してロードします。次の表に、このファイルのヘッダー・レコードとサンプル・データをリストします。

表 11 AssetMem.csv のヘッダー・レコードおよびサンプル・データ

ヘッダー・レコード	サンプル・データ
資産詳細	Lenovo T400 ラップトップ
親	主要資産合計
説明(オプション)	Lenovo T400 ラップトップ
別名: デフォルト	Lenovo T400 ラップトップ

注： 別名は、既存の別名またはメンバー名と重複できません。

従業員テンプレート

従業員次元に、既存の従業員のメタデータを追加します。従業員メタデータは、EmployeeMem.csv データ・ロード・ファイルと同じフォーマットのデータ・ファイルを使用してロードします。次の表に、このファイルのヘッダー・レコードとサンプル・データをリストします。

表 12 EmployeeMem.csv のヘッダー・レコードおよびサンプル・データ

ヘッダー・レコード	サンプル・データ
従業員	Paul Kim
親	既存の従業員
説明(オプション)	Paul Kim
別名: デフォルト	Paul Matthew Kim

注： 別名は、既存の別名またはメンバー名と重複できません。

メタデータのロードが終了したら、Project Financial Planning アプリケーションを開き、次元編集者を使用して階層を表示することで、メンバーが追加されたことを確認します。

ジョブ・テンプレート

ジョブ次元で、プロジェクト関連および非プロジェクト関連のメタデータを追加します。ジョブ・メタデータは、JobMem.csv データ・ロード・ファイルと同じフォーマットのデータ・ファイルを使用してロードします。次の表に、このファイルのヘッダー・レコードとサンプル・データをリストします。

表 13 JobMem.csv のヘッダー・レコードおよびサンプル・データ

ヘッダー・レコード	サンプル・データ
ジョブ	テスト・ジョブ
親	プロジェクト関連ジョブ
説明(オプション)	これはテスト用です
別名: デフォルト	ジョブのテスト

注： 別名は、既存の別名またはメンバー名と重複できません。

メタデータのロードが終了したら、Project Financial Planning アプリケーションを開き、次元編集者を使用して階層を表示することで、メンバーが追加されたことを確認します。

データ・テンプレートの説明

サブトピック

- 仮定テンプレートの説明
- 資産減価償却および償却テンプレートの説明
- プロジェクトの詳細テンプレートの説明
- プロジェクトの支出および収益のテンプレートの説明
- 従業員プロジェクト割当てテンプレートの説明
- 資産プロジェクト割当てテンプレートの説明
- プロジェクト材料要件テンプレートの説明
- 既存の従業員データ・テンプレートの説明
- 既存の主要資産データ・テンプレートの説明
- リース資産データ・テンプレートの説明
- エンティティ・レベル実績テンプレートの説明

仮定テンプレートの説明

サブトピック

- 資本に関する仮定テンプレート
- 諸経費仮定テンプレート
- 要員仮定テンプレート

「資本」、「諸経費」および「要員」の仮定をロードできます。

資本に関する仮定テンプレート

資本に関する仮定には、減価償却や償却方法などのデータが含まれます。資本に関する仮定アーティファクトは、ImportGlobalCapitalAssumptions.csv データ・ロード・ファイルと同じフォーマットのデータ・ファイルを使用してロードします。次の表に、このファイルのヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項をリストします。

表 14 ImportGlobalCapitalAssumptions.csv のヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	制限事項
資産クラス	土地	「土地」は資産クラス次元に存在する必要があります。
データ・ロードのキューブ名	Capex	
耐用年数	15	<ul style="list-style-type: none">● 有形資産および無形資産クラスに対してのみ入力できます● "年なし"で入力する必要があります
減価償却方法	SLN	<ul style="list-style-type: none">● 有形資産クラスに対してのみ入力できます● "年なし"で入力する必要があります● スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「SLN」、「NoDepr」、「SYD」、「DBYear」、「DBPeriod」です

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	制限事項
減価償却換算	MidPeriod	<ul style="list-style-type: none"> ● 有形資産クラスに対してのみ入力できます ● "年なし"で入力する必要があります ● スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「ProrateBegPer」、「ProrateActDate」、「MidPeriod」です。
償却方法		<ul style="list-style-type: none"> ● 無形資産クラスに対してのみ入力できます ● "年なし"で入力する必要があります
税金%		<ul style="list-style-type: none"> ● 有形資産および無形資産クラスに対してのみ入力できます ● 年(「FY11」など)で入力する必要があります
保険%		<ul style="list-style-type: none"> ● 有形資産および無形資産クラスに対してのみ入力できます ● 年(「FY11」など)で入力する必要があります
メンテナンス%		<ul style="list-style-type: none"> ● 有形資産および無形資産クラスに対してのみ入力できます ● 年(「FY11」など)で入力する必要があります
修理%		<ul style="list-style-type: none"> ● 有形資産および無形資産クラスに対してのみ入力できます ● 年(「FY11」など)で入力する必要があります
能力単位		<ul style="list-style-type: none"> ● STD 機器に対してのみ入力できます ● "年なし"で入力する必要があります
装置標準費用		<ul style="list-style-type: none"> ● STD 機器に対してのみ入力できます ● 年(「FY11」など)で入力する必要があります
装置請求レート		<ul style="list-style-type: none"> ● STD 機器に対してのみ入力できます ● 年(「FY11」など)で入力する必要があります
POV	"エンティティなし"、グローバル、BegBalance、"シナリオなし"、"バージョンなし"、"年なし"、ローカル、"プロジェクトなし"	POV を変更することで、異なるエンティティ、バージョンおよびシナリオの値を入力できます。

資本に関する仮定データを確認するには、Project Financial Planning アプリケーションを開き、「グローバル資本仮定」フォームに移動します。

諸経費仮定テンプレート

諸経費仮定アーティファクトには、間接費プール、一般および管理費用プール、配賦ベースなど、諸経費に関連するアーティファクトが含まれます。諸経費仮定アーティファクトは、ImportOverheadAssumptions.csv データ・ロード・ファイルと同じフォーマットのデータ・ファイルを使用してロードします。次の表に、このファイルのヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項をリストします。

表 15 ImportOverheadAssumptions.csv のヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	制限事項
プロジェクト要素	<LINEITEM("Overhead Elements")>	ロード次元。その値は<LINEITEM("Overhead Elements")>である必要があります。システムによって、諸経費要素勘定科目メンバーで次の空のライン・アイテムが自動的に選択されます。次元階層の諸経費要素勘定科目メンバーに十分なライン・アイテムがあることを確認する必要があります。
データ・ロードのキューブ名	プロジェクト	
間接費プール	LaborOverhead	<ul style="list-style-type: none"> ● スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「LaborOverhead」、「EngineeringOverhead」、「ManufacturingOverhead」、「MaterialOverhead」、「InformationSystemOverhead」、「TrainingOverhead」、「FringeOverhead」、「CommonOverheadPool」、「FacilitiesAllocation」です。 ● 間接費に対してのみ入力でき、これらは一意識別子であるため、最初に「年なし」で入力してから、個々の年について入力する必要があります。
一般および管理費用プール	CorpGnA	<ul style="list-style-type: none"> ● スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「CorpGnA」のみです。 ● 一般および管理費に対してのみ入力でき、これらは一意識別子であるため、最初に"年なし"で入力してから、個々の年について入力する必要があります。
配賦基準	TotalDirectLaborCost	<ul style="list-style-type: none"> ● スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「TotalDirectLaborCost」、「TotalDirectLaborHours」、「TotalDirectMaterialCost」、「TotalNoFTEs」、「TotalDirectCosts」、「TotalSqFootage」、「TotalMachineHours」、「TotalRevenue」、「ValueAddedCostInput」です。 ● これらは一意識別子であるため、LaborOverhead および TotalDirectLaborDollars を最初に「年なし」および「BegBalance」で入力してから、個々の年について入力する必要があります。
ICR		<ul style="list-style-type: none"> ● 間接費プールに対してのみ入力できます。 ● 特定の年(「FY11」など)で入力する必要があります。このフィールドの値は"年なし"で入力しないでください。
GACR		<ul style="list-style-type: none"> ● 一般および管理費用プールに対してのみ入力できます。 ● 特定の年(「FY11」など)で入力する必要があります。このフィールドの値は"年なし"で入力しないでください。
POV	USA、BegBalance、"シナリオなし"、"バージョンなし"、"年なし"、ローカル、"プロジェクトなし"	POV を変更することで、異なるエンティティ、バージョンおよびシナリオの値を入力できます。

諸経費假定データを確認するには、Project Financial Planning アプリケーションを開き、「1.09 間接、一般および管理の假定の設定」フォームに移動します。

要員仮定テンプレート

要員仮定アーティファクトには、社会保障税レート、Medicare レート、従業員の等級など、Oracle Hyperion Workforce Planning に関連するアーティファクトが含まれます。要員仮定アーティファクトは、ImportWFPAssumptions.csv データ・ロード・ファイルと同じフォーマットのデータ・ファイルを使用してロードします。次の表に、このファイルのヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項をリストします。

表 16 ImportWFPAssumptions.csv のヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	制限事項
エンティティ	エンティティなし	メンバー"エンティティなし"は、エンティティ次元に存在する必要があります。
データ・ロードのキューブ名	要員	
社会保障税レート 1 入力	0.06	<ul style="list-style-type: none"> ● 特定の年、"シナリオなし"、"バージョンなし"、"プロジェクトなし"、"ジョブなし"、"BegBalance"、"従業員なし"および"ローカル"についてデータが入力されている必要があります。 ● "エンティティなし"にデータを入力する必要があります。
社会保障税の上限入力	0.06	<ul style="list-style-type: none"> ● 特定の年、"シナリオなし"、"バージョンなし"、"プロジェクトなし"、"ジョブなし"、"BegBalance"、"従業員なし"および"ローカル"についてデータが入力されている必要があります。 ● "エンティティなし"にデータを入力する必要があります。
Medicare レート入力	0.01	<ul style="list-style-type: none"> ● 特定の年、"シナリオなし"、"バージョンなし"、"プロジェクトなし"、"ジョブなし"、"BegBalance"、"従業員なし"および"ローカル"についてデータが入力されている必要があります。 ● "エンティティなし"にデータを入力する必要があります。
連邦失業保険レート入力	0.01	<ul style="list-style-type: none"> ● 特定の年、"シナリオなし"、"バージョンなし"、"プロジェクトなし"、"ジョブなし"、"BegBalance"、"従業員なし"および"ローカル"についてデータが入力されている必要があります。 ● "エンティティなし"にデータを入力する必要があります。
連邦失業保険の上限入力	0.01	<ul style="list-style-type: none"> ● 特定の年、"シナリオなし"、"バージョンなし"、"プロジェクトなし"、"ジョブなし"、"BegBalance"、"従業員なし"および"ローカル"についてデータが入力されている必要があります。 ● "エンティティなし"にデータを入力する必要があります。
州失業保険レート入力	0.01	<ul style="list-style-type: none"> ● 特定の年、"シナリオなし"、"バージョンなし"、"プロジェクトなし"、"ジョブなし"、"BegBalance"、"従業員なし"および"ローカル"についてデータが入力されている必要があります。 ● "エンティティなし"にデータを入力する必要があります。

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	制限事項
州失業保険の上限入力	0.01	<ul style="list-style-type: none"> ● 特定の年、"シナリオなし"、"バージョンなし"、"プロジェクトなし"、"ジョブなし"、"BegBalance"、"従業員なし"および"ローカル"についてデータが入力されている必要があります。 ● "エンティティなし"にデータを入力する必要があります。
社会保障税レート2入力	0.06	<ul style="list-style-type: none"> ● 特定の年、"シナリオなし"、"バージョンなし"、"プロジェクトなし"、"ジョブなし"、"BegBalance"、"従業員なし"および"ローカル"についてデータが入力されている必要があります。 ● "エンティティなし"にデータを入力する必要があります。
等級 1		
等級 2		
等級 3		
等級 4		
等級 5		
等級 6		
等級 7		
等級 8		
等級 9		
等級 10		
等級 11		
等級 12		
等級 13		
年次増加		
功績レート - 期待を満たさない		
功績レート - 改善が必要		
功績レート - 期待を満たす		
功績レート - 期待を超える		
功績レート - 期待をはるかに超える		
医療レート - 個人		
医療レート - 個人+1		

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	制限事項
医療レート-家族		
ボーナス・ターゲット-等級 1		
ボーナス・ターゲット-等級 2		
ボーナス・ターゲット-等級 3		
ボーナス・ターゲット-等級 4		
ボーナス・ターゲット-等級 5		
ボーナス・ターゲット-等級 6		
ボーナス・ターゲット-等級 7		
ボーナス・ターゲット-等級 8		
ボーナス・ターゲット-等級 9		
ボーナス・ターゲット-等級 10		
ボーナス・ターゲット-等級 11		
ボーナス・ターゲット-等級 12		
ボーナス・ターゲット-等級 13		
ボーナス・レート-期待を満たさない		
ボーナス・レート-改善が必要		
ボーナス・レート-期待を満たす		
ボーナス・レート-期待を超える		
ボーナス・レート-期待をはるかに超える		

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	制限事項
ボーナス基準入力		スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「四半期ごと」、「半年ごと」、「年次」です。
給与(%) - 出産休暇		
週次時間数		
労働日数		
標準時間給 - 労務		POV のジョブ次元は、"プロジェクト担当"、"ソフトウェア・エンジニア"など具体的である必要があります。"ジョブなし"は使用できません。
オンサイト・レート - レベル 1		POV の期間次元は、"1 月"、"2 月"など具体的である必要があります。"BegBalance"は使用できません。
オンサイト・レート - レベル 2		POV の期間次元は、"1 月"、"2 月"など具体的である必要があります。"BegBalance"は使用できません。
オンサイト・レート - レベル 3		POV の期間次元は、"1 月"、"2 月"など具体的である必要があります。"BegBalance"は使用できません。
オフサイト・レート - レベル 1		POV の期間次元は、"1 月"、"2 月"など具体的である必要があります。"BegBalance"は使用できません。
オフサイト・レート - レベル 2		POV の期間次元は、"1 月"、"2 月"など具体的である必要があります。"BegBalance"は使用できません。
オフサイト・レート - レベル 3		POV の期間次元は、"1 月"、"2 月"など具体的である必要があります。"BegBalance"は使用できません。
Project Billing Level		<ul style="list-style-type: none"> POV のジョブ次元は、"プロジェクト担当"、"ソフトウェア・エンジニア"など具体的である必要があります。"ジョブなし"は使用できません。 スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「Level1」、「Level2」、「Level3」、「NonBillable」、「Unspecified」、「EntityDefault」です。
POV	FY11、ローカル、"従業員なし"、BegBalance、"シナリオなし"、"バージョンなし"、"プロジェクトなし"、"ジョブなし"	

注： 制限事項列に指定がないかぎり、特定の年と必要なシナリオ、バージョン、エンティティおよび通貨について、"プロジェクトなし"、"ジョブなし"、"BegBalance"、"従業員なし"でデータが入力されている必要があります。

要員仮定データを確認するには、Project Financial Planning アプリケーションを開き、「9.10 米国税率の設定」および「9.00 WFP 設定レート」フォームに移動します。

資産減価償却および償却テンプレートの説明

主要資産合計の資産減価償却および償却データは、Asset Depreciation and Amortization.csv データ・ロード・ファイルと同じフォーマットのデータ・ファイルを使用してロードします。次の表に、このファイルのヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項をリストします。

表 17 Asset Depreciation and Amortization.csv のヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項

ヘッダー列	サンプル・データ	制限事項
資産詳細	Lenovo T400 ラップトップ	メンバー"Lenovo T400 ラップトップ"は、資産詳細次元に存在する必要があります。
データ・ロードのキューブ名	Capex	
減価償却	4	特定の年、期間、シナリオ、バージョン、エンティティ、資産クラス、通貨および"プロジェクトなし"でデータを入力します。
償却	10	特定の年、期間、シナリオ、バージョン、エンティティ、資産クラス、通貨および"プロジェクトなし"でデータを入力します。
POV	"プロジェクトなし"、ローカル、プラン、作業中、USA、ラップトップ、1月、FY12	

注：「資産詳細」は、「主要資産合計」または「副資産、合計」のレベル 0 の子孫である必要があります。「資産クラス」は「合計固定資産」のレベル 0 の子孫である必要があります。

資産減価償却および償却データを確認するには、Project Financial Planning アプリケーションを開き、「9.01 ロード済原価償却および償却の確認」フォームに移動します。前述のフォームのデータを表示するには、「資本管理」タスク・リストでロールアップ・ルールを実行する必要があります。

プロジェクトの詳細テンプレートの説明

プロジェクトの名前、分類、タイプ、開始日と終了日などのプロジェクト詳細を既存のプロジェクトと新規プロジェクトにロードできます。

既存のプロジェクト・テンプレート

プロジェクト詳細は、ProjectDetails.csv データ・ロード・ファイルと同じフォーマットのデータ・ファイルを使用して既存のプロジェクトにロードします。次の表に、このファイルのヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項をリストします。

表 18 ProjectDetails.csv のヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	制限事項
プロジェクト	IT プロジェクト	このプロジェクト・メンバー・ライン・アイテムがアプリケーションに存在する必要があります。
データ・ロードのキューブ名	プロジェクト	
名前	既存の契約プロジェクト	
プロジェクトの説明	既存の契約プロジェクトのサンプル	
プロジェクト分類	契約	スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「Contract」、「Indirect」、「Capital」です。
プロジェクト・タイプ	TimeMaterial	<ul style="list-style-type: none"> ● スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「TimeMaterial」、「FixedPrice」、「CostPlus」、「Other」です。 ● このフィールドは契約プロジェクト専用です。
開始日	06-01-2010	日付は mm-dd-yyyy のフォーマットにする必要があります。
終了日	08-14-2014	日付は mm-dd-yyyy のフォーマットにする必要があります。
プロジェクト・カテゴリ		<ul style="list-style-type: none"> ● スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「AnnualByFiscalYear」、「MultiYear」です。 ● このフィールドは間接プロジェクト専用です。
プロジェクト・ステータス	アクティブ	<ul style="list-style-type: none"> ● スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「New, Active」、「Proposed」、「Approved」、「Unapproved」、「Onhold」、「Closed」です。 ● すべての既存のプロジェクトが「アクティブ」ステータスである必要があります。
収益認識	月次	<ul style="list-style-type: none"> ● スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「Monthly」、「Quarterly」、「SemiAnnual」、「AfterCompletion」、「WhenBilled」です。 ● 契約プロジェクトの収益詳細のみ追加できます。
収益キャッシュ・フロー発生	SameMonth	<ul style="list-style-type: none"> ● スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「MonthsPrior1」、「MonthsPrior2」、「SameMonth」、「MonthsCredit1」、「MonthsCredit2」、「MonthsCredit3」、「MonthsCredit4」です。 ● 契約プロジェクトの収益詳細のみ追加できます。
プロジェクト所有者	ProjectOwner	スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「ProjectServiceProvider」、「ProjectOwner」です。
プロジェクト顧客名	Customer1	スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「Customer1」、「Customer2」です。
プロジェクト・マネージャ	ProjectManager1	スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「ProjectManager1」、「ProjectManager2」です。

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	制限事項
プロジェクトの場所	Location1	スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「Location1」、「Location2」、「Location3」です。
プロジェクト優先度	高	スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「高」、「中」、「低」です。
ランク	2	スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「One」、「Two」、「Three」、「Four」、「Five」です。
IsEmpty	1	<ul style="list-style-type: none"> POV でシナリオとバージョンのみを変更できます。 エンティティは、「未指定のエンティティ」である必要があります。 IsEmpty は、追加するプロジェクトごとに値"1"に設定する必要があります。IsEmpty を設定する場合、他の全ての勘定科目メンバーの値を空白にする必要があります。 プロジェクトは、1つのエンティティでのみ追加できます。
POV	"プロジェクト要素なし"、"USA"、"シナリオなし"、"バージョンなし"、ローカル、"年なし"、BegBalance	エンティティ、シナリオおよびバージョンを POV 内で変更することができます。

既存のプロジェクト詳細データを確認するには、Project Financial Planning アプリケーションを開き、既存のプロジェクト詳細フォームに移動します。

プロジェクトの支出および収益のテンプレートの説明

サブトピック

- [プロジェクト支出テンプレート](#)
- [プロジェクト収益テンプレート](#)

プロジェクト・データには、労務、装置、旅費などのプロジェクト支出と、契約、売上高、メンテナンス収益などのプロジェクト収益が含まれます。

プロジェクト支出テンプレート

プロジェクト支出アーティファクトは、ProjectExpense.csv データ・ロード・ファイルと同じフォーマットのデータ・ファイルを使用してロードします。次の表に、このファイルのヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項をリストします。

表 19 ProjectExpense.csv のヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	制限事項
プロジェクト	契約プロジェクト 1	
労務支出	1000	

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	制限事項
労務支出 - 請求不可	1000	
装置支出	1000	
装置支出 - 請求不可	1000	
リース資産 - 賃貸支出	1000	
材料支出	1000	
材料 - 請求不可	1000	
下請	1000	
下請業者 - 請求不可	1000	
その他支出	1000	
その他支出 - 請求不可	1000	
会社間支出	1000	
売上原価	1000	
旅費 - 請求可能	1000	契約および間接プロジェクトにのみ適用されます。資本プロジェクトでは、このフィールドにデータを入力しないでください。
旅費 - 請求不可	1000	契約および間接プロジェクトにのみ適用されます。資本プロジェクトでは、このフィールドにデータを入力しないでください。
雑費	1000	契約および間接プロジェクトにのみ適用されます。資本プロジェクトでは、このフィールドにデータを入力しないでください。
資産計上済労務		資本プロジェクトにのみ適用されます。契約および間接プロジェクトでは、このフィールドにデータを入力しないでください。
資産計上済材料		資本プロジェクトにのみ適用されます。契約および間接プロジェクトでは、このフィールドにデータを入力しないでください。
資本計上済装置費用		資本プロジェクトにのみ適用されます。契約および間接プロジェクトでは、このフィールドにデータを入力しないでください。
資産計上可能旅費		資本プロジェクトにのみ適用されます。契約および間接プロジェクトでは、このフィールドにデータを入力しないでください。
その他資産計上可能支出		資本プロジェクトにのみ適用されます。契約および間接プロジェクトでは、このフィールドにデータを入力しないでください。
資産計上可能下請業者		資本プロジェクトにのみ適用されます。契約および間接プロジェクトでは、このフィールドにデータを入力しないでください。
資本計上済間接費		資本プロジェクトにのみ適用されます。契約および間接プロジェクトでは、このフィールドにデータを入力しないでください。
データ・ロードのキューブ名	プロジェクト	

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	制限事項
POV	"実績"、"最終"、1月、FY11、ローカル、"直接費入力"、"USA"	任意のシナリオとバージョンにロードできます。エンティティ、年、期間およびプロジェクトを変更できます。

プロジェクト実績支出データを確認するには、Project Financial Planning アプリケーションを開き、「1.12 直接プロジェクト支出」および「1.12 直接プロジェクト支出 - 資本プロジェクト」フォームに移動します。

プロジェクト収益テンプレート

プロジェクト収益データは、ProjectRevenue.csv ファイルと同じフォーマットのデータ・ファイルを使用してロードします。次の表に、このファイルのヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項をリストします。

表 20 ProjectRevenue.csv のヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	制限事項
プロジェクト	契約プロジェクト 1	
契約収益 - 固定価格	1000	収益データは契約プロジェクトにのみ適用されます。資本または間接プロジェクトでは、収益データを入力しないでください。
契約収益 - 原価加算	1000	収益データは契約プロジェクトにのみ適用されます。資本または間接プロジェクトでは、収益データを入力しないでください。
契約収益 - 労務	1000	収益データは契約プロジェクトにのみ適用されます。資本または間接プロジェクトでは、収益データを入力しないでください。
契約収益 - 材料	1000	収益データは契約プロジェクトにのみ適用されます。資本または間接プロジェクトでは、収益データを入力しないでください。
契約収益 - 装置	1000	収益データは契約プロジェクトにのみ適用されます。資本または間接プロジェクトでは、収益データを入力しないでください。
契約収益 - 下請契約	1000	収益データは契約プロジェクトにのみ適用されます。資本または間接プロジェクトでは、収益データを入力しないでください。
契約収益 - その他	1000	収益データは契約プロジェクトにのみ適用されます。資本または間接プロジェクトでは、収益データを入力しないでください。
メンテナンス収益	1000	収益データは契約プロジェクトにのみ適用されます。資本または間接プロジェクトでは、収益データを入力しないでください。
その他収益	1000	収益データは契約プロジェクトにのみ適用されます。資本または間接プロジェクトでは、収益データを入力しないでください。
売上収益	1000	収益データは契約プロジェクトにのみ適用されます。資本または間接プロジェクトでは、収益データを入力しないでください。

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	制限事項
会社間収益	1000	収益データは契約プロジェクトにのみ適用されます。資本または間接プロジェクトでは、収益データを入力しないでください。
割引および返品	100	収益データは契約プロジェクトにのみ適用されます。資本または間接プロジェクトでは、収益データを入力しないでください。
データ・ロードのキューブ名	プロジェクト	
POV	"実績"、"最終"、1月、FY11、ローカル、"収益直接入力"、"USA"	任意のシナリオとバージョンを選択できます。エンティティ、年、期間およびプロジェクトを変更できます。

プロジェクト実績収益データを確認するには、Project Financial Planning アプリケーションを開き、「1.04 直接収益」フォームに移動します。

従業員プロジェクト割当てテンプレートの説明

既存および新規の従業員について、割当ての開始日と終了日、人数、スキル・セット、オンサイトおよびオフサイト勤務時間、請求不可時間などのプロジェクト割当てデータをロードできます。従業員のプロジェクト割当てデータは、ImportEmployeeProjectAssignment.csv データ・ロード・ファイルと同じフォーマットのデータ・ファイルを使用してロードします。

次の表に、このファイルのヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項をリストします。

表 21 ImportEmployeeProjectAssignment.csv のヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	制限事項
従業員	Oliver Rock	このメンバーは、従業員次元に存在する必要があります。
データ・ロードのキューブ名	要員	
割当て - 開始日	09-01-2011	<ul style="list-style-type: none"> ● すべての日付は mm-dd-yyyy のフォーマットにする必要があります。 ● すべてのプロジェクト・タイプについて入力できますが、"年なし"および BegBalance で入力する必要があります。 ● ImportNewEmployeeProjectAssignment.csv ファイル専用の一意識別子です。この表の後の注意を参照してください。

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	制限事項
割当て - 終了日	08-31-2013	<ul style="list-style-type: none"> ● すべての日付は mm-dd-yyyy のフォーマットにする必要があります。 ● すべてのプロジェクト・タイプについて入力できますが、"年なし"および BegBalance で入力する必要があります。 ● ImportNewEmployeeProjectAssignment.csv ファイル専用の一意識別子です。この表の後の注意を参照してください。
人数	1	
スキル・セット	J2EE	<ul style="list-style-type: none"> ● スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「J2EE」、「C」、「ProjectManagement」、「OracleHyperionPlanning」、「OracleDB」、「Localization」、「Essbase」、「ManualTesting」、「Automation」、「PerformanceTesting」です。 ● すべてのプロジェクト・タイプについて入力できますが、"年なし"および BegBalance で入力する必要があります。 ● ImportNewEmployeeProjectAssignment.csv ファイル専用の一意識別子です。この表の後の注意を参照してください。
コメント	要求どおりに割当て済	すべてのプロジェクト・タイプについて入力できますが、"年なし"および BegBalance で入力する必要があります。
Project Billing Level	UnSpecified	<ul style="list-style-type: none"> ● スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「Level1」、「Level2」、「Level3」、「NonBillable」、「UnSpecified」です。 ● 契約プロジェクト専用です。年なしおよび BegBalance で入力する必要があります
オンサイト労働時間		契約プロジェクト専用です。個々の年と期間(FY12、1月など)について入力します。
オフサイト労働時間		契約プロジェクト専用です。個々の年と期間(FY12、1月など)について入力します。
請求不可時間		契約プロジェクト専用です。個々の年と期間(FY12、1月など)について入力します。
資産計上可能	はい	<ul style="list-style-type: none"> ● スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「Yes」、「No」です。 ● 資本プロジェクト専用です。"年なし"および BegBalance で入力する必要があります
配賦%		<ul style="list-style-type: none"> ● 間接および資本プロジェクト専用です。 ● 個々の年と期間(「FY12」、「1月」など)の「配賦%」または「労働時間」を入力します。
労働時間		<ul style="list-style-type: none"> ● 間接および資本プロジェクト専用です。 ● 個々の年と期間(「FY12」、「1月」など)の「配賦%」または「労働時間」を入力します。
IsEmpty	1	<ul style="list-style-type: none"> ● BegBalance、年なし、未指定のエンティティおよび残りのPOVで従業員ごとに一度入力する必要があります。その他すべての勘定科目メンバーを空白のままにする必要があります。 ● 従業員メンバーは、ジョブおよびエンティティ全体で一意である必要があります。

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	制限事項
POV	"USA"、"年なし"、BegBalance、"既存の契約1"、ローカル、"シナリオなし"、"バージョンなし"、"ソフトウェア・エンジニア"	<ul style="list-style-type: none"> ● POVのエンティティ、バージョン、シナリオ、プロジェクトおよびジョブ次元は異なっていてもかまいません。 ● 従業員のジョブが正しいことを確認します。

従業員プロジェクトの割当てデータを確認するには、Project Financial Planning アプリケーションを開き、「8.13 プロジェクトへ割り当てられた既存従業員」および「8.13 プロジェクト要請」フォームに移動します。

資産プロジェクト割当てテンプレートの説明

割当て日、資産単位、配賦の割合、資産の使用状況など、プロジェクトの資産割当てデータは、ImportProjectAssetAssignments.csv データ・ロード・ファイルと同じフォーマットのデータ・ファイルを使用してロードします。次の表に、このファイルのヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項をリストします。

表 22 ImportProjectAssetAssignments.csv のヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	制限事項
資産詳細	Lenovo T400 ラップトップ	
データ・ロードのキューブ名	Capex	
割当て - 開始日	09-01-2011	"年なし"で入力します。
割当て - 終了日	08-31-2013	"年なし"で入力します。
請求可能	はい	スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「Yes」、「No」です。
理由	割当て済	"年なし"で入力します。
資産単位		個々の年と期間(FY12、1月など)について入力します。
資産の使用状況		個々の年と期間(FY12、1月など)について入力する必要があります。

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	制限事項
IsEmpty	1	<ul style="list-style-type: none"> ● BegBalance、年なし、未指定のエンティティおよび残りの POV で資産ごとに一度入力します。その他すべての勘定科目メンバーを空白のままにする必要があります。 ● 資産詳細メンバーは、資産クラスおよびエンティティ全体で一意である必要があります。
POV	USA、"年なし"、BegBalance、"契約プロジェクト 1"、ローカル、"プラン"、"作業中"、"ラップトップ"	「エンティティ」、「バージョン」、「シナリオ」、「プロジェクト」および「資産クラス」のみ変更できます。

資産プロジェクト割当てデータを確認するには、Project Financial Planning アプリケーションを開き、「1.01 割り当てられている装置」フォームに移動します。

プロジェクト材料要件テンプレートの説明

リソース名とリソース・クラス、材料が請求可能と資産計上可能のどちらであるか、分散開始日および終了日、ユニット数など、プロジェクトの材料要件は、ImportProjectMaterialRequirements.csv と同じフォーマットのデータ・ファイルを使用してロードします。次の表に、このファイルのヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項をリストします。

表 23 ImportProjectMaterialRequirements.csv のヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	制限事項
プロジェクト要素	"費用要素 1"	プロジェクト要素次元から空の費用要素メンバーを選択する必要があります。
データ・ロードのキューブ名	プロジェクト	
リソース名	鋼鉄	"年なし"および BegBalance で入力する必要があります。
リソース・クラス	材料	"年なし"および BegBalance で入力する必要があります。
リソースの説明	建設グレード	"年なし"および BegBalance で入力する必要があります。
請求可能	はい	<ul style="list-style-type: none"> ● スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「Yes」、「No」です。 ● "年なし"および BegBalance で入力する必要があります。
資産計上可能	はい	<ul style="list-style-type: none"> ● スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「Yes」、「No」です。 ● "年なし"および BegBalance で入力する必要があります。
割当て - 開始日	08-01-2011	"年なし"および BegBalance で入力する必要があります。
割当て - 終了日	06-06-2013	"年なし"および BegBalance で入力する必要があります。

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	制限事項
費用単位	Unitrate	"年なし"および BegBalance で入力する必要があります。
支出キャッシュ・フロー発生	SameMonth	<ul style="list-style-type: none"> スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「MonthsPrior1」、「MonthsPrior2」、「SameMonth」、「MonthsCredit1」、「MonthsCredit2」、「MonthsCredit3」、「MonthsCredit4」です。 "年なし"および BegBalance で入力する必要があります。
費用/ユニット		個々の年と期間(FY12、1月など)について入力します。
ユニット数		個々の年と期間(FY12、1月など)について入力します。
IsEmpty	1	BegBalance、年なし、未指定のエンティティおよび残りの POV で費用要素ごとに一度入力します。その他すべての勘定科目メンバーを空白のままにする必要があります。
POV	"契約プロジェクト1"、USA、"シナリオなし"、"バージョンなし"、ローカル、"年なし"、BegBalance	「エンティティ」、「バージョン」、「シナリオ」および「プロジェクト」のみ変更できます。

資産プロジェクト割当てデータを確認するには、Project Financial Planning アプリケーションを開き、「1.06 材料およびその他要件」フォームに移動します。

既存の従業員データ・テンプレートの説明

従業員名と従業員タイプ、給与レート、開始月、等級、スキル・セットなど、既存の従業員の従業員データは、ImportExistingEmployee.csv データ・ロード・ファイルと同じフォーマットのデータ・ファイルを使用してロードします。次の表に、このファイルのヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項をリストします。

表 24 ImportExistingEmployee.csv のヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	制限事項
従業員	Paul Kim	この従業員は、従業員次元に存在する必要があります。
データ・ロードのキューブ名	要員	
給与レート	150	
従業員タイプ	常勤	スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「Regular」、「Temporary」、「Contractor」です。
支払タイプ	控除	スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「NonExempt」、「Exempt」です。
工数	1	

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	制限事項
功績月	6月	スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「Jan」、「Feb」、「Mar」、「Apr」、「May」、「Jun」、「Jul」、「Aug」、「Sep」、「Oct」、「Nov」、「Dec」です。
開始月	1月	スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「Jan」、「Feb」、「Mar」、「Apr」、「May」、「Jun」、「Jul」、「Aug」、「Sep」、「Oct」、「Nov」、「Dec」です。
Grade	Grade3	スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「Grade1」、「Grade2」、「Grade3」、「Grade4」、「Grade5」、「Grade6」、「Grade7」、「Grade8」、「Grade9」、「Grade10」、「Grade11」、「Grade12」、「Grade13」です。
税領域	NoRegion	スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「NoRegion」、「USA」です。
スキル・セット	C	スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「J2EE」、「C」、「ProjectManagement」、「OracleHyperionPlanning」、「OracleDB」、「Localization」、「Essbase」、「ManualTesting」、「Automation」、「PerformanceTesting」です。
健康保険	IndividualPlan	スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「IndividualPlan」、「FamilyPlan」、「IndividualPlus1」です。
パフォーマンス	MeetsExpectations	スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「FailsToMeetExpectations」、「NeedsImprovement」、「MeetsExpectations」、「ExceedsExpectations」、「FarExceedsExpectations」です。
給与基準	1時間ごと	スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「Hourly」、「Annual」です。
労働日数	240	
週次時間数	40	
変更功績%	0.2	
POV	"USA"、ローカル、"プロジェクトなし"、BegBalance、"シナリオなし"、"バージョンなし"、FY11、"ソフトウェア・エンジニア"	<ul style="list-style-type: none"> 「エンティティ」、「バージョン」、「シナリオ」、「年」および「ジョブ」のみ変更できます。 ジョブと従業員は対応させる必要があります。

既存の従業員データを確認するには、Project Financial Planning アプリケーションを開き、「1.01 既存の従業員の確認」フォームに移動します。

既存の主要資産データ・テンプレートの説明

資産の説明とステータス、資産単位、基本費用、購入日などの主要な既存資産のデータは、ImportAssets.csv データ・ロード・ファイルと同じフォーマットのデータ・ファイルを使用してロードします。次の表に、このファイルのヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項をリストします。

表 25 ImportAssets.csv のヘッダー・レコード、サンプル・データおよび注意事項

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	注意
資産詳細	Oracle Exalytics	この資産は、資産詳細次元に存在する必要があります。
データ・ロードのキューブ名	Capex	
資産の説明	Oracle Exalytics	「年なし」で入力する必要があります。
資産ステータス	アクティブ	<ul style="list-style-type: none"> ● 「年なし」で入力する必要があります。 ● スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「Delete」、「New」、「Active」、「Retired」、「Sold」、「Transferred」、「UnderConstruction」、「Completed」です。
資産単位	1	「年なし」で入力する必要があります。
資産レート	400000	「年なし」で入力する必要があります。
優先度	高	<ul style="list-style-type: none"> ● 「年なし」で入力する必要があります。 ● スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「High」、「Medium」、「Low」です。
基本費用	30000	「年なし」で入力する必要があります。
資産能力	2000	「年なし」で入力する必要があります。
能力単位	各	<ul style="list-style-type: none"> ● "年なし"で入力する必要があります ● スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「Each」、「SquareFeet」、「Hours」です。
キャッシュ・フロー発生	SameMonth	<ul style="list-style-type: none"> ● 「年なし」で入力する必要があります。 ● スマート・リストのフィールド。入力できる値は、「MonthsPrior1」、「MonthsPrior2」、「SameMonth」、「MonthsCredit1」、「MonthsCredit2」、「MonthsCredit3」、「MonthsCredit4」です。
購入日	01-03-2011	「年なし」で入力する必要があります。
使用開始日	01-03-2011	「年なし」で入力する必要があります。
残存	100000	「年なし」で入力する必要があります。
年当たり FOG 費用		個々の年(FY11 など)について入力します
保険%		個々の年(FY11 など)について入力します
メンテナンス%		個々の年(FY11 など)について入力します
修理%		個々の年(FY11 など)について入力します

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	注意
POV	BegBalance、"年なし"、ローカル、"プロジェクトなし"、"USA"、"シナリオなし"、"バージョンなし"、"BIマシン"	<ul style="list-style-type: none"> 「エンティティ」、「バージョン」、「シナリオ」、「年」および「資産クラス」のみ変更できます。 「資産クラス」メンバーと「資産詳細」メンバーが対応していることを確認します。

主要資産データを確認するには、Project Financial Planning アプリケーションを開き、「1.05 既存資産の管理」フォームに移動します。

リース資産データ・テンプレートの説明

ImportLeaseAsset.csv データ・ロード・ファイルと同じフォーマットのデータ・ファイルを使用して、資産単位、リース日、リース期間後の所有者、リースの現在価額などのリース資産の詳細をロードできます。次の表に、このファイルのヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項をリストします。

表 26 ImportLeaseAsset.csv のヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	注意
資産詳細	オフィス・ビル	メンバーは、資産詳細次元に存在する必要があります。
データ・ロードのキューブ名	Capex	
資産 ID	L001	
資産の説明		
資産単位	10	
リース日	04-15-2011	日付書式は mm-dd-yyyy です。
リース期間(年)	5	
頭金	10000	
リース支払	1000	
支払い頻度	月次	SmartList フィールド。入力できる値は、「年次」、「半年ごと」、「四半期ごと」、「月次」です。
支払時期	BeginningofPeriod	SmartList フィールド。入力できる値は、「EndofPeriod」、「BeginningofPeriod」です。
リース期間後の所有者	賃借人	SmartList フィールド。入力できる値は、「賃貸人」、「賃借人」です。
リース開始時の資産価値	100000	
リース開始時の資産寿命(年)	10	

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	注意
中古市場価格(残存価額)	10000	
リース終了時の購入価格	10000	
暗黙的利率	10	
リース・タイプ	OperatingLease	SmartList フィールド。入力できる値は、「CapitalizedLease」、「OperatingLease」です。
リースの現在価額	10000	
終了時の推定資産価値	1000	
推定耐用年数	5	
保険	10000	
資産能力	100	
能力単位	時間	SmartList フィールド。入力できる値は、「時間」、「平方フィート」、「各」です。
優先度	高	SmartList フィールド。入力できる値は、「高」、「中」、「低」です。
理由		
POV	BegBalance、"年なし"、ローカル、"プロジェクトなし"、"USA"、"プラン"、"作業中"、"建物"	エンティティ、シナリオ、バージョンおよび資産クラスの次元メンバーのみ変更できます。資産クラスメンバーが資産詳細メンバーに対応していることを確認してください。

エンティティ・レベル実績テンプレートの説明

ImportEntityLevelActuals.csv データ・ロード・ファイルと同じフォーマットのデータ・ファイルを使用して、人数、労務時間、給与、社会保障税、労務収益などのエンティティ・レベルの実績をロードできます。次の表に、このファイルのヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項をリストします。

表 27 ImportEntityLevelActuals.csv のヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	制限事項
エンティティ	USA	メンバーは、エンティティ次元に存在する必要があります。
データ・ロードのキューブ名	要員	
人数	1000	
労務時間	1000	
請求不可時間	1000	
オンサイト労務時間	1000	

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	制限事項
オフサイト労務時間	1000	
給与	1000	
ボーナス	1000	
その他報酬	1000	
社会保障税	1000	
Medicare	1000	
州失業保険	1000	
連邦失業保険	1000	
労務収益	1000	
POV	"未指定の従業員"、"未指定のジョブ"、 "未指定のプロジェクト"、実績、最終、 1月、FY12、ローカル	期間、年および通貨のみ変更できません。

プロジェクト完了テンプレートの説明

ProjectCompletion.csv データ・ロード・ファイルと同じフォーマットのデータ・ファイルを使用して、完了の割合などのプロジェクト完了データをロードできます。次の表に、このファイルのヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項をリストします。

表 28 ProjectCompletion.csv のヘッダー・レコード、サンプル・データおよび制限事項

ヘッダー・レコード	サンプル・データ	制限事項
プロジェクト	テスト・プロジェクト 1	メンバーは、エンティティ次元に存在する必要があります。
データ・ロードのキューブ名	プロジェクト	
完了の割合	0.1	
POV	"実績,最終,1月,FY11,ローカル"、"基本要素"、"USA"	期間、年、エンティティおよび通貨次元メンバーのみ変更できます。



サンプル・プロジェクト: 情報技術

この付録の内容

IT 業界固有の Project Financial Planning サンプル・アプリケーションの作成	249
セキュリティのロード	250
サンプル・アプリケーション・セキュリティのロード	253
サンプル・アプリケーション・データのロード	255

この付録では、情報技術(IT)業界固有の Project Financial Planning サンプル・アプリケーションの、作成、セキュリティのロード、およびデータのロード方法について説明します。

IT 業界固有の Project Financial Planning サンプル・アプリケーションの作成

この項は、Project Financial Planning 用の情報技術(IT)業界固有のサンプル・アプリケーションの作成を支援します。

注： このサンプル・アプリケーション用に作成されたデータ・ソースは Unicode モードに設定する必要があります。詳細は、Oracle Essbase Database Administrator's Guide を参照してください。

▶ Project Financial Planning サンプル・アプリケーションを作成するには:

1 Planning アプリケーション・ウィザードを起動します。

Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide の第 12 章「Planning アプリケーション管理の操作」を参照してください。

2 「アプリケーション・タイプ」で、「Oracle Project Financial Planning」を選択します。

3 「業種サンプル」で、「情報技術」を選択します。

注： アプリケーション・カレンダー、通貨およびプラン・タイプを定義するように求めるメッセージは表示されません。事前定義済の設定が自動的に行われます。

4 「次へ」をクリックし、「完了」をクリックします。

セキュリティのロード

Project Financial Planning サンプル・アプリケーションには、次の事前定義済グループが用意されています。これらのグループは、組織内のそれぞれの機能分野に基づいて分類されています。

注： 管理ユーザーは、外部システムから Project Financial Planning アプリケーションにインポートされる新規メンバーについて、他のユーザーに対して適切なアクセス権を提供する必要があります。これにより、これらのユーザーは関連するデータおよび作業を同様に表示できるようになります。

表 29 Project Financial Planning の事前定義済グループ

グループ	説明	役割
資産管理	資産の管理、プロジェクト全体における資産の利用の追跡、およびプロジェクト資産の要件を既存の資産で満たすことができるかを確認します。マネージャ - 調達、プロジェクトの割当てと稼働率の詳細、および費用対効果分析に基づいて購入またはリースの決定も行います。資産管理は、必要に応じて CIP 資産、新規資産またはリース資産も既存の資産にあわせて調整し、ユニット当たり資産の費用も計算します。	<ol style="list-style-type: none">1. 既存の資産を確認します。2. 資産支出およびユニット当たり費用を計算します。3. プロジェクト全体の資産稼働率を確認し、必要に応じて割当て詳細へドリルダウンします。4. プロジェクト全体での新規資産要求を確認し、要求を内部的に満たせるかどうか、または資産の購入やリースが必要かどうかを確認します。5. 新規資産、工事中(CIP)資産、およびリース資産を既存資産によって調整します。6. エンティティ間で資産を譲渡します。7. 資産を除・売却します。8. 「プロジェクトなし」またはエンティティ・レベルで新規資産を追加します。9. エンティティ・レベルの資産のデフォルトを確認および変更します。

グループ	説明	役割
プロジェクト・スポンサー	<p>資金調達のために財務に提出する前のプロジェクト予算を承認します。プロジェクトを承認する前に、プロジェクト・スポンサーは、プロジェクトがエンティティの全体的な財務目標と合っていることを確認する必要があります。</p>	<p>個々のプロジェクト・レベルおよびエンティティのプロジェクト合計レベルで:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 支出予算と収益予算を確認します。 2. メトリックを確認します。 3. 財務諸表に与える影響を確認します。 4. プロジェクトを承認または拒否します。 5. 既存のプロジェクトのプランと実績の差異を分析します。 6. 追加リソースまたは資産要求を承認または拒否します。 7. 個々のプロジェクトからの資金調達要求を承認または拒否し、財務へ要求を転送します。 8. 配賦済資金を確認します。 9. プロジェクト全体の従業員稼働率を確認します。 10. プロジェクト全体の資産稼働率を確認します。 11. ランク付けを使用してプロジェクトの優先順位を付けます。 12. KPI 限度を設定します。 13. エンティティ・レベルのデフォルトを確認および更新します。 14. プロジェクトの会社間パートナー要件を確認し、承認します。
財務管理	<p>プロジェクトの財務分析の実行、内部および外部の資金のソースの特定、およびプロジェクトごとに必要な資金をその資金のソースで実現できるかどうかの確認を行います。資金の調達可能性および財務分析に基づいて、CFO のオフィスによる承認および資金調達に対してプロジェクトを推奨します。財務管理は、(マネージャ、FP&A からの推奨事項に基づいて)プロジェクトの資金調達計画も承認します。この承認は、プロジェクトのサイズに応じて省略可能にすることができます;たとえば、プロジェクト支出予算が \$1,000,000 を超える場合は、VP - 財務または CFO の承認が必要な場合があります。</p>	<p>個々のプロジェクト・レベルおよびすべてのエンティティのプロジェクト合計レベルで、財務管理では次を行います:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 財務諸表(損益計算書、キャッシュ・フロー計算書、貸借対照表)メトリックに与える影響を確認し、支出と収益の性質ヘドリルダウンします 2. 資金調達要求を確認します 3. 内部および外部の資金のソースを識別します(Project Financial Planning モジュールの範囲外) 4. 全体的な資金調達計画(資金のソースと様々なプロジェクトへの配賦の両方)を承認するために CFO のオフィスに送信します <p>VP - 財務または CFO:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 資金調達計画(資金のソース)を確認します 2. 様々なプロジェクトからの資金調達要求と配賦済資金(資金の使用)を確認します 3. 資金調達計画と様々なプロジェクトへの資金配賦を承認します 4. 必要に応じてプロジェクト・レベルの財務詳細ヘドリルダウンします

グループ	説明	役割
Planning 管理者	プロジェクト、従業員および資産に関連するメタデータおよびデータをインポートします。Planning 管理者は、プロジェクトの会社間パートナーの追加および様々なユーザーのセキュリティの設定も行います。	<ol style="list-style-type: none"> 1. メタデータおよびデータをインポートします 2. プロジェクトに会社間パートナーを追加します 3. エンティティ、プロジェクト、従業員、ビジネス・ルールなどのセキュリティを設定します
プロジェクト・マネージャ	細かいプロジェクト・レベルの予算を作成します。また、プロジェクト・マネージャは、既存のプロジェクトの予算を追跡し、必要に応じて変更します。	<ol style="list-style-type: none"> 1. プロジェクトを作成、編集または削除します 2. 支出予算策定を実行します 3. 収益予算策定を実行します 4. メトリックを確認します 5. 財務諸表に与える影響を確認します 6. 資金調達を要求します 7. 配賦済資金を確認します 8. 既存のプロジェクトの計画と実績の差異分析を実行します 9. 追加のリソースまたは資産を要求します
リソース 管理	<p>マネージャ - リソースは、要員リソースの管理、プロジェクト全体における人員の稼働率の追跡、プロジェクトからの新規採用要求の確認、およびプロジェクト労務の要件を既存の人員のプールで満たすことができるかを確認します。プロジェクトの要件を内部で満たすことができない場合、マネージャ - リソースはプロジェクト割当て詳細とその他の要因に基づいて、新規採用(正社員、時給雇用または契約社員)を推奨します。促進要因と仮定に基づく従業員の将来の給与の見積り、および時間当たりの費用の計算も行います。"プロジェクトなし"レベルで採用することもできます。</p> <p>VP - リソースは、要員の促進要因と仮定の承認、および既存の従業員の報酬予算の承認を行います。また、新規採用要求を承認します。</p>	<p>マネージャ - リソース:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 既存の従業員を確認します 2. 要員プランニングの促進要因と仮定を定義します 3. 未来年の報酬と時間当たり費用を計算します 4. プロジェクト全体の人員稼働率を確認し、必要に応じて割当て詳細ヘッドリルダウンします 5. プロジェクト全体の新規採用要求を確認し、要求を既存の人員で満たせるかどうかを判断します 6. 既存の従業員にあわせて新規採用要求を調整します 7. 従業員をエンティティ間で異動します 8. 従業員のステータスを変更します 9. エンティティ・レベルのリソース・プールの「プロジェクトなし」レベルで採用します <p>VP - リソース:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 要員プランニングのすべての仮定と促進要因を確認します 2. 未来年の報酬予測を承認します 3. プロジェクト全体の人員稼働率を確認します 4. 新規採用要求を承認します

サンプル・アプリケーション・セキュリティのロード

注： データ、セキュリティまたはユーザーをインポートする前に、アプリケーションを作成する必要があります。

▶ サンプル・アプリケーション・セキュリティをロードするには:

1 コマンド・プロンプトから、MIDDLEWARE_HOME\user_projects\epmsystem1\Planning\planning1 に移動します。

2 ExportPFPSample コマンドを次の構文で実行します。

```
ExportPFPSample.cmd TargetPath Language
```

たとえば、アプリケーションがフランス語の場合は、ファイルを C:¥Sample ExportPFPSample.cmd C:¥Sample fr にエクスポートします。

注： 言語コードには小文字を使用してください。

3 C:\Sample などのターゲット・パスに移動し、PFPITSampleSecurity_en.zip というフォルダを探します。

このフォルダには、圧縮されたセキュリティ・ファイルがあります。

4 フォルダを PFPITSampleSecurity_en に解凍します。

5 フォルダを MIDDLEWARE_HOME\user_projects\epmsystem1\import_export にコピーします。

6 PFPITSampleSecurity_en\HSS-Shared Services\resource\Native Directory\Assigned Roles\Default Application Group に移動します。

7 ファイル PPTest.csv を開き、ファイル内のすべての場所でアプリケーション名 PFPSSamp を自身のアプリケーション名に変更します。


アプリケーションが別のプロジェクト(たとえば Foundation)で作成された場合は、project_name を宛先プロジェクト(Foundation)に変更します。



8 Oracle Hyperion Shared Services Console で、次の操作を行います。




1. ファイル・システムに移動します。
2. フォルダ PFPITSampleSecurity_en を開きます。
3. 「共有サービス」をクリックします。
4. 「すべてのアーティファクトのインポート」を選択します。
5. インポートの完了後に、「HP-PPTest」をクリックします。
6. 「すべてのアーティファクトのインポート」を選択します。

9 セキュリティがインポートされたら、独自のユーザーを作成し、それらを適切なグループに割り当てることができます。





Oracle Enterprise Performance Management System User Security Administration Guide を参照してください。

- 10 管理ユーザーとして Project Financial Planning Web アプリケーションにログインします。
- 11 左側のペインで、「次元」リストを展開します。
- 12 「次元」タブで、次元ドロップダウンに移動し、「プロジェクト」を選択します。
- 13 リストを展開し、「プロジェクト合計」に移動します。
- 14 ツール・リストから  をクリックします。
- 15 「アクセス権の割当て」ダイアログで、「グループ」タブを選択します。

ダイアログに、「プロジェクト合計」メンバーとその子孫にアクセス権を持つグループのリストが表示されます。
- 16 リストから「プロジェクト・マネージャ」グループを削除し、「保存」をクリックします。
- 17 同様に、「プロジェクト合計」を展開し、「新規契約プロジェクト」に移動します。
- 18 ツール・リストから  をクリックします。
- 19 「アクセス権の割当て」ダイアログで「ユーザー」タブを選択し、 をクリックします。
- 20 リストから「プロジェクト・マネージャ」ユーザーを選択して「書込み」アクセス権を選択し、ドロップダウンから「メンバー」を選択して「追加」を選択します。

注：「新規契約プロジェクト」の子孫へのアクセス権を付与しないでください。
- 21 同様に、新規資本プロジェクトと新規間接プロジェクトについて、前述の手順の [手順 17](#) から [手順 20](#) までを実行します。
- 22 「新規契約プロジェクト」を展開します。各プロジェクト・メンバー・リストを選択し、ツール・リストから  をクリックします。
- 23 「アクセス権の割当て」ダイアログで「ユーザー」タブを選択し、 をクリックします。
- 24 リストから「プロジェクト・マネージャ」ユーザーを選択して「書込み」アクセス権を選択し、ドロップダウンから「メンバー」を選択して「追加」を選択します。
- 25 「次元」タブで次元ドロップダウンに移動し、「バージョン」を選択します。
- 26 リストから「仮定(What-if)」バージョンを選択し、ツール・リストから  をクリックします。
- 27 「アクセス権の割当て」ダイアログで、「グループ」タブを選択します。

ダイアログに、「仮定(What-if)」バージョンとその子孫にアクセス権を持つグループのリストが表示されます。
- 28 リストから「プロジェクト・スポンサ」グループを削除し、「保存」をクリックします。

- 29 リストから「仮定(What-if)」バージョンを選択し、ツール・リストから  をクリックします。
- 30 「アクセス権の割当て」ダイアログで「ユーザー」タブを選択し、  をクリックします。
- 31 リストから「プロジェクト・スポンサ」・ユーザーを選択して「書込み」アクセス権を選択し、ドロップダウンから「メンバー」を選択して「追加」を選択します。
- 注：** 「仮定(What-if)」の子孫へのアクセス権を付与しないでください。
- 32 同様に、「仮定(What-if)」バージョンを展開します。各「仮定(What-if)」バージョンを選択し、ツール・リストから  をクリックします。
- 33 「アクセス権の割当て」ダイアログで「ユーザー」タブを選択し、  をクリックします。
- 34 リストから「プロジェクト・スポンサ」・ユーザーを選択して「書込み」アクセス権を選択し、ドロップダウンから「メンバー」を選択して「追加」を選択します。

サンプル・アプリケーション・データのロード

▶ サンプル・アプリケーション・データをロードするには:

- 1 コマンド・プロンプトから、MIDDLEWARE_HOME\user_projects\epmsystem1\Planning\planning1 に移動します。
- 2 ExportPFPSample コマンドを次の構文で実行します。

```
ExportPFPSample.cmd TargetPath Language
```

たとえば、アプリケーションがフランス語の場合は、ファイルを C:¥Sample
ExportPFPSample.cmd C:¥Sample fr にエクスポートします。

注： 言語コードには小文字を使用してください。

- 3 C:\Sample などのターゲット・パスに移動し、DataFiles というフォルダを探します。
このフォルダには、圧縮されたデータ・ファイルがあります。
- 4 DataFiles フォルダを解凍します。
解凍された DataFiles フォルダのファイルのファイル名拡張子に注意してください。ファイル名拡張子は、どのデータがどのキューブに属するかを決定します。
- 5 DataFiles フォルダ内のファイルを使用して、ファイル名拡張子に基づいて適切なキューブにデータをロードします。たとえば、次を使用します:
 - Capex キューブにデータをロードするには*Capex.txt ファイル

- プロジェクト・キューブにデータをロードするには*Project.txt ファイル
- 要員キューブにデータをロードするには*Workforce.txt ファイル



データおよびメタデータのインポート

この付録の内容

データおよびメタデータのインポートについて	257
はじめに	258
表の説明	261
プロジェクト完了テーブルの説明	277

データおよびメタデータのインポートについて

Project Financial Planning では、データおよびメタデータを Planning アプリケーションに直接ロードできるリレーショナル・テーブルが各アプリケーションに提供されます。リレーショナル・テーブルとは別に、メタデータおよびデータをインポートするために使用できる CSV テンプレートもあります。テンプレートの詳細は、付録 A 「テンプレート」を参照してください。

データおよびメタデータをインポートするために提供されているリレーショナル・テーブルの使用には、次のような利点があります：

- 視点に必要なフィールドに入力するだけですみます。残りのフィールドは自動的に移入されます。
- 次元メンバーのデータ型は、データ型の不正が原因でエラーが発生しないように設定されます。
- データ入力時に必須であるフィールドは、NULL が許容されないフィールドとしてマークされます。

Project Financial Planning ユーティリティでは、Planning のアウトライン・ロード・ユーティリティを使用してリレーショナル・テーブルからアプリケーションにデータをロードします。Planning のアウトライン・ロード・ユーティリティの使用の詳細は、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide の第 5 章「データおよびメタデータのロード」を参照してください。

はじめに

サブトピック

- リレーショナル・テーブルの作成
- ロード要件と推奨事項
- データ・ロードの設定
- メタデータとデータのロード
- マッピング・プロパティ・ファイルの抽出

リレーショナル・テーブルの作成

リレーショナル・テーブルは、アプリケーションの作成時に、Planning テーブルとともに、アプリケーションごとに自動的に作成されます。

ただし、テーブルを後で再作成する必要がある場合は、`CreatePFPIImportExportTable.cmd/CreatePFPIImportExportTable.sh` と呼ばれる外部ユーティリティを使用してこれらを作成できます。

▶ `CreatePFPIImportExportTable.cmd/`
`CreatePFPIImportExportTable.sh` ユーティリティを使用して、インポートに使用できるリレーショナル・テーブルを作成するには:

1 コマンド・プロンプトを開き、Planning のインストール場所に移動します。

たとえば、使用している Oracle インスタンスが `C:\Oracle` の場合は、`C:\Oracle\Middleware\user_projects\epmsystem1\Planning\planning1` に移動します。

2 次のコマンドを実行します:

```
CreatePFPIImportExportTable.cmd <parameter1> <parameter2>  
<parameter3>
```

ここで:

- <parameter1> = アプリケーション名
- <parameter2> = ユーザー名
- <parameter3> = ファイル名を含むパスワード・ファイルのパス

ロード要件と推奨事項

- 開発またはテスト環境で現在のアプリケーションのコピーにテーブルのデータをロードすることをお勧めします。ロードしたデータが正しいことを確認した後で、これらを本番環境で実行します。
- 最初にメタデータをロードし、次にデータをロードします。
- データをレベル 0 メンバーにのみロードしてから、必要に応じてデータを親メンバーにロールアップします。データを親メンバーにロードしてからデータを集約する場合、親メンバーに入力された値はロールアップされた値で上書きされます。

- Oracle Database の場合、すべての日付の書式は dd-mon-yyyy (たとえば、1-Jan-2012)にする必要があります。Microsoft SQL Server および IBM DB2 データベースの場合、すべての日付の書式は yyyy-mm-dd (たとえば、2012-12-31)にする必要があります。
- データをロードする前に、必要なすべての従属メタデータが存在するか、テーブルを通じてロードされていることを確認してください。
- データ・ロード時に、アプリケーション内に存在する有効なスマート・リスト・エントリのみを使用するか、データ内でこれらを使用する前にリレーショナル・テーブルを使用してインポートするようにしてください。
- すべてのパーセンテージ値は 100 で割った後に入力する必要があります。たとえば、パーセンテージ値 30%を追加する場合、CSV ファイルに値 0.3 を入力する必要があります。

データ・ロードの設定

テーブルのデータ・ロードの設定は、アプリケーションの作成時にロードされます。

リレーショナル・テーブルが変更された場合、Planning アプリケーションの「管理」/「データ・ロードの設定」ユーザー・インタフェースを使用してドライバ次元メンバーが更新されていることを確認する必要があります。ドライバ・メンバーの設定の詳細は、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide の第 5 章「データおよびメタデータのロード」を参照してください。

注： メタデータをロードするためのデータ・ロードの設定は必要ありません。

メタデータとデータのロード

PFPIImportUtility.bat を使用して、アプリケーションにデータおよびメタデータをインポートします。

▶ インポートを実行するには:

1 Planning のインストール場所に移動します。

たとえば、使用している Oracle インスタンスが c:\Oracle の場合は、c:\Oracle\Middleware\user_projects\epmsystem1\Planning\planning1 に移動します。

2 次のコマンドを実行します:

```
PFPIImportUtility.bat <parameter1> <parameter2> <parameter3>
<parameter4> <parameter5> <parameter6> <parameter7>
```

ここで:

- <parameter1> = アプリケーション名
- <parameter2> = ユーザー名
- <parameter3> = ファイル名を含むパスワード・ファイルのパス

- <parameter4> = ログ・ファイルが生成されるフォルダの場所(テンプレートの場合は、テンプレート・ファイルが存在するフォルダ)
- <parameter5> = インポートのモードを選択するためのスイッチ
データをリレーショナル・テーブルからロードするにはパラメータ `table` を使用し、データを CSV テンプレートからロードするにはパラメータ `file` を使用します。

- <parameter6> = 部分的なロード・パラメータ

このパラメータは、次の 1 つ以上の値に設定できます(カンマ区切り):

- `employee` - 従業員に関連するすべてのデータおよびメタデータをロードします
- `asset` - 資産に関連するすべてのデータおよびメタデータをロードします
- `assumption` - 仮定データをロードします
- `project` - プロジェクトに関連するすべてのデータおよびメタデータをロードします
- `all` - すべてのデータおよびメタデータをロードします

例: `employee, asset` (従業員と資産に関連するデータおよびメタデータをロードします)

例: `all` (すべてのデータおよびメタデータをロードします)

- <parameter7> = アプリケーションのためのテーブル列とメンバー間のマッピングが含まれるプロパティ・ファイルのファイル・パスを指定するために使用するオプションのパラメータ

リレーショナル・テーブル内の列名を追加または変更したときに、列名がデータのロード先のメンバー名と異なる場合、列名とメンバー名間のマッピングに関する元のプロパティ・ファイルを新規マッピングを使用して更新し、<parameter7>を使用する必要があります。

元のマッピング・プロパティ・ファイルは、

`ExportPFPTTableColumnToMemberMapping.cmd` を使用して抽出できます。

[260 ページの「マッピング・プロパティ・ファイルの抽出」](#)を参照してください。

3 Project Financial Planning アプリケーションを開き、データがロードされたことを確認します。

マッピング・プロパティ・ファイルの抽出

リレーショナル・テーブル内の列名を追加または変更したときに、列名がデータのロード先のメンバー名と異なる場合、列名とメンバー名間のマッピングに関する元のプロパティ・ファイルを新規マッピングを使用して更新する必要があります。マッピング・プロパティ・ファイルは、

`ExportPFPTTableColumnToMemberMapping.cmd` を使用して抽出できます。

▶ マッピング・プロパティ・ファイルを抽出するには:

1 Oracle Hyperion Planning のインストール場所に移動します。

たとえば、使用している Oracle インスタンスが c:\oracle の場合は、c:\oracle\middleware\user_projects\epmsystem1\Planning\planning1 に移動します。

2 次のコマンドを実行します:

```
ExportPFPTTableColumnToMemberMapping.cmd <parameter1> <parameter2>
```

ここで:

- <parameter1> = テーブル列とメンバー間のマッピング・プロパティ・ファイルのエクスポート先であるフォルダの場所
- <parameter2> = 言語コード(たとえば、アプリケーションがフランス語である場合、言語コードは fr です)。

3 マッピング・プロパティ・ファイルを表示するには、<parameter1>に指定されているフォルダに移動します。

表の説明

サブトピック

- [スマート・リストとスマート・リスト値テーブルの説明](#)
- [メタデータ・テーブルの説明](#)
- [仮定テーブルの説明](#)
- [資産減価償却および償却テーブル](#)
- [プロジェクト詳細テーブル](#)
- [プロジェクト直接費テーブル](#)
- [既存の従業員データ・テーブル](#)
- [既存の主要資産データ・テーブル](#)
- [既存のリース資産データ・テーブル](#)
- [従業員プロジェクト割当てテーブルの説明](#)
- [資産プロジェクト割当てテーブルの説明](#)
- [プロジェクト材料要件テーブルの説明](#)
- [エンティティ・レベルの実績のインポート・テーブルの説明](#)

次に注意してください:

- メタデータをロードする場合は、子をロードする前にアプリケーションに親メンバーが存在することを確認してください。
- テーブルに現在のディメンションが指定されていない場合、デフォルト値の「ローカル」が割り当てられます。

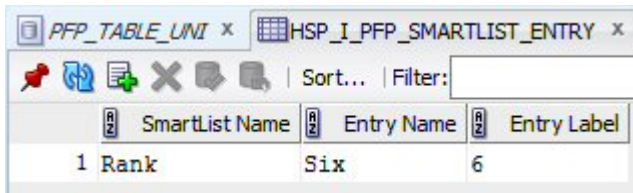
スマート・リストとスマート・リスト値テーブルの説明

スマート・リストとスマート・リスト値をロードする前に、関連付けられている製品フィールド名とエントリ名を識別する必要があります。スマート・リストを

ロードするには、データ・ロード・ファイルの「スマートリスト名」列で製品またはメンバー名を指定します。スマート・リスト値をロードする場合、データ・ロード・ファイルの「エントリ名」列に対応するエントリ名を入力します。

HSP_I_PFP_SMARTLIST_ENTRY テーブルを使用して、スマート・リストとスマート・リスト値をロードします。

次の図は、HSP_I_PFP_SMARTLIST_ENTRY テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています:



	SmartList Name	Entry Name	Entry Label
1	Rank	Six	6

次のスマート・リストにはエントリを追加できます:

- AssignmentLocation
- Customer
- FundingSource
- PhysicalLocation
- ProjectCostLevel
- ProjectManager
- SkillSet

注: 他のスマート・リストにエントリを追加することもできます。ただし、計算ロジック別名テーブルに対応するエントリも追加する必要があります。

メタデータ・テーブルの説明

サブトピック

- [エンティティ・メタデータ・テーブル](#)
- [プロジェクト・メタデータ・テーブル](#)
- [資産詳細テーブル](#)
- [従業員テーブル](#)
- [ジョブ・テーブル](#)

メタデータをロードしたら、Project Financial Planning アプリケーションを開き、「次元編集者」を使用して階層を表示することで、メンバーが追加されたことを確認できます。

エンティティ・メタデータ・テーブル

HSP_I_PFP_DIM_ENTITY テーブルを使用して、エンティティ次元のメンバーをロードします。

次の図は、HSP_I_PFP_DIM_ENTITY テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています:

Entity	Parent	Description	Alias: D...
1 France	EMEA	(null)	(null)

プロジェクト・メタデータ・テーブル

HSP_I_PFP_DIM_PROJECT テーブルを使用して、プロジェクト次元のメンバーをロードします。

次の図は、HSP_I_PFP_DIM_PROJECT テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています:

Project	Parent	Description	Alias: D...
1 MATS	Existing Contract Projects	(null)	(null)
2 Existing Indirect 1	Existing Indirect Projects	(null)	(null)
3 Existing Capital 1	Existing Capital Projects	(null)	(null)
4 Existing Contract 1	Existing Contract Projects	(null)	(null)

資産詳細テーブル

HSP_I_PFP_DIM_ASSET_DETAIL テーブルを使用して、資産詳細次元のメンバーをロードします。

次の図は、HSP_I_PFP_DIM_ASSET_DETAIL テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています:

Asset Detail	Parent	Description	Alias: Default
1 Crane123	Total Major Assets	(null)	(null)

従業員テーブル

HSP_I_PFP_DIM_EMPLOYEE テーブルを使用して、従業員次元のメンバーをロードします。

次の図は、HSP_I_PFP_DIM_EMPLOYEE テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています:

Employee	Parent	Description	Alias: Default
1 Ajay	Existing Employees	(null)	Ajay Gupta

ジョブ・テーブル

HSP_I_PFP_DIM_JOB テーブルを使用して、ジョブ次元のメンバーをロードします。

次の図は、HSP_I_PFP_DIM_JOB テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています:

Job	Parent	Description	Alias: D...
1 Finance Manager	Project Related Jobs	(null)	(null)

仮定テーブルの説明

サブトピック

- [資本に関する仮定テーブル](#)
- [諸経費に関する仮定テーブル](#)
- [要員仮定テーブル](#)

資本諸経費および要員の仮定をロードできます。

資本に関する仮定テーブル

サブトピック

- [有形資産テーブル](#)
- [無形資産テーブル](#)
- [標準装置テーブル](#)

資本に関する仮定には、減価償却や償却方法などのデータが含まれます。この項で説明するテーブルを使用して、資本仮定アーティファクトをロードします。

注: 「資産クラス」、「エンティティ」、「シナリオ」、「バージョン」、「通貨」、「年」および「期間」の各フィールドは、それぞれの次元階層の下のアプリケーション内に存在するレベル 0 メンバーです。

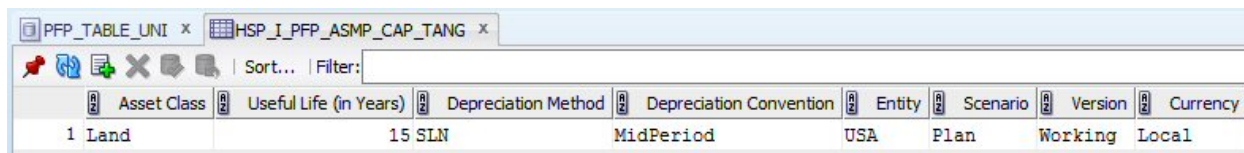
有形資産テーブル

有形資産の仮定をロードするには、HSP_I_PFP_ASMP_CAP_TANG_YLY および HSP_I_PFP_ASMP_CAP_TANG テーブルを使用して、データを追加します。

有形資産の仮定を追加するには、両方のテーブルに入力する必要があります。

- HSP_I_PFP_ASMP_CAP_TANG を使用して、「年なし」および「BegBalance」レベルでデータを追加します。

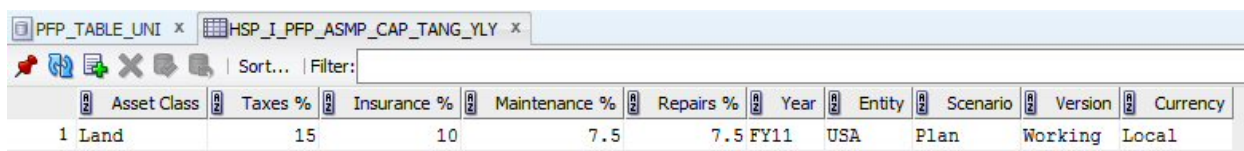
次の図は、HSP_I_PFP_ASMP_CAP_TANG テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています：



Asset Class	Useful Life (in Years)	Depreciation Method	Depreciation Convention	Entity	Scenario	Version	Currency
1 Land	15 SLN		MidPeriod	USA	Plan	Working	Local

- HSP_I_PFP_ASMP_CAP_TANG_YLY を使用して、特定の年のデータを追加します。

次の図は、HSP_I_PFP_ASMP_CAP_TANG_YLY テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています：



Asset Class	Taxes %	Insurance %	Maintenance %	Repairs %	Year	Entity	Scenario	Version	Currency
1 Land	15	10	7.5	7.5	FY11	USA	Plan	Working	Local

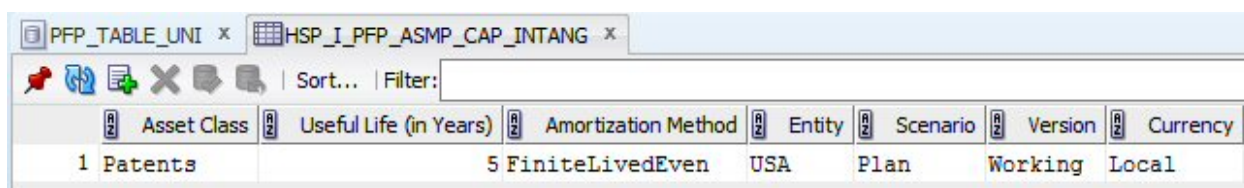
無形資産テーブル

無形資産の仮定をロードするには、HSP_I_PFP_ASMP_CAP_INTANG および HSP_I_PFP_ASMP_CAP_INTANG_YLY テーブルを使用して、データを追加します。

無形資産の仮定を追加するには、両方のテーブルに入力する必要があります。

- HSP_I_PFP_ASMP_CAP_INTANG を使用して、「年なし」および「BegBalance」レベルでデータを追加します。

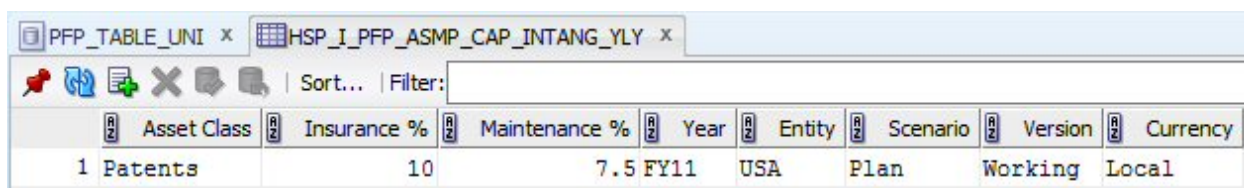
次の図は、HSP_I_PFP_ASMP_CAP_INTANG テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています：



Asset Class	Useful Life (in Years)	Amortization Method	Entity	Scenario	Version	Currency
1 Patents	5	FiniteLivedEven	USA	Plan	Working	Local

- HSP_I_PFP_ASMP_CAP_INTANG_YLY を使用して、特定の年のデータを追加します。

次の図は、HSP_I_PFP_ASMP_CAP_INTANG_YLY テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています：



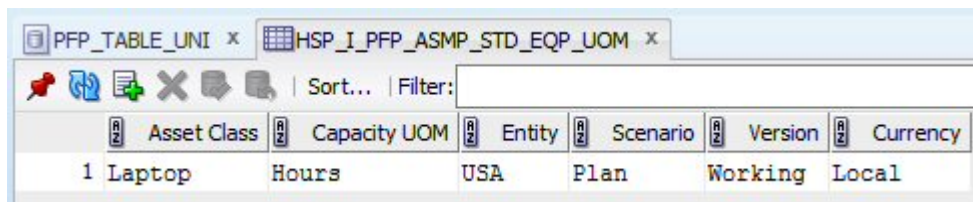
Asset Class	Insurance %	Maintenance %	Year	Entity	Scenario	Version	Currency
1 Patents	10	7.5	FY11	USA	Plan	Working	Local

標準装置テーブル

標準装置の仮定をロードするには、HSP_I_PFP_ASMP_STD_EQP_UOM、HSP_I_PFP_ASMP_EQP_STDCOST_YLY および HSP_I_PFP_ASMP_EQP_BILLRAT_YLY テーブルを使用して、データを追加します。標準装置の仮定を追加するには、すべてのテーブルに入力する必要があります。

- HSP_I_PFP_ASMP_STD_EQP_UOM を使用して、「年なし」および「BegBalance」レベルで能力単位データを追加します。

次の図は、HSP_I_PFP_ASMP_STD_EQP_UOM テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています：



Asset Class	Capacity UOM	Entity	Scenario	Version	Currency
1 Laptop	Hours	USA	Plan	Working	Local

- HSP_I_PFP_ASMP_EQP_STDCOST_YLY を使用して、装置標準費用データを追加します。

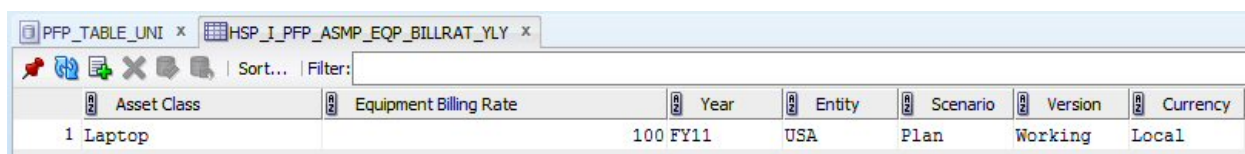
次の図は、HSP_I_PFP_ASMP_EQP_STDCOST_YLY テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています：



Asset Cl...	Equipment Standard Cost	Year	Entity	Scenario	Version	Currency
1 Laptop		20 FY11	USA	Plan	Working	Local

- HSP_I_PFP_ASMP_EQP_BILLRAT_YLY を使用して、装置請求レート・データを追加します。

次の図は、HSP_I_PFP_ASMP_EQP_BILLRAT_YLY テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています：



Asset Class	Equipment Billing Rate	Year	Entity	Scenario	Version	Currency
1 Laptop		100 FY11	USA	Plan	Working	Local

諸経費に関する仮定テーブル

サブトピック

- [間接費テーブル](#)
- [一般および管理費用テーブル](#)

諸経費仮定アーティファクトには、間接費プール、一般および管理費用プール、配賦ベースなど、諸経費に関連するアーティファクトが含まれます。この項で説明するテーブルを使用して、諸経費に関する仮定データをロードします。

注：「エンティティ」、「シナリオ」、「バージョン」、「通貨」、「年」および「期間」の各フィールドは、それぞれの次元階層の下のアプリケーション内に存在するレベル0メンバーです。プロジェクト要素は、プロジェクト要素次元内の諸経費要素メンバーの子です。

間接費テーブル

間接費の諸経費仮定をロードするには、HSP_I_PFP_ASMP_INDIRECT_DRIVER および HSP_I_PFP_ASMP_INDIRECT_MTLY テーブルを使用して、データを追加します。

- HSP_I_PFP_ASMP_INDIRECT_DRIVER テーブルを使用して、「年なし」レベルで費用プールおよび配賦基準を追加します。

次の図は、HSP_I_PFP_ASMP_INDIRECT_DRIVER テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています：

Project Element	Indirect Cost Pool	Allocation Basis	Entity	Scenario	Version	Currency
1 Overhead Line 1	LaborOverhead	TotalDirectLaborCost	USA	Plan	Working	Local

- HSP_I_PFP_ASMP_INDIRECT_MTLY テーブルを使用して、特定の年および期間レベルで間接費レートを追加します。

次の図は、HSP_I_PFP_ASMP_INDIRECT_MTLY テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています：

Project Element	ICR	Year	Period	Entity	Scenario	Version	Currency
1 Overhead Line 1	0.525	FY12	Jan	USA	Plan	Working	Local

一般および管理費用テーブル

一般および管理費用の諸経費仮定をロードするには、HSP_I_PFP_ASMP_GNA_DRIVER および HSP_I_PFP_ASMP_GNA_MTLY テーブルを使用して、データを追加します。

- HSP_I_PFP_ASMP_GNA_DRIVER テーブルを使用して、「年なし」レベルで費用プールおよび配賦基準を追加します。

次の図は、HSP_I_PFP_ASMP_GNA_DRIVER テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています：

Project Element	Allocation Basis	Entity	Scenario	Version	Currency
1 G&A Element 1	TotalDirectLaborHours	USA	Plan	Working	Local

- HSP_I_PFP_ASMP_GNA_MTLY テーブルを使用して、特定の年および期間レベルで一般および管理費用レートを追加します。

次の図は、HSP_I_PFP_ASMP_GNA_MTLY テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています:

Project Element	GACR	Year	Period	Entity	Scenario	Version	Currency
1 G&A Element 1	0.5	FY12	Jan	USA	Plan	Working	Local

要員仮定テーブル

要員仮定アーティファクトには、社会保障税レート、Medicare レート、従業員の等級など、Oracle Hyperion Workforce Planning に関連するアーティファクトが含まれます。この項で説明するテーブルを使用して、要員仮定データをロードします。

注: 「エンティティ」、「ジョブ」、「シナリオ」、「バージョン」、「通貨」、「年」および「期間」の各フィールドは、それぞれの次元階層の下のアプリケーション内に存在するレベル 0 メンバーです。

要員の仮定をロードするには、次のテーブルを使用してデータを追加します:

- HSP_I_PFP_ASMP_WF_DAYS_HOURS テーブルを使用して、従業員の週当たりの労働日数および時間の仮定をロードします。

次の図は、HSP_I_PFP_ASMP_WF_DAYS_HOURS テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています:

Entity	Hours p...	Working...	Year	Scenario	Version	Currency
1 USA	40	240	FY12	Plan	Working	Local

- HSP_I_PFP_ASMP_WF_EMP_BENEFITS テーブルを使用して、従業員の医療レート、功績レートおよびボーナスの等級の値に関連するデータをロードします。

次の図は、HSP_I_PFP_ASMP_WF_EMP_BENEFITS テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています:

Entity	Annual I...	Merit Ra...	Health C...	Health C...	Bonus T...	Bonus T...	Bonus T...	Bonus T...	Bonus T...	Bonus T...	Bonus T...	Bonus T...	Bonus T...	Bonus T...
1 USA	10	10	400	1000	10	11	12	13	10	11	12	13	14	15

- HSP_I_PFP_ASMP_WF_MIDSLRYCOMP テーブルを使用して、従業員に割り当てられた等級の値を設定します。

次の図は、HSP_I_PFP_ASMP_WF_MIDSLRYCOMP テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています:

Entity	Grade 1	Grade 2	Grade 3	Grade 4	Grade 5	Grade 6	Grade 7	Grade 8	Grade 9	Grade 10	Grade 11	Grade 12	Grade 13	Year	Scen
1 USA	100000	120000	150000	180000	200000	228000	254000	280000	306000	332000	358000	384000	410000	FY12	Plan

- HSP_I_PFP_ASMP_WF_SETBILLEVEL テーブルを使用して、ジョブのプロジェクト請求レベルを設定します。

次の図は、HSP_I_PFP_ASMP_WF_SETBILLEVEL テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています：

Entity	Project ...	Year	Job	Scenario	Version	Currency
1 USA	Level1	FY12	Project...	Plan	Working	Local

- HSP_I_PFP_ASMP_WF_SETBILLRATE テーブルを使用して、異なるレベルの請求レート仮定を設定します。

次の図は、HSP_I_PFP_ASMP_WF_SETBILLRATE テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています：

Entity	Onsite R...	Onsite R...	Onsite R...	Offsite ...	Offsite ...	Offsite ...	Year	Period	Scenario	Version	Currency
1 USA	80	90	100	60	70	110	FY12	Jan	Plan	Working	Local

- HSP_I_PFP_ASMP_WF_STDHOURLRATE テーブルを使用して、標準時間レート仮定を設定します。

次の図は、HSP_I_PFP_ASMP_WF_STDHOURLRATE テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています：

Entity	Standar...	Year	Job	Scenario	Version	Currency
1 USA	500	FY12	Project...	Plan	Working	Local

- HSP_I_PFP_ASMP_WF_US_TAXRATE テーブルを使用して、USA エンティティの税率を設定します。

次の図は、HSP_I_PFP_ASMP_WF_US_TAXRATE テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています：

SSTax R...	SSTax C...	Medicar...	FUTA R...	FUTA C...	SUI Rat...	SUI Cap...	SSTax R...	Year	Currency	
1	10	11	12	13	14	15	16	17	FY12	Local

資産減価償却および償却テーブル

HSP_I_PFP_ASSET_DEPR_AMORT_YLY テーブルを使用して、主要資産合計の資産減価償却および償却データをロードします。

注：「エンティティ」、「資産詳細」、「資産クラス」、「シナリオ」、「バージョン」、「通貨」、「年」および「期間」の各フィールドは、それぞれの次元階層の下でのアプリケーション内に存在するレベル0 メンバーです。

プロジェクト直接費テーブル

サブトピック

- [プロジェクト支出テーブル](#)
- [プロジェクト収益テーブル](#)

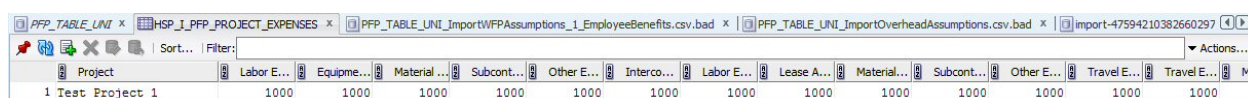
プロジェクト直接費アーティファクトには、プロジェクト支出(労務、装置および旅費など)と、プロジェクト収益(契約、売上高およびメンテナンス収益など)が含まれます。この項で説明するテーブルを使用して、プロジェクト直接費データをロードします。

注：「プロジェクト」、「エンティティ」、「期間」、「年」および「通貨」の各フィールドは、それぞれの次元階層の下のアプリケーション内に存在するレベル0メンバーです。

プロジェクト支出テーブル

HSP_I_PFP_PROJECT_EXPENSES テーブルを使用して、プロジェクト支出データをロードします。

次の図は、HSP_I_PFP_PROJECT_EXPENSES テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています：

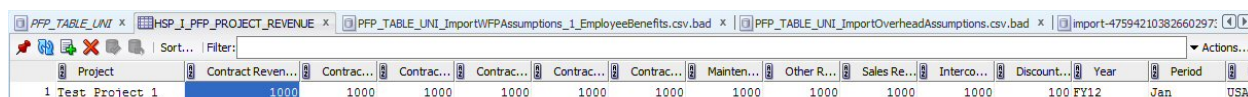


Project	Labor E...	Equipme...	Material...	Subcont...	Other E...	Interco...	Labor E...	Lease A...	Material...	Subcont...	Other E...	Travel E...	Travel E...	Mi
1 Test Project 1	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000

プロジェクト収益テーブル

HSP_I_PFP_PROJECT_REVENUE テーブルを使用して、プロジェクト収益データをロードします。

次の図は、HSP_I_PFP_PROJECT_REVENUE テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています：



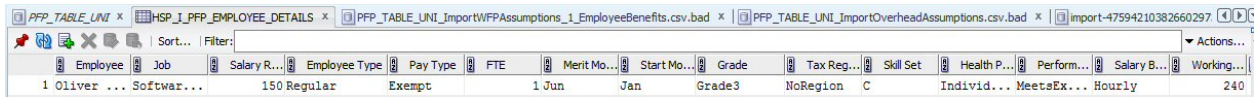
Project	Contract Reven...	Contrac...	Contrac...	Contrac...	Contrac...	Contrac...	Mainten...	Other R...	Sales Re...	Interco...	Discount...	Year	Period	Currency
1 Test Project 1	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	100 FY12	Jan	USA

既存の従業員データ・テーブル

HSP_I_PFP_EMPLOYEE_DETAILS テーブルを使用して、従業員の名前とタイプ、給与レート、開始月、等級およびスキル・セットなどの既存の従業員の従業員データをロードします。

注：「従業員」、「エンティティ」、「シナリオ」、「バージョン」、「ジョブ」、「年」および「通貨」の各フィールドは、それぞれの次元階層の下のアプリケーション内に存在するレベル0メンバーです。

次の図は、HSP_I_PFP_EMPLOYEE_DETAILS テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています:



Employee	Job	Salary R...	Employee Type	Pay Type	FTE	Merit Mo...	Start Mo...	Grade	Tax Reg...	Skill Set	Health P...	Perform...	Salary B...	Working...
1 Oliver ...	Softwar...	150	Regular	Exempt	1	Jun	Jan	Grade3	NoRegion	C	Individ...	MeetsEx...	Hourly	240

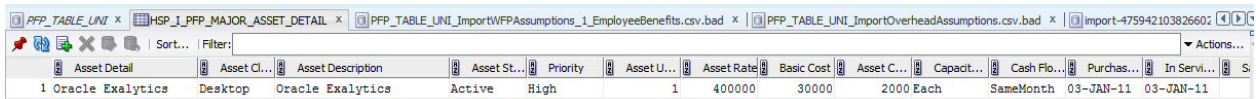
既存の主要資産データ・テーブル

この項で説明するテーブルを使用して、資産の説明とステータス、資産単位、基本費用および購入日など、既存の主要資産のデータをロードします。

注: 「資産詳細」、「エンティティ」、「シナリオ」、「バージョン」、「資産クラス」、「年」および「通貨」の各フィールドは、それぞれの次元階層の下のアプリケーション内に存在するレベル0メンバーです。

- HSP_I_PFP_MAJOR_ASSET_DETAIL テーブルを使用して、「年なし」および「BegBalance」レベルで既存の主要有形資産のデータをロードします。

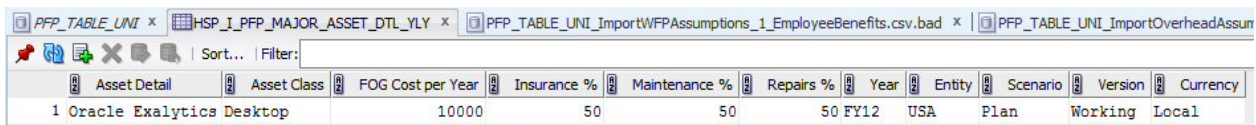
次の図は、HSP_I_PFP_MAJOR_ASSET_DETAIL テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています:



Asset Detail	Asset Cl...	Asset Description	Asset St...	Priority	Asset U...	Asset Rate	Basic Cost	Asset C...	Capacit...	Cash Flo...	Purchas...	In Servi...	S
1 Oracle Exalytics	Desktop	Oracle Exalytics	Active	High	1	400000	30000	2000	Each	SameMonth	03-JAN-11	03-JAN-11	S

- HSP_I_PFP_MAJOR_ASSET_DTL_YLY テーブルを使用して、特定の年レベルで既存の主要有形資産のデータをロードします。

次の図は、HSP_I_PFP_MAJOR_ASSET_DTL_YLY テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています:



Asset Detail	Asset Class	FOG Cost per Year	Insurance %	Maintenance %	Repairs %	Year	Entity	Scenario	Version	Currency
1 Oracle Exalytics Desktop		10000	50	50	50	FY12	USA	Plan	Working	Local

既存のリース資産データ・テーブル

HSP_I_PFP_LEASE_ASSET_DETAILS テーブルを使用して、資産の説明とステータス、資産単位、リース日およびリース支払など、既存のリース資産のデータをロードします。

注: 「資産詳細」、「エンティティ」、「シナリオ」、「バージョン」、「資産クラス」および「通貨」の各フィールドは、それぞれの次元階層の下のアプリケーション内に存在するレベル0メンバーです。

次の図は、HSP_I_PFP_LEASE_ASSET_DETAILS テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています:

Asset Detail	Asset Cl...	Asset Description	Asset ID	Priority	Justifica...	Asset Units	Capacity UOM	Asset Capacity	Lease D...	Lease T...
1 Office Building	Buildings	Leased asset for testing	L001	High	(null)	10 Hours		100	15-APR-11	5

従業員プロジェクト割当てテーブルの説明

サブトピック

- 契約プロジェクト
- 資本プロジェクト
- 間接プロジェクト

この項で説明するテーブルを使用して、既存の従業員および労務要請について、割当ての開始日と終了日、人数、スキル・セット、オンサイトおよびオフサイト労務時間、請求不可時間などのプロジェクト割当てデータをロードできます。

注：「従業員」、「エンティティ」、「シナリオ」、「バージョン」、「ジョブ」、「年」、「期間」、「プロジェクト」および「通貨」の各フィールドは、それぞれの次元階層の下のアプリケーション内に存在するレベル 0 メンバーです。

契約プロジェクト

- HSP_I_PFP_LBR_ASSIGN_CONTR_SMY テーブルを使用して、「年なし」および「BegBalance」レベルで契約プロジェクトの従業員割当てデータをロードします。

次の図は、HSP_I_PFP_LBR_ASSIGN_CONTR_SMY テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています：

Employee	Job	Headcount	Skill Set	Comments	Project Billing Level	Assignm...	Assignm...	Project	Entity	Scenario	Version	Currency
1 Oliver ... Softwar...		1	J2EE	Assigne... Level1		01-SEP-11	31-AUG-13	Test Project 1	USA	Plan	Working	Local

- HSP_I_PFP_LBR_ASSIGN_CONT_MTLY テーブルを使用して、特定の年および期間レベルでデータをロードします。

次の図は、HSP_I_PFP_LBR_ASSIGN_CONT_MTLY テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています：

Employee	Job	Onsite L...	Offsite L...	Non Billa...	Year	Period	Project	Entity	Scenario	Version	Currency
1 Oliver ... Softwar...		1000	(null)	(null)	FY12	Jan	Test Project 1	USA	Plan	Working	Local

資本プロジェクト

- HSP_I_PFP_LBR_ASSIGN_CAP_SMY テーブルを使用して、「年なし」および「BegBalance」レベルで資本プロジェクトの従業員割当てデータをロードします。

次の図は、HSP_I_PFP_LBR_ASSIGN_CAP_SMY テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています：

Employee	Job	Headcount	Skill Set	Comments	Capitaliz...	Assignm...	Assignm...	Project	Entity	Scenario	Version	Currency
1 Oliver ...	Software Engineer	1	J2EE	Assigne...	Yes	01-SEP-11	31-AUG-13	Test Pr...	USA	Plan	Working	Local

- HSP_I_PFP_LBR_ASSIGN_MTLY テーブルを使用して、特定の年および期間レベルでデータをロードします。

次の図は、HSP_I_PFP_LBR_ASSIGN_MTLY テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています:

Employee	Job	Allocation %	Labor H...	Year	Period	Project	Entity	Scenario	Version	Currency
1 Oliver ...	Softwar...	(null)	100	FY12	Jan	Test Pr...	USA	Plan	Working	Local
2 Oliver ...	Softwar...	(null)	100	FY12	Jan	Test Pr...	USA	Plan	Working	Local

間接プロジェクト

- HSP_I_PFP_LBR_ASSIGN_IND_SMY テーブルを使用して、「年なし」および「BegBalance」レベルで間接プロジェクトの従業員割当てデータをロードします。

次の図は、HSP_I_PFP_LBR_ASSIGN_IND_SMY テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています:

Employee	Job	Headcount	Skill Set	Comments	Assignm...	Assignm...	Project	Entity	Scenario	Version	Currency
1 Oliver ...	Software Engineer	1	J2EE	Assigne...	01-SEP-11	31-AUG-13	Test Project 3	USA	Plan	Working	Local

- HSP_I_PFP_LBR_ASSIGN_MTLY テーブルを使用して、特定の年および期間レベルでデータをロードします。

次の図は、HSP_I_PFP_LBR_ASSIGN_MTLY テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています:

Employee	Job	Allocation %	Labor H...	Year	Period	Project	Entity	Scenario	Version	Currency
1 Oliver ...	Softwar...	(null)	100	FY12	Jan	Test Pr...	USA	Plan	Working	Local
2 Oliver ...	Softwar...	(null)	100	FY12	Jan	Test Pr...	USA	Plan	Working	Local

資産プロジェクト割当てテーブルの説明

この項で説明するテーブルを使用して、割当て日、資産単位、配賦の割合および資産の使用状況など、プロジェクトの資産割当てデータをロードします。

注: 「資産詳細」、「エンティティ」、「シナリオ」、「バージョン」、「資産クラス」、「年」、「期間」および「通貨」の各フィールドは、それぞれの次元階層の下のアプリケーション内に存在するレベル0メンバーです。

- HSP_I_PFP_ASSET_ASSIGN_SMY テーブルを使用して、「年なし」および「BegBalance」レベルで資産割当てデータをロードします。

次の図は、HSP_I_PFP_ASSET_ASSIGN_SMY テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています:

Asset D...	Asset Cl...	Asset Description	Assignm...	Assignm...	Billable	Justifica...	Project	Entity	Scenario	Version	Currency
1 Laptop ... Laptop	Laptop	(null)	01-SEP-11	31-AUG-13	Yes	assigned	Contract Project 1	USA	Plan	Working	Local

- HSP_I_PFP_ASSET_ASSIGN_MTLY テーブルを使用して、特定の年および期間レベルで資産割当てデータをロードします。

次の図は、HSP_I_PFP_ASSET_ASSIGN_MTLY テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています:

Asset Detail	Asset Class	Asset U...	Asset U...	Year	Period	Project	Entity	Scenario	Version	Currency
1 Laptop Lenovo ... Laptop	Laptop	25		12 FY12	Jan	Contract Project 1	USA	Plan	Working	Local

プロジェクト材料要件テーブルの説明

サブトピック

- 契約プロジェクト
- 資本プロジェクト
- 間接プロジェクト

この項で説明するテーブルを使用して、リソースの名前とクラス、請求可能または資産計上可能インジケータ、割当ての開始日と終了日、および単位数など、プロジェクトの材料要件データをロードします。

注: 「エンティティ」、「シナリオ」、「バージョン」、「年」、「期間」、「通貨」および「プロジェクト」の各フィールドは、それぞれの次元階層の下のアプリケーション内に存在するレベル 0 メンバーです。「プロジェクト要素」フィールドは、プロジェクト要素次元内の費用要素メンバーの下のレベル 0 メンバーです。

契約プロジェクト

- HSP_I_PFP_MAT_ASSIGN_CONTR_SMY テーブルを使用して、「年なし」および「BegBalance」レベルで契約プロジェクト割当てデータをロードします。

次の図は、HSP_I_PFP_MAT_ASSIGN_CONTR_SMY テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています:

Project Element	Resourc...	Resourc...	Resourc...	Billable	Cost UOM	Expense...	Assignm...	Assignm...	Project	Entity	Scenario	Version	Actions...
1 Cost Element 1	Steel	Material	Constru...	Yes	Unitrate	SameMonth	01-AUG-11	06-JUN-13	Test Project 1	USA	Plan	Working	Lc

- HSP_I_PFP_MAT_ASSIGN_MTLY テーブルを使用して、特定の年および期間レベルで契約プロジェクト割当てデータをロードします。

次の図は、HSP_I_PFP_MAT_ASSIGN_MTLY テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています:

Project Element	Cost/Unit	Number	Year	Period	Project	Entity	Scenario	Version	Currency
1 Cost Element 1	55	30	FY12	Jan	Test Project 1	USA	Plan	Working	Local
2 Cost Element 1	55	30	FY12	Jan	Test Project 2	USA	Plan	Working	Local
3 Cost Element 1	55	30	FY12	Jan	Test Project 3	USA	Plan	Working	Local

資本プロジェクト

- HSP_I_PFP_MAT_ASSIGN_CAP_SMY テーブルを使用して、「年なし」および「BegBalance」レベルで資本プロジェクト割当てデータをロードします。

次の図は、HSP_I_PFP_MAT_ASSIGN_CAP_SMY テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています:

Project Element	Resour...	Resource Class	Resour...	Capitaliz...	Cost UOM	Expense...	Assignm...	Assignm...	Project	Entity	Scenario	Version
1 Cost Element 1	Steel	Material	Constru...	Yes	Unitrate	SameMonth	01-AUG-11	06-JUN-13	Test Pr...	USA	Plan	Working

- HSP_I_PFP_MAT_ASSIGN_MTLY テーブルを使用して、特定の年および期間レベルで資本プロジェクト割当てデータをロードします。

次の図は、HSP_I_PFP_MAT_ASSIGN_MTLY テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています:

Project Element	Cost/Unit	Number	Year	Period	Project	Entity	Scenario	Version	Currency
1 Cost Element 1	55	30	FY12	Jan	Test Project 1	USA	Plan	Working	Local
2 Cost Element 1	55	30	FY12	Jan	Test Project 2	USA	Plan	Working	Local
3 Cost Element 1	55	30	FY12	Jan	Test Project 3	USA	Plan	Working	Local

間接プロジェクト

- HSP_I_PFP_MAT_ASSIGN_IND_SMY テーブルを使用して、「年なし」および「BegBalance」レベルで間接プロジェクト割当てデータをロードします。

次の図は、HSP_I_PFP_MAT_ASSIGN_IND_SMY テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています:

Employee	Job	Headcount	Skill Set	Comments	Assignm...	Assignm...	Project	Entity	Scenario	Version	Currency
1 Oliver ...	Software Engineer	1	J2EE	Assigne...	01-SEP-11	31-AUG-13	Test Project 3	USA	Plan	Working	Local

- HSP_I_PFP_MAT_ASSIGN_MTLY テーブルを使用して、特定の年および期間レベルで間接プロジェクト割当てデータをロードします。

次の図は、HSP_I_PFP_MAT_ASSIGN_MTLY テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています:

Project Element	Cost/Unit	Number	Year	Period	Project	Entity	Scenario	Version	Currency
1 Cost Element 1	55	30	FY12	Jan	Test Project 1	USA	Plan	Working	Local
2 Cost Element 1	55	30	FY12	Jan	Test Project 2	USA	Plan	Working	Local
3 Cost Element 1	55	30	FY12	Jan	Test Project 3	USA	Plan	Working	Local

エンティティ・レベルの実績のインポート・テーブルの説明

HSP_I_PFP_ENTITY_LEVEL_ACTUALS テーブルを使用して、人数、労務時間、給与、社会保障税、労務収益などのエンティティ・レベルの実績データをロードします。

注：「エンティティ」、「年」、「期間」および「通貨」は、それぞれの次元階層の下のアプリケーション内に存在するレベル 0 メンバーです。

次の図は、HSP_I_PFP_ENTITY_LEVEL_ACTUALS テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています：

Entity	Headcount	Labor Hours	Non Billable Hours	Onsite Labor Hours	Offsite Labor Hours	Salary	Bonus	Other Compensation	Social Security Tax	Medicare	SU	FUTA	Labor Revenue	Year	Period
USA	2	100	100	100	100	10000	1000	1000	100	100000	100000	100000	100000	FY12	Jan

プロジェクト完了テーブルの説明

HSP_I_PFP_PROJECT_COMPLETION テーブルを使用して、完了率などのプロジェクト完了データデータをロードします。

注：「プロジェクト」、「エンティティ」、「年」、「期間」および「通貨」は、それぞれの次元階層の下のアプリケーション内に存在するレベル 0 メンバーです。

次の図は、HSP_I_PFP_PROJECT_COMPLETION テーブルのヘッダー・レコードとサンプル・データを示しています：

Project	% Complete	Year	Period	Entity	Currency
1 Test Project 1	30	FY12	Jan	USA	Local

用語集

勘定科目 要員リソース、資本資産およびプロジェクト(各メンバーのセットは別のプラン・タイプにあります)のプランニングをサポートする次元。

ACWP (実行された作業の実績原価) EVM 分析で使用され、プロジェクト開始日から EVM 分析日までの累積金額を示すメジャー。

配賦済支出 支出がプロジェクトに配賦される割合。

配賦済資金 資金がプロジェクトに配賦される割合。

配賦ベース 諸経費支出の計算方法を決定します。

配賦パーセンテージ 労務リソースがプロジェクトに配賦される回数の割合。配賦の割合は、そのリソースのプロジェクトへの労務支出に影響を及ぼします。

償却方法 一定期間(通常は資産の耐用年数)における無形資本支出の控除額。具体的には、この方法では、特許や著作権などの無形資産の価値の消費を測定します。

資産詳細 新規資産(新規リースまたは新規所有のいずれか)を詳述するために使用される次元。企業が複数の資産タイプを所有し、その資産に対して明確にプランする必要がある場合、既存資産を説明するために、この次元を使用することもできます。

資産クラス 企業が所有する資産の様々なカテゴリを表す次元。

BAC (完了時の予算) EVM 分析で使用され、プロジェクトの総予算を示すメジャー。

BCWP (実行された作業の予算計上済費用) EVM 分析で使用され、出来高(プロジェクト期間の累積計画値)に作業完了率を掛けて求められるメジャー。

BCWS (スケジュールされた作業の予算計上済費用) EVM 分析で使用され、プロジェクト開始日から EVM 分析日までの累積予定金額を示すメジャー。

福利厚生費用比率 プロジェクトや提案の福利厚生の比率に基づいたプロジェクト全体の値のインディケータ。金融の用語で表される費用に対して、金融の用語で表されます。

福利厚生仮定 福利厚生仮定を設定して、年次報奨の増額およびボーナスを計算するためのガイドラインを設定します。

ベータ 利益と無リスクの利益の予想される比率。

資本プランニング プロジェクトの資本支出のプランニング、管理および優先付け。たとえば、資本の使用状況に対するプロジェクト支出を計算するために、プロジェクトに装置を割り当てます。

資本プロジェクト 資本プロジェクトは、長期間の投資プロジェクトで、資本資産の工事(建物、堤防、道路など)のために請け負われます。

CAPM (資本資産価格設定モデル) プロジェクトや資産がすでに明確に定義されて多様なプロジェクト/資産のポートフォリオに追加されている場合、プロジェクトまたは資産に対して必要で適切な利益の比率を決定するためのリスクと予想される利益の関係の説明するモデル。このモデルは、業界内のプロジェクトのシステムティック・リスクや市場リスクを考慮します(ベータとも呼ばれます)。

キャッシュ・フロー発生 キャッシュ・フローがキャッシュ・フロー計算書にどのように影響するかを決定します。キャッシュ・フロー計算書に影響を及ぼす係数は、資金のソース(プロジェクト収益)と資金の使用(プロジェクト支出)の2つがあります。

CIP (工事中) まだ完了していない建設作業の費用。プロジェクトの完了時に、資産は減価償却資産になります。

共通諸経費プール エンジニアリングなど、特定の支出のグループに識別できない諸経費のタイプ。

契約プロジェクト 作業が外部顧客へのサービスとして実行されるプロジェクト・タイプ。

借入費用 事業の経営において、事業が配置する資金に支払われる利率。

原価加算 ジョブの完了に必要な支出(材料や労務など)、および追加支払(またはマージン)に基づき、ジョブに対して企業が支払うための契約。異なる支出に異なる原価加算のマージンを設定できます(たとえば、労務、材料および装置に異なるマージンを設定します)。

CPI (原価パフォーマンス指数) EVM 分析で使用され、BCWP を ACWP で割って求められる(BCWP / ACWP)メジャー。

条件加重 客観的および主観的な基準の相対的な加重または功績を示す、入力されたパーセンテージ値。全体で、加重された条件値は合計 100%で、プロジェクトの全体の投資条件となります。

CV (原価差異) EVM 分析で使用され、BCWP から ACWP を差し引いて求められるメジャー。

負債比率 企業がその資産に関連する負債の比率を示します。

減価償却 耐用年数の間、有形資産の費用を配布する方法。Project Financial Planning では、資産の減価償却方法として、定額減価償却(SLN)、級数法(SYD)、および定率(DB)をサポートしています。

割引率 金融市場での投資によって得られる利益の比率で、同様にリスクも伴います。

直接割引率方式 指定する割引率が有効な割引率になります。

割引率方式 NPV (正味現在価値)を決定するプロジェクトのキャッシュ・フローの割引のための方式。2つの方式があります: 割引率を入力する**直接割引率方式**、および業界内のプロジェクトのシステムティック・リスクや市場リスクを考慮する**CAPM (資本資産価格設定モデル)**。

割引係数 将来のキャッシュ・フローの値を現在の値に割り引くのに使用されます。

DB (定率) 定率は、資産の耐用年数の最初に固定資産の費用の大部分が支出とされる、減価償却を計算するための加速された方法です。定率の減価償却を計算するには、固定資産の減価償却可能基礎価額に係数を乗算します。減価償却可能基礎価額は、固定資産の帳簿価額から減価償却累計額を減算します。係数は、アクセラレータによって乗算された、定額減価償却で毎年減価償却される資産の割合です。

DB 年および DB 期間 資産が定率方式を使用して減価償却される各年または期間には、異なる減価償却可能基礎価額があります。DB 年および DB 期間は、指定した年または期間の減価償却可能基礎価額での資産の値です。

EAC (完了時の見積り) EVM 分析で使用され、次式で求められるメジャー: 未完了作業の予算計上価値 + 完了作業の実績原価 = ((BAC-BCWP)/CPI) + ACWP

有効な割引率 将来のキャッシュ・フローの現在の値を決定するために、割り引かれたキャッシュ・フロー分析で使用される利率。**直接割引率方式**または**CAPM (資本資産価格設定モデル)**によって求められます。

従業員 要員プランニングの場合、従業員次元には、組織の従業員が含まれます。勘定科目次元には、従業員プロパティに関する情報が格納されます。

従業員の等級 組織内の従業員のレベルを示します。従業員の等級は、新規従業員の給与を制御します。

従業員タイプ 労務リソースのプロパティ: 正社員、契約社員または臨時従業員。

エンジニアリング諸経費 オフィス・スペース、電話、パソコン、オフィス関連のサポートに限定される費用、およびコンピュータ支援設計の時間などのエンジニアリング労務に関連する費用。

エンティティ 組織、部署または事業部門を表す次元。

均等分割 スプレッド・ロジックのタイプ。親に入力されている値は、すべての子孫の間で分割されます。たとえば、プロジェクトに 200 時間の値が入力されている場合、200 は、開始日と終了日の間の月数に分割されます。入力と対比してください。

設備配賦 保守および賃貸など、提供される設備に関連する費用。

入力 スプレッド・ロジックのタイプ。親に入力されている値は、すべての子孫に埋め込まれます。たとえば、プロジェクトに 200 時間の値が入力されている場合、プロジェクトの開始日と終了日の間の各月の値は、200 に設定されます。均等分割と対比してください。

確定償却方法 償却方法。確定耐用年数を持つ無形資産は耐用年数の間、償却され、減損が必要と示される場合は、減損のためにテストされます。

固定価格 顧客が契約された作業に対してセット交渉価格を請求される、プロジェクト請求タイプ。

付帯諸経費 休暇、疾病手当、休日手当、保険金および補足の失業給付などが含まれるがこれらに限定されない付加給付。

工数(FTE) フルタイムの従業員に換算した労働量を測定します。たとえば工数が5であれば、その職階には半日勤務の従業員が必要です。1つの職階に半日勤務の従業員を10人割り当てる場合、その職階の工数は5です。

連邦失業保険の上限入力 連邦失業保険税法(Federal Unemployment Tax Act)。失業保険の資金を調達する連邦給与課税です。年当たりの年次上限を入力します。

連邦失業保険レート入力 事業主は、連邦失業保険の資金を調達します。年間パーセンテージ・レートを入力します。(FUTAはFederal Unemployment Tax Actの略です。)

一般および管理費用 ジョブやプロジェクトに割り当てることができない、企業全体の機能に関連する諸経費支出。

グローバル・レート 費用を算出する様々な計算で使用される、上位レベルで設定される仮定レート。

人数 要求しているリソース(実在する人)の数。プロジェクト・マネージャは複数の人数を要求できます。

IEAC(完了時の独立した見積り) EVM分析で使用され、BACをCPIで割って(BAC/CPI)求められるメジャー。

損益計算書 収益と支出を要約して、会計期間を通じた企業の財務実績を測定します。会計期間(通常は会計四半期または会計年度)で発生した純利益または純損失も示します。主要な3つの財務諸表は、損益計算書、貸借対照表およびキャッシュ・フローです。

不確定償却方法 償却方法。不確定に償却される無形資産は、体系的に償却されるのではなく、営業権と同じ方法で減損のためにテストされます。耐用年数が不確定であることの決定は、毎年見直され、不確定のままにするかどうかを確認されます。かわりに確定である場合は、償却が開始します。

間接費 ジョブの実行に必要なだが、契約で特定されない諸経費支出。

間接費プール 2つ以上の目標で特定されるが最終的な費用目標で明確に特定されない発生費用の論理グループです。

間接プロジェクト プロジェクト・クラスは管理プロジェクトとも呼ばれ、間接プロジェクトには費用影響がありますが、収益は発生しません。

情報システム諸経費 インターネット・サービス・プロバイダ料金など、コンピュータ・システムに関連する費用。

無形資産 非物理的資産。企業の知的財産(特許、商標、著作権、ビジネス方法論などのアイテム)、営業権、およびブランド認知は、すべて共通の無形資産です。

会社間パートナー プロジェクトで機能する2つの内部エンティティ間で確立される関係。「プロジェクト所有」の組織は、プロジェクトへの「サービス・プロバイダ」としての役割を果たしている組織と会社間パートナーシップを確立します。会社間パートナーは、会社間収益によって支出に対して払戻しされます。

投資条件 NPV(正味現在価値)や福利厚生費用比率などの客観的な財務メジャー、およびソリューション適合などの主観的メジャーを基にして、他のプロジェクトに対してプロジェクトを評価できる、プロジェクトの加重値。

ISAC(完了時の独立したスケジュール) EVM分析で使用され、スケジュールをSPIで割って(スケジュール/SPI)求められるメジャー。

ジョブ 具体的にプロジェクト割当てで使用される組織内の役割が含まれている次元。

KPI(キー・パフォーマンス・インディケータ) 戦略および運営の目標を達成することについてパフォーマンスを測定または比較するために事業で使用される、定量化可能なメジャーのセット。

労務時間 月当たりでリソースがプロジェクトに割り当てられている時間数。リソースは、従業員または契約社員のいずれかに設定できます。

1人当たりの労務時間 複数の人数を要求している場合、計算のための1人当たりの時間数を入力します。(人数と1人当たりの時間数を乗算すると、合計労務時間になります。)

労務諸経費 社会保障税、失業保険税、交代勤務手当、時間外手当および付加給付(間接費プールや直接費プールに分類されない場合)など、労務に関連付けられる費用

労務要請 プロジェクトで機能するジョブ別のリソースの要求。要請には、既存の従業員を補充することもできますが、すべての従業員が割当て済の場合は、新規採用要求を入力できます。

生涯投資 プロジェクトの期間にわたって、プロジェクトの資金調達を測定する **KPI (キー・パフォーマンス・インディケーター)**。

製造諸経費 通常、装置の保守と減価償却、品質管理、および作業現場監督を含む製造費用。

市場調整 中間給与が採用予定の従業員に提供するのに十分ではない場合(地理的な相違やスキル・セットが見つからないため)、市場調整値を指定すると、職階の採用のために中間給与がどのくらい必要であるかを示すことができます。

市場リスク割増額 市場ポートフォリオで予想される利益と無リスク率との差異。市場リスク割増額は、証券市場線(SML)、資本資産価格設定モデルの傾きと等しくなります。

材料 商品やサービスの製造で使用される物質(たとえば、屋根ふき用品など)。

材料諸経費 材料の入手、輸送、受取り、検査、処理および保管に関連する支出。

Medicare レート入力 Medicare (米国連邦医療プログラム)に対する事業主の拠出金率。

中期 減価償却または償却の計算で使用されると、中間期間は耐用年数の最初の月と最後の月の期間を意味します。資産が月の中旬にサービスに配置されるとすると、減価償却可能な金額は通常の月の値の50%になります。

中間給与報酬仮定 新規従業員の年給をプランするために、等級別の中間給与を設定します。

複数資産プロジェクト 複数の子資産で構成された親資産からなる資本プロジェクトで、サブプロジェクトとも呼ばれます。各サブプロジェクトは、それ自身の資本プロジェクト(単一または複数資産)です。このシナリオでは、親資産は、それ自身の支出を発生させるとともに、サブプロジェクトの支出も発生させます。複数資産プロジェクトの合計値は、サブプロジェクトとそれ自身の資産計上可能支出の値をすべて結合することにより決定されます。**単一資産プロジェクト**と対比してください。

純利益 収益から、プロジェクト関連の費用(労務支出、装置支出およびその他の支出など)を減算します。

純収益 プロジェクトの総利益から、すべての負債と間接費を減算します。純利益とも呼ばれます。

NPV (正味現在価値) 投資やプロジェクトがどの程度の値を組織に追加するかを示すインディケーター。これは、現在の値に割り引かれた、年間のすべての正味キャッシュ・フローの合計として計算されます。

目標加重 管理者が目標、または財務のプロジェクトの値の側面に割り当てる加重。目標加重と、主観的基準に割り当てられた加重を合計するとプロジェクト・スコアになり、Project Financial Planning では、これを計算して、プロジェクトの値の包括的なビューを示します。

諸経費 ジョブの実行や継続して事業が機能するために必要だが、明確にプロジェクトによるものとなることができない支出(賃貸料など)。諸経費のタイプは次のとおりです:**間接費**および**一般および管理費用**。

回収期間 投資で収支が合うまでにかかる時間。

パフォーマンス分析 プロジェクトのパフォーマンスの上位レベルの概要を提供するフォームの集まり(財務差異、キャッシュ・フローおよびプロジェクト・スコアなど)。

プロジェクト 企業がプランおよび予測しようとする既存と新規の両方のプロジェクトが含まれる次元。プロジェクトのタイプは次のとおりです:**契約プロジェクト**、**資本プロジェクト**、または**間接プロジェクト**。

プロジェクト請求レート 従業員リソース、装置の使用、または材料に請求されるレートから、実行される作業(オンサイトおよびオフサイト)に対して顧客が請求される**契約プロジェクト**の時間給。

プロジェクト要素 収益、費用、またはその他の仮定をライン・アイテム・レベルで構築できる次元。

プロジェクト・キャッシュ・フロー その年のプロジェクトの正味キャッシュ・フロー。

プロジェクト・カテゴリ プロジェクト・カテゴリが「会計年度別年次」に設定されている場合、プロジェクトは1年ごとに終了、正当化または承認する必要があります。プロジェクト・カテゴリが「複数年」に設定されている場合、プロジェクトは毎年、続行できます。

プロジェクト顧客名 **契約プロジェクト**の場合、どの顧客に対するプロジェクトであるかを示します。顧客名はスマート・リストでサポートされています。

プロジェクト資金調達 企業がプロジェクトでの投資に必要な金額を示します(たとえば、外部のローンを利用する、または企業のリソースをプロジェクトに配置する、これは機会費用になります)。

プロジェクト労務 プロジェクトで作業しているリソースの費用で、労務時間と労務レートを乗算して計算されます。

プロジェクト所有者 企業内の複数の組織またはエンティティがプロジェクトで作業する場合に、主に使用されます。指定されたプロジェクト所有者およびサービス・プロバイダは、プロジェクトでの会社間の関係を確立します。プロジェクト所有者は、顧客から収益を受け取ります。サービス・プロバイダは、プロジェクトで作業を行い、プロジェクト作業に関連する支出を発生させ、実行されたプロジェクト作業に対する払戻しを受けるために、会社間収益を受け取ります。

プロジェクト優先度 プロジェクト・マネージャは、プロジェクトの重要度を、高、中、低の優先度を設定することによって評価します。優先度の設定は、計算やアプリケーションの他の箇所に影響を及ぼしませんが、意思決定者は、プロジェクトを承認、却下または延期する際に、優先度の設定を考慮することがあります。

プロジェクト・ランク プロジェクト優先度に類似しています。プロジェクト・マネージャは、1から5までのプロジェクトのランクを設定します(1が最高です)。ランクの設定は、計算やアプリケーションの他の箇所に影響を及ぼしませんが、意思決定者は、プロジェクトを承認、却下または延期する際に、ランクの設定を考慮することがあります。

プロジェクト収益 固定価格、実費清算、または原価加算タイプの契約からの収益。Project Financial Planning では、間接プロジェクトまたは資本プロジェクトの収益は計算しません。

プロジェクト・ステータス プロジェクトのステータスで、新規、アクティブ、提案済、承認済、クローズ済、および保留があります。

プロジェクト・タイプ 契約プロジェクト・タイプは次のとおりです: 実費清算、原価加算、または固定価格。

収益キャッシュ・フロー発生 収益からの現金の収集方法、つまり顧客による支払方法(事前、同月、翌月など)を示します。2か月前、1か月前、同月、翌月、2か月後、3か月後、4か月後から選択できます。

ここでの選択内容は、キャッシュ・フロー計算書に直接影響を及ぼします。同月を選択した場合、キャッシュ・フロー計算書には、同じ期間の契約収益の金額に、顧客からのキャッシュ・インフローが表示されます。翌月を選択した場合、キャッシュ・フロー計算書には、1か月遅れで、顧客からのキャッシュ・インフローが表示されます。同様に、2か月後を選択すると、2か月遅れになります。

収益促進要因 プランされた収益は原価加算、実費清算または単価に基づいて指定できます。

収益認識 収益が認識されるタイミングを示します。月次(デフォルト)、四半期ごと、半期ごと、完了後、請求時から選択できます。

デフォルトは月次で、この場合、作業が実行された月に収益が認識されます。四半期ごとを選択した場合、アプリケーションの会計カレンダーに基づいて、各四半期の最終月に収益が認識されます。半期ごとを選択した場合、アプリケーションの会計カレンダーの6か月目と12か月目に収益が認識されます。完了後を選択した場合、契約の最終月の後で収益が認識されます。マイルストーンに到達したときのみ収益を認識できる場合、または事前定義済のタイム・フレームがない場合は、請求時を選択します。

無リスク率 無リスク率は、事業が投資に対して予想する最小の利益です。

ROI (投資利益率) 投資の効率を評価したり、複数の異なる投資の効率を比較するために使用される、パフォーマンス・メジャー。ROIを計算するには、投資の利益(リターン)は投資の費用で分割され、結果はパーセンテージまたは比率で表されます。

単一資産プロジェクト 異なるリソースを使用した、1つの資本資産の構築からなる資本プロジェクト。**複数資産プロジェクト**と対比してください。

SLN (定額減価償却) 資産クラスの減価償却方法で、耐用年数の間、資産の費用を均等に分割します。

SPI (スケジュール・パフォーマンス指数) EVM分析で使用され、BCWPをBCWSで割って求められる(BCWP/BCWS)メジャー。

スプレッド・ロジック グリッド内で値を配分する方法を決定するロジックで、**入力**または**均等分割**があります。

社会保障税の上限入力 連邦政府は、社会保障税に上限を設定します。つまり、収入が一定の金額を超えると、社会保障税の影響を受けなくなります。

社会保障税レート1入力 事業主が支払う社会保障税を計算するレート。

社会保障税レート2入力 社会保障税への別の部分で指定していない場合、このフィールドは Oracle Project Financial Planning の計算で使用されません。

主観的基準 主観的基準では、財務(目標)功績を単独で超えて、プロジェクトの値を加重および評価できます。主観的基準の例: プロジェクトが製品ラインをどの程度拡大するか、または企業戦略の達成にどの程度貢献するか。 **目標加重**を参照してください。

州失業保険の上限入力 州失業保険。失業保険の資金を調達する州給与課税です。年次上限パーセンテージを入力します。

州失業保険レート入力 州失業保険。失業保険の資金を調達する州給与課税です。年間レートを入力します。

SV (スケジュール差異) EVM 分析で使用され、BCWP から BCWS を差し引いて求められるメジャー。

SYD (級数法) 耐用年数の間、資産の費用を配布する減価償却方法。各年を計算するには小数が必要で、これは減価償却可能な金額に対して適用されます。

税率 指定した期間に税金が支払われる割合。

TBH (採用予定) 将来採用される従業員によって補充される空きジョブ。

TCPI (残作業パフォーマンス指数) EVM 分析で使用され、次式で求められるメジャー: $(BAC - BCWP) / (EAC - ACWP)$

実費清算 実行された労働時間(オンサイトおよびオフサイト)、発生した直接費、およびプロジェクト中に購入された材料に対して顧客が請求されるプロジェクト請求タイプ。

トレーニング諸経費 イーゼルおよびプロジェクトなど、顧客の参加者へのトレーニング開催に関連する費用。

単価 単一ユニット当たりの価格。ユニット数および単価に基づく計算は、すべての契約プロジェクト・タイプ(実費清算、固定価格または原価加算)に対して実行できます。

耐用年数 資産または財産が買収された目的で使用可能になる期間。

VAC (完了時の差異) EVM 分析で使用され、BAC から EAC を差し引いて(BAC - EAC)求められるメジャー。

年当たり FOG 費用 燃料、石油およびガスの費用で、装置の動作に必要な支出です。

索引

記号

1人当たりの労務時間、定義, 281

A - Z

ACWP、定義, 279

Asset Depreciation and Amortization.csv ファイル, 234

AssetMem.csv ファイル, 225

BAC、定義, 279

BCWP、定義, 279

BCWS、定義, 279

CalculateProjectAssetExpenses ビジネス・ルール, 76

CalculateProjectLaborExpenses-契約ビジネス・ルール, 70

CalculateProjectLaborExpenses-その他のビジネス・ルール, 70

CalculateEVM ビジネス・ルール, 205

CalculateImportedProjects ビジネス・ルール, 51

CalculateMaterialExpenses_Ruleset ビジネス・ルール, 80

CalculateOverheads ビジネス・ルール, 70

CalculateProjectExpenses ビジネス・ルール, 71

CAPM、定義, 279

CIP

確認, 171

調整, 172

定義, 279

ClearForecastData ビジネス・ルール, 59

CPI、定義, 280

CV、定義, 280

DB 期間、定義, 280

DB、定義, 280

DB 年、定義, 280

EAC、定義, 280

EmployeeMem.csv ファイル, 225

EntityMem.csv ファイル, 224

EVM 分析

メジャーの計算, 205

メジャーの比較, 202

例, 204

ExportPFPTemplates ユーティリティ, 34, 217

G & A。「一般および管理」を参照

HSP_I_PFP_ASMP_CAP_INTANG_YLY テーブル, 265

HSP_I_PFP_ASMP_CAP_INTANG テーブル, 265

HSP_I_PFP_ASMP_CAP_TANG_YLY テーブル, 264

HSP_I_PFP_ASMP_CAP_TANG テーブル, 264

HSP_I_PFP_ASMP_EQP_BILLRAT_YLY テーブル, 266

HSP_I_PFP_ASMP_EQP_STDCOST_YLY テーブル, 266

HSP_I_PFP_ASMP_GNA_DRIVER テーブル, 267

HSP_I_PFP_ASMP_GNA_MTLY テーブル, 267

HSP_I_PFP_ASMP_INDIRECT_DRIVER テーブル, 267

HSP_I_PFP_ASMP_INDIRECT_MTLY テーブル, 267

HSP_I_PFP_ASMP_STD_EQP_UOM テーブル, 266

HSP_I_PFP_ASMP_WF_DAYS_HOURS テーブル, 268

HSP_I_PFP_ASMP_WF_EMP_BENEFITS テーブル, 268

HSP_I_PFP_ASMP_WF_MIDSLRYCOMP テーブル, 268

HSP_I_PFP_ASMP_WF_SETBILLEV テーブル, 269

HSP_I_PFP_ASMP_WF_SETBILLRATE テーブル, 269

HSP_I_PFP_ASMP_WF_STDHOURLRATE テーブル, 269

- HSP_I_PFP_ASMP_WF_US_TAXRATE テーブル, 269
- HSP_I_PFP_ASSET_ASSIGN_MTLY テーブル, 275
- HSP_I_PFP_ASSET_ASSIGN_SMY テーブル, 274
- HSP_I_PFP_ASSET_DEPR_AMORT_YLY テーブル, 269
- HSP_I_PFP_DIM_ASSET_DETAIL テーブル, 263
- HSP_I_PFP_DIM_EMPLOYEE テーブル, 263
- HSP_I_PFP_DIM_ENTITY テーブル, 262
- HSP_I_PFP_DIM_JOB テーブル, 264
- HSP_I_PFP_DIM_PROJECT テーブル, 263
- HSP_I_PFP_EMPLOYEE_DETAILS テーブル, 271
- HSP_I_PFP_LBR_ASSIGN_CAP_SMY テーブル, 273
- HSP_I_PFP_LBR_ASSIGN_CONT_MTLY テーブル, 273
- HSP_I_PFP_LBR_ASSIGN_CONTR_SMY テーブル, 273
- HSP_I_PFP_LBR_ASSIGN_IND_SMY テーブル, 274
- HSP_I_PFP_LBR_ASSIGN_MTLY テーブル, 274
- HSP_I_PFP_LEASE_ASSET_DETAILS テーブル, 272
- HSP_I_PFP_MAJOR_ASSET_DETAIL テーブル, 272
- HSP_I_PFP_MAJOR_ASSET_DTL_YLY テーブル, 272
- HSP_I_PFP_MAT_ASSIGN_CAP_SMY テーブル, 276
- HSP_I_PFP_MAT_ASSIGN_CONTR_SMY テーブル, 275
- HSP_I_PFP_MAT_ASSIGN_IND_SMY テーブル, 276
- HSP_I_PFP_MAT_ASSIGN_MTLY テーブル, 275, 276
- HSP_I_PFP_PROJ_DETAIL_CAPITAL テーブル, 270
- HSP_I_PFP_PROJ_DETAIL_CONTRACT テーブル, 270
- HSP_I_PFP_PROJ_DETAIL_INDIRECT テーブル, 270
- HSP_I_PFP_PROJECT_EXPENSES テーブル, 271
- HSP_I_PFP_PROJECT_REVENUE テーブル, 271
- HSP_I_PFP_SMARTLIST_ENTRY テーブル, 261
- ImportEmployeeProjectAssignment.csv ファイル, 239
- ImportNewEmployeeProjectAssignment.csv ファイル, 239
- ImportProjectMaterialRequirements.csv ファイル, 242
- ImportGlobalCapitalAssumptions.csv ファイル, 227
- ImportProjectAssetAssignments.csv ファイル, 241
- IEAC、定義, 281
- ImportAssets.csv ファイル, 244
- ImportEntityLevelActuals.csv ファイル, 247
- ImportExistingEmployee.csv ファイル, 243
- ImportLeaseAsset.csv ファイル, 246
- ImportOverheadAssumptions.csv ファイル, 228
- ImportWFPAssumptions_1.csv ファイル, 230
- ISAC、定義, 281
- JobMem.csv ファイル, 226
- KPI
 確認, 99, 193
 計算, 100, 193
 制限の確認, 100
 定義, 281
 プロジェクトの設定, 52
- Medicare レート入力、定義, 282
- NPV
 式, 52
 定義, 52, 282
 リース支払, 168
- PrepareHighLevelForecastBaseData ビジネス・ルール, 58
- PrepareDetailForecastBaseData ビジネス・ルール, 58
- PasswordEncryption.cmd ユーティリティ, 217
- PFPImportUtility, 34, 220
- Project Financial Planning
 アクセシビリティ, 29
 アプリケーションの作成および初期化, 37
 アプリケーション・メンテナンス・タスク, 34
 インポート・ユーティリティ, 34
 英語以外のアプリケーションの考慮事項, 38
 価値提案, 17
 仮定, 29

機能, 18
 最初の実装タスク, 31
 サンプル・アプリケーション, 28
 サンプル・テンプレート・ファイル, 34
 事前定義済の要素, 23
 情報, 17
 スマート・リスト, 26
 セキュリティ, 35
 タスク・リスト, 25
 ビジネス・ルール, 24
 フォーム, 24
 メニュー, 25
 役割, 27
 用意されている次元, 20
 レポート, 26
 Project Financial Planning アプリケーションの作成, 37
 Project Financial Planning アプリケーションの初期化, 37
 Project Financial Planning の機能, 18
 Project Financial Planning の実装, 31
 ProjectActualsExpense.csv, 236
 ProjectActualsRevenue.csv, 238
 ProjectDetails.csv ファイル, 234
 ProjectMem.csv ファイル, 225
 ROI
 定義, 283
 分析, 193
 RollupCapexCube ビジネス・ルール, 153
 SCPI、定義, 283
 SLN、定義, 283
 SmartList.csv ファイル, 223
 SV、定義, 284
 SYD、定義, 284
 TBH (採用予定)
 削除, 136
 追加, 135, 144
 ビジネス・ルール, 130
 要求, 144
 TBH、定義, 284
 TCPI、定義, 284
 VAC、定義, 284
 Workspace の URL, 39
 Workspace、ログオン, 39

あ行

アクセシビリティ, 29
 アクセス
 Planning, 39
 Project Financial Planning, 39
 Workspace, 39
 アクティブな従業員ステータス、設定, 132
 アプリケーション
 管理フォーム, 24
 作成および初期化, 37
 選択, 39
 保護, 35
 メンテナンス・タスク, 34
 アプリケーションのリフレッシュ, 127
 一般および管理の配賦済支出、確認, 82
 一般および管理費用
 リレーショナル・テーブルを使用したロード, 267
 一般および管理費用仮定
 計算, 50
 入力, 48
 一般および管理費用、定義, 281
 一般および管理費用レート, 48
 インポート。「ロード」を参照
 リレーショナル・テーブルを使用したデータ
 およびメタデータ, 257
 運営委員会の役割, 28
 エグゼクティブ・スポンサの役割, 27
 エンジニアリング諸経費、定義, 280
 エンティティ
 税率詳細の設定, 45
 保護, 36
 割引率方式の設定, 45
 エンティティ次元
 定義, 280
 リレーショナル・テーブルを使用したロード, 262
 ロード, 224
 エンティティ・レベルの実績
 ロード, 247
 オペレーティング・リース
 説明, 168
 大文字に変更, 168

か行

会社間
 原価加算収益の計算, 94

- 会社間パートナ
 - 削除, 56
 - 制限, 56
 - 追加, 55
 - 定義, 281
- 会社間パートナーシップ
 - 情報, 54
 - 調整の確認, 56
 - プロセスの管理, 54
- 回収期間、定義, 282
- 確定償却方法、定義, 280
- 仮定分析, 207
 - 仮定バージョンの確認, 211
 - 仮定バージョンの削除, 213
 - 仮定バージョンの承認, 212
 - 既存のプロジェクトを含める/除外する, 208
 - 新規プロジェクトを含める/除外する, 208
 - データ検証メッセージの確認, 212
 - 含める/除外する場合の基準, 209
 - プロジェクト終了日の調整, 213
 - プロジェクト終了日の変更, 210
- 仮定、ロード, 227
- 稼働率
 - 資産の計算について, 178
 - 従業員の確認, 141
 - 装置の確認, 178
- 稼働率トレンド、表示, 141
- 借入費用、定義, 280
- カレンダー、サポート, 156
- 勘定科目次元
 - グループ, 20
 - 情報, 20
 - 定義, 279
 - 保護, 36
- 間接支出、確認, 82
- 間接費
 - 仮定の計算, 50
 - 仮定の入力, 48
 - 定義, 281
 - プール、定義, 281
 - リレーショナル・テーブルを使用したロード, 267
 - レート, 48
- 間接プロジェクト
 - 既存にあわせた新規の調整, 112
 - 削除, 111
 - 情報, 19
- 追加, 109
- 提案, 105
 - 提案について, 106
 - 提案プロセス, 107
 - 定義, 281
- 管理
 - 資本資産, 149
 - 資本資産、情報, 149
 - プロジェクト, 43
 - 要員, 123
- 完了時の差異、定義, 284
- 完了時の独立したスケジュール、定義, 281
- 完了時の独立した見積り、定義, 281
- 完了時の見積り、定義, 280
- 完了時の予算、定義, 279
- 既存資産
 - 主要資産の確認, 157
 - 副資産の確認, 163
 - ロード済減価償却および償却の確認, 153
- 「既存のプロジェクトの管理」タスク・リストタスク, 62
 - 表示, 62
- キャッシュ・フロー
 - 影響の確認, 104
 - 資産の影響の表示, 163
 - 資本支出の影響の表示, 185
 - 装置要求の影響の表示, 184
 - 部署別トレンドの確認, 201
 - 分析, 193, 194
 - プロジェクトが与える影響の確認, 100
- キャッシュ・フロー発生、定義, 279
- 休職、設定, 132
- 級数法、定義, 284
- 共通諸経費プール、定義, 279
- 均等分割、定義, 280
- 金利
 - 支出の確認, 103
- キー・パフォーマンス・インディケータ。
 - 「KPI」を参照
- キー・パフォーマンス・インディケータ、定義, 281
- 業種サンプル, 38
- グローバル・レート
 - 資本資産の設定, 151
 - 従業員の設定, 125
 - 定義, 281
- グローバル割引率、表示, 99

契約プロジェクト

- 既存にあわせた新規の調整, 112
- 削除, 111
- 新規プロジェクトの収益のプランニング, 115
- 情報, 19
- タイプ
 - 原価加算, 20
 - 固定価格, 20
 - 実費清算, 20
 - その他, 20
- 追加, 109
- 提案, 105
- 提案について, 105
- 提案プロセス, 107
- 定義, 279

原価加算

- 会社間収益の計算, 94
- 収益仮定の確認, 92
- 収益仮定の削除, 93
- 収益仮定の追加, 93
- 収益の計算, 94
- 定義, 280

原価加算プロジェクト・タイプ、定義, 20

原価差異、定義, 280

減価償却

- 仮定の設定, 151
- サポートされている方法, 156
- 定義, 280
- ロード, 234

原価パフォーマンス指数、定義, 280

工事中

- 確認, 171
- 調整, 172
- 定義, 279

工数

- 定義, 281

工数(FTE)

- 確認, 146

工数、定義, 281

固定価格プロジェクト・タイプ

- 定義, 20, 280

今年プロジェクト財務実績の概要レポート, 26

さ行

採用プラン、表示, 141

採用要請ステータス、変更, 136

採用予定、定義, 284

サブティカル・ステータス、設定, 132

サンプル・アプリケーション

- 作成, 249
- 事前定義済グループ, 250
- 情報, 28
- セキュリティのロード, 253
- データのロード, 255

サンプル・テンプレート・ファイル

- 情報, 34
- フォーマット, 218
- リスト, 220

サービス・プロパイダ

- プロジェクトから削除, 56
- プロジェクトに追加, 55

財務概要、表示, 190

財務諸表

- 影響の確認, 201
- 確認, 192
- 計算, 97
- 資本支出の影響の確認, 185
- 新規プロジェクトの確認について, 118
- 装置要求の影響の表示, 183
- 部署レベルの計算, 200

財務諸表への影響レポート, 26

財務、当年度の確認, 201

財務分析

- 実行, 189
- プロセス, 189

「財務分析」タスク・リスト

- タスク, 189
- 表示, 190

材料およびその他支出

- 確認, 83
- 計算, 80

材料およびその他要件

- 既存のプロジェクトについての確認, 76
- 既存のプロジェクトへの追加, 77
- 削除, 79
- 変更, 79

材料、収益の計算, 90

材料諸経費、定義, 282

材料、定義, 282

材料要件、ロード, 242

残作業パフォーマンス指数、定義, 284

資金調達

- 新規プロジェクトの確認について, 119
- 新規プロジェクトのプロセス, 119
- ステータスの変更, 192
- 配賦の確認, 103
- プロジェクトについて, 101
- プロジェクトについての確認, 101, 195
- プロジェクトのプロセス, 101
- 要求の追加, 102
- 要求の取消し, 103
- 要求の変更, 101
- 割当て解除, 195
- 資金調達要約レポート, 26
- 資金配賦, 191
- 資産
 - 関連支出の計算, 154
 - 既存に関するロード済減価償却および償却の確認, 153
 - 既存の副資産の管理, 163
 - 計算, 158
 - 資産クラス、定義, 279
 - 資産詳細、定義, 279
 - 支出の計算, 183
 - 主要既存の確認, 157
 - ステータスの変更, 157
 - 調整, 166
 - 追加, 165, 181
 - プランニング, 155
 - ユニット当たりの費用、確認, 173
 - 要求, 165
 - 要請ステータスの変更, 167
 - リースの計算, 170
 - ロード, 244
 - 割当てデータのロード, 241
- 資産関連支出
 - 仮定促進要因, 151
 - 計算, 154, 173
- 資産クラス
 - 計算, 158
 - 次元、概要, 22
 - 設定について, 151
 - 定義, 279
- 資産計上済リース
 - オペレーティングへの変更, 168
 - 説明, 168
- 資産詳細次元
 - 更新, 152
 - 情報, 23
- 設定について, 151
- 定義, 279
- 表示, 164, 186
- ライン・アイテム, 23
- リレーショナル・テーブルを使用したロード, 263
- ロード, 225
- 「資産の計算」ビジネス・ルール, 158
- 資産の減損, 159
- 資産の残存価額、設定, 165
- 資産の除・売却, 160
- 資産のユニット当たりの費用、計算方法, 173
- 支出
 - 間接、一般および管理の確認, 82
 - 既存のプロジェクトからの労務割当ての削除, 70
 - 既存のプロジェクトについての確認, 66
 - 既存のプロジェクトの材料およびその他要件の確認, 76
 - 既存のプロジェクトの材料およびその他要件の削除, 79
 - 既存のプロジェクトの従業員割当ての削除, 84
 - 既存のプロジェクトの装置の確認, 83
 - 既存のプロジェクトの装置の計算, 76
 - 既存のプロジェクトの装置割当ての確認および更新, 72
 - 既存のプロジェクトの装置割当ての削除, 84
 - 既存のプロジェクトの労務支出の確認, 82
 - 既存のプロジェクトの労務の計算, 70
 - 既存のプロジェクトの労務要請の確認, 67
 - 既存のプロジェクトの労務割当ての変更, 71
 - 既存のプロジェクトへの材料およびその他要件の追加, 77
 - 既存のプロジェクトへの装置要請の追加, 73
 - 既存のプロジェクトへの労務割当ての追加, 67
 - 金利の確認, 103
 - 材料およびその他の確認, 83
 - 材料およびその他の計算, 80
 - 材料およびその他要件の変更, 79
 - 諸経費の計算, 70
 - 新規プロジェクトのプランニング, 115
 - 装置要請の削除, 74
 - 装置要請の変更, 75
 - 直接の計算, 81
 - 直接の入力, 80

- 直接プロジェクトの確認, 83
- プロジェクト合計の確認, 81
- プロジェクトの確認, 81
- プロジェクトの計算, 71
- 割り当てられた従業員の確認, 83
- 割り当てられた装置の確認, 84
- 支出合計
 - 分析, 193
- 市場調整、定義, 282
- 市場リスク割増額、定義, 282
- 疾病障害ステータス、設定, 132
- シナリオ次元、保護, 37
- シナリオとバージョンのデータの組合せ、保護, 36
- 「資本管理」タスク・リスト
 - タスク, 150
 - 表示, 150
- 資本資産
 - インポート, 152
 - 仮定の設定, 151
 - 管理, 149
 - 管理について, 149
 - 計算済の詳細の確認, 161
 - 減損, 159
 - 削除, 166
 - 支出のロールアップ, 153
 - 譲渡, 159
 - 除・売却, 160
 - すべて計算, 162
 - フォーム, 24
 - 分析について, 175
 - 分析プロセス, 175
 - プランニング, 155
 - プランニング・プロセス, 155
 - プロセス, 149
- 資本資産価格設定モデル、定義, 279
- 資本に関する仮定
 - リレーショナル・テーブルを使用したロード, 264
- 資本に関する仮定の設定タスク, 151
- 資本に関する仮定、ロード, 227
- 「資本分析」タスク・リスト
 - タスク, 176
 - 表示, 176
- 資本プランニング
 - 考慮事項, 156
 - 定義, 279
- 「資本プランニング」タスク・リスト
 - タスク, 156
 - 表示, 156
- 資本プロジェクト
 - 既存にあわせた新規の調整, 112
 - 削除, 111
 - 情報, 19
 - 追加, 109
 - 提案, 105
 - 提案について, 105
 - 提案プロセス, 106
 - 定義, 279
- 社会保障税の上限入力、定義, 284
- 社会保障税レート 1 入力、定義, 284
- 社会保障税レート 2 入力
 - 定義, 284
 - ロード, 231
- 収益
 - 原価加算会社間の計算, 94
 - 原価加算契約の仮定の確認, 92
 - 原価加算の仮定の削除, 93
 - 原価加算の仮定の追加, 93
 - 原価加算の計算, 94
 - 合計の確認, 96
 - 材料の計算, 90
 - 新規契約プロジェクトのプランニング, 115
 - 実費清算契約の促進要因の確認および更新, 86
 - 実費清算契約の標準の時間当たり労務レートの表示, 86
 - 実費清算材料およびその他詳細の仮定の確認, 90
 - 実費清算材料およびその他請求の仮定の確認, 89
 - 実費清算装置請求の仮定の確認, 89
 - 実費清算労務請求の仮定の確認, 86
 - 実費清算労務請求レートの仮定の確認, 88
 - 装置の計算, 89
 - 単価契約の仮定の確認, 90
 - 単価契約の仮定の削除, 92
 - 単価契約の仮定の追加, 91
 - 単価の計算, 92
 - 直接の確認, 94, 96
 - 直接の計算, 95
 - プロジェクト合計の確認, 96
 - プロジェクトの確認, 85
 - プロジェクトの計算, 88

- ベース請求レートのコピー, 88
- 労務の計算, 87
- 収益キャッシュ・フロー発生、定義, 283
- 収益合計
 - 確認, 96
- 収益促進要因
 - 資本プロジェクトの収益促進要因の実行, 116
- 収益促進要因、定義, 283
- 収益認識
 - 定義, 283
 - マイルストーンの確認, 95
- 州失業保険の上限入力、定義, 284
- 州失業保険レート入力、定義, 284
- 主観的基準、定義, 284
- 出産休暇、設定, 132
- 出資者の役割, 28
- 主要資産、仮定の更新, 157
- 主要出資者の役割, 27
- 生涯投資、定義, 282
- 償却データ、ロード, 234
- 償却方法、定義, 279
- 承認
 - 既存のプロジェクト・プランの送信, 104
 - 資本資産プランの送信, 173
 - プロジェクトのプランの送信, 120, 197
 - プロジェクト・プランの承認, 214
 - 要員プランの提出, 138
- 承認ステータス、プロジェクトの設定, 50
- 正味現在価値。「NPV」を参照
- 正味現在価値、定義, 282
- 諸経費
 - 仮定, 48
 - 仮定のロード, 228
 - 計算, 70
 - 定義, 282
- 使用開始日
 - および CIP 資産, 171
 - 減価償却の計算, 165
 - 説明, 165
- 新規プロジェクト、確認, 206
- 新規プロジェクトの詳細
 - 入力, 108
- 新規プロジェクトのタスク・リストの提案
 - タスク, 107
- 「新規プロジェクトの提案」タスク・リスト表示, 108
- 事業部門所有者の役割, 27
- 次元
 - 勘定科目, 20
 - 資産クラス, 22
 - 資産詳細, 23
 - 従業員, 22
 - ジョブ, 22
 - プロジェクト, 21
 - プロジェクト要素, 21
 - 保護, 35
 - 用意されているものについて, 20
- 実行された作業の実績原価、定義, 279
- 実行された作業の予算計上済費用、定義, 279
- 実績
 - 確認について, 201
 - 部署別財務の確認, 201
- 実績プロジェクト・データ、ロード, 236
- 実費清算
 - 材料およびその他請求の収益仮定の確認, 89
 - 材料およびその他の要件詳細の確認, 90
 - 収益促進要因の確認および更新, 86
 - 装置請求の収益仮定の確認, 89
 - 定義, 284
 - 標準の時間当たり労務レート, 86
 - プロジェクト・タイプ, 20
 - ベース請求レートのコピー, 88
 - 労務収益の計算, 87
 - 労務請求の収益仮定の確認, 86
 - 労務請求レートの収益仮定の確認, 88
- 自動承認、設定, 50
- 従業員, 129。「要員」も参照
 - 稼働率の確認, 141
 - 管理, 123
 - 既存のロード, 243
 - 採用, 130
 - 採用, 手順, 135
 - 将来の採用の要求, 144
 - 譲渡, 133
 - 情報の確認, 131
 - ステータスの変更, 132
 - すべての報酬の計算, 137
 - 退職プランニング, 134
 - タイプ、定義, 280
 - データのロードについて, 127
 - 等級、定義, 280
 - 福利厚生仮定の設定, 126
 - 報酬合計の確認, 137

- レート、グローバル設定, 125
- 割当て, 143
- 割当て、既存のプロジェクトでの削除, 84
- 割当ての確認, 83
- 従業員次元
 - 情報, 22
 - 説明, 124
 - 定義, 280
 - 保護, 36
 - ライン・アイテム, 22
 - リレーショナル・テーブルを使用したロード, 263
 - ロード, 225
- 従業員データのロード、情報, 127
- 従業員の採用、計画, 135
- 従業員の福利厚生仮定の設定, 126
- 従業員報酬合計の計算ビジネス・ルール, 127
- 純収益
 - 定義, 282
 - 分析, 193
- 純損失、分析, 193
- 純利益
 - 部署別トレンドの確認, 201
 - 分析, 193
- 純利益、定義, 282
- 条件加重、定義, 280
- 譲渡
 - 資産, 159
 - 従業員, 133
- 情報システム諸経費、定義, 281
- ジョブ次元
 - 情報, 22
 - 説明, 124
 - 定義, 281
 - リレーショナル・テーブルを使用したロード, 264
 - ロード, 226
- 人事。「要員および従業員」を参照
- スケジュールされた作業の予算計上済費用、定義, 279
- スケジュール・パフォーマンス指数、定義, 283
- スコア
 - プロジェクトの比較, 206
- スプレッド・ロジック、定義, 284
- スマート・リスト
 - 情報, 26
 - テンプレートの説明, 223
 - テーブルの説明, 261
- スマート・リスト値、テーブルの説明, 261
- 請求タイプ
 - 原価加算, 20
 - 固定価格, 20
 - 実費清算, 20
 - その他, 20
- 製造諸経費、定義, 282
- セキュリティ、サンプル・アプリケーションのロード, 253
- 設備配賦、定義, 280
- 税率
 - 仮定の設定, 45
 - 定義, 284
- 税率、表示, 99
- 装置
 - キャッシュ・フローへの要求の影響の表示, 184
 - 計算済の詳細の確認, 183
 - 財務諸表への要求の影響の表示, 183
 - 支出の計算, 177
 - 支出の再計算, 185
 - 収益の計算, 89, 151
 - 使用状況について, 177
 - 請求レート、計算への影響, 151
 - 貸借対照表への要求の影響の表示, 184
 - プロジェクトへの割当て, 179, 180
 - ユニット、計算への影響, 151
 - 要求について, 178
 - 要求の確認, 179
 - 要請ステータス、変更, 179
 - 割当ての確認, 84
- 装置支出
 - 既存のプロジェクトについての確認, 83
 - 既存のプロジェクトについての計算, 76
- 装置要請
 - 既存のプロジェクトへの追加, 73
 - 削除, 74
 - 変更, 75
- 装置割当て
 - 既存のプロジェクトについての削除, 84
 - 既存のプロジェクトの確認および更新, 72
- その他のプロジェクト・タイプ, 20
- 損益計算書
 - 資産の影響の表示, 162
 - 装置要求の影響の表示, 183

定義, 281
 分析, 194
 プロジェクトが与える影響の確認, 100
 リース支払の影響, 168

た行

貸借対照表

資産計上済リースの影響, 168
 資産の影響の表示, 163
 装置要求の影響の表示, 184

退職, 従業員, 134

耐用期間に関するプロジェクト財務実績の概要 レポート, 27

耐用年数

仮定の設定, 151
 定義, 284
 リース期間, 168

タスク・リスト

既存のプロジェクトの管理, 62
 財務分析, 189
 資本管理, 150
 資本分析, 176
 資本プランニング, 156
 新規プロジェクトの提案, 107
 情報, 25
 プロジェクト管理, 44
 プロジェクトの確認, 200
 保護, 35
 要員管理, 125
 要員分析, 140
 要員プランニング, 130

達成額管理、メジャーの比較, 202

単一資産プロジェクト、定義, 283

単価

収益仮定の確認, 90
 収益仮定の削除, 92
 収益仮定の追加, 91
 収益の計算, 92
 定義, 284

ターゲット・エンティティ

許容差の値の設定, 197
 ターゲット・エンティティの設定, 195

中間給与報酬仮定

等級レベルの設定, 126

中間給与報酬仮定、定義, 282

中間給与報酬仮定の設定フォーム, 126

中期、定義, 282

直接収益

計算, 95

直接収益、確認, 94

直接費

計算, 81
 入力, 80

直接プロジェクト支出

確認, 83

直接プロジェクト収益

確認, 96

直接割引率方式、定義, 280

提案

契約プロジェクト, 105
 資本プロジェクト, 105
 新規間接プロジェクト, 105

定額減価償却、定義, 283

定率、定義, 280

テンプレート

サンプル・ファイル, 218
 サンプル・ファイルの抽出, 217
 情報, 217
 推奨事項, 219
 データの説明, 227
 ファイルの説明, 223
 メタデータの説明, 224
 要件, 219

テンプレートファイル、概要, 34

テンプレート・ファイルのフォーマット, 218

デフォルトの労働日数および労働時間数の設定 フォーム, 126

データ

サンプル・アプリケーションのロード, 255
 テンプレートの説明, 227
 予測の消去, 59
 予測の準備, 57
 リレーショナル・テーブルを使用してインポート, 257
 ロード, 34, 227

データ・ロード

CSV ファイルのインポート, 221
 次元、データ・ロード設定の例, 219
 設定, 219
 ファイルの順序, 220

データ・ロード・ファイル

Asset Depreciation and Amortization.csv, 234
 AssetMem.csv, 225
 EmployeeMem.csv, 225

EntityMem.csv, 224
 ImportEmployeeProjectAssignment.csv , 239
 ImportNewEmployeeProjectAssignment.csv , 239
 ImportProjectMaterialRequirements.csv, 242
 ImportGlobalCapitalAssumptions.csv, 227
 ImportProjectAssetAssignments.csv, 241
 ImportAssets.csv, 244
 ImportEntityLevelActuals.csv, 247
 ImportExistingEmployee.csv, 243
 ImportLeaseAsset.csv, 246
 ImportOverheadAssumptions.csv, 228
 ImportWFPAssumptions_1.csv, 230
 JobMem.csv, 226
 ProjectActualsExpense.csv, 236
 ProjectActualsRevenue.csv, 238
 ProjectDetails.csv, 234
 ProjectMem.csv, 225
 SmartList.csv, 223
 等級レベル
 設定, 131
 追加, 127
 投資条件
 設定, 46
 定義, 281
 投資利益率、定義, 283
 トレーニング諸経費、定義, 284
 ドライバ次元、データ・ロード設定の例, 219

な行

内部意思決定者の役割, 27
 内部担当者の役割, 27
 入力、定義, 280
 人数
 確認, 146
 定義, 281
 部署別トレンドの確認, 201
 ロード, 239
 能力単位、設定, 165

は行

配賦済資金、定義, 279
 配賦済支出
 定義, 279
 配賦パーセンテージ
 装置, 178

定義, 279
 ロード, 239
 配賦ベース、定義, 279
 バージョン次元、保護, 37
 パスワード, 39
 パフォーマンス分析
 定義, 282
 プロセス, 139
 標準時間給の計算, 126
 標準請求レート, 125
 標準装置
 情報, 151
 請求レートのロード, 156
 リレーショナル・テーブルを使用したロード, 266
 標準装置レート、表示, 76
 標準の時間あたり費用、表示, 72
 標準の時間あたり労務レートの入力フォーム, 126
 標準レート、装置, 151
 標準労務レート, 125
 費用仮定
 一般および管理, 48
 間接, 48
 諸経費, 48
 ビジネス・ルール
 CalculateProjectAssetExpenses, 76
 CalculateProjectLaborExpenses-契約, 70
 CalculateProjectLaborExpenses-その他, 70
 CalculateImportedProjects, 51
 CalculateMaterialExpenses_Ruleset, 80
 CalculateOverheads, 70
 CalculateProjectExpenses, 71
 ClearForecastData, 59
 PrepareHighLevelForecastBaseData, 58
 PrepareDetailForecastBaseData, 58
 RollupCapexCube, 153
 資産の計算, 158
 従業員報酬合計の計算, 127
 情報, 24
 部署別 FS の計算, 200
 保護, 36
 未来年の報酬支出の計算, 138
 フォーム
 アプリケーションの管理, 24
 資本, 24
 情報, 24

- プロジェクト, 24
- 保護, 35
- 要員, 24
- 不確定償却方法、定義, 281
- 副資産、仮定の更新, 163
- 複数資産プロジェクト、定義, 282
- 複数通貨アプリケーション, 156
- 福利厚生仮定
 - 設定, 126
 - 定義, 279
- 福利厚生費用比率、定義, 279
- 負債比率、定義, 280
- 付帯諸経費、定義, 281
- 部署別 FS ビジネス・ルールの計算, 200
- 分析、詳細の実行, 193
- プランニング・ユニット階層
 - 保護, 36
- プロジェクト
 - EVM メジャーの比較, 202
 - KPI の確認, 99
 - インポート, 51
 - 確認のプロセス, 199
 - 間接の提案, 105
 - 間接の提案について, 106
 - 間接を提案するプロセス, 107
 - 管理, 43
 - 管理について, 61
 - 企業目標の確認, 100
 - 既存にあわせた新規の調整, 112
 - 既存の移動, 65
 - 既存の確認, 63, 202
 - 既存の管理, 61
 - 既存の支出の確認, 66
 - 既存の詳細の確認, 202
 - 既存のステータスの変更, 65
 - 既存の労務の計算, 70
 - 既存のロード, 234
 - キャッシュ・フローの影響の確認, 104
 - キャッシュ・フローへの影響の確認, 100
 - 契約の提案, 105
 - 契約の提案について, 105
 - 契約を提案するプロセス, 107
 - 削除, 111
 - 財務諸表の確認, 97
 - 財務諸表の計算, 97
 - 資金調達について, 101
 - 資金調達の確認, 101
 - 資金調達のプロセス, 101
 - 資金調達要求の追加, 102
 - 資金調達要求の取消し, 103
 - 資金調達要求の変更, 101
 - 支払利息の確認, 103
 - 資本の提案, 105
 - 資本の提案について, 105
 - 資本を提案するプロセス, 106
 - 収益の計算, 88
 - 詳細のロード, 234
 - 新規の移動, 114
 - 新規の確認, 206
 - 新規の資金調達の確認について, 119
 - 新規の資金調達のプロセス, 119
 - 新規の詳細の入力, 108
 - 新規のステータスの変更, 113
 - 実績データのロード, 236
 - 実績の確認について, 201
 - スコアの比較, 206
 - スタッフ配属, 142
 - 損益計算書への影響の確認, 100
 - 追加, 109
 - 提案について, 105
 - 提案プロセス, 106
 - データのインポート後に計算, 51
 - 配賦済資金の確認, 103
 - パフォーマンス詳細の表示, 99
 - パフォーマンスの確認, 62, 98
 - パフォーマンスの表示, 98
 - パフォーマンス要約の表示, 98
 - フォーム, 24
 - 分類, 19
 - プロジェクト終了日の変更, 64
 - プロジェクト日付の変更, 112
 - プロセスの管理, 44, 61
 - メトリックの計算, 100
 - 理由詳細の確認, 119
 - プロジェクト・カテゴリ、定義, 282
 - 「プロジェクト管理」タスク・リスト
 - タスク, 44
 - 表示, 45
 - プロジェクト・キャッシュ・フロー、定義, 53, 282
 - プロジェクト経理担当者の役割, 27
 - プロジェクト顧客名、定義, 282
 - プロジェクト材料支出レポート, 26
 - プロジェクト資金調達

- 確認, 101
- 情報, 101
- 配賦済の確認, 103
- プロセス, 101
- 要求の追加, 102
- 要求の取消し, 103
- 要求の変更, 101
- プロジェクト資金調達、定義, 283
- プロジェクト支出
 - 確認, 81
 - 計算, 71
 - ロード, 236
- プロジェクト支出合計、確認, 81
- プロジェクト収益
 - 定義, 283
 - ロード, 238
- プロジェクト収益合計、確認, 96
- プロジェクト収益の詳細レポート, 26
- プロジェクト承認
 - ステータスの設定, 50
- プロジェクト所有者
 - 確認, 54
 - 定義, 283
- プロジェクト次元
 - 更新, 51
 - 情報, 21
 - 定義, 282
 - 保護, 36
 - ライン・アイテム, 21
 - リレーショナル・テーブルを使用したロード, 263
 - ロード, 225
- プロジェクト・ステータス、定義, 283
- プロジェクト・スポンサの役割, 28
- プロジェクト請求レート、定義, 282
- プロジェクト装置支出レポート, 26
- プロジェクト・タイプ
 - 原価加算, 20
 - 固定価格, 20
 - 実費清算, 20
 - その他, 20
 - 定義, 283
- プロジェクト・チーム・メンバーの役割, 28
- プロジェクト・ディレクタの役割, 28
- 「プロジェクトの確認」タスク・リスト
 - タスク, 200
 - 表示, 200
- プロジェクトの資金調達要約レポート, 26
- プロジェクトの詳細、入力, 108
- プロジェクトの詳細レポート, 26
- プロジェクトのスタッフ配属、表示, 141
- プロジェクト費用の詳細レポート, 26
- プロジェクト分類
 - 間接, 19
 - 契約, 19
 - 資本, 19
- プロジェクトへのスタッフ配属, 142
- プロジェクト・マネージャの役割, 27
- プロジェクト優先度、定義, 283
- プロジェクト要素次元
 - 情報, 21
 - ライン・アイテム, 21
- プロジェクト要素次元、定義, 282
- プロジェクト・ランク、定義, 283
- プロジェクト労務支出レポート, 26
- プロジェクト労務、定義, 283
- ベンダーの役割, 28
- ベース請求レベル、設定, 126
- ベース請求レベルの設定フォーム, 126
- ベース請求レート、設定, 126
- ベース請求レートの設定フォーム, 126
- ベース予測データ
 - 消去, 59
 - 準備について, 57
 - 割当て詳細付きで準備, 58
 - 割当て詳細なしで準備, 58
- ベータ、定義, 279
- 報酬
 - 既存の従業員の計算, 134
 - 計算, 145
 - 再計算, 145
 - 集約, 141
 - 従業員合計の確認, 137
 - 全従業員の計算, 137
 - 未来年の計算, 138
- ま行**
 - マスター詳細フォーム, 24
 - マッピング・プロパティ・ファイル、抽出, 260
 - 未来年の報酬、計算, 138
 - 未来年の報酬支出の計算ビジネス・ルール, 138
 - 無形資産

仮定の更新, 157
 計算, 161
 減損, 159
 追加, 165
 定義, 281
 リレーショナル・テーブルを使用したロード, 265
 無リスク率、定義, 283
 メタデータ
 テンプレートの説明, 224
 リレーショナル・テーブルを使用してインポート, 257
 ロード, 34, 224
 メトリック
 計算, 193
 メニュー、概要, 25
 メンバー、保護, 35
 目標加重、定義, 282

や行

役割
 運営委員会, 28
 エグゼクティブ・スポンサ, 27
 出資者, 28
 主要出資者, 27
 事業部門所有者, 27
 内部意思決定者, 27
 内部担当者, 27
 プロジェクト経理担当者, 27
 プロジェクト・スポンサ, 28
 プロジェクト・チーム・メンバー, 28
 プロジェクト・ディレクタ, 28
 プロジェクト・マネージャ, 27
 ベンダー, 28

有形資産
 仮定の更新, 157
 追加, 165
 リレーショナル・テーブルを使用したロード, 264

有効な割引率、定義, 53, 280

ユーザー名, 39

ユーティリティ

 CreatePFPImportExportTable, 258
 ExportPFPTTableColumnToMemberMapping, 260
 ExportPFPTemplates, 34, 217
 PasswordEncryption.cmd, 217

 PFPImportUtility, 34, 220, 259
 要員, 129。「従業員」も参照
 エンティティ別の報酬支出の計算, 127
 仮定、情報, 124
 管理, 123
 支出の連結, 141
 フォーム, 24
 分析, 139
 プランニング, 129
 プランニング・プロセス, 130
 プロセス, 125
 報酬支出合計の計算, 146
 未来年の報酬の計算, 138
 リソース要求の確認, 142

要員仮定、ロード, 230
 「要員管理」タスク・リスト
 タスク, 125

 表示, 125

要員分析タスク・リスト

 タスク, 140

 表示, 140

要員プランニング・タスク・リスト

 タスク, 130

 表示, 130

予測データ

 消去, 59

 準備について, 57

 割当て詳細付きで準備, 58

 割当て詳細なしで準備, 58

ら行

リソース管理用のダッシュボード, 141

リソース・マネージャ・ダッシュボード
 情報, 141

 表示, 140

リソース要求、確認, 142

理由

 プロジェクトについての確認, 119

リレーショナル・テーブル

 HSP_I_PFP_ASMP_CAP_INTANG, 265

 HSP_I_PFP_ASMP_CAP_INTANG_YLY, 265

 HSP_I_PFP_ASMP_CAP_TANG, 264

 HSP_I_PFP_ASMP_CAP_TANG_YLY, 264

 HSP_I_PFP_ASMP_EQP_BILLRAT_YLY, 266

 HSP_I_PFP_ASMP_EQP_STDCOST_YLY, 266

 HSP_I_PFP_ASMP_GNA_DRIVER, 267

 HSP_I_PFP_ASMP_GNA_MTYL, 267

- HSP_I_PFP_ASMP_INDIRECT_DRIVER, 267
HSP_I_PFP_ASMP_INDIRECT_MTLY, 267
HSP_I_PFP_ASMP_STD_EQP_UOM, 266
HSP_I_PFP_ASMP_WF_DAYS_HOURS, 268
HSP_I_PFP_ASMP_WF_EMP_BENEFITS, 268
HSP_I_PFP_ASMP_WF_MIDSLRYCOMP, 268
HSP_I_PFP_ASMP_WF_SETBILLLEV, 269
HSP_I_PFP_ASMP_WF_SETBILLRATE, 269
HSP_I_PFP_ASMP_WF_STDHOURLYRATE, 269
HSP_I_PFP_ASMP_WF_US_TAXRATE, 269
HSP_I_PFP_ASSET_ASSIGN_MTLY, 275
HSP_I_PFP_ASSET_ASSIGN_SMY, 274
HSP_I_PFP_ASSET_DEPR_AMORT_YLY, 269
HSP_I_PFP_DIM_ASSET_DETAIL, 263
HSP_I_PFP_DIM_EMPLOYEE, 263
HSP_I_PFP_DIM_ENTITY, 262
HSP_I_PFP_DIM_JOB, 264
HSP_I_PFP_DIM_PROJECT, 263
HSP_I_PFP_EMPLOYEE_DETAILS, 271
HSP_I_PFP_LBR_ASSIGN_CAP_SMY, 273
HSP_I_PFP_LBR_ASSIGN_CONT_MTLY, 273
HSP_I_PFP_LBR_ASSIGN_CONTR_SMY, 273
HSP_I_PFP_LBR_ASSIGN_IND_SMY, 274
HSP_I_PFP_LBR_ASSIGN_MTLY, 274
HSP_I_PFP_LEASE_ASSET_DETAILS, 272
HSP_I_PFP_MAJOR_ASSET_DETAIL, 272
HSP_I_PFP_MAJOR_ASSET_DTL_YLY, 272
HSP_I_PFP_MAT_ASSIGN_CAP_SMY, 276
HSP_I_PFP_MAT_ASSIGN_CONTR_SMY, 275
HSP_I_PFP_MAT_ASSIGN_IND_SMY, 276
HSP_I_PFP_MAT_ASSIGN_MTLY, 275, 276
HSP_I_PFP_PROJ_DETAIL_CAPITAL, 270
HSP_I_PFP_PROJ_DETAIL_CONTRACT, 270
HSP_I_PFP_PROJ_DETAIL_INDIRECT, 270
HSP_I_PFP_PROJECT_EXPENSES, 271
HSP_I_PFP_PROJECT_REVENUE, 271
HSP_I_PFP_SMARTLIST_ENTRY, 261
一般および管理費用, 267
エンティティ・メタデータ, 262
エンティティ・レベルの実績のインポート・
テーブルの説明, 277
仮定テーブルの説明, 264
間接費, 267
既存の主要資産データ・テーブルの説明,
272
既存の従業員データ・テーブルの説明, 271
既存のリース資産データ・テーブルの説明,
272
作成, 258
資産減価償却および償却テーブルの説明,
269
資産詳細メタデータ, 263
資産プロジェクト割当てテーブルの説明,
274
資本に関する仮定, 264
諸経費に関する仮定テーブルの説明, 266
従業員, 263
従業員プロジェクト割当てテーブルの説明,
273
ジョブ, 264
スマート・リストとスマート・リスト値,
261
説明, 261
データとメタデータのインポートに使用,
257
標準装置, 266
プロジェクト材料要件テーブルの説明, 275
プロジェクト詳細テーブルの説明, 270
プロジェクト直接費テーブルの説明, 271
プロジェクト・メタデータ, 263
無形資産, 265
メタデータ・テーブルの説明, 262
有形資産, 264
要員仮定テーブルの説明, 268
リレーショナル・テーブルのデータ・ロードの
設定, 259
リース資産
仮定の更新, 157
計算, 170
削除, 170
すべて計算, 162
説明, 168
タイプ, 168
調整, 168
追加, 168
ロード, 246
リース・タイプ、変更, 170
レポート
今年プロジェクト財務実績の概要, 26
財務諸表への影響, 26
資金調達要約, 26
情報, 26

- 耐用期間に関するプロジェクト財務実績の概要, 27
- プロジェクト材料支出, 26
- プロジェクト収益の詳細, 26
- プロジェクト装置支出, 26
- プロジェクトの資金調達要約, 26
- プロジェクトの詳細, 26
- プロジェクト費用の詳細, 26
- プロジェクト労務支出, 26
- 保護, 36
- 連邦失業保険の上限入力、定義, 281
- 連邦失業保険レート入力、定義, 281
- レート
 - 一般および管理費用, 48
 - 間接費, 48
 - グローバル割引および税の表示, 99
 - 従業員のグローバルの設定, 125
 - 税の設定, 45
 - 装置の標準, 76
 - 標準の時間当たり労務, 72
 - ベース請求のコピー, 88
 - 割引の設定, 45
- 労務
 - 既存のプロジェクトについての計算, 70
- 労務支出
 - 既存のプロジェクトについての確認, 82
- 労務諸経費、定義, 281
- 労務時間、定義, 281
- 労務要請
 - および計算済労務支出, 126
 - 既存のプロジェクトについての確認, 67
 - ステータスの変更, 143
- 労務要請、定義, 282
- 労務要請への従業員の割当て, 143
- 労務リソース要求、既存のプロジェクトの確認, 82
- 労務割当て
 - 既存のプロジェクトからの削除, 70
 - 既存のプロジェクトの変更, 71
 - 既存のプロジェクトへの追加, 67
- ログオン
 - Project Financial Planning, 39
 - Workspace へ, 39
- ロード
 - エンティティ・レベルの実績のインポート, 277
 - 仮定, 264
- 既存の主要資産データ, 272
- 既存の従業員データ, 271
- 既存のリース資産データ, 272
- 資産減価償却および償却, 269
- 資産プロジェクト割当て, 274
- 諸経費に関する仮定, 266
- 従業員プロジェクト割当て, 273
- スマート・リストとスマート・リスト値, 261
- プロジェクト材料要件, 275
- プロジェクト詳細, 270
- プロジェクト直接費, 271
- メタデータ, 262
- 要員仮定, 268
- リレーショナル・テーブルを使用したデータおよびメタデータ, 257, 259
- ロード、メタデータとデータ, 34
- ロールアップ、実行, 190

わ行

- 割当てデータ、ロード, 239
- 割引係数
 - 定義, 54, 280
- 割引率
 - アプローチ、定義, 280
 - 仮定, 45
 - 定義, 280